

# 目 次

I. 全学共通科目の履修案内	
1. 全学共通教育の目的と位置付け	1
2. 全学共通科目の理念と目的	1
(1) 総合教育科目	1
(2) 基礎教育科目	2
(3) 外国語科目	2
(4) 健康スポーツ科学科目	2
3. 単位の基準	2
4. 授業時間	2
5. 全学共通科目の履修について	2
6. 履修受験届等について	3
7. 障害を有する学生の受講等について	4
8. 試験及び成績について	4
(1) 定期試験等	4
(2) 成 績	4
9. 各種掲示について	4
10. 交通スト、台風時等の授業について	5
11. 単位互換およびインターネット講義について	5
12. 全学共通科目 Q & A	6
13. 履修受験届の記入例	7
II. 全学共通科目の授業科目	
1. 全学共通科目群の英語表示	10
2. 平成21年度全学共通科目の授業科目一覧	11
参考(1) 平成21年度新設廃止科目名変更一覧	24
参考(2) 平成8年度から21年度までの総合教育科目の開講実績一覧	25
III. 全学共通科目シラバス（講義概要）等	
1. 総合教育科目 A	31
2. 総合教育科目 B	49
3. 基礎教育科目	125
4. 外国語科目	167
(1) 第1部	167
○外国語科目クラス分け	168
○外国語科目の履修について	170
○シラバス	172
(2) 第2部	227
5. 健康スポーツ科学科目	251
(1) 健康・スポーツ科学科目の履修について	252
(2) 実習授業時の集合場所	253
(3) シラバス	254
IV. 教室等施設配置図	269
V. 学則	277
VI. 各学部等の電話番号・所在地	301

# 平成21年度学年暦

## 第 1 部

## 第 2 部

学 年 開 始	4月1日(水)	同 左
入 学 式	4月6日(月)	同 左
ガイダンス	4月7日(火)	同 左
前期授業開始	4月8日(水)	同 左
振替授業日	5月7日(木) 月曜日の授業実施	5月7日(木) 月曜日の授業実施

創立記念日	6月1日(月)	同 左
試験・調整期間	7月23日(木)～8月5日(水)	同 左
夏季休業	8月6日(木)～9月15日(火)	同 左
※研修期間	9月16日(水)～9月30日(水)	同 左
後期授業開始	10月1日(木)	同 左
冬季休業	12月23日(水)～1月7日(木)	同 左
振替授業日	10月15日(木) 月曜日の授業実施 11月24日(火) 月曜日の授業実施	10月15日(木) 月曜日の授業実施 11月27日(金) 月曜日の授業実施

試験・調整期間	2月3日(水)～2月17日(水)	2月1日(月)～2月15日(月)
振替試験日	2月17日(水) 木曜日の試験実施	2月15日(月) 木曜日の試験実施
※研修期間	2月18日(木)～3月19日(金)	2月16日(火)～3月19日(金)
春季休業	3月20日(土)～4月6日(火)	同 左
※振替授業日	————— 各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。	
※研修期間	————— 集中講義や補講などが行われることがある。	
※試験・調整期間	————— 定期試験や補講を行う。	

### 振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、1セメスターで行える授業の回数が少なくなってきました。そこで、本学では平成12年度から振替授業日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は試験期間の繰り下げにより、前期は夏季休業中に、後期は研修期間中に試験を実施することとしています。

なお、試験期間中に祝日が含まれる場合は、その日の試験を別の曜日に振り替えて実施することがあります。具体的な日程については、別紙のカレンダーをご覧ください。

☆ 参 考

・新入生歓迎祭開催に伴う休講

第1部 4月16日(木) 5時限、17日(金) 3～5時限  
[歓迎祭開催日程：4月16日(木)～18日(土)]

第2部 4月16日(木) 2時限、17日(金) 全時限  
[歓迎祭開催日程：4月16日(木)～17日(金)]

・大学祭開催に伴う休講

第1部 10月29日(木) 5時限、10月30日(金) 全時限、11月2日(月) 全時限  
[大学祭開催日程：10月30日(金)～11月3日(火)]

第2部 休講は伴わない  
[大学祭開催日程：11月14日(土)～15日(日)]

・センター試験に伴う休講

1月15日(金) 全時限(予定)

# 平成21年度カレンダー（第1部）

〔1部前期〕

〔1部後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
4月				1	2	3	4	1日(水)～6日(月) 春季休業 6日(月) 入学式 7日(火) ガイダンス 8日(水) 前期授業開始 16日(木) 新歓祭5限休講 17日(金) 新歓祭午後休講
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
5月						1	2	7日(木) <b>振替授業日</b> (月曜の授業を実施)
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
6月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					
7月				1	2	3	4	23日(木)～8月5日(水) <b>試験・調整期間</b>
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
8月							1	6日(木)～9月15日(火) 夏季休業期間
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
9月			1	2	3	4	5	16日(水)～30日(水) <b>研修期間</b>
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
10月						1	2	1日(木) 後期授業開始 15日(木) <b>振替授業日</b> (月曜の授業を実施) 29日(木) 大学祭5限休講 30日(金)・11月2日(月) 大学祭休講措置 大学祭 10月30日(金) ～11月3日(火)
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	3	4	5	6	7	24日(火) <b>振替授業日</b> (月曜の授業を実施)
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
12月			1	2	3	4	5	23日(水)～1月7日(木) 冬季休業期間
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
1月						1	2	15日(金) センター試験に 伴う休講措置
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
2月			1	2	3	4	5	3日(水)～17日(水) <b>試験・調整期間</b> 17日(水) 木曜日の振替試験 調整日 18日(木)～3月19日(金) <b>研修期間</b>
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28							
3月		1	2	3	4	5	6	20日(土)～4月6日(火) 春季休業期間
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				



# 平成21年度カレンダー（第2部）

〔2部前期〕

〔2部後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
4月				1	2	3	4	1日(水)～6日(月) 春季休業 6日(月) 入学式 7日(火) ガイダンス 8日(水) 前期授業開始 16日(木) 新歓祭2限休講 17日(金) 新歓祭全日休講
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
5月						1	2	7日(木) <b>振替授業日</b> (月曜の授業を実施)
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
6月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					
7月				1	2	3	4	23日(木)～8月5日(水) <b>試験・調整期間</b>
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
8月							1	6日(木)～9月15日(火) 夏季休業期間
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
9月			1	2	3	4	5	16日(水)～30日(水) <b>研修期間</b>
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
10月					1	2	3	1日(木) 後期授業開始 15日(木) <b>振替授業日</b> (月曜の授業を実施)
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	3	4	5	6	7	14日(土)～15日(日) 大学祭 27日(金) <b>振替授業日</b> (月曜の授業を実施)
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
12月			1	2	3	4	5	23日(水)～1月7日(木) 冬季休業期間
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
1月						1	2	15日(金) センター試験に伴う休講措置
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
2月								1日(月)～15日(月) <b>試験・調整期間</b> 15日(月) 木曜日の振替試験調整日 16日(火)～3月19日(金) <b>研修期間</b>
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
3月		1	2	3	4	5	6	20日(土)～4月6日(火) 春季休業期間
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

## **I 全学共通科目の履修案内**

## I 全学共通科目の履修案内

### 1. 全学共通教育の目標と位置付け

全学共通教育は、「大学生として必要な知識を修得すること、自主的・総合的な判断力を養成すること、そして社会人として必要な教養を身につけること」を目標としています。

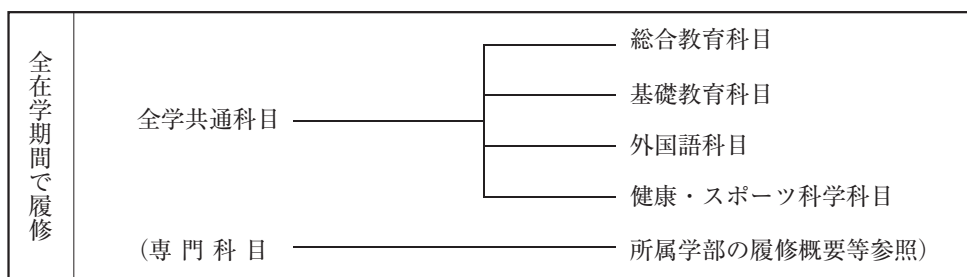
本学では原則として、全在学期間を通じた一貫教育体制のもと教育を行っています。これは、それぞれの学部が提供する専門教育科目と、全学体制で提供する全学共通科目とを、全在学期間を通じて並行して学習するという制度です。

もちろん、全学共通科目として提供されているもののうち、基礎教育科目や外国語科目のように低学年での履修が望ましい科目もあります。

しかし、総合教育科目に関しては、専門に偏ることがないように、できるだけ学問的視野を広げ、幅広い知識と教養を身につけるように設けられた科目であり、高学年での履修に適した科目も提供されています。

したがって、総合教育科目については低学年で集中的に履修するのではなく、全在学期間を通して、履修計画を立てることが望まれます。

また、全学共通教育は、集中的・効果的な教育、科目体系と科目選択の多様化、学生の国際交流の観点から、 Semester制度（前期・後期の2期制）を導入し、それぞれの期間で完結する授業を提供しています。



注意：履修方法については所属学部の履修概要等を参照してください。

所属学部の履修概要は、4月上旬に配布される予定です。

### 2. 全学共通科目の理念と目的

#### (1) 総合教育科目

総合教育科目は、大学教育全般の基礎となる学習・研究能力の育成、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる普遍性をもつ教養の修得等を目的とするもので、全学の協力のもとに行われます。

総合教育科目は、総合教育科目Aと総合教育科目Bの二つに区分されます。

- ① 総合教育科目Aは、人類の生存や市民生活等に直接かわり、すぐれて現代的・実的な問題を、多面的に取り扱う科目から構成され、これまでの本学における教育・研究の蓄積に基づいて、「人間と環境」「都市・大阪」及び「生命と人間」という三つの主題と一つの「特別枠」で行われます。総合教育科目Aは、とくに学際的・総合的な科目ですので、全学生の受講の便宜をはかって、原則として総合教育科目以外の授業のない水曜日・金曜日の5時限（第1部）に開講されています。
- ② 総合教育科目Bは、人間にとってより基本的かつ一般的な問題を取り扱います。ここには、人間存在とその基礎となる社会に関わる問題をテーマとする「人間と社会」、過去から今日に至る人間の社会的営為が生み出してきたものをテーマとする「歴史と文化」、こうした人間のもう一方の基盤である自然の理解をテーマとする「自然と人間」、情報社会を生きる人間として必要な計算機ならびに情報をテーマとする「情報と人間」という四つの科目群と一つの「特別枠」がもうけられ、その下にさらに九つの主題が設けられています。学生諸君はこの多様なメニューを持った総合教育科目A・Bの中から、各々の関心や興味に応じて、自由に科目を選択することができますが、所属の学部や専攻領域にとらわれず、幅広く、また4年間（医学部を除く）の中で計画的に修得するようにしてください。
- ③ 総合教育科目Bの演習科目は平成10年度から開講されたもので、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。
- ④ 総合教育科目Aの特別枠「大阪市大でどう学ぶか」と総合教育科目Bの初年次教育「初年次セミナー」は1回生を対象に前期に開講される科目で、新生が本学のことをよく知り、大学での学び方を習得することを目的としています。さらに、総合教育科目Bの特別枠「単位互換科目」は（P. 5参照）、個別大学の枠を超えた大学相互の協力によって大学間連携を強めるとともに、大学の知的財産を活用することによって地域社会に貢献するこ

とを目的として大学コンソーシアム大阪（平成18年度より）及び大阪府立大学、大阪商業大学（平成14年度より）との協定によって科目が提供されます。

（注）平成18年度の総合教育科目では、履修受験届を提出するだけで、受講しない者が多く見受けられました。そのため、授業や試験時の教室運用に支障をきたす場合があります。今後は、履修する科目を慎重に選んで履修受験届を提出するように注意してください。  
履修希望者が教室定員を上回る場合は、履修者数を制限することがあります。

## （2）基礎教育科目

主として理科系の学部において専門教育のための原点であり、広い意味での基礎として体系的習得が望まれる授業です。数学、物理学、その他の自然科学が一例です。これは専門教育に直接つながる専門基礎教育とは異なり、基礎的学問分野をそれ自身の体系として学習し、専門教育のより深い理解と目先の科学技術にとらわれない、長期的視野に立つ創造の原動力たることを目的とします。

## （3）外国語科目

本学の外国語教育は、学問研究のための情報交換や将来の職業上の必要性を考慮し、それに応じた語学力の養成、外国人とのコミュニケーション能力の開発、異文化の正確な目標として総合的な見地から行われています。そのために教育内容やクラス編成を多様化し、視聴覚機器（外国語特別演習室）を利用した授業も提供されています。

## （4）健康・スポーツ科学科目

健康と体力増進に関する科学的知識と個人に応じたその実践方法を修得すること、生涯を通じて、よりスポーツに親しみ楽しむことができるようにスポーツ科学の知識を修得すること、個人の体力や能力に応じたスポーツ実践能力を高めることによって健康的で活動的なライフスタイルを形成し、豊かな社会生活を営むうえでの資質を育成することを目的とします。

## 3. 単位の基準

大学の授業の単位は、大学設置基準の規定に基づき、原則として教室での学習と教室外の学習とを含めて45時間の学習に対して1単位と定められています。

本学の全学共通科目における1単位の基準は下記のとおりとします。

講義、演習科目……………15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

外国語科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

〔新修外国語〕特修…15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

実験、実習科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

全学共通科目では、1回（時限）の授業時間を2時間としているので、1時間の学習時間と単位は次のとおりです。

	授業時間数	自習時間数	期間（回数）	合計時間数	単位数
講義、演習科目	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
外国語科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1
新修外国語〔特修〕	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
実験、実習科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1

## 4. 授業時間

〈第1部〉

第1時限	9時00分～10時30分
第2時限	10時40分～12時10分
第3時限	13時00分～14時30分
第4時限	14時40分～16時10分
第5時限	16時20分～17時50分

〈第2部〉

第1時限	18時00分～19時30分
第2時限	19時40分～21時10分

## 5. 全学共通科目の履修について

全学共通科目の履修については、学部・学科によって進級又は卒業に必要な科目、単位数、履修年次等が異なったり、科目数を指定している場合がありますので所属学部で発行している履修概要等を参照してください。

（注）外国語科目及び健康・スポーツ科学科目の履修については、シラバス（P. 167、P. 251）を参照してください。

## ◎「情報基礎等」の履修について

### (1) 「情報基礎」の履修について（前期）

総合教育科目Bの「情報基礎」は、コンピュータを使用する実習科目であるため、履修者数を一クラスにつき50名に制限します。履修を希望する者は、所属学部へ「履修受験届」を提出する前に「希望調査カード」を学生支援課（全学共通教育棟2F）に提出し、履修の許可を受けなければなりません。

#### ・履修「希望調査カード」の配布

新1回生については、入学手続指定日に所属学部より手渡される全学共通教育関係書類に同封し配布します。2回生以上は以下の受付日時に全学共通教育棟（2階）学生支援課事務室において配布します。

#### ・受付日時及び場所

新1回生については、4月2日（木）入学関係書類提出日に各所属学部受付会場（1号館教室予定）において「希望調査カード」を提出してください。

2回生以上は、3月27日（金）・3月30日（月）・3月31日（火）9時～12時、13時～17時の間に全学共通教育棟（2階）学生支援課事務室に提出してください。ただし、提出は一人1枚とします。

#### ・履修許可者の発表

4月7日（火）15時 第1体育館西側掲示板に掲示します。

#### ・授業の開始

この授業科目は4月9日（木）3時限から開始します。

初回の授業には、事前に配布されたパスワードを記した用紙を持参してください。

詳細及び第2部の履修については、別途掲示します。

### (2) 「情報基礎」および「プログラミング入門」の履修について（後期）

前期と同様「希望調査カード」の提出が必要です。提出時期等については7月に別途掲示します。

### (3) 「情報の探索と利用」の履修について（前期）

「情報基礎」および「プログラミング入門」と同様に履修者を50名に制限しますので、「出席調査票」を学生支援課に提出し、履修の許可を受けなければなりません。提出時期等は「情報基礎」（前期）と同様です。

## ◎「演習科目」の履修について

平成10年度から開講された総合教育科目Bの「演習科目」は、概ね主題ごとに1～2科目を提供します。

「演習科目」は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。

第1回目の授業時に履修許可者を確定しますので、履修を希望する者はシラバスを参照のうえ、必ず出席してください。

## ◎ 留学生対象科目の履修について

外国人留学生を対象に、外国語科目として「日本語」1A～5B（P.224参照）、総合教育科目Bとして「日本事情」IA～IIB（P.94～P.96）が開講されています。

このうち、「日本事情」IIA、IIBについては、留学生と日本人学生の交流をかねて、クラス定員（20～25名程度）を上回らない範囲で留学生以外の学生の履修を認めます（日本人学生の履修希望者数が多い場合、留学生履修者数とのバランスを考え、選考を行う予定です。）

## 6. 履修受験届等について

単位を修得しようとする科目は、各セメスターの初めに、次の【記入要領】により「履修受験届」等を所属学部学務係に提出してください。提出時期・提出場所等は、所属学部で掲示します。

### 【記入要領】

#### (1) 履修申請の手続及び登録の確認

① 前期の履修手続時に申請する授業科目は、前期・集中講義・通年（専門科目のみ）の科目です。後期開講の授業科目については、後期履修申請時（10月）に行います。ただし、通年科目（専門科目のみ）については記入する必要はありません。また、集中講義は後期には登録できません。

② 提出後、履修受験届の内容を記載した「履修申請確認表」を交付しますので、提出した内容と一致しているか各自点検のうえ、エラー表示のある科目及び登録内容に誤りがある場合は、指定された期日までに必ず「修正届」を各所属学部事務室に提出してください。

期日までにエラー表示のある科目及び登録内容の誤りを修正しないときは、当該科目の登録が無効になるので注意してください。

③ 修正手続の期限を過ぎた後は、別科目への変更は認められませんので登録漏れのないようによく確認してください。



- ④ 【履修申請手続きの流れ】(P.8)を参照してください。
- ⑤ 「履修受験届」、「修正届」の提出がない場合は、当該授業科目を履修し、受験することができません。

## (2) 記入上の注意

- ① 【履修受験届の記入例】(P.7)及び「英数字の記入見本」(P.7)を参照のうえ、必ずHBの黒鉛筆で記入してください。(枠の外へはみださないこと)
- ② 誤記入の場合は、消しゴムで完全に消してから再記入してください。
- ③ 時間割コードの誤記入が多く見受けられますので、記入後、必ず点検してから提出してください。
- ④ 用紙は直接機械処理をしますので、汚したり折り曲げたりしないでください。万一用紙を破損した場合は、所属学部事務室に申し出て、再交付を受けてください。
- ⑤ 学部より特に願い出が必要な科目を履修する場合は、別途、履修受験届(指定外クラス履修願等)の提出を必要とすることがありますので、所属学部事務室に申し出てください。

## 7. 障害を有する学生の受講等について

障害を有する学生の受講等について要望があるときは、第1部にあっては所属学部事務室に、第2部にあっては2部事務室に申し出てください。

## 8. 試験及び成績について

### (1) 定期試験等

全学共通科目の定期試験は、原則として各セメスターの期末に行います。ただし、授業担当者によっては、このほかに一定期間の各授業時間に実施する「期間外試験」や、試験に替えてレポートの提出、平常の成績などで評価する場合があります。さらに、その他随時実施される試験があります。

試験に関する詳細は適宜、学生支援課共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)に掲示します。

### ◎ 追試験

病気その他やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対しては、学部が指定する範囲・条件を満たす場合に限り、本人の願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の願い出は、当該科目の試験終了後に、受験できなかった理由を明記し、医師の診断書等証明する書類を追試験願に添付のうえ、所属学部事務室に提出しなければなりません。

追試験に関する条件等は、定期試験前に所属学部掲示板に、また、追試験の受験を許可された者の氏名及び実施日程等は、定期試験終了後定められた日に、学生支援課共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)にそれぞれ掲示します。

### (2) 成績

成績は、合格科目は「A・B・C」の表記、不合格科目は「E」の表記をもって、所属学部事務室から各人に成績通知書で通知します。なお、成績通知書の交付日時(各セメスターごと)、場所については所属学部掲示板に掲示します。

## 9. 各種掲示について

全学共通科目に関する事項(授業、休講、履修等)やその他あらゆる連絡事項は掲示板をもって行いますので、見落とさないよう注意してください。

第1部の掲示板は、主に授業時間割関係、休講・補講通知、教室変更、学生呼び出し等の掲示を行う学生支援課共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)と、適宜使用する{履修関係(履修許可者の発表、各セメスター開始前の履修方法の周知等)の掲示を行う}第1体育館西側掲示板があります。第2部の掲示板は、2部事務室前に設置しています。

## 10. 交通スト、台風時等の授業について

### (1) 交通スト当日の杉本学舎の授業について

次の交通機関のいずれかがストライキを行った場合の授業は休講とします。ただし、別表のとおりスト解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。

- ① JR阪和線
- ② 私鉄（近鉄、阪急、阪神、南海、京阪）の1社以上
- ③ 地下鉄及びJR環状線が同時

### (2) 台風時等の杉本学舎の授業について

「大阪府に暴風警報」が発令された場合の授業は原則として休講とします。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、状況によって警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

〈別表〉

#### 第1部の授業

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午前7時以前		全時限
午前10時以前	1・2時限	3・4・5時限
午前10時を過ぎても解除されない場合	全時限	

#### 第2部の授業

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午後3時以前		全時限
午後3時を過ぎても解除されない場合	全時限	

## 11. 単位互換及びインターネット講義について（講義概要等は別冊）

### (1) 単位互換

平成14年度から、教育分野における交流を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、大阪府立大学及び大阪商業大学との間で単位互換を実施しています。さらに平成18年度から新たに大学コンソーシアム大阪として単位互換事業が実施されています。なお、単位互換科目を履修する際には、所属学部によって単位認定等の取り扱いが異なりますので、必ず所属学部履修規程等を参照してください。

### (2) インターネット講義

平成14年度から、全学共通科目でインターネット講義を実施しています。インターネット講義には、国内外の受講者を対象としたインターネット講座と同時に行われる科目もあり、受講時間に縛られることなく、社会人など学外受講者とメールによる意見交換などをしながら受講することもできます。履修後、試験に合格した場合は総合教育科目として単位認定されます。

### (3) 平成21年度の履修について

- ① 履修及び卒業に必要な単位として認めるかどうかは、各所属学部によって異なります。各所属学部履修規程を必ず参照してください。
- ② 提供される科目ごとに受講者数の制限があります。
- ③ 単位互換科目の講義概要の配布は学生支援課事務室（2F）と2部事務室で行います。また、講義概要の閲覧は各所属学部事務室でも可能です。
- ④ 「単位互換履修出願票」の受付は、下記期間中に学生支援課事務室2F（第1部学生）と2部事務室（第2部学生）で行います。
  - ・大学コンソーシアム大阪単位互換科目 4月1日（水）～4月10日（金）
  - ・大阪府立大学、大阪商業大学の間で実施する単位互換科目 4月7日（火）～4月13日（月）
- ⑤ 詳細については、学生支援課共通教育担当（06-6605-2935）までお問い合わせください。

## 12. 全学共通科目 Q & A

### Q1 全学共通教育は何のため？

人生の中でも大学生の間こそ、自らを磨く絶好の機会です。本学の皆さんには、学部の特長を習得することはもちろんですが、専門の狭い範囲だけにとじこまることなく、時代の変化に対応できる基礎を固め、広い視野を持つて考えることのできる人間になってほしいと思います。全学共通教育は、そのために皆さんを手助けします。卒業に必要な一定の単位数などが定められてはいますが、それを受け身ではなく、自らの“人間づくり”のために積極的に履修して下さい。

### Q2 なぜ、全学共通科目はセメスター制なのか？

本学でも以前は1年間を通して授業をする通年制でしたが、平成6年の教育課程の改革にあわせて、1年間を前期と後期に分けて、授業を各期に完結させるセメスター制に移行しました。セメスター制を採用したのは、次のようなメリットが考えられるからです。①短期間に集中して履修をすることで、効果的な学習ができる。②多数の科目を提供することによって、科目体系が整備され、多様な科目の選択が可能になる。③海外の大学の学期と整合させることで、学生の国際交流が促進される。

### Q3 総合教育科目は、なぜこんなにたくさんあるの？

全学共通科目の中でとりわけ総合教育科目は、幅広い視野と考える力を身につけることにより社会人として必要な教養を培うとともに、自己の専門の意義も据え直すことにより人間としての責務を考える最適の場です。

本学では平成6年に大規模なカリキュラム改革を行いました。セメスター制の利点を生かして総合教育科目を多様化し、学生の皆さんの関心に応じて自由な履修ができるようにしました。総合教育科目のシラバスが「全学共通科目シラバス・履修案内」の大半を占めているのはそのためです。在学中の履修計画を立てるために必ず目を通して下さい。

本学の総合教育科目は、基礎的・教養的なものから応用的・実践的なもの、さらに学際的・総合的なものまで、多種多様な科目から構成されており、他大学に比べて豊富なメニューに恵まれていると言っていいでしょう。

### Q4 四年一貫教育とは？

最近、「四年一貫教育」（全在学期間を通じての体系的教育という意味）という言葉がよく使われますが、これは専門教育と全学共通科目の両方を学生の全在学期間を対象に行うということで、以前は1・2回生を教養課程、3回生から専門課程となっていました。これを廃止したのはそのためです（なお、残念ながら医学部だけはキャンパスの都合で全学共通科目の履修は現在も2回生までとなっています）。

もちろん、全学共通科目の中でも外国語科目や基礎教育科目の多くはその性格上、今も1・2回生における履修が中心となっていますが、総合教育科目に関しては1・2回生の間だけでなく、3・4回生になってからも履修を続けることを強く勧めます。総合教育科目の中には専門科目をある程度習得した3・4回生に適した科目も数多くあります。とくに総合Aは上回生が受けやすいように専門科目のない5時限に開かれています。専門科目の習得段階に応じた科目を選ぶためにもシラバスを活用して下さい。

### Q5 総合教育科目の履修制限は、なぜ？

総合教育科目の履修制限を行っている理由は、履修を全く自由にしてしまうと、卒業に必要な単位数を早く取っ飛ばすと、1・2年生の間に空いている時間を総合教育科目で埋めてしまう傾向があるからです。外国語や専門科目の大部分が年次指定されているのに対し、総合教育科目は原則としていつでも履修できるからです。しかし、大学での授業は、十分な予習・復習時間を必要としています。したがって、履修科目が多すぎると、十分な予習と復習ができなくなります。在学期間全体を通して総合教育科目を履修するという4年一貫教育の趣旨からしても、総合教育科目の履修制限は必要と考えています。

### Q6 総合教育科目の受講者数制限は、なぜ？

授業を行う教室の席数には上限がありますし、また科目によっては授業に合った人数の適正規模もありますので、授業と学習を正常に行うためにはやむを得ない措置です。

（注）第1回目の授業時の空登録（受講の決心をしていないのに出だけ出しておく）は、本当に受けたい人の受講を妨げることになりますので、絶対にやめてください。また、履修受験届を出した科目の授業は必ず受けてください。

### Q7 総合教育科目Aは、なぜ5時限目（第1部）なの？

総合教育科目Aは、どの学部・学年の学生の受講にも応えられるようにと、全学の協力で提供している学際的・実証的な科目です。したがって、どの学部・学年の学生でも受講しやすい時間帯に開講する必要があります。しかし、1時限から4時限まではすでに他の教材が入っていますので、それらの受講と競合しないように、週2回（水・金）の5時限に開講しています。



13. 履修受験届の記入例

H Bの黒鉛筆で記入

時間割コードは、下の記入見本にならい、枠内に記入すること。  
(英字と数字の区別をはっきりする。)

紛失等の場合のみ記入すること。  
(所属学部事務室で指示を受けること。)

2006年度 前期 履修受験届  
理学部 (第 部) 回生  
氏名 杉本 太郎

記入例 G C E J L S T M H N  
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

A06SX999

学部第1部・大学院					学部第2部(大学院)	
1	2	3	4	5	1 (6)	2 (7)
1 G 1 1 2 9		1 G 1 3 4 9	1 G 1 4 4 2		2 G 1 1 0 1	提出する前にコードと科目名を照合確認して下さい。
基礎物理学I		ドイツ語基礎1・2	英語1A		心理学への招待	
	1 G 2 2 2 2	1 G 2 3 2 2				※第2部の学生はこの欄に記入して下さい。
	解析I	基礎物理学実験I				
	1 G 3 2 7 2	1 G 3 3 4 2		1 G 3 5 0 4		
	バスケットボールI	英語2A	ドイツ語基礎1・2	現代の医療		
1 G 4 1 2 1		1 G 4 3 2 3				
線形代数I		基礎物理化学B				
1 G 5 1 0 1						
心理学への招待			基礎物理学I			
現住所	〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-5-8			TEL	6761-1234	
勤務先名(該当学生のみ)	大阪株式会社			TEL	6321-4321	
メールアドレス	aaa@osaka-cu.ac.jp		携帯電話番号	TEL	090-123-4567	

連絡先を記入すること。  
(勤めている人は勤務先も記入)

複数時限にわたる科目(ペア科目)については、最初の時限には時間割コードと科目名を記入し、残りの時限には、時間割コードは空白のまま、下の欄に科目名のみを記入すること、なお、時限が連続しているときは、科目名を「→」で表示してもよい。

【英数字の記入見本】

G 線をつながない  
つき出しをはっきり

C セリフをつける  
セリフを傾けない

E ひげを出さない  
垂直に

J 上ぶたをはっきり  
カーブをはっきり

L 真下にまっすぐ  
真横にまっすぐ

S セリフをつける  
セリフは下に長く

T 縦線を傾けない  
横線は水平にまっすぐ

H 縦線を傾けない  
横線は水平にまっすぐ

N 縦線・斜線とも  
まっすぐ

1 余計な飾りをつけない  
縦線は真直ぐに

2 下線は真横に  
ループはつからない

3 中央部は十分つき出す  
カーブは大きく

4 間隔を十分あける  
角をはっきりつける

5 間隔を十分あける  
縦線をつき出す

6 線を十分長く  
線をつなが

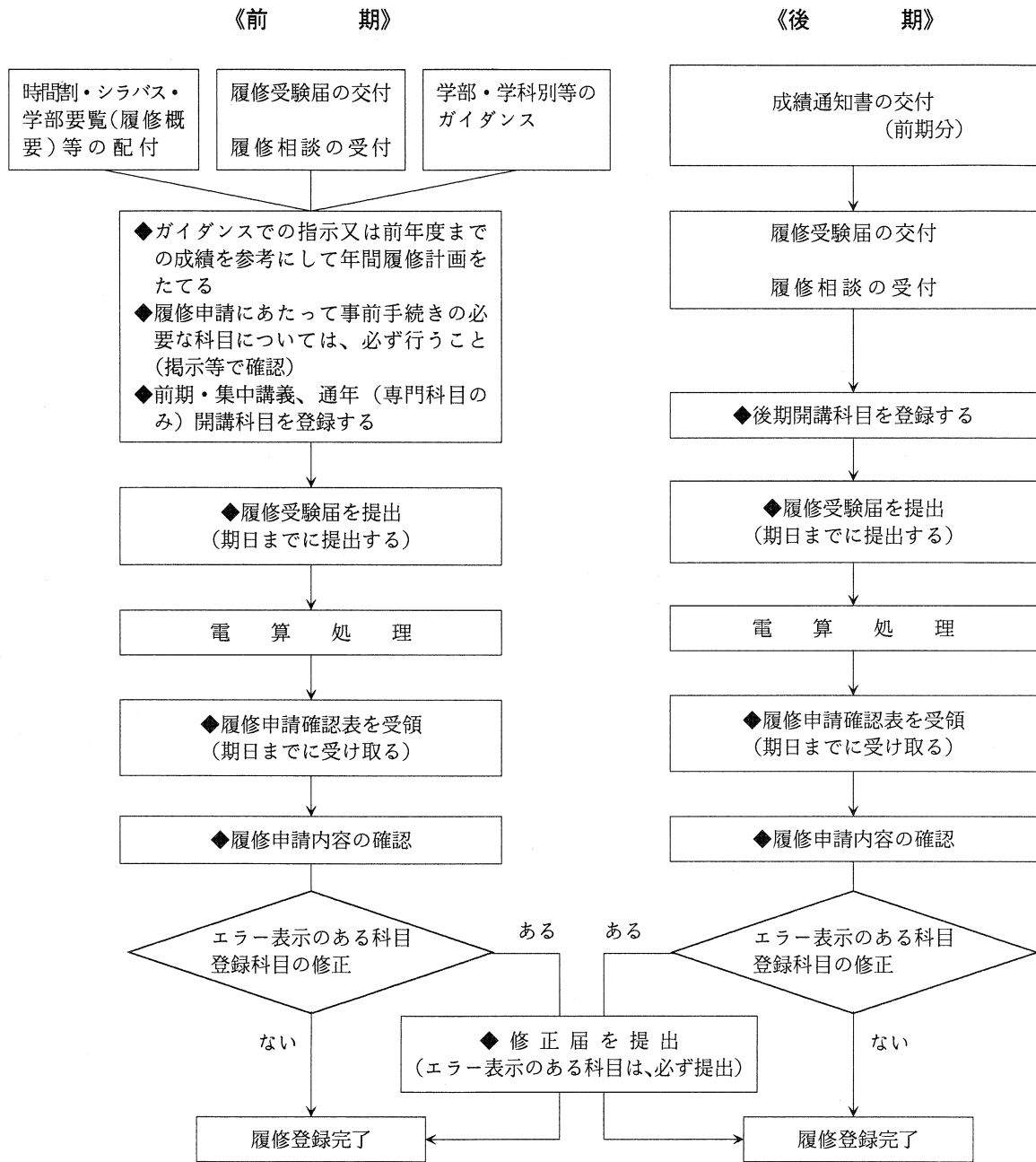
7 鍵をつける  
余計な飾りをつけない

8 ループを大きく  
線を確実につなぐ

9 線を確実につなぐ  
縦線を十分長く

0 線を確実につなぐ  
縦長の楕円にする

【履修申請手続の流れ】



注：◆印は、学生がしなければならない作業を表す。

## Ⅱ 全学共通科目の授業科目

# 1. 全学共通科目の履修案内

日 本 語			英 語		
総合教育科目A			Integrated General Courses A		
	主 題	人間と環境 都市・大阪 生命と人間 特 別 枠		主 題	Humanity and the Enviroment Studies of Osaka Humanity and Life
総合教育科目B			Integrated General Courses B		
科目群	人 間 と 社 会		科目群	Humanity and Society	
	主 題	人間と知識・思想 現代社会と人間 社会と人権		主 題	Humanity and Knowledge Humanity and Modern Society Society and Human Rights
科目群	歴 史 と 文 化		科目群	History and Culture	
	主 題	歴 史 地域と文化 文学と芸術		主 題	History Regions and Culture Literature and the Arts
科目群	自 然 と 人 間		科目群	Nature and Humanity	
	主 題	現代の自然科学 自然科学と人間		主 題	Modern Natural Science Natural Science and Humanity
科目群	情 報 と 人 間		科目群	Information and Humanity	
	主 題	情報と人間		主 題	Information and Humanity
科目群	初年次教育		科目群	First Year Experience	
	主 題	初年次教育		主 題	First Year Experience
基礎教育科目			Basics in the Sciences		
	主 題	数 学 物 理 学 物 質 科学 化 学 生 物 学 地 球 学 図 形 科学		主 題	Mathematics Physics Material Sciences Chemistry Biology Geosciences Graphics
外国語科目			Foreign Languages		
	主 題	英 語 ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 中 国 語 ロ シ ア 語 朝 鮮 語 日 本 語		主 題	English German French Chinese Russian Korean Japanese
健康スポーツ科学科目			Health, Exercise and Sport Sciences ; HESS		
	主 題	健康スポーツ科学 講義 健康スポーツ科学 実習  { 実験実習 スポーツ 実習		主 題	Health, Exercise and Sport Sciences throughtout Life  Practice Courses  { Experimental Education for HESS Practise-Field Work for HESS

## 2. 平成21年度 全学共通科目の授業科目一覧

### ○総合教育科目 A

総合教育科目 A では、すぐれた現代的・実証的な問題を「主題」として取り上げ、総合大学としての本学の教育・研究の蓄積を生かして、一つ一つの「主題」を様々な学問領域から多面的に取り扱うことによって、今日的な問題について多面的かつ総合的な理解力と判断力を養うことをめざしている。今年度開講の三つの主題の内、「人間と環境」では、人間と環境の関わりを、公害、科学技術、医療、法・行政、経済活動等の視点から検討する。「都市・大阪」では、本学がそこに立地する大阪の都市としての歴史・文化や在り方、地理、都市生活、都市政策や都市づくり、経済活動などを多面的に取り扱う。また「生命と人間」では、生命倫理、戦争、医療、福祉、進化等、人間の生死に深くかかわる問題に、様々な学問領域からアプローチする。いずれの主題に属する科目も、一つ一つ完結した科目であるが、同じ主題に属する科目を複数受講することによって、その主題についてより深い知見を得ることができる。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
人間と環境	環 境 と 歴 史	2	2		全：水・5				32
	技 術 と 環 境	2	2		全：金・5				32・33
	人 間 と 居 住 環 境	2	2	全：金・5					33
	環 境 と 経 済	2	2	全：金・5					34
都 市 ・ 大 阪	歴 史 の な か の 大 阪	2	2		全：水・5				34・35
	大 阪 の 自 然	2	2		全：金・5	全：金・2			35・36
	大 阪 の 都 市 づ くり	2	2	全：金・5					36・37
	大 阪 の 地 理	2	2	全：水・5					37
	都 市 の 経 済 と ビジネス	2	2		全：金・5				38
	現 代 都 市 論	2	2		全：水・5				38・39
	国 際 地 域 経 済 と 大 阪	2	2		全：水・4				39
	大 阪 落 語 へ の 招 待	2	2	全：金・5					40
	東 ア ジ ア 市 民 社 会 論 入 門	2	2		全：金・3				41
	市 大 都 市 研 究 最 前 線	2	2		全：水・5				41・42
生 命 と 人 間	生 と 死 の 倫 理	2	2			全：水・1			42
	戦 争 と 人 間	2	2	全：水・5					43
	生 命 と 進 化	2	2		全：金・5				43・44
	現 代 の 医 療	2	2	全：水・5					44
	生 体 の し く み	2	2	全：金・5					45
	生 命 と 法	2	2	全：水・5		全：水・2			45・46
	健 康 へ の ア プ ロ ー チ	2	2	全：金・5					46
特 別 枠	大 阪 市 大 で ど う 学 ぶ か	2	2	全：水・5					47

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

「人間と社会」の目標は、社会の構成要素である人間そのものと、人間が形成する社会について、多様な側面から総合的に理解することである。そのために多数の科目が配置されているが、主題「人間の知識・思想」では、人間の心理・思想・行為など人間の内面や人間の行動に関する科目が配置され、人間そのものに対する理解を深めることが目標である。「現代社会と人間」の目標は、政治・経済・法制度など社会、とりわけ現代社会の仕組みと人間の関わりを理解することである。「社会と人権」では、人間の権利とそれに関連する諸問題に関する科目を提供し、人権尊重の認識を深めることを目標とする。

主題	授業科目	毎週	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
		時間		前期	後期	前期	後期		
人間と知識・思想	論理学入門	2	2	全：火・4					50
	心理学への招待	2	2	全文：月・3		全：月・1			50～53
				全文：木・4					
				全理：火・3					
				全理：金・1					
	文化と社会の心理	2	2		全：木・4				54
	人間と宗教	2	2	全：木・4					54・55
	倫理学入門	2	2		全：木・2				55
	対人行動の影響と意味	2	2	全：月・3					56
	ゲームで学ぶ社会行動	2	2		全：木・4				56・57
	日常の中の不思議を探す演習	2	2		全：火・3				57
	教育と発達のパシク心理学	2	2		全：火・4				58
教育と発達のパシク心理学演習	2	2		全：木・3				58・59	
読むこと書くことの科学	2	2		全：火・1				59	
現代社会と人間	現代文化の社会学	2	2	全：月・3					59・60
	社会科学のフロンティア	2	2	全：月・2					60
	日本国憲法	2	2	全：木・2		全：木・1			61
	都市的世界の社会学	2	2		全：木・2				61・62
	日本と世界の教育	2	2				全：水・1		62
	宗教と社会	2	2				全：火・1		62・63
	現代社会学入門	2	2				全：月・2		63
	現代の社会問題	2	2	全：金・2					63
	世界のなかの日本経済	2	2	全：火・1		全：火・1			64
	現代経済学入門	2	2		全：水・3		全：水・2		64
	法と社会	2	2		全：木・4		全：木・1		65
	日本の企業	2	2	全：木・1		全：木・2			65
	ライフサイクルと教育	2	2		全：木・2				66
	現代社会と健康	2	2	全：火・1	全：火・1	全：水・1			67
全：木・2				全：木・2					
家族と社会	2	2	全：金・5					68	

主題	授業科目	毎週	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
		時間		前期	後期	前期	後期		
現代社会と人間	メディアの社会学	2	2		全：火・2				68・69
	現代社会と大学	2	2	全：木・4					70
	現代社会における キャリアデザイン	2	2		全：火・3				69・70
	基礎会计学	2	2	全：水・1					71
	日本の企業 演習	2	2	全：木・2					71・72
	現代社会と大学 演習	2	2		全：木・3				72

主題	授業科目	毎週	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項	
		時間		前期	後期	前期	後期			
社 会 と 人 権	現代の部落問題	2	2		全：金・2	全：金・1			73・74	
	都市社会と差別	2	2		全：金・1				74・75	
	部落解放のフロンティア	2	2		全：金・1				75・76	
	部落差別の成立と展開	2	2	全：金・1			全：金・1			76・77
				全：金・2						
	障害者と人権Ⅰ	2	2	全：金・2		全：金・2			77	
	障害者と人権Ⅱ	2	2		全：金・2		全：金・2		78	
	ジェンダーと現代社会Ⅰ	2	2	全：金・2					78・79	
	ジェンダーと現代社会Ⅱ	2	2		全：金・2				79	
	女性学	2	2			全：月・1			79・80	
	エスニック・スタディ入門編	2	2	全：金・2		全：金・1			80	
	大阪の部落産業	2	2	全：金・2		全：金・1			81	
	障害者と人権Ⅲ演習	2	2	全：水・1					81・82	
エスニック・スタディ演習	2	2		全：金・2				82		

科目群：歴史と文化

「歴史と文化」は、人間の築きあげた社会や文化を歴史的、地理的に展望すること、文化の高度に洗練された部分である文学や芸術の真髄に触れることを目的とする科目からなる。これらを通じて、人間の生と営みの意義を認識し、現代を主体的に生きていくことのできる人間としての自己を形成すること、総合的思考力を養い、専門科目の完全な習得のために必要な知的基礎と豊かな人間性を涵養することを目指している。主題「歴史」は、人間社会の構造の形成過程、言語文化の展開などを学び、歴史的なものの考え方を養成する。「地域と文化」は、世界諸地域の空間的仕組みとさまざまな伝統的・現代的文化の理解を通じて、国際化時代にふさわしい知性を養う。「文学と芸術」は古来からの人間の生の軌跡を示す文学・美術などの享受により、古典の素養を身につけ、人間性について深く思索する姿勢を培う。

主題	授業科目	毎週	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
		時間		前期	後期	前期	後期		
歴史	日本史の見方	2	2	全：金・1		全：火・2			83
	東洋史の見方	2	2	全：火・1					83・84
	西洋史の見方	2	2	全：水・3					84
	日本社会の歴史	2	2		全：水・3				84・85
	東洋社会の歴史	2	2		全：木・2				85
	西洋社会の歴史	2	2		全：火・3		全：月・1		86
	考古学入門	2	2		全：水・2		全：水・2		87
	ことばの歴史	2	2		全：水・4				88
	現代の歴史	2	2	全：火・4					87
地域と文化	現代の地理学	2	2	全：木・3			全：木・2		88・89
	都市の地理学	2	2		全：月・2				90
	文化人類学入門	2	2	全：火・3		全：火・1			90・91
	言語学入門	2	2		全：火・2				91
	ことばと文化	2	2		全：水・2				91・92
	景観と文化	2	2	全：木・2					92
	アジアの文化	2	2	全：月・3					93
	アジアの地域と文化演習	2	2		全：月・2				93
	日本事情 I A	2	2	全：金・1					94
	日本事情 I B	2	2		全：金・1				94
	日本事情 II A	2	2	全：水・3					95
日本事情 II B	2	2		全：月・4				95・96	
文学と芸術	日本の古典文学	2	2		全：火・2				96
	西洋の文学	2	2	全：木・4					97
	日本の詩歌	2	2			全：火・2			97・98
	芸術の世界	2	2	全：月・2					98・99
	西洋美術の流れ	2	2		全：金・4				99
	音楽の諸相	2	2	全：水・4					99・100
	視覚文化の世界	2	2		全：火・4				100
	文学と芸術へのいざない演習	2	2	全：木・3					100・101



## 科目群：自然と人間

高度に発達に発達した現代の科学技術社会において、自然と人間の関わりを自然科学の視点から理解することは、理科系文科系を問わず不可欠である。そのために本科目群では、自然を理解する科学の方法を学び、自然を正しく理解することを目的とした主題「現代の自然科学」と、人間と自然科学・人間と科学技術との関わりや、科学とは一体何であるかについて考える主題「自然科学と人間」とを提供する。

主題「現代の自然科学」は、文科系学生を対象に分かりやすく解説する科目である（下段の備考参照）。

なお、理科系学生は、興味があれば対応する基礎教育科目群から選んで履修されたい。

一方、主題「自然科学と人間」は、文科系および理科系の全学の学生を対象に提供される科目である。

備考：「自然と人間」の提供科目のうち、全文のみに開講している科目については、生活科学部人間福祉学科の学生は履修することができる。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
現代 の 自然 科学	数 学 の 歩 み	2	2		全文:月・3	全:月・1			101
	ニュートンからアインシュタインへ	2	2	全文:木・2					102
	ミクロとマクロの世界	2	2		全:火・3		全:火・1		102
	物 質 の 多 様 性	2	2		全文:月・2				103
	化 学 の 世 界	2	2	全文:月・3			全:水・1		103
	生 物 学 へ の 招 待	2	2	全文:水・3		全:水・1			104
	地 球 の 科 学	2	2		全文:火・1		全:木・2		104・105
	実験で知る自然の世界	4	3		全文:水 3・4				106
地 球 学 入 門	2	2		全文:火・1				107	
自然 科学 と 人間	科 学 と 社 会	2	2	全:木・4					107・108
	現 代 科 学 と 人 間	2	2	全:木・4					108
	日 本 の 科 学 技 術	2	2		全:木・4		全:木・1		109
	心 と 脳	2	2				全:月・2		109・110
	ドキュメンタリー・環境と生命	2	2		全:水・4				110・111
	実験で知る自然環境と人間	4	3	全:水 3・4					111・112
	21世紀の植物科学と 食糧・環境問題	2	2		全:火・3				112・113
	森林環境と人間社会	2	2	全:火・3	全:火・4				112
植物と人間 演習	2	2	全:集中					113	

科目群：情報と人間

「情報と人間」の目標は、情報社会に生きる人間として、情報の価値を知るとともに、これを資産として活用するための知識と技能の習得を通じて、情報に関する科学的な見方、考え方を養い、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる能力を養うことにある。

主題	授業科目	毎週 時間	単位 数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
情報 と 人間	情 報 基 礎	4	2	9 クラス 曜日・時 限はシラ バス参照	3 クラス 曜日・時 限はシラ バス参照	1 クラス 全:金 1・2			114・115
	プログラミング入門	4	2	全:金 3・4	3 クラス 曜日・時 限はシラ バス参照	全:金 1・2			115・116
	情報の探索と利用	2	2	全:月・3	全:月・1				117・118
	地図と地理情報	2	2				全:月・1		118
	情報化の光と影	2	2		全:木・2		全:木・1		118・119

○科目群：初年次教育

主題	授業科目	毎週 時間	単位 数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
初年次 教育	初 年 次 教 育	2	2	曜日・時 限はシラ バス参照					120～124

○総合教育科目B「特別枠」

主題	授業科目	毎週 時間	単位 数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
特別 枠	単 位 互 換 科 目	2	別冊 参照	曜日・時 限はシラ バス参照	曜日・時 限はシラ バス参照	曜日・時 限はシラ バス参照	曜日・時 限はシラ バス参照		

## ○基礎教育科目（曜日・時限はシラバス参照）

	授 業 科 目	毎 週 時間数	単位数	第 1 部		備 考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期		
数          学	線 形 代 数 I	2	2	○			126
	線 形 代 数 II	2	2		○		126・127
	解 析 I	2	2	○			127
	解 析 II	2	2		○		128
	解 析 III	2	2	○			128・129
	解 析 IV	2	2		○		129
	応 用 数 学 A	2	2	○			130
	応 用 数 学 B	2	2		○		130・131
	応 用 数 学 C	2	2		○		131
	基 礎 数 学 A	2	2	○		第 2 部開講（前期）	132
	基 礎 数 学 B	2	2		○	第 2 部開講（後期）	132・133
	統 計 学 A	2	2	○			133
	統 計 学 B	2	2		○		134
	物          理          学	基 礎 物 理 学 I	4	4	○		週 2 コマ開講
基 礎 物 理 学 II		4	4		○	週 2 コマ開講	135
基 礎 物 理 学 I - A		2	2		○		135
基 礎 物 理 学 II - A		2	2	○			136
基 礎 物 理 学 I - E		2	2	○			136
基 礎 物 理 学 II - E		2	2		○		137
基 礎 物 理 学 F		4	4		○	週 2 コマ開講	137
基 礎 物 理 学 III		2	2	○			138
基 礎 物 理 学 IV - A		2	2		○		138・139
基 礎 物 理 学 IV - B		2	2		○		139
物 理 学 I		2	2	○			140
物 理 学 II		2	2		○		140
物 理 学 A		2	2	○			141
物 理 学 B		2	2		○		141
入 門 物 理 学 I		2	2	○			142
入 門 物 理 学 II		2	2		○		142・143
入 門 物 理 学 実 験		4	2		○		143
基 礎 物 理 学 実 験 I		6	3	○	○		144
基 礎 物 理 学 実 験 II		6	3	○	○		145
基 礎 生 体 物 質 学	2	2		○		145・146	
基 礎 物 質 科 学 実 験	6	3	○			146	

授 業 科 目	毎 週 時 間 数	単 位 数	第 1 部		備 考	シラバス 掲 載 項
			前 期	後 期		
化 学	基礎物理化学 A	2	2	○	○	147
	基礎物理化学 B	2	2	○	○	147・148
	基礎有機化学	2	2	○		149
	基礎有機化学 I	2	2	○		148
	基礎有機化学 II	2	2		○	148
	基礎無機化学	2	2	○	○	150
	基礎分析化学	2	2	○	○	151
	基礎有機化学 M	2	2		○	149
	入 門 化 学	2	2	○		151
	基礎化学実験 I	6	3	○	○	152
	基礎化学実験 II	6	3		○	152・153
	化 学 実 験	4	2		○	153
生 物 学	生物学概論 A	2	2	○	○	154
	生物学概論 B	2	2		○	154・155
	生物学概論 C	2	2		○	155
	生物学概論 D	2	2	○		155・156
	生物学概論 I	2	2	○		156
	生物学概論 II	2	2		○	157
	生物学概論 III	2	2	○		157
	生 物 学 A	2	2	○		158
	生 物 学 B	2	2		○	158
	生物学実験 A	4	2	○		159
	生物学実験 B	4	2		○	159
	生物学実験 M	6	3		○	160
地 球 学	一般地球学 A-I	2	2	○		160
	一般地球学 A-II	2	2		○	161
	一般地球学 B-I	2	2	○		161
	一般地球学 B-II	2	2		○	162
	建設地学	2	2		○	162・163
	建設地学実習	2	1		○	163
	地球学実験 A	4	2	○		164
地球学実験 B	4	2		○	164	
図 形 科 学	図形科学 I	2	2	○		165
	図形科学 II	2	2		○	166

○外国語科目（曜日・時限はシラバス参照）

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備考	シラバス掲載頁		
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部
								前期	後期	前・後期
英	College English I	2	1	○		○		171~178	228~230	
	College English II	2	1	○		○				
	College English III	2	1		○		○			
	College English IV	2	1		○		○			
	College English V	2	1	○		○				
	College English VI	2	1		○		○			
語	ACE : TOEIC650	2	1	○	○	○		179~180	231・232	
	ACE : TOEFL80	2	1	○	○					
	ACE : Films	2	1		○					
	ACE : Media English	2	1	○	○	○				
	ACE : Critical Writing	2	1	○	○		○			
	ACE : Presentation	2	1		○					
	ACE : Intensive Reading	2	1	○						
	ACE : Discussion	2	1	○			○			
	ACE : Literature	2	1	○						
ド イ ツ 語	基礎 1・2	4	2	○				週2コマ開講	188~190 と 191~192 193~195	236~238
	基礎 1	2	1			○				
	基礎 2	2	1			○				
	基礎 3	2	1		○		○			
	基礎 4	2	1		○		○			
	応用 1 A	2	1	○						
	応用 2 A	2	1		○					
	応用 1 B	2	1	○						
	応用 2 B	2	1		○					
	特修 1	2	2			○		190・192 193・196	237・238	
	特修 2	2	2		○		○			
	特修 1 a	2	2	○						
	特修 1 b	2	2	○						
	特修 3 a	2	2	○						
	特修 3 b	2	2	○						
	特修 4	2	2		○					
特修 5	2	2	○							
特修 6	2	2		○						
特修 7	2	2	○							
特修 8	2	2		○						
特修 9	2	2	○							
特修 10	2	2		○						
フ ラ ン ス 語	基礎 1・2	4	2	○				週2コマ開講	197~202	239~241
	基礎 1	2	1			○				
	基礎 2	2	1			○				
	基礎 3	2	1		○					
	基礎 4	2	1		○		○			
	応用 1 A	2	1	○			○			
	応用 2 A	2	1		○					
	応用 1 B	2	1	○						
	応用 2 B	2	1		○					
	特修 1	2	2	○		○		199~202	240・241	
	特修 2	2	2		○					
	特修 3	2	2	○			○			
	特修 4	2	2		○					
	特修 5	2	2	○						
特修 6	2	2		○						
特修 7	2	2	○							

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備考	シラバス掲載頁		
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部
								前期	後期	前・後期
フ ラ ン ス 語 特 修	8	2		○				199・201 203		
	9	2	○							
	10	2		○						
中 国 語 基 礎	1・2	4	2	2	○			週2コマ開講	204~211	242~244
	基礎1	2	1			○				
	基礎2	2	1			○				
	基礎3	2	1		○		○			
	基礎4	2	1		○		○			
	応用1 A	2	1	○						
	応用2 A	2	1		○					
	応用1 B	2	1	○						
	応用2 B	2	1		○					
	特修1	2	2	○		○				
	特修2	2	2		○		○			
	特修3	2	2	○						
	特修4	2	2		○					
	特修5	2	2	○						
特修6	2	2		○						
特修7	2	2	○							
特修8	2	2		○						
特修9	2	2	○							
特修10	2	2		○						
ロ シ ア 語 基 礎	1・2	4	2	2	○			週2コマ開講	213~217	245~247
	基礎1	2	1			○				
	基礎2	2	1			○				
	基礎3	2	1		○		○			
	基礎4	2	1		○		○			
	応用1 A	2	1	○						
	応用2 A	2	1		○					
	応用1 B	2	1	○						
	応用2 B	2	1		○					
	特修1	2	2	○		○				
	特修2	2	2		○		○			
	特修3	2	2	○						
	特修4	2	2		○					
	朝 鮮 語 基 礎	1・2	4	2	2	○				
基礎1		2	1			○				
基礎2		2	1			○				
基礎3		2	1		○		○			
基礎4		2	1		○		○			
応用1 A		2	1	○						
応用2 A		2	1		○					
応用1 B		2	1	○						
応用2 B		2	1		○					
特修1		2	2	○		○				
特修2	2	2		○		○				
特修3	2	2	○							
特修4	2	2		○						
日 本 語	1 A			○				留学生のみ対象 〃 〃 〃 〃 〃	224~225	
	1 B				○					
	2 A			○		○				
	2 B				○					
	3 A			○						
	3 B				○					

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備考	シラバス掲載頁		
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部
								前期	後期	前・後期
日 本 語	4 A		○				留学生のみ対象	224~226		
	4 B			○			〃			
	5 A		○				〃			
	5 B			○			〃			

○健康・スポーツ科学科目

(健康・スポーツ科学講義)

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 頁
			前 期	後 期	前 期	後 期		
健 康 運 動 科 学	2	2	火 2 全	火 2 全		火 2 全	旧:健康運動科学論	254
体 力 ト レ ー ニ ン グ 科 学	2	2	木 4 全	木 4 全			旧:体力トレーニング科学論	254・255
ス ポ ー ツ 実 践 科 学	2	2	木 3 全 木 4 全				旧:スポーツ実践科学論	255・256

(健康・スポーツ科学実習)

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 頁
			前 期	後 期	前 期	後 期		
健康運動科学実験実習 1	2	1		火 4 全			旧:健康運動科学科目 1	256
健康運動科学実験実習 2	2	1					旧:健康運動科学科目 2 休講	
体力トレーニング科学実験実習 1	2	1	木 2 STI (全理)				旧:体力トレーニング科目 1	256・257
体力トレーニング科学実験実習 2	2	1					旧:体力トレーニング科目 2 休講	
スポーツ実践科学実験実習 1	2	1		木 2 全				257
バスケットボール 1	2	1	火 3 CLI (全文) 火 4 全 木 2 STI (全理)	水 2 全 木 1 EJI (全文) 木 2 STI (全理)	火 2 全			257・258
バスケットボール 2	2	1	木 1 EJI (全文)					258
バレーボール 1	2	1	火 3 CLI (全文) 火 4 全	火 3 CLI (全文) 火 4 全				258・259
サッカー 1	2	1	火 3 CLI (全文) 火 4 全 木 1 EJI (全文) 木 2 STI (全理)	火 3 CLI (全文) 火 4 全 木 1 EJI (全文) 木 2 STI (全理)				259・260
サッカー 2	2	1	火 4 全					260
ハンドボール 1	2	1					休講	
ハンドボール 2	2	1					休講	
陸上競技 1	2	1					休講	
陸上競技 2	2	1					休講	
アーチェリー 1	2	1	火 3 CLI (全文) 火 4 全 木 1 EJI (全文) 木 2 STI (全理)		火 2 全			261
アーチェリー 2	2	1		火 3 CLI (全文)				261



授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲載頁
			前 期	後 期	前 期	後 期		
ソフトボール 1	2	1	火3 CLI (全文) 水2 全 木1 EJI (全文) 木2 STI (全理)					265・266
ソフトボール 2	2	1					休講	
テニ ス 1	2	1	火3 CLI (全文) 火4 全 木1 EJI (全文) 木2 STI (全理) 木3 全 木4 全					262・263
テニ ス 2	2	1		木1 EJI (全文) 木2 STI (全理) 木3 全 木4 全				263
バドミントン 1	2	1	火4 全					267
バドミントン 2	2	1					休講	
ゴルフ 1	2	1					休講	
ゴルフ 2	2	1					休講	
フットサル 1	2	1	火3 CLI (全文) 火4 全 木3 全 木4 全	火3 CLI (全文) 火4 全 木3 全 木4 全	木2 全			263・264
ジョギング・マラソン 1	2	1	火4 全 木1 EJI (全文)	木1 EJI (全文) 木2 STI (全理)				266
ジョギング・マラソン 2	2	1	火4 全	火3 CLI (全文) 火4 全				266・267
健康管理 1	2	1	水5 全	水5 全			休講	268
健康管理 2	2	1						

参考(1)

## 平成21年度 新設・廃止科目一覧

平成21年度から下記のとおり科目を新設・廃止及び科目名の変更をします。

新設・廃止・変更	教 科	科目群	主 題	科 目 名	備 考
新設科目	総合教育科目 A		人 間 と 環 境	人 間 と 居 住 環 境	
〃	総合教育科目 A		都 市 ・ 大 阪	東アジア市民社会論入門	
〃	総合教育科目 A		〃	市大都市研究の最前線	
〃	総合教育科目 B	歴史と文化	文 学 と 芸 術	視 覚 文 化 の 世 界	
〃	総合教育科目 B	初年次教育		初 年 次 セ ミ ナ ー	
〃	基礎教育科目(講義)			基 礎 有 機 化 学	
〃	外 国 語 科 目	新修外国語		ロ シ ア 語 特 修 3 . 4	
〃	外 国 語 科 目	新修外国語		朝 鮮 語 特 修 3 . 4	
廃止科目	総合教育科目 A		人 間 と 環 境	生 活 と 環 境 問 題	
〃	総合教育科目 B	人間と社会	現 代 社 会 と 人 間	経 営 情 報 と 社 会	
〃	総合教育科目 B	歴史と文化	地 域 と 文 化	日 本 の 戯 曲	
〃	総合教育科目 B		特 別 枠	1 回 生 セ ミ ナ ー	
〃	基礎教育科目(講義)			数 学 基 礎 I ～ IV	
〃	基礎教育科目(講義)			基 礎 物 質 科 学	
〃	基礎教育科目(講義)			基 礎 機 能 性 物 質 学	
〃	外 国 語 科 目	新修外国語		ド イ ツ 語 上 級 1 ド イ ツ 語 中 級 1・2	
〃	外 国 語 科 目	新修外国語		フ ラ ン ス 語 上 級 1 フ ラ ン ス 語 中 級 1・2	
〃	外 国 語 科 目	新修外国語		中 国 語 上 級 1 中 国 語 中 級 1・2	
〃	外 国 語 科 目	新修外国語		ロ シ ア 語 上 級 1 ロ シ ア 語 中 級 1	
〃	外 国 語 科 目	新修外国語		朝 鮮 語 上 級 1 朝 鮮 語 中 級 1	
科目名変更	総合教育科目 B	人間と社会	社 会 と 人 権	ジェンダーと現代社会Ⅰ	旧名： 女性学入門編
〃	総合教育科目 B	人間と社会	社 会 と 人 権	ジェンダーと現代社会Ⅱ	旧名： 女性学応用編

### 平成8年度から21年度までの総合教育科目の開講実績一覧

[科目名は、21年度を基準に記載し、旧科目については、新科目に置き換える。  
 ただし、単位互換科目は、他大学等提供科目を含む]  
 (○：開講、 ———— ：未開講を示す)

○総合教育科目 A

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
人 間 と 環 境	環 境 と 歴 史			○			○	○					○	○			○	○			○			○			○		
	日 本 の 公 害				○	○					○	○			○			○				○			○	○			
	技 術 と 環 境	○		○		○		○		○		○		○		○				○		○		○		○		○	
	環 境 と 健 康	○	○							○	○				○					○	○					○			
	開 発 と 環 境			○		○			○	○					○				○	○			○	○			○		
	環 境 と 法 ・ 行 政	○	○	○		○															○		○		○				
	環 境 と 経 済	○																				○						○	
	人 間 と 居 住 環 境																												○
大 阪 市 大 阪	歴 史 の な か の 大 阪	○			○	○		○	○	○			○	○			○		○	○			○	○		○	○		
	大 阪 の 自 然	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	
	大 阪 の 都 市 生 活	○			○		○				○		○				○		○			○		○		○			
	大 阪 の 都 市 づ く り	○		○		○		○					○		○		○		○			○		○		○		○	
	都 市 の 経 済 と ビ ジ ネ ス							○						○		○		○		○		○		○		○		○	
	大 阪 の 地 理													○		○		○		○		○		○		○		○	
	現 代 都 市 論														○		○		○		○		○		○		○		
	大 阪 の 空 間 文 化 論															○	○		○		○		○		○				
	国 際 地 域 経 済 と 大 阪																				○		○		○		○		
	大 阪 落 語 へ の 招 待																								○		○		
	東 ア ジ ア 市 民 社 会 論 入 門																											○	
	市 大 都 市 研 究 の 最 前 線																											○	
	生 命 と 人 間	生 と 死 の 倫 理	○			○	○		○		○		○		○				○	○			○		○		○		
戦 争 と 人 間		○	○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	○		○		○		
生 命 と 進 化		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○			
現 代 の 医 療		○		○		○	○		○		○	○		○		○		○		○		○		○		○			
人 体 を 考 え る				○				○					○	○				○				○							
生 体 の し く み					○							○						○	○			○					○		
生 命 と 法								○		○	○		○		○		○		○					○	○	○	○		
健 康 へ の ア プ ロ ー チ								○		○				○		○				○		○			○		○		
特 別 枠	技 術 と 生 命							○		○		○		○		○				○		○							
	生 物 の 時 間 と 人 間 の 生 活																			○		○		○		○			
大 阪 市 大 で ど う 学 ぶ か																○	○		○		○		○		○				

○総合教育科目B  
科目群：人間と社会

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
人間と 知 識 ・ 思 想	哲 学 入 門	○		○	○	○		○		○	○	○		○		○		○		○					○					
	論 理 学 入 門	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	心 理 学 へ の 招 待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西 洋 の 思 想	○	○	○		○				○								○			○		○	○						
	東 洋 の 思 想			○				○				○	○	○			○													
	論 理 学 の 展 開	○		○		○				○																				
	認 知 の 仕 組 み				○			○		○					○	○				○						○				
	文 化 と 社 会 の 心 理	○		○		○		○				○			○						○								○	
	性 格 心 理 学 入 門	○		○		○					○			○					○						○					
	人 間 と 宗 教	○		○		○	○			○		○		○					○		○	○			○		○	○		
	倫 理 学 入 門	○	○	○		○		○	○	○		○		○					○		○	○			○		○		○	
	行 動 と 学 習 の 心 理	○		○		○		○				○								○				○						
	感 覚 と 知 覚 の 心 理	○	○	○		○			○				○							○										
	対 人 行 動 の 影 響 と 意 味																				○		○		○		○		○	
	ゲ ー ム で 学 ぶ 社 会 行 動																				○		○		○		○		○	
	日 常 の 中 の 不 思 議 を 探 す 演 習																				○		○		○		○		○	
教 育 と 発 達 の 心 理 学																					○		○		○		○		○	
教 育 と 発 達 の 心 理 学 演 習																					○		○		○		○		○	
読 む こ と 書 く こ と の 科 学																								○		○		○		
現 代 社 会 と 人 間	現 代 文 化 の 社 会 学	○		○						○	○			○									○	○					○	
	社 会 科 学 の フ ロ ン テ ィ ア			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	日 本 国 憲 法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都 市 的 世 界 の 社 会 学	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	日 本 と 世 界 の 教 育	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○							○			○					○	
	宗 教 と 社 会			○				○		○		○		○						○					○			○		
	現 代 社 会 学 入 門	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○		○	○	○	○		○		○		○		○	
	現 代 の 社 会 問 題	○	○	○	○	○	○	○		○	○										○		○		○		○		○	
	世 界 の な か の 日 本 経 済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現 代 経 済 学 入 門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	法 と 社 会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	政 治 と 人 間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現 代 の 経 営	○	○	○	○	○	○		○	○		○		○		○		○			○	○				○	○				
日 本 の 企 業	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○							○	○		○	○	○			○	○		
ラ イ フ サ イ ク ル と 教 育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
現 代 社 会 と 健 康	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
家 族 と 社 会	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
現代 社 会 と 人 間	メディアの社会学																○	○			○			○		○		○		
	現代社会におけるキャリアデザイン																				○		○		○		○		○	
	現代社会と大学																				○		○		○		○		○	
	基礎会计学																				○				○				○	
	現代文化の社会学 演習						○		○				○				○								○		○			
	現代の経営 演習								○				○		○		○										○			
	日本の企業 演習						○				○												○		○				○	
	国際理解と教育 演習										○		○														○			
	現代の社会問題 演習														○		○													
	現代社会と大学 演習																					○		○		○		○		○
社 会 と 人 権	現代の部落問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都市社会と差別	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	部落解放のフロンティア	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	部落差別の成立と展開	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	障害者と人権Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	障害者と人権Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ジェンダーと現代社会Ⅰ																												○	
	ジェンダーと現代社会Ⅱ																												○	
	と 女 性 学													○		○		○		○		○		○		○		○		○
	エスニック・スタディ入門編	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エスニック・スタディ応用編	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人 部 落 産 業 論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪の部落産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
権 障 害 者 と 人 権 Ⅲ 演 習							○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
エスニック・スタディ 演習													○		○						○		○				○		○	
市民活動のインターンシップ 演習																					○									
人権の多様性の研究 演習																					○		○		○				○	

科目群：歴史と文化

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
歴 史	日本史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本社会の歴史	○		○		○		○	○		○		○	○		○		○		○	○		○		○		○		○	○
	東洋社会の歴史	○		○	○	○		○		○	○		○		○		○	○		○		○		○	○		○		○	○
	西洋社会の歴史	○		○		○	○		○		○		○	○		○		○		○		○		○		○		○	○	○
	現代の歴史	○	○	○		○	○	○		○					○		○				○		○				○		○	

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
歴史	考古学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ことばの歴史	○			○	○		○			○	○		○			○	○		○				○	○		○	○	
	歴史学の世界 演習					○	○		○			○		○			○	○		○			○	○		○	○		
地域と文化	現代の地理学	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都市の地理学	○		○		○	○		○		○		○		○		○		○		○			○	○		○	○	
	文化人類学入門	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	文化とコミュニケーション			○				○				○				○				○				○				○	
	言語学入門			○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○		○		○							○	
	ことばと文化	○		○			○	○		○			○	○		○			○	○		○					○	○	
	景観と文化	○		○	○	○		○		○			○	○		○			○		○			○	○		○	○	
	アジアの文化																				○		○		○		○		○
	西洋の文化	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○		○			○		○		○	○				
	民族と社会																○	○		○		○							
文学	アジアの地域と文化 演習					○		○		○											○		○		○		○		○
	日本事情ⅠA	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	日本事情ⅠB	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	日本事情ⅡA	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	日本事情ⅡB	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	日本の古典文学																				○		○		○		○		○
	東洋の文学	○	○					○							○											○			
	西洋の文学	○		○	○	○		○	○		○	○	○		○	○		○	○		○	○	○		○	○	○		○
	日本の詩歌	○		○	○		○		○	○		○		○		○	○		○		○		○	○		○		○	
	日本の物語	○		○		○		○	○		○		○	○		○	○		○		○	○		○	○		○		○
芸術	視覚文化の世界																											○	
	芸術の世界	○		○		○		○	○	○		○		○	○		○		○		○		○				○	○	
	美の本質	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	東洋美術の流れ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○		○		○		○		○		○
	西洋美術の流れ	○		○	○	○		○	○		○		○	○		○		○		○		○		○		○		○	
	音楽の諸相																○	○		○		○		○		○		○	
文芸と芸術へのいざない 演習					○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		

科目群：自然と人間

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
現代の自然科学	数学の考え方																					○	○			○				
	数学の歩み																				○	○			○	○			○	○
	ニュートンからアインシュタインへ	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	マイクロとマクロの世界			○	○			○				○	○		○	○		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
現代の自然科学	物質の多様性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	化学の世界	○	○	○				○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○	
	現代の分子科学		○	○				○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○	
	生物学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地球の科学			○	○	○	○	○	○			○	○	○			○	○	○			○	○	○	○			○	○	
	実験で知る自然の世界	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	地球学入門																		○		○		○		○		○		○	
	現代の理学A																								○					
自然科学と人間	科学と社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現代科学と人間	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	近代科学の成立	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			
	日本の科学技術			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○			○	○		
	心と脳	○		○		○	○		○				○		○			○		○		○		○		○		○		
	ドキュメンタリー・環境と生命													○		○		○		○		○		○		○		○		
	生化学からみた人間と社会																		○		○		○		○		○		○	
	実験で知る自然環境と人間																		○		○		○		○		○		○	
	森林環境と人間社会																				○		○		○		○		○	
	21世紀の植物科学と食糧・環境問題																					○		○		○		○		○
植物の機能と人間社会																									○				○	
植物と人間 演習										○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		

科目群：情報と人間

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
情報と人間	情報基礎																					○	○	○	○	○	○	○	○	
	プログラミング入門																						○	○	○		○		○	
	情報の探索と利用																						○		○		○		○	
	地図と地理情報		○	○			○		○	○			○	○					○		○		○		○		○		○	
	情報化の光と影	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会と統計																						○	○		○	○		○	

科目群：初年次セミナー

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
初年次1	初年次セミナー																												○

○総合教育科目B

特別枠

主題	授 業 科 目	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
特別枠	単位互換科目																					○	○	○	○	○	○	○	○

### Ⅲ 全学共通科目シラバス（講義概要）等

#### 1. 総合教育科目 A

科目名 英文科目名	(開講期 曜日・時限 クラス)	単位数
	②は第2部 ①は第1部	
	表示が無い場合は第1部	
		授業担当者



## 環境と歴史

Environment and History

(後期 水・5 全)

2単位

文学研究科 野村 親義

### ●科目の主題と目標

今日、自然環境にまつわる多様な話題が、政治の舞台のみならず、職場・学校や家庭で日常的に論じられるようになってきた。自然環境が人々の生活の根幹となる衣・食・住に不可欠であることを鑑みると、こうした自然環境に関する話題は、人々の歴史とともに古い話題であると考えられる。

本講義の主題は、次の2点に焦点を当てながら、自然環境と人々の生活とのかかわりを、歴史的に論じることである。①自然環境と人々はどのようにかかわり、そのかかわりを基礎に人々はどのような社会関係を構築してきたのか。②自然環境に対する人々のかかわりが、自然環境の再生産を脅かすとき、人々は自然環境の再生産を目的に、どのような対処を試みてきたのか。

本講義の目標は、受講生が自然環境にまつわる話題を論じる際、その他の多様な思考法に加え、歴史的な思考法に基づいた議論を行うための、一つの視座を提供することにある。

### ●授業内容・授業計画

授業は、本講義の主題と目標で述べた2つのテーマを順次扱いつつ、進める。なお、授業の進捗状況により、授業内容を若干変更する場合がある。

ガイダンス：自然環境と人々の歴史

第1部 人々の生活と自然環境

- ・概要：段階論と多元論
- ・狩猟採取社会と自然環境
- ・遊牧社会と自然環境

- ・農耕社会と自然環境
- ・工業化社会と自然環境
- ・環境変動と人々の社会

第2部 人々の生活と環境問題

- ・概要：資源利用の取り決めと環境問題
- ・中・近世ヨーロッパの経験：都市化と環境問題
- ・徳川期日本の経験：新田開発と生態学的均衡の回復
- ・植民地期インドの経験：イギリス帝国支配と森林保全の失敗
- ・19・20世紀のヨーロッパと日本の経験：工業化・公害・規制
- ・現代の地球環境問題と国際的な取り決め

試験

### ●評価方法

期末試験（70点）と授業中に行う小テスト（30点）の合計点で評価する。

### ●受講生へのコメント

自然環境と人々の生活とのかかわりについて自分で具体的な考察を行うことで、受講生は、単に歴史学に限らない多様な専門領域の学問を、これら多様な学問間のつながりとともに、深く理解する糸口を得る可能性がある。受講生には、講義期間内に、自らの関心の深い地域で特定の時代に生じた自然環境と人々の生活とのかかわりについて、一度深く考えてみることを強く勧める。

### ●教材

教科書：授業中にプリントを配布する。  
参考書：授業中に指示する。

## 技術と環境

Technology and Environment

(後期 金・5 全)

2単位

工学研究科 矢持 進 他

### ●科目の主題と目標

科学技術は人類の歴史とともに発展し、我々の生存と進化を支え、物質的繁栄を築くことに大いに貢献してきた。その一方で、技術は全知全能でない人間が造り出した産物であるためか、それ自体があるいは化学物質や廃棄物などを排出することを通じて大気圏・地圏・水圏の円滑な物質循環を阻害し、結果として地球生態系の崩壊を進めたとも言われている。技術革新と人間生存という視点から見ると、この21世紀初頭には人類の発展か衰退かの新たな「分水嶺」ではないかと考えられる。

本授業では、大気圏から水圏に至る環境汚染の実態を概説し、それを科学技術との関連において考察する。また、人と自然との共生を目指す科学技術のあり方を考え、

その上で都市域およびその近傍における環境再生の方向性について講義する。

### ●授業内容・授業計画

- ①：技術論1（技術と環境との関わりおよびその変遷）：五百井正樹
- ②：地球温暖化とその予測：森 信人
- ③：エネルギー開発と環境保全：森 信人
- ④：沿岸開発と海岸環境の保全：森 信人
- ⑤：大阪湾生態系の現状と課題：矢持 進
- ⑥：内湾環境の修復技術：矢持 進
- ⑦：大阪の気候と熱環境：鍋島美奈子
- ⑧：都市被覆の改善によるヒートアイランド対策：西岡 真稔

- ⑨：都市のエネルギー消費構造と課題：中尾正喜
- ⑩：大阪の地盤・地下水問題との方策：大島昭彦
- ⑪：水質汚染の実態とその対策：貫上佳則
- ⑫：廃棄物の実態とその対策：水谷 聡
- ⑬：廃プラスチックの実態とリサイクル：圓藤紀代司
- ⑭：技術論2（技術評価のあり方と課題）：五百井正樹

#### ●評価方法

テーマごとのレポートで評価し、平均点60点以上で合格とする。

#### ●受講生へのコメント

地域環境や地球環境問題に日頃から関心を持ち、その原因や可能な対策について、「本当だろうか?」ということを含めて自問してみることを期待する。

#### ●教材

プリントやOHPを併用する。

参考書：五百井正樹「環境ことはじめ」（北斗出版）

圓藤紀代司「高分子とそのリサイクル－分ければ原料，混ぜれば焼却－」

（裳華房）

## 人間と居住環境

Life and Residential Environment

（前期 金・5 全）

2単位

生活科学研究科 三浦 研 他

#### ●科目の主題と目標

私たちを取り巻く居住環境は、日常生活の舞台となるため、さまざまな社会問題、環境課題と密接な関係があります。本講座では、高齢化や地球温暖化の中で、安全に安心して、そして快適に生活するために、居住環境に関連して必要となる多様な知識や実践例について学びます。

#### ●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義します。

- 第1回 ガイダンス、安心・快適な居住環境（三浦 研）
- 第2回 お年寄りに安心な住まい（三浦 研）
- 第3回 快適な居住デザイン（中西 ひろむ）
- 第4回 地震時に身を守るためには？（宮野 道雄）
- 第5回 日常生活における事故の実態（延原 理恵）
- 第6回 住まいの安全：バリアフリーについて考える1（上田 博之）
- 第7回 住まいの安全：バリアフリーについて考える2（鈴木 哲夫）
- 第8回 ヒートアイランドと健康被害（永村 一雄）
- 第9回 安心の住まいのために－集合住宅の設備と障害事例（出口 弘士）
- 第10回 住まいの設備や生活機器の安全・安心1（岡田 明）
- 第11回 住まいの設備や生活機器の安全・安心2（長田 敏）

第12回 安全・安心のための照明環境（土井 正）

第13回 障害者、ロービジョン者に安全で快適な光環境（岩田三千子）

第14回 まとめ、安心・快適な居住環境（三浦 研）

#### ●評価方法

期末の筆記試験（選択式）を原則とするが、講義内容によって小テストまたはレポートを課す場合がある。採点する小テストまたはレポート課題を課した場合、ひとつの課題について14分の1の配点を行う。最高点を100点として、60点以上を合格とする。追試等は原則として一切行わない。

#### ●受講生へのコメント

非常勤講師を含む教員によるオムニバス形式で行いますが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、出された小テストや課題について、積極的に取り組んで欲しい。また、日頃から居住環境について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。

#### ●教材

講義では、プロジェクターやOHP、スライド、ビデオ等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリントを配布や、参考文献の紹介を行います。

**環境と経済**

Environment and Economy

(前期 金・5 全)

2 単位

経営学研究科 畑 明郎

**●科目の主題と目標**

経済成長が著しい中国では、金属鉱山・製錬所や化学工場の排水による水質汚濁、土壌汚染、農作物汚染が深刻化しており、各地に「がんの村」が発生している。韓国や台湾でも土壌・地下水汚染が発生し、土壌汚染防止法が制定されている。

本科目では、中国広東省と湖南省、韓国、台湾、日本などの現地調査に基づく事例を紹介し、アジアの土壌汚染問題の現状と解決策を検討する。

**●授業内容・授業計画**

教科書を用いて、下記の項目について解説する。

- ① 中国の土壌汚染の現状
- ② 中国広東省の土壌汚染
- ③ 中国広東省の「がんの村」涼橋村
- ④ 中国広東省の「がんの村」上は村
- ⑤ 中国湖南省の土壌汚染
- ⑥ 中国湖南省・洞庭湖の水質汚染
- ⑦ 中国と日本の土壌汚染対策の比較
- ⑧ 中国の土壌汚染対策への提言
- ⑨ 韓国の土壌汚染
- ⑩ 台湾の土壌汚染

- ⑪ 日本の土壌汚染
- ⑫ 東京・築地市場移転先の東京ガス豊洲工場跡地の土壌汚染
- ⑬ 四日市の廃棄物問題と土壌汚染
- ⑭ 日本の公害経験をアジアに伝えよう
- ⑮ 学期末試験

**●評価方法**

期末試験などで評価する。

**●受講生へのコメント**

新聞やテレビの環境問題報道を積極的に視聴すること。

全学共通科目の「日本の公害」も受講されたい。

**●教 材**

教科書：畑 明郎・田倉直彦編著（2008）『アジアの土壌汚染』世界思想社、2,000円。

参考書：畑 明郎（2007）『公害湮滅の構造と環境問題』世界思想社、1,900円。

授業中にDVDも使用するので、欠席しないようにすること。

**歴史のなかの大阪**

History of Osaka

(後期 水・5 全)

2 単位

文学研究科 塚田 孝

**●科目の主題と目標**

私たちが住み、生活している大阪について、歴史的に振り返ることで、現在の私たちの立脚点を確かめる手掛りをえたい。

豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世（江戸時代）の大坂は、現代都市大阪につながってくる直接の基点である。しかし、一方で、近世の大坂に生きた人々は、現在のわれわれの生活感覚とは異質な面も多い。この講義では、現代の基点である側面と異質な側面を意識しつつ、豊臣期から近世にかけての大坂の都市社会史にしぼって話してみたい。講義では、鍵となる近世の史料（活字）を入り口として話を進めていくが、これにより大坂の歴史をより身近に感じてもらえればと思っている。

**●授業内容・授業計画**

この講義の前半では、大坂の都市空間の形成過程と、都市社会を構成する諸身分・諸階層について概観する。後半では、孝子・忠勤褒賞の記録を手掛りに、都市民衆の生活の細部をうかがってみたい。

- ①大和川付替え 300年と都市大阪の形成
- ②秀吉の大坂城と都市建設
- ③町奉行所と蔵屋敷－大坂の武士－
- ④大坂三郷の町と町人－①町の仕組みと家持－
- ⑤大坂三郷の町と町人－②町抱えと借屋層
- ⑥孝子・忠勤褒賞の動向と特徴
- ⑦都市民衆の暮らし①－職人・商人－
- ⑧都市民衆の暮らし②－身分的周縁－

各テーマについて1～2回程度で進めていくつもりである。重点的に述べる部分では、最先端の学説なども紹介するつもりなので、歴史学という学問の方法の一端にも触れてもらえればと思う。なお、授業の一環として、大阪歴史博物館の見学会を実施する（例年は、授業期間中の土曜日に実施）。

**●評価方法**

授業中に行なう小テスト、およびレポートなどで総合的に評価する。

**●受講生へのコメント**

身近な大阪に関する講義なので、話に出てきた場所

(史跡など)に自ら足を運んでみるくらいの積極的な姿勢で受講してほしい。

### ●教材

教科書：塚田孝『歴史のなかの大坂』岩波書店、  
2002年

教科書を軸として、補助的にプリントを配布して授業を進める予定である。

## 大阪の自然

Natural History in and around Osaka Plain

(後期 金・5 全)

2単位

理学研究科 三田村 宗樹 他

### ●科目の主題と目標

大阪およびその周辺に広がる現在の自然環境は、地球の歴史の変遷の結果として成立したものである。私たちが生活している大阪平野は、もっとも新しい地質時代の新生代第四紀(およそ200万年前から現在まで)に形成されてきた。したがって、第四紀は現在の自然を知るうえで重要である。とくに平野やその周辺を構成する各種の地盤は人間生活や災害にも密接に関係している。また、このような環境は、大阪にとどまらず、日本各地の海岸平野に立地する大都市周辺にも共通した状況と見られる。

ここでは、大阪平野とそれを取り巻く地質環境や植生変遷について解説し、われわれの生活との関係について考える。

### ●授業内容・授業計画

#### 1. 大阪平野とその周辺の地形配置および構成地質とその変遷(三田村担当)

大阪周辺の山地・丘陵地・台地・低地で見られる地層や岩石を中心にして、地球の歴史や地球規模の現象が地域に対してどのような働きをしているのかを考える。

- (1) 山地の地質 大阪周辺の山地を主として構成する古生代～中生代の地層の形成過程とプレートテクトニクス(2回)。斜面災害と山地の地質(2回)。
- (2) 丘陵の地質 泉南・泉北、千里丘陵など現在ベッドタウンとして開発されている丘陵地を構成す

る地層とその成り立ちと第四紀の自然環境の変遷。氷河性海水準変動・ミランコピッチサイクルと丘陵地の地層や化石(2回)。

- (3) 平野の地質 縄文海進と平野の地層。建設工事と地盤災害に関係する平野の地層とその特性(2回)。山地と低地間に介在する活断層と地震(1回)

#### 2. 大阪周辺の森林植生とその変遷史(塚腰 実担当)

- (1) 化石植物群：メタセコイア化石植物群、第四紀化石植物群の特徴、古気候の変遷と古植生(2回)。
- (2) 現在の森林植生：植生の類型区分と分布、植生の遷移と二次林、人工林、人類が与えた植生への影響(3回)。

### ●評価方法

授業の初期に与えるフィールドワーク課題に関するレポート(20点)と期末試験(80点)で評価する。

### ●受講生へのコメント

講義は地学分野からみた「大阪の自然」が中心であるが、地学の基本的な考え方も含めて授業を行うので、高校での地学の履修の有無を問わない。

### ●教材

主な参考書：地学団体研究会大阪支部編『関西自然史ハイキング』創元社、同『大地のおいたち』築地書館、梶山・市原著『大阪平野のおいたち』青木書店(三田村・塚腰担当)

大阪市立自然史博物館展示解説第13集『ネイチャースクエア 大阪の自然誌』(塚腰担当)

## 大阪の自然

Natural History in and around Osaka Plain

(後期② 金・2 全)

2単位

特任 井上 淳 他

### ●科目の主題と目標

大阪およびその周辺に広がる現在の自然環境は、地球の歴史の変遷の結果として成立したものである。私たちが生活している大阪平野は、もっとも新しい地質時代の新生代第四紀(およそ200万年前から現在まで)に形成されてきた。したがって、第四紀は現在の自然を知るうえで重要である。とくに平野やその周辺を構成する各種の地盤は人間生活や災害にも密接に関係している。また、

このような環境は、大阪にとどまらず、日本各地の海岸・平野に立地する大都市周辺にも共通した状況と見られる。

ここでは、大阪平野とそれを取り巻く自然環境、特に地質環境と植生変遷について解説し、われわれの生活との関係について考える。

### ●授業内容・授業計画

1. 大阪平野とその周辺の地形配置および構成地質と



その変遷（井上 淳担当）

大阪の自然地理・気候，大阪周辺の山地・丘陵地・台地・低地で見られる地層や岩石を中心にして、地球の歴史や地球システムが地域に対してどのような働きをしているのかを考える。

- (1) ガイダンス，大阪の地理や気候（2回）。
- (2) 山地の地質 大阪周辺の山地を主として構成する古生代～中生代の地層の形成過程とプレートテクトニクス（2回）。
- (3) 丘陵の地質 泉南・泉北、千里丘陵など現在ベッドタウンとして開発されている丘陵地を構成する地層とその成り立ちと第四紀の自然環境の変遷。氷河性海水準変動・ミランコピッチサイクルと丘陵地の地層や化石（2回）。
- (4) 平野の地質 縄文海進と平野の地層。平野の地層とその特性（2回）。
- (5) 大阪周辺の人類史と人為的自然改造，環境汚染（1回）。

2. 大阪周辺の森林植生とその変遷史（塚腰 実担当）

- (1) 化石植物群：メタセコイア化石植物群、第四紀化石植物群の特徴、古気候の変遷と古植生（3回）。
- (2) 現在の森林植生：植生の類型区分と分布、植生の遷移と二次林、人工林、人類が与えた植生への影響（2回）。

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

講義は地学分野からみた「大阪の自然」が中心であるが、地学の基本的な考え方も含めて授業を行うので、高校での地学の履修の有無を問わない。

●教材

主な参考書：地学団体研究会大阪支部編『関西自然史ハイキング』創元社、同『大地のおいたち』築地書館、梶山・市原著『大阪平野のおいたち』青木書店（井上・塚腰担当分）

大阪市立自然史博物館展示解説第13集『ネイチャースクエア 大阪の自然誌』（塚腰担当分）

## 大阪の都市づくり

Urban Planning and Construction on “Osaka”

（前期 金・5 全）

2単位

工学研究科 日野 泰雄 他

●科目の主題と目標

都市大阪は、古代からわが国の、あるいは近畿圏の中心として、また東アジアをはじめとする国際拠点として、その立地条件を活かしつつ、上町台地を中心に先端的都市づくりを行ってきた。この歴史的資産とそこで培われてきた個性を継承しつつ、現代の都市大阪では、グローバル化と社会経済の変化、特に東京及び関東圏への一極集中が強まる中においても、259.5万人の常住人口と358.2万人の昼間人口（2005年国勢調査）の多様な活動が活発に行われている。

本科目は、我が国で最も昼間人口比率が高く、それ故、複合化・高度化する都市大阪の活動を支える都市基盤システム、並びに人々の活動と住まいの場を快適に整える都市空間の計画・設計について、5つのテーマ（安全、循環、流動、水と緑、居住）を設けて講義する。それぞれ、第一線で活躍する専門家が担当し、最新の情報とその具体例を通して各テーマの基礎知識をわかりやすく解説する。特に、テーマ毎に専任講師と大阪市の担当者が学術と実務の両側面から講義することで、大阪の都市づくりの沿革とそこでの種々の課題を実践的に学び、将来の大阪の都市像を描く素養を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

①ガイダンス・都市大阪の沿革

日野泰雄（都市学科）

赤崎弘平（都市学科）

- ②災害から都市を守る（その1） 地震と火災  
中島 孝【大阪市消防局】
- ③災害から都市を守る（その2） 台風  
谷池義人（建築学科）
- ④資源を循環させる（その1） エネルギーのシステム  
西村伸也（機械工学科）
- ⑤資源を循環させる（その2） 都市廃棄物のシステム  
水谷 聡（都市学科）
- ⑥人・物を流動させる（その1） 都市港湾のシステム  
真田幸直【大阪市港湾局】
- ⑦人・物を流動させる（その2） 都市交通のシステム  
日野泰雄（都市学科）
- ⑧法定都市計画  
赤崎弘平（都市学科）
- ⑨水と緑に親しむ（その1） 緑豊かな環境  
小西 昭【大阪市ゆとりとみどり振興局】
- ⑩水と緑に親しむ（その2） 水辺の空間  
角野昇八（都市学科）
- ⑪住まいとまちづくり（その1） 大阪の長屋  
横山俊祐（建築学科）
- ⑫住まいとまちづくり（その2） 住宅まちづくり政策  
平岡 博【大阪市住宅局】
- ⑬大阪の都市づくりビジョン（課題：まち歩き実践）
- ⑭総括レポートの作成と発表・討議（その1）
- ⑮総括レポートの作成と発表・討議（その2）

●評価方法

レポート（毎回、講義時間後半にレポートを作成・提

出（全13回）および総括レポート）と発表・討議の総合点により評価する。

#### ●受講生へのコメント

これからの都市には、個別技術の機能や効率だけでなく、安全・安心、環境、福祉に十分配慮した都市づくりが求められており、その結果、自然と歴史と共生し得る美しい都市の実現が可能となる。ここでは、多様な視点と技術の総合化が必要となる。受講生には、各回の講義

資料、参考文献による学習に加えて、できるだけ都市づくりの現場に出かけて、講義内容を体感するように心掛けて欲しい。質問等があれば、原則として昼休み時間に日野またはT Aを訪ねること。

#### ●教材

それぞれの講義で、レジュメ・資料のプリントを配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。講義は原則として、プロジェクターやOHP、スライドを用いて行う。

## 大阪の地理

Geography of Osaka

（前期 水・5 全）

2単位

都市研究プラザ・文学研究科 水内 俊雄

#### ●科目の主題と目標

現代都市、特に大阪府、大阪市をベースに生起するさまざまな社会問題の起源、歴史、現状について、実際に都市のフィールドワーク2回以上を行なうことによって、実感的にも把握してもらうことをめざしている。都市社会地理学として、都市社会の現状を「批判的」にどのように見るか、そして語り、文章にまとめることを少しでも身につけてもらいたい。その次に要請される、提言、そして実践など、水内が関わっている調査活動の紹介などを通じて、地理学が大阪にどのように貢献するのかを紹介してみたい。

#### ●授業内容・授業計画

授業内容は地図や文字資料、映像をヴィジュアルに見せながら進めることを基本とするので、語られる都市空間の現実感覚を授業で養ってもらいたい。そしてフィールドワークが非常に重要な位置を占めるので、普段の講義で紹介するフィールドワーク術を学ぶとともに、実地でのまちを見る地図を読むトレーニングを積んでもらいたい。

- 1) 絵図からみた近世都市空間
- 2) 明治期末期の都市空間の拡大の諸相
- 3) 大正期の都市社会政策と居住状況
- 4) フィールドワーク1（大阪市orその近辺）
- 5) 郊外の誕生、スラムの拡大
- 6) 戦時体制、空襲と都市
- 7) 戦後闇市から、戦災復興事業の功罪
- 8) ニュータウン、団地、スプロール

- 9) 都市改造、都市再開発
- 10) フィールドワーク2（大阪市orその近辺）
- 11) 同和対策事業と住環境改善
- 12) 日雇労働者のまち、在日のまち、沖縄人のまち
- 13) 福祉政策と都市居住の関連
- 14) 現代都市とホームレス
- 15) フィールドワーク3（大阪市orその近辺）

#### ●評価方法

出席の平常点に加えて、2 or 3 回課す予定のフィールドワークレポートを必須とする。このレポート内容をベースに成績評価をおこなう。

#### ●受講生へのコメント

この手の研究は、まず現場に対してどれだけの情報を持ち、実際にその場を知っているかという、現場のリアリティ感覚が最も問われる。フィールドワークで都市を「批判的に見る」目をやしなっておいて欲しい。また下記の使用教材は地図が多用された内容となっており、これなしで授業を受けると、理解不能となり、フィールドワークにも差し支えることを予め注意しておいて欲しい。また下記の推薦教材は地図が多用された内容となっており、授業を理解するためにも、購入されるとよい。

#### ●教材

『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間—』（ナカニシヤ出版）の内容にそって講義やフィールドワークを行うので、よりよく理解したい人には購入を薦める。

## 都市の経済とビジネス

Urban Economy and business

(後期 金・5 全)

2単位

経営学研究科 清田 匡 他

### ●科目の主題と目標

大阪には多くの中小企業が集積しており、他の都市と比較して、中小企業が占める比重が大きい。そして、中小企業では、大企業と比べて、金融の役割が、より重要である。本講義では、この中小企業にとっての金融について考える。中小企業にとって金融環境(資金調達環境)は、一方では、大企業と比べて、多くの困難をはらんでいる。また、他方で、中小企業の金融環境は、わかりづらく、複雑である。本講義は、基本的な理念の側から説明することで、この複雑さを緩和し、また、中小企業にとっての資金調達の困難を解決する方法を探ることを目的としている。

本講義の第1回から、第10回までは、テキストにそって講義を行う。テキストの第一部では、研究者、行政、民間金融機関の、それぞれの立場から、中小企業金融について言及している。第二部では、研究者による執筆である。第三部は、大阪の中小企業に対する金融に関するアンケートの結果をまとめている。講義の第11回以降は、テキストに掲載されなかった諸問題について取り上げる。

### ●授業内容・授業計画

- 第1回：はじめに(全体の説明)(清田)10/2  
 第2回：協同組織金融機関の役割(テキスト第一部の1)(清田)10/9  
 第3回：国の中小企業政策における金融支援の位置づけ(第一部の2)(青山)10/16  
 第4回：民間銀行の融資における基本的な考え方(第

一部の2)(青山)10/23

- 第5回：地域金融機関の理念について(第二部のI)(清田)11/6  
 第6回：中小企業と金融問題(1)(第二部のII)(本多)11/13  
 第7回：中小企業と金融問題(2)(第二部のII)(本多)11/20  
 第8回：財務情報と非財務情報(第二部のIII)(田中)11/27  
 第9回：中小企業支援施策について(第三部のI)(田中)12/4  
 第10回：中小企業金融に関するアンケートの結果について(第三部のII)(清田)12/11  
 第11回：ベンチャー企業の資金調達(青山)12/18  
 第12回：地域密着型金融の取り組み(清田)1/8  
 第13回：中小企業金融の最近の動き(清田)1/22  
 第14回：まとめ(清田)1/29  
 第15回：試験

(日付は、2008年11月時点での予定です。2009年11月13日の講師および講義内容は別の日と入れ替わるかもしれません)

### ●評価方法

期末試験

### ●教材

清田匡編著『中小企業金融をどう理解するか』創風社、2006年6月刊。

## 現代都市論

Modern Urban Studies

(後期 水・5 全)

2単位

創造都市研究科 小玉徹(代表)、矢作弘  
北原鉄也、永田潤子

### ●科目の主題と目標

『現代都市論』のトピックな話題をとりあげる。具体的には、矢作弘は「都市再生とまちづくり」、北原鉄也は「地方政治と都市計画」、永田潤子は「都市行政の現代的課題」、小玉徹は「現代都市の社会的排除」を主要なテーマとし、第1回～第12回までの授業を担当、最後に全体の総括としたい。

### ●授業内容・授業計画

オムニバス形式の通常の講義とし、各教員が分担で講じる。

- 第1回(10月7日)都市論の系譜(矢作)  
 第2回(10月14日)望ましい都市景観を考える(矢作)  
 第3回(10月21日)変わるロサンゼルス(矢作)

- 第4回(10月28日)規模と民主主義－分権、市町村合併、道州制など(北原)  
 第5回(11月4日)都市計画の新動向－だれがどのように決めるのか(北原)  
 第6回(11月11日)都市計画の新動向－何ができるのか(北原)  
 第7回(11月18日)自治体改革の潮流(永田)  
 第8回(11月25日)地域経営とマネジメント(永田)  
 第9回(12月2日)関西の自治体改革を考える(永田)  
 第10回(12月9日)アメリカのホームレス問題(小玉)  
 第11回(12月16日)イギリスのアーバンルネッサンス(小玉)

- 第12回（1月13日）国際比較のなかの日本の都市政策（小玉）  
 第13回（1月20日）全体の総括（講師、未定）  
 第14回（1月27日）全体の総括（講師、未定）  
 第15回（2月3日）試験

- 評価方法**  
 期末の筆記試験（選択式）を原則とする。
- 教材**  
 とくになし。

## 国際地域経済と大阪

International Regional Economy and Osaka

（後期 水・4 全） 2単位  
 創造都市研究科 小長谷一之（代表）、中本悟  
 森澤恵子、李捷生、杉本孝

### ●科目の主題と目標

いまや世界を解くキーワードとなったグローバル化、その影響は世界のすみずみまで及ぶようになりました。われわれが身近に感じているように、21世紀は、隣の工場がアジアに移転したり、外国の商品や会社が入ってきたりする時代になってきているのです。

しかし、そのような中で各国の地域や地方には、独自の暮らしと経済活動があり、グローバル化に対抗したり、地域が活性化していくためにも、地域独自の戦略や政策が必要となってきています。また経済がうまく機能するためには現地化・ローカル化といった動きも欠かすことができません。私たちの大阪・関西の暮らしが良くなるかどうか、こうした動きによってきまるといっても過言ではありません。

このように、グローバルのみならず、リージョナル、ローカルな視点から現代の経済の動向を捉える新しいコンセプトが「国際地域経済」という考え方です。この授業では、この国際地域経済という新しい視点から現在の経済の動きをわかりやすく説明し、最後に大阪・関西との関係、その振興策について考えてみたいと思います。

### ●授業内容・授業計画

オムニバス形式の通常の講義とし、各教員が分担で講じる。

#### [1] グローバルな経済の動き

- 第1回 インTRODクシヨン（中本）10月7日  
 第2回 現代世界経済とグローバリゼーション論争（中本）10月14日  
 第3回 グローバリズム、リージョナリズム、ローカリズム（中本）10月21日

#### [2] リージョナルな経済の動き

- 第4回 ASEANにおけるリージョナリズム（1）（森澤）10月28日  
 第5回 ASEANにおけるリージョナリズム（2）（森澤）11月4日  
 第6回 中国経済の発展プロセス（杉本）11月11日

#### [3] ローカルな経済の動き

- 第7回 日中政治経済関係の現状と諸問題（杉本）11月18日  
 第8回 中国における都市と農村の経済問題（李）11月25日  
 第9回 中国における日本企業の現地経営（李）12月2日

#### [4] 国際地域経済の動きと大阪の振興

- 第10回 工場はどこへいく－工業立地論（小長谷）12月9日  
 第11回 アジア都市発展論（1）（小長谷）12月16日  
 第12回 アジア都市発展論（2）（小長谷）1月13日  
 第13回 先進国都市・大阪の課題（小長谷）1月20日  
 第14回 まとめ（小長谷）1月27日

- 評価方法**  
 期末の筆記試験（選択式）を原則とする。

- 教材**  
 （参考書）：『都市経済再生のまちづくり』（小長谷一之著）、古今書院。



## 大阪落語への招待

Introduction to Osaka Rakugo

[この科目は、市民への公開授業としても提供される。]

(前期 金・5 全)

2単位

文学研究科 久堀 裕朗

ゲスト 桂春之輔・春雨ほか

### ●科目の主題と目標

江戸時代、商都として栄えた大阪は、多くの新しい文化を生み出し、育んだが、その中の一つに落語をあげることができる。落語は、16世紀末の安土桃山時代、大名の側近にあって咄相手や講釈をした御伽衆の営為に端を発し、直接には17世紀後半、京都・大阪・江戸で辻咄をする商業的落語家が登場し、その芸が発達を遂げたものである。江戸後期には、寄席での興行が始まり、近代にかけて大阪・江戸(東京)を中心に最盛期を迎えた。当初は単に「はなし」と呼ばれ、その後「軽口・軽口ばなし」と言われたが、咄を効果的に結ぶ「落ち」の技法が確立されるとともに「落としばなし」の名称が定着、近代に入って「落語(らくご)」と音読みされるようになった。一人の演者が、扇子や手拭いその他、わずかな道具を使うだけで、全ての登場人物を演じ分け、季節や場面を髣髴とさせる高度な話芸が育まれたのは、先人たちの長きにわたる丹精のたまものである。

この科目は、「大阪落語」の第一線で活躍する落語家をゲストスピーカーに迎えて、落語の実演をたっぷり聴くとともに「落語の情(優しさと思いやりと)」という観点から、主として大阪を中心に発達を遂げてきた落語の本質と特色について考察する。落語の歴史、芸の約束事、周辺芸能との関係、東西落語の比較など、様々な視点を導入することによって「落語」というジャンルへの理解を深め、併せて伝統芸に対する演者の姿勢を知ることにより、現代における落語の意義やあり方について受講者の思索を深めることを目標とする。またそれらを通して、落語にとどまらず、広く大阪の歴史・文化・芸能について考える視座を提供しようとするものである。

### ●授業内容・授業計画

#### ① 開講にあたって

科目の趣旨、講義計画、履修の心得、評価のこと、など。

#### ②～⑤ 初級編

まずは、落語とはいかなる芸能かを4回にわたって解説する。

落語を演じるときの基本的なルールや、扇子と手拭いの使い方、落語のルーツや現在に至るまでの歴史、そして江戸落語との比較など、様々な角度から大阪落

語を分析する。

(テーマ) 落語とは・落語の演じ方・東西落語・落語のルーツなど。

#### ⑥～⑨ 中級編

続く4回は中級編として、長屋の暮らしや、落語に影響を与えた他の芸能、寄席囃子などを取り上げ、昔の大阪や大阪落語の芸に対する理解を深める。

(テーマ) 長屋の暮らし・落語と義太夫・落語と大阪の芝居・寄席囃子など。

#### ⑩～⑬ 上級編

最後の4回は上級編として、「落語の情」という観点から、大阪落語の特色について更に深く掘り下げていく。また最終回には、寄席への招待として、それまでの授業に増して本格的に落語の実演に接する機会を提供する。

(テーマ) 落語の中の男と女・親子の情愛など。

#### ⑭ 終講にあたって

授業全体のまとめ

### ●評価方法

毎回の授業に対する感想・意見(コミュニケーションカードに記入・提出)と期末のレポートによる(評価の比重は、前者50%・後者50%)。ただし、本科目は、出席することに大きな意義があるので、②～⑭の授業のうち5回以上欠席した者については、原則として成績評価を行わない。

### ●受講生へのコメント

本科目で取り上げるのは、落語という一伝統芸能であるが、講義で扱われるテーマは、落語の世界にとどまらない広がりを持つものである。各回の講義を一つの契機として、受講者が、落語のみならず、芸能全般、伝統と現代、大阪の歴史と文化等々について、更に考察を発展させていくことを期待したい。

※本科目の設置趣旨から、市民への公開授業としても提供するため、受講者数は200名程度とする。

### ●教材

テキスト：プリント配布。

参考書：天満天神繁昌亭・上方落語協会編 やまだりよこ著『上方落語名鑑 ぶらす上方噺』(出版文化社)  
豊田善敬編『桂 春団治 はなしの世界』(東方出版)

## 東アジア市民社会論入門

Civil Society in East Asia

(後期 金・3 全)

2 単位

創造都市研究科 田坂 敏雄

### ●科目の主題と目標

欧米や日本はもとより、東アジアにおいても新しい社会づくりの取り組みが「市民社会」論として提起されている。本授業では、東アジアの市民社会論の動向や特徴を探り、国家社会主義に代わる未来社会論として市民社会論を考えてみたい。その中で、ひとつの課題はソーシャル・ガバナンスを官・民でどうつくるか、あるいは市民参加型のガバナンスの有様を東アジアの現状を踏まえて具体的に提起することである。

### ●授業内容・授業計画

授業計画は次の通り。

第1回：ガイダンス

第2回：東アジア市民社会の課題と展望

第3回：東アジアのアソシエーション革命

第4回：東アジアの市民社会とソーシャル・キャピタル

第5回：東アジアの少子高齢化と市民社会の役割

第6回：フィリピン市民社会論の動向

第7回：フィリピン地方自治と制度的市民参加の現状

第8回：タイの市民社会論の様相

第9回：タイ保健医療部門改革と市民参加の動向

第10回：インドネシアにおける市民社会の可能性

第11回：シンガポールにおける“シビック・ソサエティ”の行方

第12回：中国都市部における政府と草根NGO

第13回：日本の地域づくりと社会的企業

第14回：日本の市民社会と自治体改革

第15回：まとめ

授業内容は、最初の5回までは東アジアの市民社会を考えるうえでの基礎理論的な内容を示し、その後の9回は東アジアの各国別に解説する。とくに第2回は、本授業の総論にあたるものであり、第3回～第5回はアソシエーション革命やソーシャル・キャピタルなどの基礎を解説する。また第6回と第8回、第10回は、東南アジアの市民社会論の特徴を考える回である。第12回で中国の現状を考え、第13回～第14回で日本の市民社会論の動向を示す。

### ●評価方法

期末試験（教科書の持ち込みあり）

### ●受講者へのコメント

授業の理解を助けるため、毎回、レジメを配布します。授業には出来るだけ出席してください。皆さんが自らの将来を考えるうえで、何らかのヒントを得ることが出来るかもしれません。

### ●教材

田坂敏雄編『東アジア市民社会の展望』（御茶の水書房）、2009年春予定

## 市大都市研究の最前線

The leading edges of Urban Studies in OCU

(後期 水・5 全)

2 単位

都市研究プラザ 水内俊雄・全泓奎

### ●科目の主題と目標

この科目は、2006年に開設された全く新しいタイプの研究教育組織である。2007年には文部科学省のグローバルCOE（世界最高水準の研究拠点）に選ばれて、「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」と題する5年間のプログラムを推進している。一気に数十名にのぼる若手研究員が国内外から集まり、ヘッドクォーターをガラス張りで開放的なデザインの学内の高原記念館においている。また大阪市内を中心に6つの現場プラザと香港、上海、バンコク、ジョグジャカルタ、メルボルン、ロサンゼルス、そしてソウルなど7つの海外サブセンターを展開して、現場密着のフィールド調査とグローバルな視野からの理論アプローチとを両立させて最先端の都市研究に挑戦している。その舞台裏事情も含め、雰囲気味わってもらいながら、都市問題や都市政策に関

して社会に貢献する大学像を実感し、そしてそうした経験を受講生の勉学や社会に出る準備の糧としてもらいたい。

### ●授業内容・授業計画

第1回

都市研究プラザの紹介と授業の概要を提示し、以下、各研究ユニットの紹介を列挙する。この紹介内容にしたがって講義を進めていく。

第2～5回

第1ユニットである都市論ユニットの研究紹介をする。都市論ユニットは、市民知をベースに都市論の最先端を理論的・実践的に追究する研究ユニットであり、都市経済学、都市政策学、都市史学、建築史学を包摂し、多様な研究活動を行っています。大学の外にも和泉・扇町・豊崎の各現場プラザも設け、それぞれ特色ある活動

を行っており、そうした研究前線を紹介する。

第6～8回

第2ユニットは文化創造ユニットであり、都市再生のための文化創造の仕組みづくりを追究する研究ユニットである。文化資源学、芸術学、都市計画学、建築景観論をベースに研究活動を紹介する。

第9～12回

第3ユニットは、社会的排除から包摂をめざす研究ユニットであり、都市社会地理学、都市社会学、都市居住学などの視点から多彩な研究活動を行っている。とくに、生活困難者の応援や、NPO団体、組織の支援を通じたまちづくり団体や研究会と連携した活動を中心に授業で紹介してゆく。

第13～14回

第4ユニットは、グローバルプロモーションユニット

と称して、都市研究プラザの国際発信や情報基盤整備をおこなっており、GISやアーカイブの収集に特色ある活動をおこなっている。そうした活動の一端を紹介する。

第15回

総括、まとめ。

#### ●評価方法

毎回のミニレポート方式の平常点として評価するので、毎回の出席が前提となる。

#### ●受講生へのコメント

こうした都市研究プラザの活動に関心があれば、受講時にどんどんアクセスしていただきたいし、社会への窓口としていろいろなサジェスションが可能である。意欲と好奇心をもって、臨んでいただきたい。

#### ●教材

参考書は、講義中に適宜指示する。

## 生と死の倫理

Bioethics

(後期② 水・1 全)

2単位

文学研究科 土屋 貴志

#### ●科目の主題と目標

生命倫理学 (bioethics) ないし医療倫理学 (biomedical ethics) のトピックのうち、人工妊娠中絶を取り上げる。本科目は、人工妊娠中絶をめぐる倫理的問題に関して、学生諸君が自分の意見を持ち、その意見を倫理的に根拠づけられるようになることを目指す。

#### ●授業内容・授業計画

授業予定は下記の通りだが、適宜変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 妊娠と出産について
3. 中絶をめぐる日本の状況
4. 人工妊娠中絶の手術
5. 中絶論争 (1) 生命尊重派の主張
6. 中絶論争 (2) 中絶権擁護派の主張
7. 討論1 (母体保護法の経済的理由を削除すべきか)
8. 中間的総括 (中間レポート)
9. 出生前診断と選択的中絶 (1)
10. 出生前診断と選択的中絶 (2)
11. 減胎手術
12. 中絶胎児の利用
13. 討論2 (中絶胎児の利用を進めるべきか)
14. 中絶カウンセリング
15. 全体の総括 (期末レポート)

これらのテーマについて、講義やプリント資料、ビデオ視聴などによって基本的知識を得たあと、問題点を絞り込み、そこで下される倫理的判断を抽出し、その根拠

を検討する。倫理的判断の根拠の検討にあたっては、グループディスカッションや討論なども取り入れる。

#### ●評価方法

担当教員は、授業期間中に2回課すレポートの成績に、授業への参加姿勢などを勘案して評点原案を作成する。受講者は、半期にわたる自らの学習活動を評点化しその根拠を記した「自己評価レポート」を最終授業時に提出する。担当教員は評点原案と自己評価レポートの内容を突き合わせて成績を決定する。

#### ●受講者へのコメント

1. 所定の事項を記入した受講カードを提出すること。受講カードは所見と評価を記録する「カルテ」として用いる。受講者は自分の受講カードの記載内容をいつでも閲覧できる。
2. 受講者の顔と名前を覚えたいので、顔と氏名を積極的に売り込むこと。履修登録者数が20人を越えた場合は、顔写真の受講カードへの貼付を受講者全員に義務づける。
3. レポート・自己評価レポート・受講カードは成績採点終了後に返却する。返却の掲示が出たら、第2部事務室全学共通教育担当まで各自受け取りに来ること。
4. 受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも未提出の場合は履修放棄とみなす。

#### ●教材

教科書：とくに指定しない。

参考書：授業中に紹介する。

その他、プリント資料を配布し、ビデオを上映する。

## 戦争と人間

War and Human

(前期 水・5 全)

2単位

文学研究科 早瀬 晋三

### ●科目の主題と目標

「ポスト戦後時代の東南アジア」。首相の靖国神社参拝問題などで「戦後が終わらない」日本にたいして、ほかの東・東南アジアでは「ポスト戦後」の動きが顕著になってきている。「ポスト戦後」状況は戦争を忘却し、「戦前」に直結する危険性も孕んでいる。だとすると、戦争責任や戦後責任を無縁と考えている日本の若い世代には、現在を「戦前」にしないための責任が生じてきている、とすることができる。いま、日本の若い世代は、アジアにおける対日戦争の歴史とその「記憶」の伝えられ方に目を向け、今後の交流を考えていく必要があるだろう。

本講義では、今日の東南アジア各国・地域の博物館での展示や碑文、教科書で、日本との戦争がどのように語られ、今日のそれぞれの社会に影響を与えているかを考える。また、戦中の日本人が東南アジアの歴史や文化にたいして無知であったことから、現地の社会と摩擦を起こしたことを理解し、「ポスト戦後」時代に必要な歴史・文化的知識について考える。

マスコミなどでは、おもに中国や韓国の反日報道がとりあげられているが、日本の「大東亜共栄圏」構想に巻き込まれた東南アジアでも、新たな動きが起こっている。戦後の東南アジアでは、日本との経済関係が発展したが、近年の中国の経済成長とともに中国との関係が緊密になってきている。社会に出て接する機会の多い東南アジアの今日の対日観について学び、今後の交流を考える。

### ●授業内容・授業計画

1. 授業の目的
2. 「ポスト戦後」責任とは？

3. シンガポールー多民族国家形成のための教訓
4. マレーシアーつぎの世代へ繋ぐ記憶と忘却  
インドネシアーフロンティア史のなかの虐殺
5. タイー観光資源としての戦争遺跡
6. タイー日本人の慰霊活動
7. 討論ー日本人の慰霊活動
8. ミャンマー（ビルマ）ー語られない日本の占領
9. フィリピンーアメリカと日本のはざま
10. フィリピンーフィリピン人の対日観
11. 韓国と中国の対日観
12. 日本の戦争博物館
13. 討論ー「ポスト戦後」責任とは？
14. 総括

### ●評価方法

授業中に書く小レポート（30%）と試験（70%）。正直者がバカをみない評価をします。試験には書籍2冊まで持ち込み可です。

### ●受講生へのコメント

現在を「戦前」にしないためにどのような努力が必要なのか、まずは知り、そして考えてください。視聴覚教材でわかった気にならず、文献もしっかり読んでください。

### ●教材

教科書：早瀬晋三『戦争の記憶を歩く 東南アジアのいま』岩波書店、2007年。

参考文献として『岩波講座 アジア・太平洋戦争』（岩波書店、2005-06年、全8巻）をあげておきます。最新の研究状況がわかります。各論文末の文献目録も参考にしてください。

## 生命と進化

Life and Evolution

(後期 金・5 全)

2単位

理学研究科 田村 実 他

### ●科目の主題と目標

地球上の生命は、地球の歴史とともに進化してきた。その記録は、化石として残るか、あるいは現在の生命体に残されている。この科目では、化石や現存の生物に残された進化の記録をもとに、進化を種、個体、細胞、分子と、マクロからミクロまでのレベルに分けて、わかりやすく紹介する。

### ●授業内容・授業計画

1. 細胞の進化（若林和幸担当）  
地球の誕生から十数億年を経て最初の生命である原

核細胞が出現し、その後、約20億年をかけて私達の体を構成するような真核細胞が進化した。この原核細胞から真核細胞への進化の過程について、細胞生物学、形態学、生化学的観点から解説する。

- (1)・(2) 細胞の基本構造の解説。
- (3)・(4) 原核細胞から真核細胞への道すじ。核や細胞内小器官の形成と細胞機能の多様化。
- (5) 細胞の多様化、巨大化を支えたエネルギー獲得系の進化。



2. 分子の進化 (小柳光正担当)

進化の研究は分子生物学技術の導入によって大きく進展し、進化をDNAやタンパク質といった分子のレベルで研究する分子進化学が誕生した。この分子進化学の基礎、方法、その成果について具体的に解説する。

- (1) 分子の進化を理解するために必要な分子生物学の知識について説明する。
- (2) 分子時計や中立説など分子進化学の基礎となる概念を説明する。
- (3)・(4) 分子進化学によって初めて明らかとなった生物の系統関係や進化のメカニズムについて、方法論を交えて紹介する。

3. 植物の進化 (田村 実担当)

最初の生物誕生から、植物の陸上進出を経て、現在の被子植物の繁栄に至るまでの植物進化の道すじを、形態学、解剖学、発生学、細胞学、分子生物学、古生物学などの観点から解説する。

- (1) 生物の起源と初期進化。化石やいろいろな進化の仮説を紹介する。
- (2) 藻類の進化の道すじと生物の陸上進出。
- (3)・(4) コケ植物・シダ植物・裸子植物の進化の道すじ。
- (5) 被子植物の進化の道すじ。花の器官決定遺伝子などの最新の話にも触れる。

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

講義は分子、細胞、個体・種の3部構成であり、生命とは何か、進化とは何かを考える話題を提供する。

●教材

主な参考書：中村 運「細胞の起源と進化」(培風館)、宮田 隆「分子進化学への招待」(講談社ブルーバックス)、田村道夫「植物の系統」(文一総合出版)

## 現代の医療

Recent Advance in Medical Treatment

(前期 水・5 全)

2 単位

医学研究科 仲谷 達也 他

●科目の主題と目標

近年、疾病の診断や治療を行う医療技術はめざましい進歩を遂げ、疾病の早期診断や最先端治療が行われるようになってきた。悪性腫瘍(がん)、脳血管障害、心臓病における早期診断または最新の治療により確実にその予後が改善しつつある。悪性疾患としては胃がん、大腸がん、肝臓がん、白血病等の早期発見、治療の進歩について解説する。また、外傷医療や救急医療に対する取り組みも変わってきている。これらの発展で近年は多くの救急患者の救命率が上昇してきている。最近ではメタボリックシンドロームという概念で捉えられている、肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧を総括的にとらえての診断、治療が進んできている。これらの疾病を予防することが最終的には心臓病や脳血管障害への予防とつながり、社会人が十分認識しておく必要のある疾患である。手術に関しては以前と比べるとできるだけ患者さんに加える負担を少なくする工夫が行われており、各種内視鏡手術も増加してきている。

わが国においては、本格的な高齢化社会へと突入し、人口構造の変化が急激に起こってきている。このように医療を取り巻く環境が大きく変化しつつあり、国民の医療に対する関心も高まりつつある。そのため、医療従事者以外も、現代の医療に対して一定の知識を有することが望ましい。

授業に関しては、基本的には臓器別の講義を行う。画像診断学、救急医学のように臓器全般にかかわる講義もある。14回の講義全体を通して、現代の医療に関して

知識を深めてもらう予定である。

●授業内容・授業計画

- 1 循環器疾患(心臓血管、高血圧)
- 2 消化器疾患(胃、小腸、大腸)
- 3 肝臓、胆嚢、膵臓疾患(肝炎など)
- 4 内分泌・代謝疾患(糖尿病、高脂血症など)
- 5 血液疾患(貧血、白血病など)
- 6 神経・筋肉疾患、老年医学(ギランバレー症候群など)
- 7 神経精神疾患(うつ病など)
- 8 産婦人科学
- 9 整形外科学
- 10 腫瘍外科学
- 11 循環器外科学
- 12 放射線医学
- 13 小児科
- 14 救急医療

●評価方法

出欠  
レポート

●受講生へのコメント

健康、医療についての一定の知識は、社会人として必須のものである。現代の医療についての理解を深めてほしい。

●教材

特定のものは使用しない。

## 生体のしくみ

Physiological and Biochemical Basis in Humans

(前期 金・5 全)

2 単位

医学研究科 広常 真治 他

### ●科目の主題と目標

私たちの体がどのような構造と機能を持ち日々の営みを支えているのかを、特に6つのテーマを選んで教授する。一つ一つのテーマを掘り下げて生体の驚異の仕組みと病・治療との関連について理解を深める。

### ●授業内容・授業計画

授業内容・授業計画

1) 「細胞骨格とその機能」 細胞の中には、細胞骨格が張り巡らされている。そのために、形を保つこともできるし、細胞運動を行うこともできる。細胞骨格の種類とそれらの性質および機能、また細胞骨格のダイナミクスがどのように制御されているのかを解説する。

「ライブイメージングによる細胞ダイナミクスの解析」顕微鏡で培養細胞を観察していても、その細胞が“生きていて”活発に運動している様子はなかなか感じることはできない。しかしタイムラプス・イメージングという方法を用いることで細胞は様々に形を変えて活発に活動していることが実感できる。ライブ・イメージングに必要な顕微鏡などの装置類やクラゲから発見された緑色蛍光タンパク質 (Green Fluorescent Protein, GFP) を用いた細胞内分子のイメージングについての解説を行い、いくつかの具体的なイメージングの例を紹介する。(北川誠一、藤田一寿)

2) 「脳科学と脳機能イメージング」 脳機能イメージングにより、ヒトに与えられた思考・情動・心模様等へのアプローチの現況と展望について話す。(渡辺恭良、片岡洋祐)

3) 「脳の奇形疾患について」 神経細胞の形成と移動におけるモータータンパク質の役割について話す。(広常真治)

参考 <http://www.geocities.jp/kaitoroom/>  
[http://www.ncnp.go.jp/nin/guide/r2/genedigmanu\\_html/Lis.html](http://www.ncnp.go.jp/nin/guide/r2/genedigmanu_html/Lis.html)

生田哲著「ブルーボックス／脳の健康」(講談社)  
 4) 「生物の進化原理生物」 生物の進化原理生物の進化原理は「一創造百盗作」であり、遺伝子の微小変異を基に似て非なる利用法と外観を獲得し、過酷な生存競争を生き抜いて現在の地球生態系を創生した。ヒトを含む多様な生物が類似した原理で生きているのはこの為である。本講義では、悠久の生物進化史が構築してきた生命のシナリオとアドリブを概論し、進化生物学的観点から生老病死を考える。(井上正康)

5) 「遺伝子の働き」 遺伝子の構造と機能について説明し、癌などの病気との関係を理解させる。最近の遺伝子組換え技術と問題点について解説する。(森田隆)

6) 「薬はなぜ効くのか」 薬の作用は、標的分子を介して行われる。私たちの体内に存在する標的分子や病原体などの標的に作用する。薬物は疾患の治療、予防、診断に用いられるが、常にリスクとベネフィットのバランスの中で薬物は使用されるものである。それゆえ有効性と安全性を考え、薬物治療に際しては個々の患者にとって最適の治療薬、投与量、投与経路が選択される。(岩尾洋)

### ●評価方法

6 テーマのなかで最も興味を持ったテーマについて、コース終了後2週間以内にレポートを学生支援課に提出すること。レポートを採点し60点以上を合格とする。なお、レポートの表紙は表題、氏名、学籍番号、レポートのテーマとなった教員の氏名を明記すること。

### ●受講生へのコメント

授業には適時スライド、OHPを使用。授業の妨げとなる行為は減点とする。

高等学校教育での生物学の知識を必要とする。

## 生命と法

Life and Law

(前期① 水・5 全)

2 単位

(前期② 水・2 全)

2 単位

法学研究科 安竹 貴彦 他

### ●科目の主題と目標

主題は「生命に関わる法的諸問題」である。直接的か間接的かを別にすれば、生命と全く無関係な法はほぼ存在しえないといってよいであろう。また同時に法は社会内における様々な異なる価値を調整し、結びつける役割をも果たしている。戦争のルール、死刑や堕胎の是非、安楽死、過労死の問題などは従前から論じられてきたし、

近年では医療や科学技術の進歩に伴い、臓器移植、遺伝子治療、出生前診断、クローン、薬害問題などへの対処も法の重要な任務となりつつある。また環境問題への関心の高まりとともに、法の対象とする「生命」はもはや人間だけにはとどまらなくなっている。

本講義ではこれら「生命と法をめぐる諸問題」の中から、重要かつ初学者にも関心を抱きやすいと思われる論

点を幾つかとりあげ、その実態と問題点を提示するとともに、これに対し法が「従来いかに対処してきたのか」、また「現在の到達点と残された課題は何か」を受講生諸君と一緒に明らかにすることを試みたい。これら一連の作業が「法とは何か」、あるいは「法的思考とはどのようなものか」「法的責任とは何か」という命題へのアプローチとなれば幸いである。

●授業内容・授業計画

授業は、法制史・国際法・刑事法・社会法・医事法などを専攻する本学あるいは他大学の法学研究科教員らが講師となり、オムニバス形式で進める。各回の授業では、概ね以下のようなテーマを取り上げることが予定しているが、変更になることもありうる。各回のより詳細な内容については、初回授業の際に配布する資料で示す予定である。

- 1 「生命と法」序説
- 2 安楽死・尊厳死
- 3 患者の自己決定権
- 4 医療事故への対応
- 5 社会保障と生命
- 6 医療の崩壊を考える
- 7 生殖補助医療

- 8 臓器移植
- 9 死刑をめぐる諸問題
- 10 過労死を考える
- 11 遺伝子をめぐる諸問題
- 12 患者情報の保護と利用
- 13 知的財産権と医療品アクセス問題
- 14 まとめ

●評価方法

通常の学期末試験による。

●受講生へのコメント

本講義は全学共通教育科目として提供されるものであることから、細かい法理論や判例などの理解よりも、社会の実態と問題点の析出、その解決手段としての法の機能や考え方を解明することに重点を置きたい。それゆえ、講師による一方的な講義ではなく、受講生諸君との質疑応答や、参考文献の紹介、あるいは小レポートの提出なども実施したいと考えている。積極的な態度で受講してほしい。

●教材

講義の際に、必要に応じ資料等を配布する。当該講義のみの配布とし、後からの配布要求は受け付けられないため、受領し忘れることのないよう留意してほしい。

## 健康へのアプローチ

Approach to health

(前期 金・5 全)

2単位

生活科学研究科 古澤 直人 他

●科目の主題と目標

少子高齢化が急速に進む現代日本社会において、いかにして自らの健康を保持・増進し、より長い健康寿命を達成するかは、喫緊の社会的命題であると共に、一人一人のかけがえのない人生においても大変重要な課題です。本講義では、基礎的および臨床医学的分野における多彩な専門領域のエキスパートである講師から、健康に生きるためのアプローチ法を学びます。

●授業内容・授業計画

基礎的分野に関しては、当研究科の教員6名がオムニバス形式で講義します(1名1回)。臨床医学的分野は、本学医学研究科の教員2名ならびに非常勤講師6名が、それぞれの臓器、疾患別の専門領域に関する実際的な健康の保持・増進法を解説します(1名1回)。

●評価方法

出席点を考慮します。非常勤講師の枠に関しては、毎回小レポートを課します。最終回は、記述式のテストをする予定です。

●受講生へのコメント

本講義では、健康的な生活へ近づくための様々なアプローチ法を、基礎的および臨床医学的分野から教授します。健康に生きて行くためのヒントが多く含まれていますので、是非ご自身の生活にも役立ててください。

●教材

適宜、プリント等を配布します。

# 大阪市大でどう学ぶか

What and How You will Learn in OCU

(前期 水・5 全、1 回生優先) 2 単位

大学教育研究センター 矢野 裕俊 他

## ●科目の主題と目標

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

ところで、あなたは数ある大学の中からなぜ市大を選びましたか。市大がどういう大学か、どこまで知っていますか。何となくという人も多いかと思いますが、せっかく市大に入ったのですから、まずは自分の大学がどんな大学かを知り、そこで何をどう学び、どういう職業人や人間になるかを考えてみませんか。この科目の目的はこうした自分探しとでもいうべきことを入学直後の前期に行うことによって、これから大学で学ぶ意義について考え、学ぶ意欲を自ら育んでもらうことにあります。

また、大学での学習は高校までと大きく違い、自分で学ぶことが基本になっています。さらに最近は、インターネットによる情報の検索やコンピューター技法も不可欠な時代です。さいわい本学には国内有数規模の学術情報総合センターがあります。この科目を受講する間にぜひ大学で学ぶための基本的な力（スタディ・スキル）も身につけてください。

この科目は、学びの場としての大阪市立大学について知り、現在（入学時点）の自分に目を向け、これからの在学期間で何をどのように学ぶのか、そして学んだことを卒業後どのように生かすのかを考え、それらを具体的に明らかにすることを目標にします。

なお、科目の趣旨から、授業は1回生ならびに編入学生を対象に行います。2回生以上で受講を希望する人は最初の授業時に授業担当者まで申し出て、必ず許可を受けてください。

## ●授業内容・授業計画

本学の歴史を遡れば128年前の大阪商業講習所まで行きますが、大学としては1928年の大阪商科大学が始まりです。戦後、1949年に大阪市立大学となつてからは日本で最大の公立総合大学となり、現在8学部9研究科を擁しています。

この本学の歴史や各学部の歩みと現在を知ることで、大阪市大という大学の学生としてアイデンティティを持

ってもらえればと思います。また、自分の学部以外の話を聞くことによって、総合大学で学ぶメリットを感じ取ってください。

授業計画は、第1回と最終回に大学教育研究センターの教員が大学で学ぶことについて話します。第2回目からは、学長、大学史資料室、経営学研究科長（商学部長）、経済学研究科長（経済学部長）、法学研究科長（法学部長）、文学研究科長（文学部長）、理学研究科長（理学部長）、工学研究科長（工学部長）、医学研究科長（医学部長）、生活科学研究科長（生活科学部長）、創造都市研究科長のそれぞれが、大学・学部・研究科の歩みと今後の展望、自身の経験にそくした学問の面白さなどについて話します。

## ●評価方法

最初の授業の後、「市大に入学して－期待と抱負－」、大学で学ぶことや市大への期待・抱負などをレポートにしてもらいます。

2回目の授業からは、その日の授業を聞いて感じたことや考えたことを授業の最後の5分間で感想カード（400字）にまとめて提出してもらいます。

最後の授業の後、「この授業で学んだことは何か、それを今後の学習にどう生かしていくのか」をテーマに最終レポートを書いてもらいます。

成績評価は上記2通のレポート（各20%）と感想カード（60%）で行います。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

## ●受講者へのコメント

この授業は講義形式ですので、スタディ・スキルの習得に関しては限界があります。スキルを身につけたい人は1回生だけを対象に少人数で行う「初年次セミナー」の受講を勧めます。

## ●教材

教科書：使用しません。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。



## 2. 総合教育科目 B

科目名 英文科目名	(開講期 曜日・時限 クラス)	単位数
	②は第2部 ①は第1部	
	表示が無い場合は第1部	
		授業担当者

## 論理学入門

Introduction to Logic

(前期 火・4 全)

2単位

文学研究科 美濃 正

### ●科目の主題と目標

論理学は科学的な思考にとって不可欠な推論およびその原理について研究する学問である。推論とは、前提から一定の規則に従って結論を導き出すことである。たとえば「殺すことは不正であり、肉を食うことは殺すことである」という前提から、「肉を食うことは不正である」という結論が得られる。このように、もし前提が真ならば、結論も必ず真となる推論を妥当な推論と言う。たとえ真なる前提から出発しても、推論が妥当でなければ真なる結論を得ることはできない。逆に、推論が妥当であれば、結論が偽であるときには前提も偽だということが分かる。このように推論の妥当性はきわめて重要な性質であり、この性質について深く研究することが論理学の課題だと言ってよい。この科目では、文または命題を最小単位とする「命題論理」を中心に、推論の原理について学ぶ。

### ●授業内容・授業計画

- 第1課 論理学とはどんなものか
- 第2課 論理的結合子の導入と説明Ⅰ(否定・連言など)
- 第3課 論理的結合子の導入と説明Ⅱ(条件法など)
- 第4課 結合子の特性とシェファー・ストローク
- 第5課 推論の妥当性と真理値分析Ⅰ
- 第6課 推論の妥当性と真理値分析Ⅱ

第7課 恒真命題(トートロジー)

第8課 命題論理における「真理の木」の方法Ⅰ

第9課 命題論理における「真理の木」の方法Ⅱ

第10課 命題論理の健全性と完全性

第11課 述語論理をちょっとだけⅠ

第12課 述語論理をちょっとだけⅡ

### ●評価方法

4回程度、演習問題を出題し、その解答をレポートとして提出してもらう。それらのレポートの点数にもとづいて成績評価を行う予定(現時点では行わない予定だが、場合によっては期末試験を行うことになる可能性もある)

### ●受講生へのコメント

原則として、学生諸君の理解を促進するため、提出されたレポートは採点して一週間後に返却する。このため百名程度の受講生しか受け入れることができない(受講制限を実施する)。また出席はとらないが、欠席を重ねてレポートを一度でも出しそこなうと、単位修得がかなり難しくなるので要注意。

少しでも分からないことがあったら遠慮せずに質問する積極性がこの科目では特に望まれる。

### ●教材

R. ジェフリー『形式論理学』(産業図書)を教科書として用いる(参考図書は授業中に紹介)。

## 心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 月・3 全文)

2単位

文学研究科 佐伯 大輔

### ●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによ

って、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見いだすことができるようになることを目的とする。

### ●授業内容・授業計画

この授業では、主に以下に示した章立てに従って、心理学分野の全般にわたり、講義形式で授業を進める。

- (1) 心理学の歴史と方法
- (2) 感覚
- (3) 知覚
- (4) 子どもの発達
- (5) 青年期以降の発達
- (6) 学習(1): レスポンデント条件づけ
- (7) 学習(2): オペラント条件づけ
- (8) 学習の展開
- (9) 記憶
- (10) 思考と言語
- (11) 動機づけと情動

- (12) パーソナリティ
- (13) 適応
- (14) 社会心理
- (15) まとめ

#### ●評価方法

学期末の試験によって成績評価を行う。

#### ●受講生へのコメント

- ・授業中の私語、携帯電話の操作は厳禁とする。
- ・同じ心理学であっても、研究分野によって研究対象や研究者の視点は異なる。受講生には、心理学における

様々な考え方を習得し、幅広い知識を身につけることを期待する。

- ・授業では、質問紙調査等を実施し、参加への協力を求めることがある。

#### ●教材

教科書：金児暁嗣（編）2003 「サイコロジー事始め」有斐閣

参考書：伊藤正人 2005 「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」（昭和堂）

## 心理学への招待

Introduction to Psychology

（前期 木・4 全文）

2単位

非常勤 山口 哲生

#### ●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問であるからだ。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどういう影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に関する知識を獲得してもらおうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人が何故そのような行動をとるのかということに対する回答をあなた自身で見出すことができるようになることを目的とする。

#### ●授業内容・授業計画

人や動物がなぜそのような行動を行うかを理解するために、以下の各領域から主要なトピックを選び講義する。

##### 1. 心理学とは

2. 心理学の歴史
3. 反射の原理
4. 行為の原理（1）
5. 行為の原理（2）
6. 知覚：刺激性制御と概念形成
7. 意思決定（1）：自己制御と衝動性
8. 意思決定（2）：価値割引
9. 記憶：遅延見本合わせ課題
10. 推論：ベイズ推論
11. 言語：人口言語習得と記号によるコミュニケーション
12. 動機づけと情動
13. 日常場面に見られる反射の原理
14. 日常場面に見られる行為の原理

#### ●評価方法

学期末試験（80%）及び講義中に実施する小テスト（20%）の成績により評価する。

#### ●受講生へのコメント

本講では、心理学の実験や調査に参加する機会をできるだけ多く提供する予定なので、授業内容の理解を深める為にも受講生は積極的に参加されたい。

#### ●教材

教科書：伊藤正人 2005 「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」（昭和堂）

## 心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 火・3 全理)

2単位

文学研究科 池上 知子

### ●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見出すことができるようになることを目的とする。

### ●授業内容・授業計画

心理学の各領域から主要なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査や心理実験を実施し、ビデオ教材等も活用する。

内容は、おおよそ以下の通りである。各テーマに2回程度充てる予定である。

1. 心理学とは何か：科学と常識のあいだ
2. 心と体を結ぶもの：脳科学と心理学
3. 心と身体疾患
4. 心を動かす源泉：欲求と感情
5. 行動異常と心の力学
6. 心を支える記憶のはたらき
7. 心の個人差と形成因

### ●評価方法

主として学期末に行う試験の成績にもとづき評価する。

### ●受講生へのコメント

講義形式の授業ではあるが、参加型の授業を目指したいため、授業時間中に受講者に発言を求めることが多くなる。受講者は積極的に意見を述べてほしい。また、心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に実験への参加協力を要請する場合もある。

### ●教材

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。  
参考書：無藤隆他著『心理学』（有斐閣）  
OHP、ビデオを使用する予定。

## 心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 金・1 全理)

2単位

非常勤 恒松 伸

### ●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得しても

らうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見出すことができるようになることを目的とする。

### ●授業内容・授業計画

以下を主要な内容とし、それぞれ1～2コマ程度を目安として、講義を進める予定である（ただし、進捗状況により、講義の順番が変更されたり、一部が省略されたりすることもありうる）。

1. はじめに：心理学とは
2. 心理学の歴史：研究対象の変遷
3. 行動の原因はどこに：心的過程と外的環境
4. 行動に影響するさまざまな要因：学習・成熟・動機づけ等
5. 行動とは何か：定義と種類
6. 学習の基礎と応用（1）：基本的行動随伴性

7. 学習の基礎と応用（2）：日常場面への応用例
8. 認知：言語と概念
9. 選択：セルフコントロールと衝動性
10. 経済：個体の消費行動の理解

#### ●評価方法

期末試験の成績により評価する。講義期間中に行動実験および調査を実施する場合は、その参加の有無も成績に加味するので、留意されたい。詳しくは、第1回目の講義で説明する。

#### ●受講生へのコメント

本講義では、私たちが環境に適応していく上で、最も基本的な機能である「学習」と「行動」を中心に、心理学の歴史、さまざまな種類の行動の変化に影響する要因、

行動の原因論等に触れる。さらに、心理学の実証的研究より明らかにされたいいくつかの重要な知見や日常場面への応用例を紹介したいと考える。講義は、以下の指定教科書を用いて進められるので、毎回忘れずに持参すること。なお、レジュメ・資料を配布することがあるが、それらは、当日の講義中のみで入手可能である。したがって、講義の内容を十分に理解するためには、毎回の出席が必要である。

#### ●教材

教科書：伊藤正人 2005 『行動と学習の心理学：日常生活を理解する』（昭和堂）

参考書：必要に応じて、講義で随時紹介する

## 心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期② 月・1 全)

2単位

文学研究科 伊藤 正人

#### ●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見いだすことができるようになることを目的とする。

#### ●授業内容・授業計画

本講義では、下記の教科書を用い、人や動物がなぜそのような行動をとるのかを理解する行動分析的な枠組みについて概説する。また、このような枠組みから日常場面の様々な出来事がどのように理解できるかを検討する。大まかな授業計画は以下の通りである。

(1) はじめに：行動分析的視点

第1部：実験室から得られた行動の原理

(2) 現代心理学の2つの立場

(3) 行動とは：生得的行動と習得的行動

(4) 反射の原理：条件反射の形成

(5) 反射の原理：複合条件

(6) 行為の原理：新しい条件づけの発見

(7) 行為の原理：強化の原理

(8) 行為の原理：選択・意思決定

(9) 動機づけ：行為の原因

第2部：日常場面に見る反射と行為の原理

(10) 怒り恐怖・好き嫌い

(11) やる気・意欲

(12) ほめる・しかる

(13) 自己制御と社会的ジレンマ

(14) まとめ

#### ●評価方法

レポートの評価による。

#### ●受講生へのコメント

受講生は、教科書に取り上げられている映画をあらかじめ見ておくといよい。

#### ●教材

教科書：伊藤正人 2005 「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」（昭和堂）

参考書：伊藤正人 2006 「心理学研究法：行動研究のための研究計画とデータ解析」（昭和堂）

金児曉嗣（編）「サイコロジー事始め」有斐閣 2003  
河野哲也「心は体の外にある：エロジカルな私の哲学」（NHKブックス 2006）

中島義明（編）「心理学辞典」有斐閣 1999

小川 隆（監修）「行動心理ハンドブック」（培風館 1989）

杉山尚子「行動分析学入門：ヒトの行動の思いがけない理由」（集英社新書 2005）



## 文化と社会の心理

Cultural and Social Psychology

(後期 木・4 全)

2単位

非常勤 向井 有理子

### ●科目の主題と目標

私たちは、社会の中でさまざまな人たちから影響を受け、また、周囲の人間や社会に影響を及ぼしながら生きている。さらに、そのかかわり合いのなかで、複雑な文化を創り出し、共有し、そして伝達している。その営みにおいて人は誰も自分の行動や周りの人の行動についてあれこれと考えをめぐらすものであるが、社会心理学は人間の行動について他者や社会、文化との関連の中でより科学的に分析し、説明する学問である。

本講義では、私たちの日常生活に深く関わりのある社会心理学のテーマ、人間関係、集団、文化の問題について講義し、受講生が、それぞれの日常生活に対する洞察を得て、人間一般への理解を深めるとともに、自分と異なる集団や文化に属する人たちについて考える際の感性を養うことを目的とする。本講義では、心理学全般の基礎的知識が必要となるため、受講生は『心理学への招待』を受講していることが望ましい。

### ●授業内容・授業計画

社会心理学の各領域からトピックを精選して講義する。なお、講義内容の理解を深めるため、適宜、質問紙テスト等を実施し、ビデオ教材等も活用する予定である。内容は、およそ以下の通りである。初回を除き各テーマにつき、概ね2回の講義を当てる予定である。ただし、

各テーマの講義順は入れ替わる場合がある。

1. 社会心理学とは何か
2. 人が人に惹かれるとき：対人魅力の心理
3. 男と女：恋愛と性役割
4. 人と人を遠ざけるもの：偏見と差別
5. 人が人を傷つけるとき：攻撃と戦争
6. 人と社会を結ぶもの：メディアの功罪
7. 異文化と出会うとき：異文化接触の心理
8. 心と文化：心と文化の相互形成

### ●評価方法

学期末に行う試験の成績を基礎とし、これに出席率等を加味して評価する。

### ●受講生へのコメント

社会心理学の研究方法への理解を深めるため、授業時間に関連するテーマの質問紙調査や心理学実験を実施することもある。

### ●教材

〔教科書〕

池上知子・遠藤由美著『グラフィック社会心理学第2版』(サイエンス社)

〔参考書〕

金児暁剛・結城雅樹編集『文化行動の社会心理学』(北大路書房)

## 人間と宗教

The Science of Religion

(前期 木・4 全)

2単位

文学研究科 仲原 孝

### ●科目の主題と目標

人間が「生きる」ということにとって宗教はいかなる意味を持つか、ということ講義形式で考えて行く。宗教について考えるのに、具体的な個々の宗教思想や宗教者の生き方を離れて抽象的な一般論を行なっても意味がないため、毎年特定のテーマを定めて、それについて深く掘り下げて考えるという形で講義を行なう。

### ●授業内容・授業計画

今年はウィリアム・ジェイムズの『宗教的経験の諸相』において展開されている宗教哲学を手がかりに、宗教とはいかなるものか、そして人間の生にとって宗教はいかなる意義を有しているか、という問題について考えていく。

授業計画は次のとおり(ただし授業進度の関係上、授業計画に多少の変更が行われる場合もありうることを付記しておく)。

1. ウィリアム・ジェイムズの生涯

2. ウィリアム・ジェイムズの心理学と宗教哲学
3. 宗教哲学と心霊研究との関係
4. 『宗教的経験の諸相』の成立事情
5. 宗教哲学と精神病理学
6. 「宗教」の4つの定義
7. ジェイムズの宗教哲学とニヒリズムの問題
8. 「健全な心の宗教」
9. 「病める魂」の宗教
10. 宗教的回心の心理学的構造
11. 神秘主義の宗教の意義
12. 宗教的禁欲主義の意義
13. 宗教の価値
14. 哲学と宗教との関係
15. ジェイムズ宗教哲学の評価

### ●評価方法

小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方な

ど、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらすべてが満たされていることが、単位認定の必須の条件となる。

#### ●受講生へのコメント

宗教の問題に唯一の確定的な答はありえない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索す

ることが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答案は最低の評価となるので注意すること。

#### ●教材

教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。授業内容をより深く理解したい者には、ウィリアム・ジェイムズ『宗教的経験の諸相』（岩波文庫、上下巻）を薦めておく。

## 倫理学入門

Introduction to Ethics

(後期 木・2 全)

2単位

文学研究科 土屋 貴志

#### ●科目の主題と目標

倫理学とは、規範の根拠について考える学問である。いいかえれば「～はわるい」「～はよい」「～してはいけない」「～してもよい」「～すべきだ」「～すべきではない」等ということが、どうしてそう言えるのか、その理由を示そうとするのが倫理学である。学生諸君が、社会におけるさまざまな規範の根拠について考え、自分の規範的判断の理由を、他者の納得できる形で表現できるようになることが、当科目の目標である。

#### ●授業内容・授業計画

倫理学の基本的な考え方を、講義、課題演習および思考実験を通して学ぶ。

授業予定は下記の通りだが、適宜変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 事例1をめぐるとの討論
3. 倫理学とはなにか……「倫理学入門」入門
4. 規範を根拠づけるとはどういうことか
5. 倫理に関する相対主義
6. 倫理の「原理」とは
7. 実践的三段論法の活用
8. 中間的総括（中間レポート）
9. 義務論……カント
10. 利己主義と利他主義
11. 公益（功利）主義
12. 事例2をめぐるとの討論
13. 事例3をめぐるとの討論
14. 再び、倫理学とはなにか……効用と限界
15. 全体の総括（期末レポート）

授業形態はプリントを活用した講義のほか、必要に応じてグループディスカッションや討論を行う。

#### ●評価方法

担当教員は、授業期間中に2回課すレポートの成績に、授業への参加姿勢などを勘案して評点原案を作成する。受講者は、半期にわたる自らの学習活動を評点化しその根拠を記した「自己評価レポート」を最終授業時に提出する。担当教員は評点原案と自己評価レポートの内容を突き合わせて成績を決定する。

#### ●受講生へのコメント

1. 所定の事項を記入した受講カードを提出すること。受講カードは所見と評価を記録する「カルテ」として用いる。受講者は自分の受講カードの記載内容をいつでも閲覧できる。
2. 受講者の顔と名前を覚えたいので、顔と氏名を積極的に売り込むこと。履修登録者数が20人を越えた場合は、顔写真の受講カードへの貼付を受講者全員に義務づける。
3. レポート・自己評価レポート・受講カードは成績採点終了後に返却する。返却の掲示が出たら、学生支援課共通教育担当まで各自受け取りに来ること。
4. 受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも未提出の場合は履修放棄とみなす。

#### ●教材

講義プリントを配布する。教科書はとくに指定しない。参考書は下記のものほか、授業中に適宜紹介する。

カント『人倫の形而上学の基礎づけ』（中央公論新社〔中公クラシックス〕）、『世界の名著 ベンサム・J.S.ミル』（中央公論新社）、P.シンガー『実践の倫理』（昭和堂）、J.レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』（晃洋書房）

## 対人行動の影響と意味

Various Effects and Meanings of Interpersonal Behavior

(前期 月・3 全)

2単位

大学教育研究センター 渡邊 席子

### ●科目の主題と目標

この授業で主に取り上げるのは、説得的コミュニケーションと呼ばれる分野に関することである。説得的コミュニケーションとは、人々の態度や行動を変化させることを目的とする複合的なコミュニケーションである。この授業で目指すのは、①授業中に行われるパフォーマンスや意見交換、ストーリー作成に参画することによって、日常的な対人行動と説得的コミュニケーションに関する学術的知見とを結びつけて理解すること、および、②実際の対人行動場面にいかにしてそれらを「善意をもって」応用するか、また、「自分に向けられた悪意から身を守る」かを考えること、の2点である。

自分にとって悪影響を及ぼす可能性のある対人関係へのかかわりを事前に回避し、かつ、自らが他者に対して意図的・無意図的に悪影響をもたらす加害者とならないようにするための心得を、頭と身体を使って学びとっていただきたい。

### ●授業内容・授業計画

授業では、説得的コミュニケーションに関連する講義を行い、演習課題に取り組みながら、日常的な問題をからめた各種ストーリー（小話、短編演劇シナリオ、セールストークなど）を作成、相互に発表しあう。授業計画は以下のとおりである。

第1回：授業の進め方に関するガイダンス

第2～6回：ユニット1＝説得的コミュニケーションに関する講義（古典的研究1）、およびストーリーづくり1

第7～11回：ユニット2＝説得的コミュニケーションに関する講義（古典的研究2、近年の研究）、およびストーリーづくり2

第12～14回：ユニット3＝説得的コミュニケーションに関する講義（カルトマインドコントロールに関する学術的研究）、ストーリーコンペティション

第15回：まとめと総合自己評価

なお、授業期間中に1度以上、説得的コミュニケーションに関連する講義内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。また、ストーリーづくりの詳細に関しては、授業の進行にあわせて随時説明する。

### ●評価方法

- (1) 平常点（学ぼうとする意思・態度・行動、課題・宿題・報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか、授業期間中に行う小テスト等）：70点満点
- (2) ストーリー作成に対する学生同士の相互評価：30点満点  
→合計100点満点

### ●受講生へのコメント

- ・受講を希望する学生は、必ず第1回目の授業に出席すること。
- ・授業の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いてきていることを前提に授業を行う。
- ・授業は3つのユニットから成っている。特に重要な回を欠席した場合、次回以降の授業に参画できないこともある。

### ●教材

教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。

## ゲームで学ぶ社会行動

Learning about Social Behavior with Experimental Games

(後期 木・4 全)

2単位

大学教育研究センター 渡邊 席子

### ●科目の主題と目標

この授業のキーワードはキャリア(=生き方、含労働)である。また、この授業のねらいは、自立的にキャリアを発達させ、自己と社会とを結び付けていくことのできる知的行動力の育成である。

自らが置かれている社会的状況を読み、最適な行動を選択し、いかなる状況にも適応していける知的行動力を身につけることは、ひとりの社会人として、自らのキャリアを自立的に発達させていくために必要不可欠である。ゆえにこの授業ではまず、①自分自身を理解する、すなわち自己概念を明確化し、②キャリアを自立的に発達させるために今何を考えるべきか、何をすべきか、ゲーミング・シミュレーション教材作成を通じて理解す

る。続いて、③仮想社会を想定した意思決定ゲーミングに参画し、自分が組み込まれている社会と自分自身との関係を俯瞰し、社会的生物としていかにあるべきか、「おとな」として責任ある行動をいかにとるべきかを積極的に学ぶ。

### ●授業内容・授業計画

この授業では、ゲーミング・シミュレーション教材づくりや、意思決定ゲーミング・シミュレーションに受講生自身が参画し、そこで得られた経験に基づきながら小グループに分かれて建設的な討論を行って互いの意見を評価し、社会的生物としていかに自身のキャリア(=生き方、含労働)を発達させるかを問う。授業計画は以下のとおりである。



第1回：授業の進め方に関するガイダンス

第2～8回：ユニット1＝「社会で生きることについて問う（キャリアデザイン）」をテーマに、大学生向けゲーミング・シミュレーション教材をつくる（キャリアカウンセリング理論についての基礎講義、教材作成、相互評価、自己評価）

第9～11回：ユニット2＝自分と社会との関係／位置づけ／影響過程を考える（ユニット3へのつなぎとなる講義、演習）

第12～14回：ユニット3＝意思決定ゲーミング・シミュレーションの実施（ゲーミング・シミュレーションへの参画、討論、相互評価、自己評価）

第15回：まとめと総合自己評価

なお、授業期間中に1度以上、授業内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。

#### ●評価方法

(1) 平常点（学ぼうとする意思・態度・行動、課題・宿

題・報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか、授業期間中に行う小テスト等）：80点満点

(2) 学生同士の相互評価：20点満点 →合計100点満点

#### ●受講生へのコメント

・受講を希望する学生は、必ず第1回目の授業に出席すること。

・授業の進行に付随して課題・宿題を提示し、それら解いてきていることを前提に授業を行う。

・授業は3つのユニットから成っている。特に重要な回を欠席した場合、次回以降の授業に参画できないこともある。

#### ●教材

教科書は用いない。必要な教材やゲーミングマニュアル等は授業中に配布する。

## 日常の中の不思議を探す 演習

Seminar: Let's find out wonders in our daily life

(後期 火・3 全)

2単位

大学教育研究センター 渡邊 席子

#### ●科目の主題と目標

本演習では、われわれの周りにある身近な場面のもつ意味を、当たり前と受け流さず、鵜呑みにせず、今一度しっかりと考え、捉えなおす各種課題に取り組む。これらの課題を解くにあたっては、クリティカル・シンキング(批判的・創造的・科学的にもの考えること)の手法の獲得が不可欠である。この授業のねらいは、各種課題への取組みを通じて、クリティカル・シンキングの手法を確立することである。

クリティカル・シンキングの手法は、大学での学びに要するのみならず、われわれが自分のキャリア(=生き方、含労働)を自らデザインし、発達させていくためにも必要なことである。本演習を通じて、大学から社会へと出て行くにあたり、知的に、かつ自立的に、自らにさまざまな影響を与えうる諸問題の本質を見極め、解決を目指して的確な意思決定を為し実行する力を蓄える機会を提供したい。

#### ●授業内容・授業計画

演習では、コミュニケーションの4スキル(読む・書く・聴く・話す)の中で特に、「他者の話をしっかりと聴く」こと=知的受信センスを磨くことにポイントをおきながら、クリティカル・シンキング手法の確立を目指す課題に取り組む。演習のスケジュールは以下のとおりである。

第1回：演習の進め方に関するガイダンス、受講者決定

第2～6回：クリティカル・シンキング演習1(クリ

ティカル・シンキングとは何か、時事問題をクリティカルにとらえる討論、自己評価)

第7～10回：「社会ではたらくこと」に関する調査課題(調査、発表/討論、相互評価、自己評価)

第11～14回：クリティカル・シンキング演習2(何が問題の本質かを見極める調査、発表/討論、相互評価、自己評価)

第15回：まとめと総合自己評価

なお、取り組むべき課題・宿題の詳細に関しては、演習を進めていく中で随時説明する。

#### ●評価方法

(1) 課題への取組みに対する評価(教員・学生それぞれからの評価)：60点満点

(2) 参画への意思・態度・行動(積極的に意見を述べたか、報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか等)：40点満点 →合計100点満点

#### ●受講生へのコメント

・受講希望者は、第1回目のガイダンスに必ず出席すること。また、受講人数の上限を15名とし、全回出席を基本とする。

・演習の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いてきていることを前提に演習を進める。

#### ●教材

教材は演習中に適宜配布される。なお、教材となりうる素材を受講者自身が調査の上集めて持ち寄る場合もある。

**教育と発達心理学**

Psychology on Education and Development

(後期 火・4 全)

2単位

大学教育研究センター 西垣 順子

**●科目の主題と目標**

本授業では、知能（特に多重知能）の理論を中心に人間個々人の個性的な発達について考えながら、「個性を活かすこと」や「よく生きること」等について、柔軟で新しい視点を持てるようになることを目指します。

**●授業内容・授業計画**

- 第1週 ガイダンス  
 第2週 テスト・評価とは？  
 第3週 知能テスト  
 第4週 障害と個性  
 第5－6週 発表会の準備  
 第7－9週 8つの知能（学生による発表）  
 第10週 発達を支えるもの（発達の最近接領域）  
 第11週 発達を支えるもの（遊び、想像力）  
 レポート提出  
 第12週 レポート講評  
 第13週 発達を支えるもの（愛着）  
 第14週 発達を支えるもの（自分と社会）（アイデンティティ形成）  
 第15週 最終レポートの提出と自己評価
- 授業を通じて、「ポートフォリオ」という資料集を作成してもらいます。ポートフォリオには学んだこと、調べたこと、考えたことを記入し、最終的に全体の振り返

りをします。詳しいことは授業中に指示します。

**●評価方法**

発表会の発表、レポート（中間と最終）、授業の途中で出題するゲーム、ポートフォリオを3：3：2：2の割合で評価します。

**●受講生へのコメント**

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。授業の内容をもとに大いに考え、議論してください。授業は教員が90分間話をするのではなく、学生同士の討論や小レポートの作成に取り組んでもらいます。授業は受講生と担当教員の両方が作り上げていくものですので、積極的な参加を期待します。

授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という類の依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

**●教材**

授業中に参考文献を呈示する

**教育と発達心理学 演習**

Seminar: Psychology on Education and Development

(後期 木・3 全)

2単位

大学教育研究センター 西垣 順子

**●科目の主題と目標**

発達と学習・教育に関する事柄について、受講生の問題設定と調査に基づいて考えると同時に、それらに関する社会的な活動に実際に参加することを通じて、発達や障害に関して自分自身で多面的に考える力を身につけることを目指す。

**●授業内容・授業計画**

- 第1週 ガイダンス  
 第2～3週 講義（発表の方法等について）  
 第4～9週 受講生による発表と討論  
 原則として、「発達の障害について」「学習について」「アイデンティティと時間的展望について」の3つのテーマを2週ずつ  
 第10～11週 スペシャルオリンピックス  
 参加報告と議論  
 第12～14週 レポートの作成

**第15週 最終討論会**

受講生を学習重点組みと活動参加組みにわけます。活動参加組みは、知的障害者のスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックスの日常プログラム（原則的に日曜日に開催）に3回以上参加する。学習重点組みは、レポートやレジメ作成の課題を多くする（例えば、活動参加組みはレジメ作成が1枚だが、学習重点組みは3枚など）

**●評価方法**

レポート執筆、発表、討論、授業への参加状況をそれぞれ同じの割合で（100点満点にたとえると25点ずつで）評価します。なお、活動参加組については、活動への参加状況も評価の対象になります。

**●受講生へのコメント**

演習形式の授業のため、受講生数を16名程度以下に制限します。多くの受講希望者が集まった場合は抽選をしますので、あらかじめご了承ください。

演習形式ですので、受講生の発表や議論を中心に授業

を進めます。授業への積極的な関与を期待します。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の2時限目と昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示する。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

### ●教材

藤田哲也（編）「絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践」（ミネルヴァ書房）（2,800円）を教科書として指定します。

## 読むこと書くことの科学

Cognitive Psychology on Reading and Writing

（後期 火・1 全）

2単位

大学教育研究センター 西垣 順子

### ●科目の主題と目標

現代社会に参加していく上で必須の能力であるリテラシーについて、その仕組みや発達を理解することを目指す。そしてそれを通じて、自分自身が自分や身近な他者・大学・社会をどのように理解し、それらに向かって如何に情報を発信するかについて考えられるようになることを目指します。

### ●授業内容・授業計画

1. ガイダンス
- 2-3. 発達と障碍
- 3-5. 読解方略
6. 読解のプロセス
7. レポート相互評価
- 8-9. 改めて、リテラシーとは
- 10-11. 書くことと考えること
- 12-14. 発表会とレポートの提出
15. まとめ

### ●評価方法

レポート課題が2回とそれに対する相互評価があります。また授業中に課題を出して小レポートを書いてもらいます。授業の終盤には発表会もあります。

レポート：相互評価：小レポート：発表会を、4：2：2：2の割合で評価します。

### ●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。授業の内容をもとに大いに考え、議論してください。授業は教員が90分間話をするのではなく、学生同士の討論や小レポートの作成に取り組んでもらいます。授業は受講生と担当教員の両方が作り上げていくものですので、積極的な参加を期待します。

授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

### ●教材

教科書は指定しない。参考文献は授業中に適宜指示する。

## 現代文化の社会学

Contemporary Cultural Studies

（前期 月・3 全）

2単位

文学研究科 石田 佐恵子

### ●科目の主題と目標

現代文化を社会的に考えるとどのようなことでしょうか。本講義では、現代文化のなかから、特にテレビ文化をとりあげ、「クイズ形式」をキーワードにその特質を論じます。

現代文化は、以下のような特徴を持つと論じられています。①テレビ、携帯電話、インターネットなどの電子的なメディアが日常生活に大きな影響を与えている、②音楽、マンガ、インターネット記事などの文化商品が、国境を越えて流通し、グローバルな脈絡において消費されている、③ポストモダンと呼ばれる社会状況に共通の生活様式・価値観などが世界規模で出現しつつある。

このように、現代文化とは、私たち自身にとって馴染

みの深い日常生活そのものであり、生きられている文化に他なりません。この講義を通して、現代文化現象についての理解を深め、それらを読み解く能力を養うことを目標とします。

### ●授業内容・授業計画

上記テーマを以下のパートに分けて論じます。

(1) 現代文化研究におけるテレビ文化研究の位置づけ（第1-3回）。(2) クイズ形式の文化の特徴（第4-5回）。(3) 放送史におけるクイズ番組の制作と消費の変遷（第6-10回）。(4) 現代文化と知識消費（第11-13回）。(5) まとめ（第14回）。以上のような学習成果をふまえて、最終的には、現代文化現象についての考察・分析を行うことを目指します。

●評価方法

講義時には、毎回出席をとります。この出席の配点は30%程度。授業時に随時行うミニ・レポートは出席点としてカウントします。

学期末には「現代文化現象についての考察・分析を行う」段階として、論述形式の試験を実施します。評価は70%程度。

●受講生へのコメント

現代のメディア文化のさまざまな領域について、積極的関心を持っている受講生を望みます。なお、受講に際

し、他の学生に迷惑をかけるような行為（私語・遅刻など）を行う者には、退出を求めることがあるので、充分留意してください。

●教材

教科書：石田佐恵子・小川博司（編）『クイズ文化の社会学』（世界思想社、2003）。

参考書：岩渕功一（編）『グローバル・プリズム』（平凡社、2003）。萩原滋（編）『テレビニュースの世界像』（勁草書房、2007）。その他、授業中に適宜指示します。

## 社会科学のフロンティア

The Frontier of Social Sciences

（前期 月・2 全）

2 単位

経済学研究科 中村 健吾、福原 宏幸

●科目の主題と目標

EU加盟国では1980年代から、「貧困」とならんで、あるいは場合によっては「貧困」という観念に代えて、「排除」または「社会的排除（social exclusion）」という概念が使われるようになった。最初はフランスで、労働市場から長期にわたって排除されつづけ、失業保険給付を根幹とするさまざまな社会的権利を享受しえなくなった人びとに対して「排除」という語が使用された。ところが、これはその後EUの欧州委員会が採用するにつれて、長期失業者だけにとどまらず、広い範囲の人びとにまで適用される概念になっていった。すなわち、「社会的排除」は、経済的な意味での「貧困」を指すだけでなく、社会関係からの排除（社会的孤立状態）やさまざまな権利の侵害など、剥奪の多次的な現象をも指すようになった。しかもその際、「排除」は人びとが現に置かれている状態だけでなく、そういう状態に陥っていく過程を重視する概念として使用された。

この講義では、いまや日本をふくめてグローバルに注目されるようになった「社会的排除」の各国における実態を概観するとともに、「排除」に抗する「社会的包摂」のための取り組みを分析し評価することを試みる。

●授業内容・授業計画

授業の担当者は基本的に中村と福原であるが、ときに大学院生による研究の成果を発表してもらうこともある。

1. はじめに：「格差」から「貧困」へ
2. 「社会的排除」の定義
3. 「社会的排除」の問題に対するいくつかのアプローチ
4. 労働市場からの「排除」
5. フランスにおける「排除」
6. ロシアにおける「排除」
7. EUによる「社会的包摂」の取り組み：その1
8. EUによる「社会的包摂」の取り組み：その2
9. 日本における「排除」と「包摂」
10. グローバル化と「社会的排除」
11. シティズンシップか、人権か
12. まとめ

●評価方法

期末試験の成績による。

●教科書

A・S・バラ／F・ラペール著『グローバル化と社会的排除：貧困と社会問題への新しいアプローチ』（昭和堂、2005年）。この教科書は受講するうえで必携である。

●教材

福原宏幸編著『社会的排除／包摂と社会政策』（法律文化社、2007年）。

S・ポーガム編著『社会的排除のパラダイム構築（仮題）』（昭和堂、2009）。



## 日本国憲法

The Constitution of Japan

(前期① 木・2 全) 2単位

(前期② 木・1 全) 2単位

法学研究科 米澤 広一

### ●科目の主題と目標

「日本国憲法」は教員免許取得のための必修科目に指定されているため、受講生の多くが教育問題に関心を持っている。そこで、本講義では、後掲の教科書に沿って、学校教育での憲法問題について解説を加え、日本国憲法への関心と理解を深めることを、目標とする。

なお、法学部生に対しては、本講義は、教職の単位としてのみ認定される（全学共通教育の単位としては認定されない）。

### ●授業内容・授業計画

- 1 明治憲法から日本国憲法へ
- 2 未成年者の人権享有主体性、生徒の自己決定権
- 3 日の丸・君が代と学校
- 4 宗教と公立学校、生徒と政治
- 5 教育情報の本人開示と公開
- 6 教科書の検定、採択、給付、使用
- 7 学校事故の賠償と防止

- 8 障害児の教育を受ける権利
- 9 外国人の子どもの教育を受ける権利
- 10 親の教育の自由
- 11 教師の「教育の自由」
- 12 私立学校と憲法、児童の権利条約
- 13 国会
- 14 内閣
- 15 裁判所

### ●評価方法

学期末に行う定期試験によって評価する。

### ●受講生へのコメント

教職の単位を必要としない法学部生は、専門科目の憲法Ⅰ、憲法Ⅱのみを受講されたい。

### ●教材

教科書：米沢広一『憲法と教育15講』[改訂版]（北河出版）

## 都市的世界の社会学

Sociology of Urbanism

(後期 木・2 全) 2単位

文学研究科 谷 富夫

### ●科目の主題と目標

本講では、現代都市に特徴的な現象をいくつか取り上げ、そのメカニズムと人間的意味を考察する。

本講を通して、都市に関する社会学の理論と知識を身につけることが、たとえばこの大阪という大都市でよりよく生きるための一助となりうることが理解されよう。

### ●授業内容・授業計画

- ① 都市の社会理論——総論（第1～4講）  
「アーバニズム理論」は、20世紀初頭のシカゴで生まれ、その後の批判、修正を経て、今なお有効性を堅持している都市理論の一つである。アーバニズム理論を軸に近年のいくつかの都市理論を学び、都市にアプローチする基本的視座を得ることから本講を始めよう。
- ② 大都市コミュニティ形成論——各論Ⅰ（第5～7講）  
地域社会は今や解体の一途をたどっている。隣は何をする人ぞ、である。しかし、今後ますます深刻化する少子高齢化社会において、地域社会の解体は放置できない都市問題である。地域社会の福祉力や教育力の問題へ「コミュニティ形成論」の角度からアプローチする。

- ③ 都市グローバル化とエスニシティ——各論Ⅱ

(第8～10講)

日本社会で多文化化、多民族化が進行している。それは、とりわけ大都市で顕著である。異なる民族間でのどのような社会関係を結ぶことができるのか——古くて新しいエスニシティ問題を、大阪都市圏の調査結果をもとに考察する。

- ④ 都市で生まれる新宗教——各論Ⅲ（第11～13講）

なぜ若者は宗教に惹かれるのか。しかも大学生や高学歴エリート層が。ある新宗教教団の青年信者を東京と大阪で調査したデータをもとに、都市と宗教、宗教と若者の関係について考える。

- ⑤ 現代都市を生きる——総括（第14講）

都市的世界を深く認識することが、私たちがよりよく生きるために必要であることを再確認し、本講を閉じる。

### ●評価方法

授業中に数回小レポート（合計50点）を、学期末にレポートか試験（50点）を課す。

### ●受講生へのコメント

必ず前回までの講義ノートを持参して出席すること。

### ●教材

教科書：使用せず。

参考書：倉沢進『都市空間の比較社会学』（放送大学教育振興会）。井上俊・伊藤公雄編『都市的世界（社会

学ベーシックス4）』（世界思想社）。その他、授業中に適宜指示する。

## 日本と世界の教育

Education in Japan and the World

（後期② 水・1 全）

2単位

文学研究科 湯浅 恭正

### ●科目の主題と目標

主題：日本と世界の教育の事情を比較することによって、日本の教育の課題を考察する。

目標：教育目標や子どもの発達観、さらに教育実践について比較する能力を形成することを目指しながら、日本の教育課題を考察する視点と方法を身に付けることができる。

### ●授業内容・授業計画

① 日本と世界の教育を比較するために、わが国における教育実践の展開過程を理解する。

教育目標の捉え方、子どもの位置づけ、発達観、学力観、教育方法観を中心に理解する。（第1講－4講）

② ヨーロッパにおける教育の事情を、①で学んだ視点から理解する。

主に、ドイツ、フィンランドに注目して検討を進める。特に、学力観や特別支援教育にも言及して考察する。（第5講－8講）

③ アジアにおける教育の事情を、①②で学んだ視点から考察する。

主に、中国、韓国に注目して検討を進める。特に学習の在り方など教育方法に視点を置いて考察する。（第9講－11講）

④ アメリカにおける教育の事情を、①②③で学んだ視点から考察する。特に言語教育などを中心に取り上げる。（第12－13講）

⑤ これまでの検討を通して、改めて日本の教育に立ち帰り、これからの教育（実践）の課題を検討する。（第14講）

⑥ 期末試験

### ●評価方法

出席とミニレポートが50%、期末試験が50%

### ●受講生へのコメント

参考資料による理解とともに、教育の課題について積極的に議論し考察する参加が求められる。

### ●教材

教科書は使用しないが、比較教育学に関する参考書・文献資料・ビデオ等の資料を用いる。

## 宗教と社会

Religion and Human Society

（後期② 火・1 全）

2単位

文学研究科 仲原 孝

### ●科目の主題と目標

あらゆる宗教は社会を構成する。したがって宗教には必ず社会的な問題がつきまとう。この授業ではこうした宗教をめぐる社会的問題を、講義形式でさまざまな角度から考察して行く。

### ●授業内容・授業計画

今年は「宗教多元論」の問題について考察する。あらゆる宗教は自己自身を絶対的な真理と見なすものであり、無数の宗教が共存しなければならない現代世界では宗教対立が深刻な問題となっている。講義では、この問題に取り組んだ先人の思想を吟味しながら、宗教共存の可能性を探る。

授業計画は次のとおり（ただし授業進度の関係上、授業計画に多少の変更が行われる場合もありうることを付記しておく）。

1. 宗教多元論の問題
2. ヒックの宗教多元論の原理
3. 排他主義・包括主義・多元主義

4. ヒックの宗教多元論の限界

5. ラーナーの「無名のキリスト教」論

6. ラーナーとカント

7. 宗教的アプリオリは存在するか

8. ニーチェの道徳的パースペクティヴィズム

9. 貴族的道徳と奴隷的道徳

10. パースペクティヴィズムと永遠回帰思想

11. ニヒリズムと宗教多元論

12. 西谷啓治の「空」の宗教哲学

13. 仏教とキリスト教

14. 「空」は宗教多元論と調和するか

15. あるべき宗教多元論とは

### ●評価方法

小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずるべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらすべてが満たされていることが、単位認定の必須の条件となる。

## ●受講生へのコメント

宗教の問題に唯一の確定的な答はありえない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答案は最低の評価となるので注意すること。

## ●教材

教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。宗教学・宗教哲学全般に関する一般的な参考書としては次のものを推薦しておく。藤田正勝・細谷昌史編『シリーズ新しい教養の科学—宗教学』（昭和堂）。

## 現代社会学入門

Invitation to Contemporary Sociology

(前期②) 月・2 全)

2 単位

文学研究科 進藤 雄三

## ●科目の主題と目標

社会学という学問領域に関する概括的知識を学習するとともに、現代社会に生起している多様な社会現象を主題ごとに検討し、社会学的思考法に関する理解を深める。

## ●授業内容・授業計画

- 1 社会学：オリエンテーション：概観
- 2 自己：「個人化」のなかの「私」
- 3 家族：現代家族の歴史的位相／家族危機？
- 4 逸脱：犯罪への2視点／規範の社会的生成
- 5 医療：現代医療の歴史的位相／医療化
- 6 教育：日本型学歴社会／教育の現在
- 7 宗教：世界史における宗教／現代における宗教
- 8 政治：国家と市民社会／民主主義のパラドクス
- 9 メディア：メディア論の現在／情報社会論

- 10 ジェンダー：ジェンダー論の歴史／現在
- 11 エスニシティ：民族主義から多文化主義へ
- 12 エイジング：高齢社会論の誕生／エイジズム
- 13 階層：階級から階層を経て「格差」へ
- 14 現代社会の歴史的位相：現代とは何か
- 15 まとめ：社会学的思考法

## ●評価方法

出席3・コメント3・試験4の割合で評価する

## ●受講生へのコメント

キーワードを指示するので、復習・予習の際に該当箇所を読んでおくこと。

## ●教材

参考書：「新しい世紀の 社会学中辞典」（ミネルヴァ書房，2005）

## 現代の社会問題

Contemporary Social Problems

(前期 金・2 全)

2 単位

非常勤 大倉 祐二

## ●科目の主題と目標

現代日本の社会が抱える社会的な「問題」や「病理」、あるいは「疎外」の現象について社会学的な解明と考察を試みる。

常識や既存の価値、あるいは権威に囚われない社会学的な見方を身につけることを目標とする。

## ●授業内容・授業計画

本講義では具体的に、寄せ場（釜ヶ崎）、「ホームレス」、「ネットカフェ難民」、「少年犯罪の凶悪化」などの「社会問題」を取りあげる。

- 1 オリエンテーション
- 2～4 「一億総中流社会」と寄せ場
- 5、6 釜ヶ崎の膨張と弱体化
- 7 「ホームレス問題」の社会問題化

- 8 「ホームレス」とは誰か
- 9 「ホームレス」の仕事と生活
- 10 社会問題としての「ネットカフェ難民」
- 11 「ネットカフェ難民」の労働と生活
- 12、13 「少年犯罪の凶悪化」論の検証
- 14 「ホームレス襲撃事件」と少年の供述
- 15 まとめ

## ●評価方法

期末試験100点

## ●受講生へのコメント

ある社会問題で議論される内容は必ずしも現実を忠実に反映しているわけではないことを理解してほしい。

## ●教材

適宜、プリントを配布する。

## 世界のなかの日本経済

Japanese Economy from the World Viewpoint

(前期① 火・1 全) 2単位

(前期② 火・1 全) 2単位

経済学研究科 佐藤 光

### ●科目の主題と目標

世界経済の現状を概観したあと、日本経済が現在直面している課題を初心者向けに解説しながら、これから建設すべき新しい日本の姿を模索する。

### ●授業内容・授業計画

1. はじめに
2. 世界経済の現状
  - (1) 金融危機①——アメリカのバブルはなぜ弾けたか
  - (2) 金融危機②——世界恐慌の足音
  - (3) 先進諸国の停滞とBricsの台頭
  - (4) 地球環境問題
  - (5) 「グリーン・ニューディール」へ
3. 日本経済の課題
  - (1) 日本経済システムの過去——「会社主義」の光と影
  - (2) 日本経済システムの現在——「派遣切り」はなぜ起こったか
  - (3) 日本経済システムの未来——「保守的改革」の可能性

(4) 財政危機と年金問題

(5) 社会福祉

(6) 農村と田園

(7) 「美しい日本」へ

4. 終わりに——日本の未来を愛すべきこと

### ●評価方法

通常の試験による。

### ●受講生へのコメント

経済および経済学についての予備知識は必要ないが、世界と日本の現実への熱い関心が必要。

### ●教材

教科書は使用しないが、以下の拙著（〔4〕は編著）を参考文献として挙げておく。

- [1] 『入門・日本の経済改革』PHP新書、1997年。
- [2] 『柳田国男の政治経済学』世界思想社、2004年。
- [3] 『カール・ポランニーの社会哲学』ミネルヴァ書房、2006年。
- [4] 『生命の産業』ナカニシヤ出版、2007年。
- [5] 『リベラリズムの再構築』書籍工房早山、2008年。

## 現代経済学入門

Introduction to Modern Economics

(後期① 水・3 全) 2単位

(後期② 水・2 全) 2単位

経済学研究科 田畑 理一

### ●科目の主題と目標

私たちが生きていく上で、不可欠な活動が経済活動です。衣食住すべてが現代社会では市場メカニズム（機構）を通して実現されています。市場メカニズムがどのように作動し、どのように経済活動が実現され、労働、交換（＝売買）、所得が実現されていくのか、また、政府は経済に対してどのように働きかけるのか、このようなことを考え、理解することを目指す。

講義の6－7割はマクロ経済学的知識の準備を行い、その上で、赤羽隆夫氏のマクロ経済論、赤羽モデルを紹介する。国際収支、為替レート、08年国際金融危機についても触れたい。

### ●授業内容・授業計画

- 第1講 経済学（経済的思考）とは何か
- 第2講 経済活動の目的
- 第3講 国民所得の生産
- 第4講 国民所得の分配
- 第5講 国民所得の支出

第6講 IS分析

第7講 LM分析

第8講 IS－LM分析

第9講 経済成長

第10講 赤羽モデル

第11講 赤羽モデル以外の赤羽説

第12講 為替レートと国際収支

第13講 国際金融危機について

### ●評価方法

期末試験の成績によって評価する。

### ●受講生へのコメント

一国の経済を全体として考えることの醍醐味、興味深さを伝えたい。そのためには、授業にでてもらいたい。抜き打ちで出欠をとる。

### ●教材

とくに教科書は使わないが、文献はその都度指示したい。



## 法と社会

Law and Society

(後期① 木・4 全) 2単位

(後期② 木・1 全) 2単位

法学研究科 桐山 孝信

### ●科目の主題と目標

本講義は主として法学部学生以外の学生の受講を念頭に置いて、いくつかの法制度・裁判制度をとりあげ、それらが私たちとどのようにかかわっているか、制度のあり方をどのように考えればよいか、ということを中心に考えていく。したがって講義の目標は、あれこれの法制度や裁判制度を単に覚えるのではなく、批判的に考察し、積極的にかかわるための手がかりとなるような理解に達することである。

### ●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方、評価方法など）

第2回～第5回 裁判員制度を知る、考える、実践する

第6回、7回 刑事裁判の諸問題

第8回、9回 日本国憲法の誕生と憲法9条

第10回～第14回 平和をめぐる憲法と国際法

### ●評価方法

講義時間中および時間外に課す数回のレポートと期末試験の成績により評価する。なお、遅刻は厳禁であり、遅刻者は減点の対象となる。

### ●受講生へのコメント

本講義を通じて現実に生起する社会的な問題に関心を持ってほしい。また現にそうした関心を持つ学生の参加を希望する。

### ●教材

講義中に言及する。

## 日本の企業

Japanese Enterprises

(前期① 木・1 全) 2単位

(前期② 木・2 全) 2単位

経営学研究科 高橋 信弘

### ●科目の主題と目標

経済のグローバル化は、皆さんの生活にどのように関係しているのだろうか。日本の食料自給率が低いことや、日本の産業空洞化のため将来の雇用が危ういのではないかなどと思いつく学生もいるだろう。食料自給率や産業空洞化という言葉が知らなくても、「狂牛病のせいで牛肉が食べられないかも」「多くの衣料品が中国で作られている」などと聞けば、ピンとくる人は多いはずだ。これらの現象を経済学の言葉で理解しようではないか、というのが本講義の目標である。講義の内容は、貿易の基礎や為替レートから始まって、サブプライムローン問題、中国経済、さらには全世界規模で進んでいるグローバル化の行き着く先は？などへ話は膨らむ。できるだけ皆さんの興味を惹きつけ、関心・疑問を呼び起こす講義でありたい。

### ●授業内容・授業計画

日本経済はグローバル化の進展とともにどの方向へ進んでいるのか、そのなかで日本企業がどのような展開をしているのかを、最新トピックスを使って説明する。時事問題を論じると同時に、その背景にある世界経済の動きを解説する。

1 ガイダンス

2 貿易の基礎

3 為替レート

4 少子高齢化社会

5 アジア通貨危機

6 サブプライムローン問題

7 世界貿易機関（WTO）と経済連携協定（EPA）

8 日米経済協議

9 中国経済

10 日本の貿易と直接投資の拡大

11 海外へのアウトソーシング

12 技術の空洞化

13 新製品開発

14 日本の農業

15 まとめ

### ●評価方法

期末試験のみ。出席はとらない。試験時の資料持ち込みについては、後日指示する。

### ●受講生へのコメント

以下の教科書にそって授業を進める。

### ●教材

高橋信弘著『国際経済学入門』（ナカニシヤ出版、2009年）。

# ライフサイクルと教育

Life Cycle and Education

(後期 木・2 全)

2単位

大学教育研究センター 矢野 裕俊

## ●科目の主題と目標

教育を人がよりよく生きるための支援の体系としてみるならば、教育に関わるのは、人間の誕生から死に至るまでの一生だということになる。人間は生物学的な「ヒト」として成長、発達を規定されると同時に、社会の中で「人」として生きていく上では、それぞれの発達段階で達成しなければならない課題、通っていかねばならない道筋がある。教育はそうした課題の遂行に関わって、特定の間人関係を媒介として家庭をはじめ学校、地域社会、職場などで展開される。教育はまた、学習のために場を用意し、それにある種の方向付けを与える全体的な営みである。したがって、この科目で取り扱う教育は学校教育に限られない。

この科目では人と人との関係の中で人が学び育つという側面とともに、日常的な組織的教育活動とは異なるさまざまなライフイベント（入学、就職、結婚、病い、死別など）がもつ教育力にも注目し、現代社会における青年期から成人期への移行の問題と成人した人々の学びがもつ意味について多角的に考え、それを毎回の授業のテーマに関連したレポートとしてまとめてもらう。授業では、ライフサイクルと教育の関係およびそこで問題となる主要概念についての基礎的理解を得ることを目標とする。

## ●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション（授業のねらい、内容の解説と進め方、評価の説明）
2. ライフサイクルとは何か 人生をとらえる方法の意義とその限界
3. 「自分」の「今」について考える（1）あなたは大人か子どもか
4. 「自分」の「今」について考える（2）大人になることのむずかしさ
5. 「自分」の「今」について考える（3）「大人-子

ども」概念を再考する

6. 「自分」の「今」について考える（4）アイデンティティとは何か、「自分」とは何か
7. イニシエーション
8. 病気、死とライフサイクル
9. ライフサイクルと学び さまざまな学びのかたち
10. 学ぶことの意味について考える（1）知識・スキル・社会的規範の習得
11. 学ぶことの意味について考える（2）学びによる自己実現
12. 学ぶことの意味について考える（3）学びと社会的排除
13. 生涯学習と学習社会
14. まとめ

## ●評価方法

評価は、1）授業への出席・毎回のふりかえりレポート（50%） 2）レポート（50%） 2項目について評定し、その総合により行う。

## ●受講者へのコメント

随時「ふりかえりレポート」を書くなどにより、自ら考えることと積極的な参加が求められる。

## ●教材

教科書は使用せず、適宜資料（教材）を配付する。参考書として以下の4つを挙げておく。

それ以外は授業時に適宜紹介する。

- ・レビンソン『ライフサイクルの心理学（上・下）』（講談社、1992）。
- ・河合隼雄『大人になることのむずかしさ-青年期の問題-』（岩波書店、1996）。
- ・V・ヘネップ『通過儀礼』（思索社、1977）。
- ・E. H. エリクソン『自我同一性』（誠信書房、1973）。

# 現代社会と健康

Today's Health Science

(前期① 火・1 全)	2 単位
(前期① 木・2 全)	2 単位
(後期① 火・1 全)	2 単位
(後期① 木・2 全)	2 単位
(前期② 水・1 全)	2 単位

医学研究科 運動生体医学 藤本 繁夫 (1 部前・後期火・1 を担当)  
 医学研究科 運動生体医学 吉川 貴仁 (1 部前・後期木・2 および 2 部前期水・1 を担当)

## ●科目の主題と目標

文明の進歩に伴い現代社会は細分化し、我々の生活は便利にかつ快適になってきた。その反面、社会機構や人間関係はより複雑になり、健康を損ねる条件は時代と共に変わりつつある。公害や産業廃棄物などによる環境汚染、生活の便利さとは表裏の運動不足の習慣、アンバランスな食生活、複雑な社会生活や人間関係によるストレス病など種々の健康を阻害する要因が溢れている。

一方では、社会の高齢化が進み、日本人の平均寿命は延長しているが、生活習慣病や癌などの病気はかえって増加の傾向を示し、種々のアレルギー疾患の増加、エイズや鳥インフルエンザに代表されるような新しい感染症が出現し、健康的な日常生活はむしろ脅かされるようになってきている。

現代社会と健康は、自身の“健康”をキー・ワードにして、健康維持・増進のための情報を提供し、積極的な健康づくりについて講義する科目である。医学と健康の領域では、疾患の治療・予防にとどまらず健康を維持し、生活における“Quality of Life”を優先した研究が進んでいる。健康は自身で守るべきものであるが、そのためには正しい医学知識の理解に基づいて実践する必要がある。新しい時代に即した健康と医学の情報は、現代人が充実した、生きがいのある社会生活をおくる上で必要不可欠な情報といえる。

“現代社会と健康”は、以下の教育内容について健康の最新情報を系統的に講述してゆく。特に大学生の時期に、また社会人になってからも活用できるように実践的な教育と指導を行なうことを目標とする。

## ●授業内容・授業計画

1. 健康の総論 (健康とは、病気とは、健康・病気の傾向とその動態)
2. 現代社会の健康を害する因子 (公害、産業、環境、社会生活、人間関係)
3. 健康生理学 (身体活動に必要な心・肺・筋・消化吸収の機能)

4. 運動と健康 (健康維持のための運動、運動効果とその障害)
5. 食生活と健康 (健康に必要な栄養学、食生活と肥満、食中毒)
6. 生活環境と健康 (余暇・休養と睡眠、酒、タバコ、嗜好品)
7. 現代社会と性 (エイズ、性病とその予防、避妊法)
8. 現代社会と精神衛生 (ストレスと心身症、神経症、心身医学)
9. 病気とその予防
  - (1) 癌
  - (2) 生活習慣病 (肥満、高血圧、高コレステロール血症、糖尿病など)
  - (3) アレルギー疾患 (気管支喘息、鼻炎、湿疹など)
  - (4) 感染症 (伝染病、結核、インフルエンザなど)
  - (5) 血管障害 (心筋梗塞、狭心症、脳卒中など)
10. 一般に必要な救急処置 (救命法)、健康政策

## ●評価方法

平常の受講状況 (出席率) に期末試験の成績を加え評価する。

## ●受講生へのコメント

自らの健康に関心があり、健康の維持・増進方法と病気の予防に興味のある学生の受講を希望します。心身の成長が一段落したこの時期に、自分の一生涯を見すえた“自分の健康”について考えてみよう。(出席だけで、またはテストだけで単位取得を考えている学生は受講しないでください。)

## ●教材

教科書

『スポーツ医学(スチューデントトレーナーシリーズ)』  
(嵯峨野書院)

病気に関しては、最新の情報をスライド、プリントで講義する。

## 家族と社会

Family and Modern Society

(前期 金・5 全)

2単位

非常勤 松田 いりあ

### ●科目の主題と目標

高度経済成長期に確立された日本の近代家族モデルは、バブル崩壊から今世紀にかけて大きな変化を経験してきた。

この講義においてはまず、家族社会学の考え方とともに日本型近代家族の過去・現在・未来についての先行研究を紹介する。その際、ジェンダーによる役割の違いに留意する。

つぎに、現代日本社会における家族をめぐる諸現象を、とくに家族の個人化のはらむ両義性という観点から解説する。そこでの課題は、近代家族が空洞化している一方、家族が担ってきた感情的な関係への希求が高まる現状の理解を進めることである。

### ●授業内容・授業計画

1. 家族とは何か
2. 前近代家族
3. 近代家族
4. 日本の近代家族（1）——過去
5. 日本の近代家族（2）——現在
6. 日本の近代家族（3）——未来

7. 映像にみる家族——前半の授業のまとめ
8. 家族の個人化
9. 家族と消費
10. 家族と格差社会
11. 家族とジェンダー
12. 家族と性愛関係
13. 家族というひとつの共同性のゆくえ
14. 家族について学ぶ困難——後半の授業のまとめ
15. 試験

### ●評価方法

期末試験（100点）のみで評価を行う。

### ●受講生へのコメント

家族とは、私たちの存在そのものと良くも悪くも不可分の関係にあるため、学問の対象とすることが難しい。この授業を、家族について考え、語ることの困難を理解する第一歩にしてほしい。

### ●教材

教科書：使用しない。

参考書：授業中適宜指示する。

## メディアの社会学

Sociology of Media

(後期 火・2 全)

2単位

文学研究科 土屋 礼子

### ●科目の主題と目標

本年度の講義では、戦争を伝える視覚的メディアを主題にして、十九世紀から二十世紀におけるさまざまなメディアの具体的な様相をふりかえりながら、メディアがどのように社会的に機能してきたのかを理解するとともに、メディアが個人や社会の認識に与える影響を考察する。

### ●授業内容・授業計画

- (1) かわら版 … うわさから発展したメディアであるかわら版を考える。
- (2) 草創期の新聞 … 欧米で誕生し、幕末から日本に移植された新聞の草創期を論ずる。
- (3) 錦絵新聞 … 浮世絵版画と新聞が結びついて生まれた明治初めのメディアを紹介し論ずる。
- (4) 西南戦争の報道 … 西南戦争が新聞やその他のメディアでどう報道されたかを論ずる。
- (5) 日清戦争の報道 … 日清戦争が新聞・ニュース

冊子・錦絵などでどう報道されたかを論ずる。

- (6) 日露戦争の報道 … 日露戦争が新聞・ニュース冊子・映画などでどう報道されたかを論ずる。
- (7) 風刺画と漫画 … 江戸時代の鳥羽絵から西欧の風刺画の移植、ポンチ絵、漫画への展開を論ずる。
- (8) ニュース映画 … 第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る時期のニュース映画を論ずる。
- (9) 戦争とアニメーション … 第二次世界大戦において日本で発達したアニメーションを論ずる。
- (10) 植民地のメディア … 満州国の満映によって制作された映画を通じて植民地のメディアを考える。
- (11) 戦時宣伝ビラ … 第二次世界大戦において連合国軍が展開した心理戦と対日宣伝ビラを論ずる。



- (12) 占領期のメディア … 敗戦後の日本において占領軍が取ったメディア政策とその実際を論ずる。
- (13) ベトナム戦争の報道 … ベトナム戦争の報道が米国政府の対峙した経緯を論ずる。
- (14) 湾岸戦争の報道 … 湾岸戦争において行われた米国政府の報道規制とその実際を論ずる。
- (15) イラク戦争の報道 … 米国におけるイラク戦争の報道とその問題点を論ずる。

### ●評価方法

毎回、講義を受けた後、終わりの十五～二十分程度の間に課題を書いて提出してもらおう。原則として、各自が提出した課題を各回十点満点で評価し、この合計に基づいて評価を行い、試験は行わない予定である。なお、出

席及び課題提出回数が六割に満たないものは、評価対象としないので注意すること。

### ●受講生へのコメント

講義の前提として、日本史・世界史の知識が必要である。高校などで日本史・世界史を学んでいない者は自習して受講すること。また、実際に当時の原資料に触れる機会を持つために、講義中にいろいろな資料を閲覧するが、資料は丁寧に扱うこと。なお、講義を二十分以上遅刻した者は原則として教室内への入室を禁じるので、遅刻しないように心すること。

### ●教材

各回の講義の最初に、提出用課題の用紙とともにプリントを配布するので、履修者は遅刻しないようにすること。教科書は使用しない。参考書としては、佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、1998）を挙げておく。

## 現代社会におけるキャリアデザイン

Career Design in Modern Society

(後期 火・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

### ●科目の主題と目標

個人のキャリアや職場をめぐる環境が大きく変化しつつある。「就職」で人生の大半が決まるといった従来の日本人の典型的な職業観・働き方・生き方モデルが急激に変化・多様化している。それに伴い、多様な選択肢から、我々1人1人が、自らの生き方・働き方を選び取っていく必要性にも迫られている。一生をかけて自分のキャリアを主体的にデザインしていく観点への移行が急速に求められている。

このような主体的キャリアデザインには、「自ら問題を設定し、自ら考え、自ら解決・行動すること」が一層重要となる。また、そのためには、「情報や知識を複数の視点から注意深く、かつ論理的に分析する」姿勢と能力が必要であり、それとともに、他者の意見や情報を鵜呑みにするのではなく、自分の思いこみも点検しながら、自らの意見をまとめ表現していける力を身につけることが必要となる。こうした力を「クリティカル・シンキング」と呼ぶが、なかでも本科目では、キャリアをめぐる現代の社会変化を題材に、他者の意見や情報、自らの思いこみ等を分析・点検しながら、多角的に考え、自分の意見にまとめ・表現していく力の修得を目指す。

本科目は、就職支援・対策のための科目ではなく、教養教育の一貫としてのキャリアデザインを考えるものである。キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の状況について学び、その中における、個人の生涯を通じてのキャリアデザインのあり方や可能性について、受講生が自らの問題として考えること、そして最終的には現在の自分を相対化できるようになることを目指す。

### ●授業内容・授業計画

授業は具体的には、以下の内容に沿って進める。

- 1 回：ガイダンス・イントロダクション・キャリアデザインとは？
- 2 回：なぜ今キャリアデザイン？  
—大学へ行くことの意味の変化
- 3 - 5 回：現代社会における職場・仕事をめぐる動向
- 6 - 7 回：キャリア選択の多様性と現代の若年労働者の状況
- 8 - 9 回：必要とされる能力・スキルとは？
- 10-14回：自らのキャリアデザインについて考える  
(自己イメージと他者から見た自分像・これからの自らのキャリアと現在の自分、現代社会におけるキャリアデザインとは等)

前半は講義を中心に、毎回の小レポート課題に書かれた意見のフィードバックを行いつつ進め、後半は、課外課題・レポート等にもとづく発表やグループワーク、授業内ディスカッションなど参加型の授業を行う予定。

### ●評価方法

1) 毎時間提出の小レポートと授業参加55点、および2) 期末レポート等課外課題(複数の課題を予定)とその発表等45点の総合評価とする。

ただしこれに加えて、全体回数の3分の2以上の出席が最低限求められる。これは、本授業が、単なる知識伝達型授業ではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

### ●受講生へのコメント

本授業では、各テーマの現状・動向を、ただ知識として吸収するだけでなく、毎回、自らの問題として向き合い・考えていくことを求める。そのため、毎時間の授業内レポート等で自らの意見を根拠とともに論理的に表明



してほしい。それらを出来る限り授業でフィードバックしながら進めたいと考えている。

また、全学共通教育科目であり、異なる学部学科の異なる考え方や観点を持つ多様な受講生のなかで、互いの意見を分かりやすく伝え合い、意見交換を行い、自分の考え方を相対化する経験を得る機会として欲しい。そのため、授業内の発表やグループワーク等にも積極的に参

加してほしい。

最終的には、社会における自らの今後のキャリア・人生、そして、働くということについて考えることを通して、現在の自己を相対化し把握する契機として欲しい。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

## 現代社会と大学

University and Modern Society

(前期 木・4 全)

2単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題と目標

「大学」とはそもそもどのような場か？自分が通っている「自分の大学」はどういうところなのか？当たり前のように今通っている大学はどうやって出来たのか？考えてみたことはあるだろうか。

同世代の2人に1人が大学や短大に進学する時代を迎えた日本の大学は、広く大衆や世界に開かれた場となり、かつてないほど多くの役割を社会から期待されている。大学に関する論議も頻繁に行われ、大学は存在意義・あり方を社会から問われている。

今ある「大学」はどのように出来たのか。大学が現在抱える諸問題はどのようなもので、何故生じたのか。また、大学および学生に対する社会からの現在の評価はいつ頃生まれたのか。授業ではこれらの点について、現在の問題を起点としつつ、歴史の側面からも考えることを通して、今後の大学のあり方を考えることを目指す。

「大学」というテーマは、学生にとって、学部を超えた共通の身近なテーマであるとともに、自らの足もとから社会や世界に広がるテーマでもある。本授業を通して、自分の大学の色（特色）を実感し、そこから広がる現代社会を考えつつ、学生としての自分を相対化して捉えてみてほしい。

本授業で大学について考えることを通し、自らの足もとを改めて確認し、大阪市大での自らの学びのあり方・学生としての関わり方について考えることを最終目標とする。

●授業内容・授業計画

以下の5つの内、1.と2.の側面を中心に、見ていくこととする。

1. 今ある大学はどのようにできたのか？  
～大学「制度」成立過程
2. 今の学生・昔の学生～大学で学ぶ「学生」の変化
3. 大学とはどういう存在なのか？  
～「社会との関係」の変遷
4. 大学で学ぶということは？  
～「教育機能」と教養教育
5. これからの大学はどうなっていくのか？  
～法人化・大学評価・学士過程教育

授業計画としては、初回授業はガイダンスを行い、2～6回目授業で1.の側面について扱い、その後、7～10回目で2.と3.について、11～14回目で4.と5.について考えていく予定である。

なお、それぞれのテーマを扱う際には、現在の状況と同時にその背景についても考え、また、日本の大学全体の問題と同時に、自分がその中で学んでいる大阪市立大学という長い歴史を持つ1公立大学のケースについても考える。日本の大学全体の中に大阪市大はどのように位置づけられるのだろうか。「大阪市大らしさ」とは何か、についても考えていく。

●評価方法

評価割合は1) 毎時間提出のレポート課題と授業参加が60%、2) 期末レポートが40%とする。

ただしこれに加えて、全体の3分の2以上の出席回数が、最低限求められる。これは、本授業が、単なる知識伝達型授業ではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講者へのコメント

この授業は、講義をただ聴き知識を吸収するのではなく、大学に関するテーマについて自らの問題として考えることを通して、「学生」としての自らの立場や、「大学で学ぶ」ということの意味を考えることを目標としている。そのため毎回の小レポートや授業内発表等で、大学に関する問題への自らの意見を積極的に表明することを求める。それら意見を出来る限り授業内でフィードバックしつつ授業を進めていく。

また、現在の大学をめぐる動向・大学や学生への社会の眼差しを実感するために、毎回、大学に関する記事・ニュース等を探すことを課外課題として課し、その要約と意見を毎回の小レポートに記入することも求める。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。サブテキストとして『大阪市立大学の125年』を使用する。

**基礎会计学**

Basic Accounting

(前期 水・1 全)

2単位

経営学研究科 向山 敦夫

**●科目の主題と目標**

経済社会において、財務会計が果たす役割は、ますます増大している。伝統的には、資金の委託者である株主に対して、受託者である経営者が管理・運用の成果を報告する説明責任 (accountability) の遂行であり、現代では証券市場における投資家の判断に役立つ情報提供である (意思決定有用性)。

企業は、日々の経済活動を取引として記録している。それをまとめたものが財務諸表 (代表的には、貸借対照表と損益計算書) であるが、複式簿記は、それを支える技術的基礎である。

企業活動を理解する上で、会計の知識は不可欠である。企業で働くということは、会計情報と日々向き合うということである。ただし、それに縛られてはいけないが。

本講義は、基本的な複式簿記のメカニズムについて理解することを目的としている。日本商工会議所主催の簿記検定 (日商簿記) 3級レベルの知識を身に付けることを目標としている。

**●授業内容・授業計画**

1. 簿記・会計の意義と歴史
2. 貸借対照表と損益計算書
3. 取引と貸借平均の原理
4. 簿記一連の手続き
5. 仕訳 (現金・預金・有価証券)

6. 仕訳 (商品売買)
7. 仕訳 (手形、その他債権債務)
8. 仕訳 (固定資産、減価償却、引出金等の資本取引)
9. 仕訳 (貸倒引当金)
10. 仕訳 (収益・費用の繰延と見越)
11. 決算整理 (1)
12. 決算整理 (2)
13. 総合問題 (1)
14. 総合問題 (2)
15. 簡単な経営分析

**●評価方法**

期末に試験をおこなう。試験は計算器のみ持ち込み可とする。日商簿記検定の資格取得者は評価の際に考慮する。

**●受講生へのコメント**

規則正しい複式簿記のメカニズムを理解する必要があり、そのためには、積み上げ式の理解が不可欠である。

**●教材**

加古宜士・渡部裕巨 (編著) 『新検定簿記講義 3級商業簿記 (平成21年度版)』 (中央経済社) を使って講義を進める。なお、毎回計算器を持参すること。

自主学習用として、松本敏史編『ゼロからの簿記トレーニング術』 (中央経済社) 等のワークブックを併用すれば効果的である。

**日本の企業 演習**

Seminar : Japanese Company

(前期 木・2 全)

2単位

経営学研究科 中瀬 哲史

**●科目の主題と目標**

アメリカ発の金融危機は世界経済に大変な影響を与えている。それに対して、世界は「G20」を開催して対応しようとしている。そのサミットには、従来の先進国サミットでは参加できなかった韓国、中国、インド、ブラジル等の新興国も参加している。翻って、日本に、そして日本の企業に注目した場合、今後、どのように対応していくのだろうか。そこで、これまで、日本の企業はどのように思考し、どのように活動してきたのか、を検討する中で、これからのあり方を考えていきたい。

**●授業内容・授業計画**

授業は以下のように計画している。

1. オリエンテーション
2. 企業を起こす
3. 企業形態を変える

4. 新しい事業の創造
5. いかに競争するか
6. M&Aと外部資源の活用
7. 破壊的技術への対応とドメインの再定義
8. 日本的生産システム
9. 企業の知識体系
10. 日本的経営と人事管理制度
11. 消費者の変化に対応する事業システム
12. ニーズの絞り込みによる市場創造
13. 会社は誰のものか
14. ビジネスの倫理

本授業は演習形式である。そこで、参加学生をいくつかのグループに分けておき、出席学生にテキストに収録された「日本の企業」のケースの内容と論点を、パワーポイントやレジュメ等で発表してもらい、討論する。以

上から、課題に対する発見能力、解決能力とコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を身につけてもらうことをも期待している。

●評価方法

レポート、出席等で評価する。

●受講生へのコメント

日頃から、企業経営に興味を持って、本授業にのぞんでほしい。

●教材

東北大学経営学グループ(2008)『ケースに学ぶ経営学 [新版]』(有斐閣ブックス)

現代社会と大学 演習

Seminar: University and Modern Society

(後期 木・3 全)

2単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題と目標

本授業は、現代の大学が抱える多様な問題を共通題材として、自分で調べ、その成果を発表し、学年・学部学科を超えたメンバーでのディスカッションを行う。自らテーマを設定し、自分の意見をまとめ、互いに伝えあい話し合う経験を通して、自ら課題を発見し解決策を考える力や多角的に物事を捉える力・コミュニケーション力の基礎の修得を目ざす、受講生参加型の演習授業である。

現代社会における大学が抱える諸問題・大学と学生の位置づけについて考えることや、大学の一部である「学生」という立場で内側から見る「大学」と、外側から見られている「大学」像・「学生」像を比較し実感することを通して、より客観的に「大学」や「自分自身が大学で学ぶ意味」を捉えなおし、考察することを目標とする。最終的には、今後の大学自体のあり方とともに「自らの学びや学生としてのあり方」を考え、自己の相対化・客観化を行うことを目ざす。

●授業内容・授業計画

本授業では、大学に関する以下の6テーマ(他に興味のあるテーマがあれば応相談)の中から、各自orグループの調査希望に沿って選んだ4~5つのテーマに関して進める。

【テーマ】

1. 大学の大量化と学生の学力の問題
2. 社会から求められる能力・スキル
3. 大学の入り口・出口問題
4. 21世紀社会に求められる教育内容
5. 専門職大学院と職業資格
6. グローバル化と大学

授業は以下のとおり進める予定。

- 1 回目授業：ガイダンス・メンバー紹介・希望テーマ調査
- 2~3 回目：調査テーマ決定・調査方法の検討・グループ分け等必要に応じて資料検索・収集と調査のまとめ方指導
- 4~14 回目：上記4~5テーマについて、テーマ毎に授業2~3回分を1サイクル(発表と補足講義+ディスカッション)として授業を進める。

●評価方法

1) 授業内提出課題、2) テーマについての調査報告発表の相互評価、3) それをもとにまとめた最終レポート、4) ディスカッションへの参加度合い、5) 授業活動全体への参加度合いをそれぞれ20%ずつ総合評価する。(20点×5項目=100点)

なお、授業内の活動参加を重視する科目のため、全体の3分の2以上の出席回数が最低限求められる。

●受講生へのコメント

本演習では、自らの発表担当回に限らず、授業内外での多くの自律学習と、授業内の活動への積極的な参加が求められるが、それらに真剣に取り組むことで、課題設定・探求力、思考力、自律的学習力・コミュニケーション力等の基本が身につくと考える。投げ出さずに最後までがんばって取り組んでほしい。

参加型の演習授業のため、受講生を15名程度に制限する。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

## 現代の部落問題

Buraku Issues in Modern Japanese Society

(後期 金・2 全)

2 単位

特任 上杉 聡

### ●科目の主題と目標

部落差別は、今なぜ、どんな形で残っているのか。それをどうすれば撤廃できるのか。こうした問題を解き明かすことで、日本現代社会の現実と構造がみえてくる。

方法として本講義では、明治維新から現代までの部落の歴史を取り上げる。歴史を掘り下げることにより、問題がより具体的に分析・把握できるからだ。それをふまえ、部落差別の撤廃にむけた展望や政策についても検討する。また教室での学習だけでなく、フィールド・ワークを被差別部落でおこなう。

こうして、研究と体験を踏まえ、部落差別を必要としてきた社会を根底から見直し、差別を克服したいと願う学生諸君と、討論を通し、ともに考え、研究していきたい。

なお、この講義内容を深く理解し、一緒に考えるためには、前期の「部落差別の成立と展開」を取っておくことを希望する。

### ●授業内容・授業計画

- 第1回 今、部落差別はどんな形で残っているか
- 第2回 部落差別の本質、中世から江戸時代までの簡単な部落史（「部落差別の成立と展開」のおさらい）
- 第3回 明治初年に部落解放反対一揆はなぜ起こったか
- 第4回 戸籍制度の成立と明治・大正期の差別
- 第5回 島崎藤村『破戒』をめぐって
- 第6回 日本資本主義と部落差別の関係
- 第7回 討論（テーマと進行は学生諸君が決めて実施）

- 第8回 被差別部落へのフィールド・ワーク
- 第9回 水平社運動の高まりと国家の壁
- 第10回 戦争と差別の諸相
- 第11回 戦後憲法の成立と同和事業
- 第12回 現在の部落差別と必要とされる政策
- 第13回 討論（テーマと進行は学生諸君が決めて実施）
- 第14回 予備時間（授業が順調に進んだ場合「ハンセン病への差別問題」を取り上げる）

### ●評価方法

期末の試験と出席により評価を行う。

### ●受講生へのコメント

今も根強く部落差別が残っていることに疑問を持つ諸君も多いと思う。そのため、まず現在起こっている差別を紹介したい。それを歴史的にたどり、明治初年から現代にかけて差別が残されてきた仕組みを解明する。それは同時に、差別を撤廃する方法を示唆するものとなる。

部落差別を最終的に克服する課題は、学生諸君の世代に委ねられている。その大切な事業の内容と責任について、一度真剣に考えてみたいと思う諸君の受講を期待している。

### ●教材

上杉 聡『これでなっとく！部落の歴史』（2009年、解放出版社）

大阪市立大学人権問題研究センター編『人権問題ハンドブック1…部落問題編、改訂版』（2006年発行。これは、講義の時に配布する）。

## 現代の部落問題

Buraku Issues in Modern Japanese Society

(前期② 金・1 全)

2 単位

非常勤 内田 龍史、中村 清二、  
谷元 昭信、齋藤 直子

### ●科目の主題と目標

部落問題は日本の歴史と文化に根ざした深刻な社会問題の一つである。この問題の解決のために1969年から法的措置が続けられてきた「同和対策事業」は2002年3月で終了した。しかし、行政だけでは解決できない差別意識などの問題が依然として多く残されている。この講義では現代の日本社会において部落問題とは何を意味するかについて考えるとともに、現在その解決のために運動体、NGO/NPO、学校、企業がどのような活動を行っているのかを知り、今後の課題を考える。

この科目の目標は部落問題について正しい知識を身につけることにとどまらない。部落問題に関する自分なりの意見を持ち、それを表現する力を持ち、さらに様々な問題を解決することのできるスキルを身につけることが

この科目の目標である。

### ●授業内容・授業計画

内田龍史（非常勤、部落解放・人権研究所研究部員）が部落問題についての基礎的な知識と理論の紹介を担当し、中村清二（非常勤、部落解放・人権研究所研究部長）、谷元昭信（非常勤、ヒューマンライツ教育財団理事）が部落問題解決の実践的課題について担当し、齋藤直子が結婚差別について講義する。授業計画は次の通りである。

内田龍史 4月10日～5月8日

- ① 部落問題の基礎知識
- ② 現代の部落問題の諸相（1）
- ③ 部落解放への取り組み
- ④ 現代の部落問題の諸相（2）

中村清二 5月15日～6月5日



- ①今日の部落の実態と課題
- ②部落出身者のアイデンティティと生き方
- ③学校発・人権の街づくり - 教育コミュニティー
- ④グローバル化時代の企業と人権

谷元昭信 6月12日～7月3日

- ①部落問題認識をめぐる諸問題
- ②部落解放運動の史的展開と今日的課題
- ③人権の法制度確立への現状と展望
- ④人権のまちづくり運動の展開と現状

齋藤直子 7月10日～7月24日

- ①結婚差別を考える（その1）…日本における結婚の現状と結婚差別
- ②結婚差別を考える（その2）…ワークショップ
- ③定期試験

●評価方法

毎回提出してもらったコミュニケーションカード、小レポート、ワークショップへの参加、定期試験によって総合的に評価する。また授業時に小レポートを課題と指示することもあるので、注意すること。

●受講生へのコメント

【内田龍史】今から10数年前、大阪市立大学に入学し、私自身も大学の講義を通じて本格的に部落問題と出会い、向きあうことになりました。部落問題を学ぶことを通じて、現代社会におけるさまざまなマイノリティとの共生を展望する、そのキッカケとなるような講義を展開したいと思います。

【中村清二】部落問題との出会いを大切にしていけることを望みます。それは差別への認識を深めていくことだけではなく、自ら自身のアイデンティティ、人間性を豊かにしていくことだと思います。そのお手伝いをするのが授業です。幸いにして情報（文献）はたくさんありますので、皆さんからの積極的なアプローチを求めます。

【谷元昭信】部落解放運動は、2006年に社会的に指弾される不祥事を引き起こしました。その背景分析などを踏まえながら、現在の部落問題の認識の方法論や運動的・行政的・市民的課題を実践現場からえぐり出し、今後の課題をみなさんと率直に意見交換したいと思っています。そのことを通じて、人と人との豊かな関係づくり、人と社会との公正な関係づくりのために、一人ひとりの生き方に何が求められているのかを模索していきたいと思っています。

【齋藤直子】私の担当する2回の講義では、結婚差別について考えていきます。部落出身者に対する結婚差別について考察することを通じて、結婚制度のあり方そのもの、あるいは受講者みなさん自身の結婚のあり方について考えを深められるような授業をしていきたいと思っています。最後の週は、定期試験になります。私の担当する2回の講義だけでなく、本講義すべてをふまえた論述式の試験をおこないます。

●教材

『講義レジュメと資料』を授業開始時に配布する。その他、参考文献については、授業の時に紹介する。

## 都市社会と差別

Discrimination in Urban Society

(後期 金・1 全)

2単位

非常勤 中川 健一

●科目の主題と目標

講師は40年近く通信社に勤務してきたジャーナリストで、研究や教育の専門家ではない。そのため講義では、講師がこれまで取材してきた具体例を挙げながら、「都市社会と差別」の実態や原因、そして差別克服に向けた道筋を、受講生の皆さんと考えていきたい。

まず「差別と偏見とは何か？」という総論から入り、部落差別、女性差別、障がい者差別、民族差別などの概況や背景を学んでもらう。さらに「格差社会と雇用」「報道と人権」などのテーマや、差別社会を共生社会へと創り変える展望について講義する。

全体を通じ、受講生が差別問題を知識として学ぶだけでなく、「共に生きる社会」実現に向け、将来さまざまな専門分野で行動していくための「入門編」といった内容である。

●授業内容・授業計画

講義は以下のようなテーマを中心に考える

- ①はじめに
- ②差別とは何か？

- ③偏見とは何か？
- ④差別意識の現状
- ⑤部落差別
- ⑥女性差別
- ⑦グループ討論
- ⑧障がい者差別
- ⑨民族差別
- ⑩その他の差別（上）
- ⑪その他の差別（下）
- ⑫「格差社会」など労働問題と差別
- ⑬報道と人権
- ⑭共生社会創造の展望
- ⑮まとめ

●評価方法

出席状況、コミュニケーションカードの内容、レポートなどで評価する。

●受講生へのコメント

講師が教えるだけ的一方通行ではなく、受講生から疑問や意見をどんどん出してもらい、自由闊達（かつたつ）



に議論し合う「双方向」の授業にしたい。ビデオなども活用する。

学生の「活字離れ」「新聞離れ」が深刻だが、新聞購読は知的生活の基本だ。講義では、新聞をはじめ「情報をクリティカルに読む習慣」を養うため、その時々ニュースについても解説したい。

●教材

解放出版社編『人権キーワード2009』（2009年、解放

出版社）

部落解放・人権研究所編『人権年鑑 2009』（2009年、解放出版社）

寺木伸明・野口道彦編『部落問題への招待－資料と解説<第2版>』（2006年、解放出版社）

中川健一著『メディアを人権からよむ』（2006年、解放出版社）

その他、講義の際に紹介する。

## 部落解放のフロンティア

Frontiers of Buraku Liberation

(後期 金・1 全)

2 単位

特 任 上杉 聡

非常勤 友永健三、大賀正行

●科目の主題と目標

部落問題は日本の歴史と文化に根ざす深刻な社会問題の一つである。この問題をどう理解するかは重要であるが、理解することと問題を解決することとはまた次元が異なっている。この講義の主題は、「いかにして部落問題を解決するか」ということであり、部落問題の解決(部落解放)のために最先端(フロンティア)で取り組んでいる二人の講師を招き、その実践について客観的かつ理論的に分析してもらいながら、これからの実践的課題について考察する。当然のことながら、部落解放のフロンティアの一つではない。受講者には、あなた自身のフロンティアを見いだすことを目標としてもらう。

この講義は部落問題について知らない人を排除するものではないが、問題解決という実践的課題に焦点を絞るために、すでに部落問題の基礎知識を有していることを前提としてすすめる。大学入学までに十分な同和教育を受けていない人には、前期に『部落差別の成立と展開』や『都市社会と差別』などを受講するか、部落問題についての基礎的な文献を読んで勉強しておくことを強く希望する。

●授業内容・授業計画

この講義は、部落解放の最前線で活躍する講師を招いて、今のような問題意識で、何が課題とされ、どのように取り組まれているのかを聞き、自らの課題としてどのように受けとめるのかを考える。人権問題研究センターの上杉聡が全体をコーディネートする。前半の6回を部落解放・人権研究所理事であり反差別国際運動(IMDAR)事務局次長である友永健三先生が講義を行う。後半4回を、「第三期の部落解放運動」を提唱し解放運動に大きな影響を与えた大賀正行先生(部落解放・人権研究所名誉理事)が講義する。その間にグループ討論を行い、講義で学んだ内容を受講生同士が議論することにより深める。最後に、上杉がまとめを兼ねて講義を行う。

授業計画は次の通りである。

第1回目：<上杉担当>○部落解放運動の歩みを振り返る(ビデオ『水平』2002年制作)

第2回目：<友永担当>○部落問題をどうとらえるか

第3回目：<友永担当>○今、改めて部落地名総鑑差別事件を問う

第4回目：<友永担当>○部落解放・人権施策の確立を求めて

第5回目：<友永担当>○世界人権宣言と国際人権規約

第6回目：<友永担当>○人種差別撤廃条約の締結の意義と課題

第7回目：<友永担当>○同和教育の成果を踏まえ人権教育の創造を

第8回目：<上杉担当>○グループ討論

第9回目：<大賀担当>○第3期の新しい部落解放運動を考える(1)

第10回目：<大賀担当>○第3期の新しい部落解放運動を考える(2)

第11回目：<大賀担当>○第3期の新しい部落解放運動を考える(3)

第12回目：<大賀担当>○第3期の新しい部落解放運動を考える(4)

第13回目：<上杉担当>部落解放の戦略と可能性(1)

第14回目：<上杉担当>部落解放の戦略と可能性(2)

第15回目：<上杉担当>部落問題の解決を現代社会にどう位置づけるか

(振り替え授業によって、若干の日程の変更が生じる場合もある。)

●評価方法

出席状況と、毎回提出してもらうコミュニケーションカードの内容、グループ討論への参加度によって総合的に評価する。コミュニケーションカードの内容については、それぞれの担当者が評価する。

●受講者へのコメント

今日、新自由主義的な経済政策が破綻し、世界的にも国内的にも不況の深刻化とともに失業者が増大し差別が深刻化してきています。このような時代の転換期にあたって部落差別の撤廃をはじめ一切の差別を撤廃し人権文化を世界的に築き上げることは決定的に重要です。そのためには何かできるかを共に考えて行きたいと思っています

ます。(友永)

部落問題とは、単に部落の人々のきのどくな問題ではない。日本の近代化、戦後民主主義、日本社会のあり方、さらには各自の人生観や生きざまに関わる重要な社会問題です。このことを部落解放運動の理論や実践を通して学んでいただきたい。(大賀)

●教材

『2009年度 部落解放のフロンティア--講義レジュメと資料』を、第1回目に配布する。

『人権問題ハンドブック1…部落問題編,改訂版』(2006年発行) 講義の時に配布する。

参考図書などについては、『講義レジュメと資料』を参照。

## 部落差別の成立と展開

History of Discrimination against Buraku

(前期 金・1 全) 2単位

(前期 金・2 全) 2単位

特任 上杉 聰

●科目の主題と目標

被差別部落とそれを生みだした社会の歴史について、もうすでに小、中、高の段階で、ある程度学んだと思う。「士農工商穢多非人」のピラミッド図式や、部落の始まりは江戸時代の初期にあるなど、聞き飽きた人がいるかもしれない。

だが、部落の歴史研究の進展は、とくにこの20年間めまぐるしく、その固定観念がゆさぶられる段階に達した。本講義では、そうした最先端の研究成果をもとに、部落差別とは何か、そしてその始まりと歴史を、平易に、しかし本格的に検討してみたい。

どんな物事においてもそうだが、歴史を知ることは、現状を知り将来の展望を導き出すために不可欠である。大学に学んでいるこの機会に、部落問題を一度根底から考えてみたい、また本格的に取り組んでみたいと考える諸君に、是非とも歴史から深く学ぶ方法を知っていただきたいと考えている。

●授業内容・授業計画

1. 部落史原論

部落差別とは何か、そもそも部落とは何か、他の差別との違いと同質性、部落差別は日本だけにあるのか。

2. 起源

部落差別の始まりは、本当はどこに？

3. 部落を時代を追ってとらえると…… (計8回)

中世～近世の日本社会全体の歪みがみえてくる

4. 部落差別と日本の文化 (計2回)

芸能・宗教に表われた部落差別

●評価方法

期末試験と出席で評価する。

●受講生へのコメント

真実は人を自由にする。厳しく理不尽な差別の歴史だが、それを根底から考え直すとき、私達の精神は自由になり、解放される。部落の歴史を知ることは楽しいことだ。お説教やドグマを求めて講義を受けに来る人がもしいるとすれば、その人をガッカリさせてあげたいし、大学らしい知性溢れる授業にしよう努力したい。

●教材

教科書 (毎回使用する)

上杉 聰『これでわかった！部落の歴史』(解放出版社)

参考書

上杉 聰『天皇制と部落差別』(解放出版社)

同 上『部落史がわかる』(三一書房)

同 上『よみがえる部落史』(社会思想社)

## 部落差別の成立と展開

History of Discrimination against Buraku

(後期② 金・1 全) 2単位

非常勤 辻本 正教

●科目の主題と目標

1970年代以降活発化してきた部落史論は、膨大な地域史料の発掘とともに、これまでとまったく違った様相を呈してきている。中でも、近世大和における旧穢多村とそれ以外の「一般村」との間における土地所有実態等の解明から、これまでの部落史観がその根本から崩されようとしていることの意義は大きい。被差別部落はその成立からして悲惨であり貧困であったとする従来の歴史観が打ち破られたのである。近世大和における多くの旧

穢多村は他に比して遜色なく土地を所有し、経済活動もまた他に比してより活況を呈していたことが公然化されたのである。逆に、部落の貧困化は明治期以降、とりわけ松方デフレ以降に現出したものであったということが明らかとなってきたわけであるが、そんな中、では一体、部落差別とは何であり、何によって形作られたものであったのかという点の解明が、従来に増して必要とされるようになってきたのである。そこでこの講義は、部落解放にむけた展望とも重ね合わせながら、従来の部落史観

の転換を図っていくものとする。

●授業内容・授業計画

従来の部落史論の多くは、部落の成立が近世にあるものとし、穢多身分は近世幕藩勢力によって創出されたとする立場をとりつづけてきた。ところが、一般の歴史学界ではすでに、そのような考え方が一笑に付されている現実にあるのである。では何故そのような部落史が今もなお通用しているかという、圧倒的多くの歴史学者が今なお部落問題をタブーとし、彼と彼女らがもっているはずの本音をいまだに語ろうとしないという理由が一つ。さらには、部落史に手を染められている学者・研究者の中に、現実の部落解放運動に対する意識・無意識を問わない遠慮や配慮があったからだと言える。

本講では上記のような二側面からする制約をとっばらいつつ、自由な立場で部落史を、いや日本史の一断面を切りとってみたい。その意味で本講では部落の成立を中世とみるいわゆる中世起源説をとり、古代をその前史、近世をその爛熟期ととらえて論を進めていく。また、近

代にあつては融和運動の歴史、ならびにそれと密接不可分にかかわるものとしての全国水平社の歴史をこれまではない視点で明らかにしてゆく。

方法論としては、従来の文献史学にみえる社会経済史的観点の限界性や、民俗学的手法の限界性を越えるべく、精神史とでも言うべき方法をとる。より具体的には、我が国の古代・中世、果ては近世に至るまでの社会を席卷した道教や陰陽五行説、ないし易学なども駆使しながら、そこに神道や密教の歴史や教理内容にも触れていく形で展開していきたい。

講義時間の割り振りは、総論1、古代2、中世3、近世2、近代2、グループ討論2、まとめ1を予定している。

●評価方法

レポートと出席率（三分の二程度の出席を期待する。）

●受講生へのコメント

レジュメを基にするが、適宜、参考書を紹介する。

## 障害者与人権 I

Human Rights of People with Disabilities I

(前期① 金・2 全) 2単位

(前期② 金・2 全) 2単位

生活科学研究科 堀 智晴 他

●科目の主題と目標

「障害者与人権」の講義は、1973年に当時の教養部で起きた障害者差別につながる発言を契機にして、全学的な問題解決の必要性からもうけられた講義である。この講義には講師として障害のある本人も参加している。

障害者はこれまで長い間偏見と差別の中で、一人の人間として生きていく権利を奪われてきた。現在でも健常者中心の価値観の中で、社会生活はきびしい状況に置かれている。

この講義では、このような社会のあり方を具体的な問題を考察することを通して問い直していく。受講生は自分の問題として考えて欲しい。

●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーションと障害者の自分史（堀、南部障害者解放センター）
- ②障害者問題入門1（牧口一二、堀）
- ③障害者問題入門2（牧口、堀）
- ④障害者問題入門3（牧口、堀）
- ⑤障害者問題入門4（牧口、堀）
- ⑥障害者の就労1（酒井京子、堀）
- ⑦障害者の就労2（酒井、堀）
- ⑧障害者の就労3（酒井、堀）

- ⑨障害者の就労4（酒井、堀）
- ⑩障害者の自立生活1（南部障害者解放センター、堀）
- ⑪障害者の自立生活2（南部障害者解放センター、堀）
- ⑫障害者と芸術（金満里、堀）
- ⑬障害者の教育1（堀）
- ⑭世界の障害者問題の現状（堀）
- ⑮まとめ（堀）

●評価方法

コミュニケーションカードによる出席点（50%）とレポート（50%）により評価する。

●受講生へのコメント

受講生は「障害者与人権 I」と「障害者与人権 II」とを履修してほしい。IとIIでひとまとめの講義と考えている。積極的に質問を出して欲しい。また意見を述べて欲しい。また、受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。

参考文献：牧口一二著『ちがうことこそええこっちゃ』（河合出版）

堀 智晴編著『ちがうからこそ豊かに学びあえる』（明治図書）



## 障害者与人権Ⅱ

Human Rights of People with Disabilities Ⅱ

(後期① 金・2 全) 2単位

(後期② 金・2 全) 2単位

生活科学研究科 堀 智晴 他

### ●科目の主題と目標

「障害者与人権」の講義は、1973年に当時の教養部で起きた障害者差別につながる発言を契機にして、全学的な問題解決の必要性からもうけられた講義である。この講義には講師として障害のある本人も参加している。

障害者はこれまで長い間偏見と差別の中で、一人の人間として生きていく権利を奪われてきた。現在でも健常者中心の価値観の中で、社会生活はきびしい状況に置かれている。

この講義では、このような社会のあり方を具体的な問題を考察することを通して問い直していく。受講生は自分の問題として考えて欲しい。

### ●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーションと障害者の自分史 (堀、南部障害者解放センター)
- ②障害者と法の下での平等1 (松本晶行、堀)
- ③障害者と法の下での平等2 (松本、堀)
- ④障害者と法の下での平等3 (松本、堀)
- ⑤障害者と法の下での平等3 (松本、堀)
- ⑥精神障害者の人権1 (仲野実、堀)
- ⑦精神障害者の人権2 (仲野、堀)

⑧精神障害者の人権3 (仲野、堀)

⑨精神障害者の人権4 (仲野、堀)

⑩障害者の自立生活3 (南部障害者解放センター、堀)

⑪障害者の自立生活4 (南部障害者解放センター、堀)

⑫障害者の教育2 (堀)

⑬障害者の教育3 (堀)

⑭知的障害者問題の人権 (堀)

⑮まとめ (堀)

### ●評価方法

コミュニケーションカードによる出席点 (50%) とレポート (50%) により評価する。

### ●受講生へのコメント

受講生には「障害者与人権Ⅰ」と「障害者与人権Ⅱ」の両方を履修してほしい。ⅠとⅡでひとまとめの講義と考えている。講義中に積極的に質問を出して欲しい。また意見を述べて欲しい。受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

### ●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。

参考文献：仲野実著『「近代」を抜ける』(批評社)

## ジェンダーと現代社会Ⅰ

Gender in Modern Society Ⅰ

(前期 金・2 全)

2単位

人権問題研究センター 古久保さくら 他

### ●科目の主題と目標

わたし達は社会的存在であり、社会的につくられた文化による刷り込みを日々受けている。社会的文化的刷り込みとしてのジェンダーに自覚的になり、社会のなかで当然と認識し、目にしていながら理解してこなかった問題を見えるもの、語りうるもののできる能力をつけること、これが本講義の主目標である。

本講義では、学生諸氏が慣れ親しんできた学校教育とマスメディアという領域を中心に、個々人の経験にジェンダーがどのように関連しているのかについて、考察したい。

そのことを通じて「個人」として生きることの難しさや大事さを考えてもらいたいと思う。

### ●授業内容・授業計画

以下の内容を計画しているが、非常勤講師の日程の都合で、若干の変更の可能性はある。

第1回 オリエンテーション

第2回～4回 メディアにおけるジェンダー

(小川真知子)

① CMにみるジェンダー

② アニメーションにみるジェンダー

③ ジェンダー視角から報道をみる

第5回 グループディスカッション (古久保)

第6回～8回 変容期にあるジェンダー (古久保)

① 近代的ジェンダーとは

② 変容期にあるジェンダー

③ 男女共同参画社会化はすすんだか

第9回～13回 教育におけるジェンダー平等を

めざして (堀内真由美・古久保)

① 教育におけるジェンダー格差

② 人権教育としての性教育

③ 「ジェンダーフリー」教育の現状

④ ワークショップ

⑤ キャンパスセクシュアルハラスメント

第14回 まとめ (古久保)

第15回 質疑応答とレポート提出

### ●評価方法

出席点 (毎回提出した感想文による) ・中間レポー

ト・最終レポートにより評価する。

●受講生へのコメント

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカード（感想文）の提出が義務づけられている。これをまとめて「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてビデオを利用する。

## ジェンダーと現代社会Ⅱ

Gender in Modern Society II

（後期 金・2 全）

2単位

人権問題研究センター 古久保さくら 他

●科目の主題と目標

本講義の主目的は、ジェンダースタディーズという学問で扱う問題領域のうち、セクシュアリティというテーマを中心に引き上げ、それを様々な角度から考察する事を通じて、その問題のもつ複雑さを理解し、関連問題の克服のための方策をとるという姿勢を習得することにある。それは、物事を複眼的に考察するという能力を養う事でもあると考える。

本講義では、メンズ・リブ運動の活動家や、フェミニスト・カウンセラー、弁護士など多様な非常勤講師をむかえ、現状の問題とその解決に向けた具体的方策などを講義いただく予定である。

●授業内容・授業計画

以下の内容を計画しているが、非常勤講師の日程の都合で、若干の変更の可能性がある。

- 第1回 オリエンテーション（古久保）
- 第2回 若者の性行動におけるジェンダー（古久保）
- 第3回 異性愛だけが性愛か？（古久保）
- 第4回 セクシュアリティと生殖技術（古久保）
- 第5回 男性性とセクシュアリティ（中村彰）
- 第6回 グループディスカッション（古久保）
- 第7回 キャンパス・セクシュアル・ハラスメントという問題（古久保）
- 第8回 性暴力被害者の心理と援助者の役割（周藤由美子）

- 第9回 ワークショップ（周藤由美子）
- 第10回 法律家からみたジェンダー・セクシュアリティ（乗井弥生）
- 第11回 ジェンダー視角からみた売春（古久保）
- 第12回 ジェンダー視角からみた買春（中村彰）
- 第13回 グループディスカッション（中村彰）
- 第14回 「自己責任」を考える（古久保）
- 第15回 質疑応答とレポート提出（古久保）

●評価方法

出席点（毎回感想文を提出する）・最終レポートにより評価する。

●受講生へのコメント

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカードの提出が義務づけられている。これをまとめて「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数年度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時提出する予定である。何回かの授業では、教材としてビデオを利用する。

## 女性学

Women' Studies

（前期② 月・1 全）

2単位

非常勤 日野 玲子

●科目の主題と目標

性別分離が、いかに社会的に維持され、構造化されているのか。1970年代以降、女性学の視点から、社会のさまざまな領域の検討が始められ、90年代にはジェンダー概念を取り入れた研究がすすめられている。また、90年代以降、女性に対する暴力が新たな課題として問題化され、女性と男性の関係のあり方を問う契機となっ

ている。こうした女性学・ジェンダー研究の動向を知るとともに、受講者が自らの問題として考える機会を提供するつもりである。具体的には、以下の点を目標とする。

- ① ジェンダー概念を理解し、暮らしの中のジェンダー・バイヤスに気づく力をつける。
- ② ジェンダー・バイヤスをもたらず私たちの社会のジェンダー秩序を見抜き、そこにひそむ価値



観について考え、課題をみつける力をつける。

- ③ 女性学の意義を理解し、ジェンダー平等な人間関係や社会のしくみについて考える力をつける。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文化の力を知る——ジェンダー化された身体
- 第3回 ジェンダー意識の形成
- 第4回 ジェンダー秩序を考える（1）  
——暮らしをジェンダー・チェック
- 第5回 ジェンダー秩序を考える（2）
- 第6回 女性学・男性学・ジェンダー研究の動向
- 第7回 男女共同参画社会基本法について
- 第8回 女性に対する暴力を考える  
セクシュアル・ハラスメントをうみだす土壌
- 第9回 家庭内暴力（夫や恋人からの暴力）について
- 第10回 デートDV——暴力防止のために
- 第11回 男性学の課題と主張

- 第12回 ジェンダーと教育——隠れたカリキュラム
- 第13回 ジェンダーの視点にたつ男女平等教育
- 第14回 結婚制度とジェンダー

・授業の展開によって、内容が変わる場合があります。

●評価方法

授業時におけるレポート（30%）と試験に代わるレポート（70%）

●受講生へのコメント

女性学は実践的なテーマを扱うため、積極的な参加を求める。

●教材

各時間にプリント資料を配布。視聴覚教材も使用。

<参考図書>

- ・木村涼子・古久保さくら編著『ジェンダーで考える教育の現在』（解放出版社2008）
- ・天野正子・木村涼子編『ジェンダーで学ぶ教育』（世界思想社2003）

## エスニック・スタディ入門編

Ethnic Study

（前期① 金・2 全） 2単位

（前期② 金・1 全） 2単位

経済学研究科 朴 一

●科目の主題と目標

バブル崩壊後、日本を目指す外国人労働者はやや減少したものの、途上国に比べ高賃金の日本は、依然として外国人労働者の格好の出稼ぎ先となっている。日本に滞在、居住する外国人は、景気低迷期に入っても増加傾向を示しており、2002年時点で外国人労働者と不法残留者を合わせた在日外国人の実数は200万人を超えた。

このうちの約半数が永住権をもつ在日コリアンと在日中国人（華人）である。彼らの多くは、戦前・戦中期の植民地政策によって日本への渡航を余儀なくされた歴史的経緯を有する人達の子孫である。日本に生活基盤を置く彼らは、日本人と同じように、日本で生まれ、日本社会で育ち、日本社会のさまざまな分野で活躍している。

だが、彼らはルーツや国籍が違うという理由で、就職、入居、結婚など人生のさまざまな場面で、日本社会からの圧迫を受けることが少なくない。どうして、こうした民族差別が存在するのだろうか。この講義では、日本人にとって最も身近な外国人である在日コリアンに光をあてて、日本の「内なる国際化」に問われた課題について考えてみたい。

●授業内容・授業計画

1. 私の彼は外国人

- 2. 金由美さんからのメッセージ
- 3. あなたは在日の歴史を知っていますか
- 4. 二つの大震災と在日外国人
- 5. 忘れられた皇軍
- 6. 被爆者は日本人だけではない
- 7. こころの壁、法の壁
- 8. 無年金外国人は訴える
- 9. 同情するなら職をくれ
- 10. 国民とは誰か、住民とは誰か
- 11. 在日コリアン新世代の生き方とは
- 12. 海峡を越えた力道山
- 13. 「帰化代議士」新井将敬の葛藤
- 14. 日本経営に挑む孫正義

●評価方法

出席とレポートを重視して採点。

●受講生へのコメント

そのつどプリントを配付

●教材

そのつどプリントを配付

- ・朴一『在日という生き方』（講談社メチエ）
- ・朴一『在日ってなんでんねん』（講談社+ a 新書）

## 大阪の部落産業

－大阪の実態を通じての産業経済社会と人権－  
 “Buraku” Discriminated (Community) Industrial at Osaka District  
 －Industrial Economy and Human Rights through the Actual Conditions of Osaka－

(前期① 金・2 全) 2単位  
 (前期② 金・1 全) 2単位  
 非常勤 田中 充

### ●科目の主題と目標

部落差別の経済的側面は、特に主要産業・労働雇用面に現れている。そこで、部落の人々の携わってきている産業・労働など、日本経済の発展・推移の過程における位置と実態を大阪の場合を通じて本質的に見極め、「部落完全解放」という国家・国民的課題の一助としたい。

立派な伝統的地場産業であり、広く内外の国民・消費者の文化生活を支えてきている重要な産業・中小企業であるのに、わが国ではまったく不当な差別の結果、産業構造の最末端に位置させられてきている部落の産業、その代表的な大阪の皮革関連産業・リサイクル・環境産業・食肉産業などに焦点を合わせ、これらの業界の特質・現状および問題点と、それに対する行政施策のあり方などをケーススタディーを通じて考察する。

大都市・地方はもとより、産業業種として、諸外国の場合とも比較検討し、大阪経済の活性化をはじめ、内外国民経済の重要な担い手という観点からも、当該産業の発展課題などを模索し、提言を試みる。

なお、当問題は、究極の「人権問題」という立場から、今後一層増加することが必至であるところの外国人労働問題とも関連して考察したい。

### ●授業内容・授業計画

1. 基本的認識 ー産業経済社会と人権問題ー
2. 大阪の部落産業問題に対する社会的・経済的・経営学的アプローチ
  - (1) 大阪および日本経済における大阪地域の部落の産業の位置・役割
  - (2) 成立過程・歴史的事情
  - (3) 企業の経営組織・形態
  - (4) 内外環境の変化＝サービス経済化・情報化・国

際化の進展などのインパクトと対策課題

－ニュービジネス分野における存続・発展の方向性－

### ●評価方法

本講義を受講することによって、自分自身が何を理解しえたか、「国民的課題」にいかに関与すべきかなど、意見表明の場として、期末テストを論述式で行う。

### ●受講者へのコメント

認識を深めるため、同和問題・人権問題に関する講座を受講することが望ましい。

### ●教材

教科書：田中充編著『日本の経済構造と部落産業(21世紀増補版)－革新的中小企業への発展課題－』(関西大学出版部)

参考書：同『日本経済と部落産業』(解放出版社)

藤田敬三・竹内正己編『中小企業論(第4版)』有斐閣双書、Mitsuru Tanaka “Small Business of Buraku in Japan's Economy” Kansai Univ. Press.2004.9. その他適宜紹介。

ビデオ鑑賞・資料コピー配付などによって、より具体的に実態認識を深める。

### ●キーワード

大都市および地方における部落の産業・中小企業・慢性的窮乏・国際化・貿易の自由化・生活文化産業・ニュービジネス・部落解放と人権・企業努力・企業育成政策・中小企業に対するリーダーシップとカタライザー・格差社会・社会的合理的分業

今こそ部落・人権問題を正しく認識し、あるべき解決策を考えよう！

## 障害者と人権Ⅲ 演習

Seminar: Human Rights of People with Disabilities Ⅲ

〔この科目は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業である。〕

(前期 水・1 全) 2単位  
 生活科学研究科 堀 智晴 他

### ●科目の主題と目標

本学では、総合教育科目として「障害者と人権Ⅰ、Ⅱ」を開講している。この講義はいわば障害者問題入門に当たる。この「障害者と人権Ⅲ」は、この入門をさらに専門的に深め、演習として開講するものである。

障害のある人にも講義をしてもらう。また、障害者授産施設や自立生活センターを見学してそこで意見交換を行う。

### ●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーション(堀)

- ②自分と障害者との出会いについて語り合う(堀)

- ③障害者問題の歴史1(楠敏雄、堀)

- ④障害者問題の歴史2(楠、堀)

- ⑤障害者の教育問題(楠、堀)

- ⑥障害者の就労問題(楠、堀)

- ⑦障害者の自立生活(川嶋雅恵、堀)

- ⑧障害者施策の検討1(川嶋、堀)

- ⑨障害者施策の検討1(川嶋、堀)

- ⑩知的障害者通所授産施設の見学(楠、堀)

- ⑪知的障害者通所授産施設の見学についての感想を話し

合う（堀）

⑫自立生活センターの見学（川嶋、堀）

⑬自立生活センターの見学についての感想を話し合う  
（堀）

⑭現代の障害者問題の課題（川嶋、堀）

⑮まとめ（堀）

●評価方法

ゼミ形式での討議への参加（60%）とレポート（40%）により評価する。

●受講生へのコメント

受講生は「障害者と人権Ⅰ、Ⅱ」をすでに履修していることが望ましい。受講生の数は、20名程度に限る。ゼミ形式による演習なので積極的に発言すること。また、受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。

参考図書：楠敏雄著『自立と共生を求めて』（解放出版社）

## エスニックスタディ演習

Seminar : Ethnic Study

（後期 金・2 全）

2 単位

経済学研究科 朴 一

●科目の主題と目標

その昔、在日コリアンは海峡を越えて日本に渡ってきた。それから100年、在日コリアンは、この日本で生活基盤を築き、営々と生きてきた。彼らにとって、この日本が生活の場であり、闘いの場であり、活躍の場でもあった。彼らにとって日本とは何だったのか。また在日コリアンは日本人の眼にどう映ってきたのか。

この講義では、日本で公開されてきた映画・ドラマ・ドキュメンタリーに描かれてきたさまざまな在日コリアンの姿を通じて、在日コリアンと日本（日本人）との関係を歴史的に検証してみたい。また、さまざまな映像に登場する在日コリアンという視点から、日韓・日朝関係の断面に迫ることができればと考えている。映画・ドキュメンタリーや映画評論に興味がある学生の受講を期待している。

●授業内容・授業計画

1. 記録映画「在日」の観賞と解説
2. 映画「キューポラのある街」の観賞と解説
3. ドキュメンタリー「帰国船」の鑑賞と解説
4. ドラマ「金（キム）の戦争」の観賞と解説
5. 映画「KT」の鑑賞と解説
6. ドキュメンタリー映画「指紋押捺拒否」の鑑賞と解説
7. TVドキュメンタリー「在韓被爆者」の鑑賞と解説

8. TVドキュメンタリー「東九条40番地は今」の鑑賞と解説

9. TVドキュメンタリー「韓国人戦犯の悲劇」の鑑賞と解説

10. TVドキュメンタリー「ウトロ：置き去りにされた街」の鑑賞と解説

11. TVドキュメンタリー「イムジン河」の鑑賞と解説

12. 映画「パッチギ！」の観賞と解説

13. ドキュメンタリー映画「ディア・ピョンヤン」の鑑賞と解説

14. ドラマ「李くんの明日」の観賞と解説

15. フィールドワーク「猪飼野」

●評価方法

出席とレポートを重視して採点。

●教材

そのつどプリントを配付

・朴一『在日コリアンってなんでんねん』（講談社+α新書）

●注意事項

この講義は演習形式で進めるので少人数授業となります。

希望者多数の場合は、エスニック・スタディ入門編受講者を優先させていただきます。

## 日本史の見方

An Introduction to the Japanese History

(前期① 金・1 全) 2単位

(前期② 火・2 全) 2単位

文学研究科 栄原 永遠男

### ●科目の主題と目標

奈良時代というと、諸君はいったいどのようなことを思い浮かべるでしょうか。壮大な平城京や東大寺が造営され、阿修羅像に代表される天平彫刻の優品や絢爛豪華な正倉院宝物が製作された時代、聖武天皇や光明皇后、藤原不比等や仲麻呂などの藤原氏の人々や、万葉歌人大伴家持が活躍した時代、などなど。

これらが、多くの人々がもっているイメージだと思います。たしかに、この時代が、一面で華やかさに満ちた時代であったことはまちがいありません。しかし、実はこれは、この時代の一面にしかすぎないのです。

この時代には、長屋王の変、光明立后、藤原広嗣の反乱、橘奈良麻呂の乱、藤原仲麻呂の乱、道鏡事件その他、多くの事件・政変があいついで起き、諸勢力がぶつかりあい、殺し合いました。この時代は、政治的にみると大変な激動期だったのです。

では、なぜこのように大事件が頻発したのでしょうか。華やかな天平文化の背後で何が起こっていたのでしょうか。この授業では、近年の発掘調査や最近の研究の成果をふまえて、奈良時代の政治過程を、できるだけ具体的に検討していきます。

### ●授業内容・授業計画

律令国家が確立した8世紀の初頭から、歴史の流れに

したがって授業を進めています。今年度は、つぎのような内容で奈良時代初期～前期の政治過程を詳しく検討していきます。

1. 文武天皇即位の事情とその意義
2. 持統太上天皇の死
3. 首皇子の立太子と元正天皇の即位
4. 藤原不比等の死の意味
5. 聖武天皇の即位
6. 元正太上天皇と聖武天皇
7. 長屋王の変
8. 光明立后
9. 藤原四子政権の時代

### ●評価方法

出席と定期試験の成績により評価します。

### ●受講生へのコメント

この授業は、諸君が抱えている奈良時代のイメージや先入観とはかなり違う内容になります。高校までの授業や、さまざまな影響で形成された先入観や固定観念にとらわれずに、歴史や現実を見ていく柔軟な眼を育ててほしいと思います。

### ●教材

教科書はありません。授業で使用する史料は、適宜プリントで配布します。

## 東洋史の見方

An Introduction to the Asian History

(前期 火・1 全) 2単位

文学研究科 井上 徹

### ●科目の主題と目標

「中国史における文化統合－華と夷の境界－」

現代の中国は56の民族によって構成される多民族社会ですが、人口比率で言えば漢族がその9割以上を占めており、漢族を軸とする社会であることに特徴があります。中国南部（華南）を事例として、16－17世紀に顕在化した非漢族と帝国との対決、漢族への同化（漢化）、文化統合の原理（宗族）に着目しつつ、どのように在来の多元的社会から漢族を軸とする社会への移行が行われ、そして、近代にいかなる変動が生じたのかを考えてみます。

### ●授業内容・授業計画

1. 問題の所在
2. 16世紀の変動
3. 華と夷
4. ヤオとチュアンの反乱
5. 海外貿易の発展

6. 都市広州
7. 儒教化の開始
8. 郷紳の台頭
9. 明末の宗族
10. 清代の珠江デルタ社会
11. 近代化の開始
12. 伝統社会の変質
13. 近代の思惟
14. 宗族の終焉
15. 血縁の再構築

### ●評価方法

定期試験とミニ・レポート、出席により評価する。

### ●受講生へのコメント

この授業では民族、文明、貿易、儒教文化、社会集団など諸方面の問題に論及しますが、通常中国史の概説とはかなり異なる内容となります。高校までに学んだ知識を踏まえて、柔軟な見方をしてほしいと思います。



●教材

教科書は用いず、毎回プリントを配布します。

<h2 style="margin: 0;">西洋史の見方</h2> <p style="margin: 0;">An Introduction to the Western History</p>	<p>(前期 水・3 全)</p> <p>文学研究科 井上 浩一</p>	<p>2単位</p>
---	--------------------------------------	------------

●科目の主題と目標

「中世を生きたひとびと」

この授業では、中世のヨーロッパ世界に生きた人物を順次取り上げ、彼らの生涯をたどりつつ、中世ヨーロッパとはどのような時代であったのかを学びます。

また、ひとりひとりの人間がそれぞれの時代をどう生きたのか、またその活動によってどのように歴史を創っていったのか、つまり人間と社会、歴史のなかの個人、という問題についても考えます。

●授業内容・授業計画

さしあたり次のような人物を取り上げる予定です。

- 1、コンスタンティヌス大帝  
ローマ皇帝のキリスト教改宗、古代から中世へ
- 2、ボエティウス  
『哲学の慰め』にみる転換期の悲劇
- 3、カール大帝  
「ヨーロッパの父」の素顔
- 4、ボド  
荘園に働く農民たちの日常生活
- 5、グレゴリウス7世  
「カノッサの屈辱」事件の歴史的意味
- 6、アベラールとエロイーズ  
中世ヨーロッパの愛と信仰
- 7、リチャード獅子心王  
戦いつづけたイングランド王
- 8、ハーメルンの笛吹き男  
伝説のなかに子供たちの悲しみを読む
- 9、マルコ・ポーロ  
はるばる中国まで旅したヴェネツィア商人

10、ジャンヌ・ダルク「オルレアン少女」

「魔女」から「英雄」へ、中世から近代へ

授業は講義形式が中心ですが、資料を読んだり、短いレポート(感想・意見)を書いてもらうこともあります。

●評価方法

授業と関連するテーマでレポートを書いてもらい、それを主たる資料として評価します(レポート作成については受講生へのコメント②を参照)。授業中に書いてもらう小レポートも評価の参考にします。なおレポート評価にあたっては、自分なりの歴史の見方・考え方を、具体的な素材に即して、どれくらいきちんとまとめているかを重視します。

●受講生へのコメント

①大学の歴史学は「暗記物」ではありません。本講義も高校世界史の予備知識なしで受講できます。ただし世界史をまったく習っていない人、すっかり忘れてしまった人は、世界史の教科書や入門書に少し目を通しておくと、講義が理解しやすくなると思います。

②レポート作成法の特別授業を2回行ないます。テーマの決定、文献調査(学術情報センターの利用法)、書物の読み方、レポートのまとめ方・書き方などを具体的に話します。大学において主体的に学ぶための技術を生につけてもらいたいと思います。

●教材

教科書は用いません。授業に必要な資料は毎回プリントとして配布します。ビデオ教材も適宜使用します。各テーマに関する参考文献はその都度紹介します。

<h2 style="margin: 0;">日本社会の歴史</h2> <p style="margin: 0;">Japanese History and Culture</p>	<p>(後期 水・3 全)</p> <p>文学研究科 仁木 宏</p>	<p>2単位</p>
--	-------------------------------------	------------

●科目の主題と目標

日本の戦国時代といえば、戦国大名が天下の覇権を争った時代と思われている。その一方で、自治都市や惣村に代表される民衆の時代としても知られている。この一見矛盾する歴史の動きをどうやって統一的にとらえたらよいのだろうか。

この授業では、山城国の西岡地域(現在の長岡京市・向日市・大山崎町など)を素材に、村々の動きが、応仁

の乱から山崎合戦(「天王山の戦い」)にいたる政治・軍事の動きとどのようにかかわっていたのか、丁寧に明らかにしてゆくなかで上記の課題にせまる。

結果として、日本社会の歴史の多様性、特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が歴史を作りあげてゆくことが理解できるようにする。

●授業内容・授業計画

講義はおおよそ以下のテーマでおこなう。



- 1：西岡の歴史環境
- 2：西岡の村々とその広がり
- 3：村の侍たち
- 4：徳政と用水相論
- 5：御家人から御被官人へ
- 6：「国」の結成
- 7：土豪の居館と村
- 8：寺と都市
- 9：城と職人
- 10：土豪支配と寺内
- 11：「都市的な場」の意義
- 12：近世的権力の登場
- 13：村の変貌
- 14：信長の力量
- 15：中世西岡の黄昏

講義は、テキストと、配布するプリントを中心におこなう。プロジェクターも利用する。

#### ●評価方法

講義内容を的確に理解できているか、講義に能動的にかかわっているかを、小レポート（30/100）と定期試験（70/100）で評価する。

#### ●受講生へのコメント

高校までの「日本史」受講の有無、暗記の知識の量は問わない。但し、受講にあたっては論理的展開をおってゆく努力が必要である。

#### ●教材

テキスト：仁木宏『戦国時代、町と村のかたち』（山川出版社、2004年）。

参考文献：適宜しめす。

プリント：毎回配布する。

## 東洋社会の歴史

Asian History and Culture

（後期 木・2 全）

2単位

文学研究科 平田 茂樹

#### ●科目の主題と目標

日本の伝統文化の形成を考える場合、従来は室町時代頃に現在の生活様式の基礎が確立するとの理解に立って、中国の明清時代との関連性が重要視されてきた。

しかし、喫茶、禅宗、山水画、陶磁器などに代表される日本文化は明らかに宋代（960～1279）の影響を受けている。

本講義では、宋代の諸文化、諸制度を紹介しつつ、日本の伝統文化がどのように形成されていったかを講義していく。

ただ、歴史を過去の遺物と考えないように、講義の中では過去と現在、過去と未来の問題、具体的には東アジアの現代社会の問題について言及しながら、歴史を学ぶことを通じて、日本と世界との関係、あるいは自己の存在について長期の基軸からみつめる姿勢を養うことを狙いとする。

#### ●授業内容・授業計画

教科書を用いながら、順次以下の項目について講義していく。

1. 授業の目的、概略
2. 「重文軽武」の国家
3. 軍事力による南北対立

4. 商業都市の新しい姿
5. 画期的な商業の発展
6. 発展する農業と手工業
7. 四大発明の発展
8. 生活を豊かにする科学技術
9. 流行を追い求める社会
10. 宋代の人々の生活
11. 中国の伝統理念の定型
12. 文人の芸術
13. 民間芸術
14. 総括

#### ●評価方法

授業中に書く小レポート（50%）と試験（50%）

#### ●受講生へのコメント

毎回小レポートを書いてもらい、きちんとした東アジア理解を身につけてもらいます。毎回の取り組みが最終試験に直結します。主体的に自己の問題或いは周囲の問題を見つめる意識を持って出席するようにしてください。

#### ●教材

『図説中国史7 宋 成熟する文明』（稲畑耕一郎監修 劉偉編 杭侃著 大森信徳訳 創元社）

## 西洋社会の歴史

History of Western Society

(後期① 火・3 全) 2単位

(後期② 月・1 全) 2単位

文学研究科 大黒 俊二

### ●科目の主題と目標

読み書きと書物のあり方という視点から西洋の文化史をたどる。古代から現代まで、人はいかにして文字と付き合ってきたか、本を読んできたか。「読む」とはどのような行為なのか。読むことがあまりに自然となった現代、人はあらためてこうした問いを発することはない。

しかし、紙上の黒いしみを追って意味を解し、伝えることは、自然な行為ではなく、歴史と文化に深く規定された営みである。たとえば古代ギリシアには「読む」行為はあってもそれを表す単語がなく、古代ローマ人にとって書物とは巻物であった。中世の人間は黙読ができず、単語を分かち書きすることもなかった。近代初期、文字を知らぬ民衆は他人の朗読によって「読書」した。読み書きと書物の歴史は、西洋文化の思いがけない一面を浮かび上がらせ、旧知の事実意外な光を当ててくれることになる。

### ●授業内容・授業計画

- ①「書くこと」と「読むこと」の歴史性
- ②声の文化と文字の文化
- ③声から文字へ（古代ギリシア）
- ④読みから書きへ（古代ローマ）
- ⑤卷子本から冊子本へ（古代末期－中世初期）
- ⑥ラテン語から俗語へ（中世初期）
- ⑦続け書きから分かち書きへ（中世初期）
- ⑧音読から黙読へ（中世中期）
- ⑨記憶から記録へ（中世中期）
- ⑩手書本から印刷本へ（中世後期）
- ⑪エリートから民衆へ（近代初期）
- ⑫本学所蔵貴重書見学（近代初期）
- ⑬民衆から大衆へ（近代）
- ⑭読書と書物の未来（現代）
- ⑮レポート講評

### ●評価方法

出席20%、レポート40%、試験40%。

### ●受講生へのコメント

読み書きの実践という点から見た西洋文化史の概説であるから、通常の西洋史とは趣の違った内容になる点に注意してほしい。単なる西洋史概説ではない。講義の前提として高校世界史A程度の知識が望ましいが、なくても理解できるよう努力するつもりである。

### ●教材

教科書はとくに用いない。以下の書物を参考書としてあげておく。いずれも通読には骨の折れる書物だが、一部でもよいから目を通してほしい。講義ととくに深い関係があるのは3である。

1. W. J. オング（桜井直文他訳）『声の文化と文字の文化』藤原書店、1991年。
2. I. イリイチ/B. サンダース（丸山真人訳）『ABC——民衆の知性のアルファベット化』岩波書店、1991年。
3. R. シャルティエ/G. カヴァッロ編著（田村毅他訳）『読むことの歴史——ヨーロッパ読書史』大修館書店、2000年。
4. A. マングエル（原田範行訳）『読書の歴史——あるいは読者の歴史』柏書房、1999年。
5. M. マクルーハン（森常治訳）『グーテンベルクの銀河系——活字人間の形成』みすず書房、1986年。
6. N. ボルツ（敷名・足立訳）『グーテンベルク銀河系の終焉——新しいコミュニケーションの姿』法政大学出版社、1999年。
7. 清水徹『書物について——その形而下学と形而上学』岩波書店、2001年。
8. 香内三郎『「読者」の誕生——活字文化はどのようにして定着したか』晶文社、2004年。
9. H. ブランク（戸叶勝也訳）『ギリシア・ローマ時代の書物』朝文社、2006年。

## 現代の歴史

Modern History

(前期 火・4 全)

2 単位

文学研究科 北村 昌史

### ●科目の主題と目標

「近現代ヨーロッパ社会史」

1980年代以降研究手法として定着した観のある社会史研究の成果をふまえ、16世紀から19世紀にいたるヨーロッパ史の動向を述べます。社会史という視点から見ると、18世紀後半か19世紀前半にかけてがヨーロッパ史の大きな転換点の一つである、という観点から授業をおこないます。社会史研究の現状を理解していただくとともに、授業でとりあげたテーマについて自分なりの表現で説明できることを目標とします。

### ●授業内容・授業計画

- 1 導入・ガイダンス
- 2 社会史研究の背景
- 3 『子供』の誕生
- 4 近代家族
- 5 エリート文化と民衆文化
- 6 食事・都市化
- 7 転換点以前の社会 (1) - 祭
- 8 転換点以前の社会 (2) - 歴史人口学

- 9 転換点以前の社会 (3) - 食糧暴動
- 10 転換点以前の社会 (4) - シャリヴァリ
- 11 転換点以前の社会 (5) - 食
- 12 転換点以前の社会 (6) - 民衆本
- 13-15 転換点以後の社会 - 都市労働者の世界

### ●評価方法

試験で評価します。試験は、単に事実や年代を確認するというのではなく、様々な歴史事象や事件に対する授業の担当者の説明をどこまで理解し、そして説明できているかが評価の基準です。

### ●受講生へのコメント

高校の世界史の知識は特に必要としません。どちらかといえば、高校までの歴史に抵抗感を感じた人に受講していただきたいです。世界史とは違った観点から歴史をみることができるということを皆さんに理解していただきたいと思います。

### ●教材

テキストはありません。資料は授業で配布します。参考文献は適宜指示します。

## 考古学入門

Introduction to Archaeology

(後期① 水・2 全)

2 単位

(後期② 水・2 全)

2 単位

文学研究科 岸本 直文

### ●科目の主題と目標

ひとびとが暮らした住まいの跡、使っていた道具などのモノ、これらが地面のなかに埋もれて遺っている。これが遺跡である。人間の活動が多様であるので、遺跡にもさまざまな種類がある。考古学は、こうした遺跡を発掘調査することにより、遺された痕跡やモノから、そこで生活したひとびとの営みを復元する。考古学により明らかになった日本の歴史をたどり、興味をもってもらうことを目標とする。

### ●授業内容・授業計画

日本の考古学では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代という時代区分をする。それぞれがどんな時代であったのか、研究史をひもとき、遺跡の発掘調査の事例を紹介しながら、いま考えられている歴史像を紹介する。

- 1 考古学とはなにか
- 2 考古学の資料は遺跡
- 3 遺跡の発掘調査
- 4 旧石器時代 氷河の時代の狩猟生活
- 5 縄文時代 (1) 定住のはじまり

- 6 縄文時代 (2) 縄文文化の豊かさと限界
- 7 弥生時代 (1) 米作りの開始
- 8 弥生時代 (2) ムラからクニへ
- 9 弥生時代 (3) 墓にみる権力の形成
- 10 古墳時代 (1) 邪馬台国の考古学
- 11 古墳時代 (2) 巨大な前方後円墳の誕生
- 12 古墳時代 (3) 古墳時代から飛鳥時代へ
- 13 古代 都城と官衙
- 14 北海道と南西諸島の考古学

### ●評価方法

小レポート提出2回 (各15点)。期末試験 (70点)。

### ●受講生へのコメント

遺跡は全国で40万カ所といわれる。どこにでもあり、ごく身近なところにある。有名な遺跡ばかりでなく、あまり知られていない数多くの遺跡のすべてが、みなさんが住んでいる地域の歴史を明らかにする素材となる。そうした身近な遺跡に関心をもってほしい。

### ●教材

プリントを配布する。

## ことばの歴史

Japanese and its History

(後期 水・4 全)

2単位

特任 尾山 慎

### ●科目の主題と目標

日本人が漢字を理解している証左といえる現存最古の資料は5世紀後半の鉄剣銘である。それから実に1600年近い時を経て、日本人は漢字を音訓の別をもって使いこなし、さらにそれに仮名を交ぜて書くという方法を獲得した。独自の文字を持たず、異国語の文字である漢字だけを使っていた古代、そこにどのような工夫と叡智があったのか。本講義では、主に漢字だけで日本語を書き記していた時代から平仮名を獲得していく時代への展相を中心として、「ことばの歴史」と、そしてそれを「書き記すことの歴史」をつぶさにみていくことを目的とする。

漢字しか使えないというのは、現代にいきる我々からすればかなり不便なことのようには思える。しかし、万葉集を始め、古代の資料を紐解くと、そこには実に多種多様で、ある意味で自由な書記の営みが見てとれるのである。今の我々が音、訓と区別する漢字の読みのみならず、たとえば「暖」で「はる」と読ませたり、またあるいは「蜂音」で「ぶ」とよませたり、たとえその場一回限りのものであっても、書記者の様々な工夫が認められるのであり、日本語を話す者が、漢字を自家葉籠中におさめている姿を目の当たりにできる。各回の授業では様々な資料をみながら講義を進める。また、古代日本と海外の交流や、日本語そのものの系統の話題にも及ぶ予定である。

### ●授業内容・授業計画

1. ガイダンス～漢字漢文との出会い―日本語を書き記すこと―

2. 漢字とは―日本と中国―
3. 漢字音概説
4. 日本語の音韻史
5. 日本語の系統論―起源はわかるか―
6. 万葉集の表記
7. 木簡・金石文の表記+中間復習テスト
8. 古事記・日本書紀の表記
9. 宣命書きの成立と展開
10. 日本の古辞書
11. 漢文訓読と訓点語
12. 渡来人と日本語の歴史
13. 平仮名の成立と展開―崩し字翻刻体験実習―
14. ことばの歴史―総括

### ●評価方法

出席および中間復習テスト、そして最終回のテストの点による。レポート等による別途加点措置はとらない。なお、4回以上欠席した者は評価対象とならない(テストは受験しても採点しない)。ただし、公欠や特別な理由の場合はその限りではない。

### ●受講生へのコメント

かつて日本人はどのように自分たちの言語を話し、そして書き記していたのか。どうして、今日のような姿になったのか。それを学ぶことによって、各自、日常普段の言語活動をあらためて内省し、言語と書記に対する鋭敏な感覚を養ってもらいたい。

### ●教材

授業中に配布するプリントを使用する。

## 現代の地理学

Current Geography

(前期 木・3 全)

2単位

文学研究科 祖田 亮次

### ●科目の主題と目標

地理学という学問分野は多岐にわたり、茫洋とした印象を与えることがある。しかし、地域や空間へのこだわりを持つということと、人間-環境関係を考察するということは、共通認識としてあると考える。地域へのこだわりとは、特定地域の「地域性」を明らかにする場合もあれば、特定の現象の地理的分布を考察することもあり、その意味するところはさまざまである。あるいは、地域間の差異や格差に注目してその背景や要因を考察することも重要であろう。そして、その際に、人間と環境(自然環境だけでなく社会環境をも含む)との関係性に注目することで見えてくるものがある。これらのことについて、どのように考察を進めていけばよいのかを、できる

だけ具体的な事例をもとに紹介することで、地理学的な視点と研究方法について理解できることを目指す。

### ●授業内容・授業計画

本講義では、できるだけ具体的な事例を通して地理学的な見方・考え方を紹介していくなかで、地理学における諸分野の動向、あるいは隣接分野との関係性についても、考察したい。およその内容は以下の通りである。

- ① イントロダクション
- ②～③ 地理学の扱う地域スケール(系統地理学と地誌学、地域研究と地理学、ミクロとマクロ、研究の枠組み)
- ④～⑥ 地域・空間の形成と再編(国境の成立、産地の形成、社会空間と社会関係)

⑦～⑩ 地域間関係・地域格差（先進国と途上国、都市と農村、地域間人口移動）

⑪～⑭ 人間－環境関係（環境地理学、災害地理学、政治生態学、エコツーリズム研究）

#### ●評価方法

評価のおよその内訳は、(1) 出席 (20%)、(2) 小テスト・課題提出 (40%)、(3) レポート (40%) となる。

#### ●受講生へのコメント

2～3回に1回の割合で、小テストあるいは課題提出を求める。高校時代に地理を履修したかどうかは、本講義を履修する上で、とくに問題ではない。

#### ●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に資料を配布し、適宜、参考文献を提示する予定である。

## 現代の地理学

Current Geography

(後期② 木・2 全)

2単位

文学研究科 山崎 孝史

#### ●科目の主題と目標

本講義は、人文地理学への入門として、まず地理学の主要ツールである地図の役割について説明し、地図の変遷を歴史的にふり返ります。そして、空間・場所・スケールといった地理学の主要概念を用いて、日常の些細な出来事から、世界史上の大事件まで、どのようにアプローチできるか具体例を用いて解説します。大学の地理学は高校までの「地理」とはかなり違います。本講義を通して、地理学のものの見方や考え方が意外に役に立つことを学んでください。

#### ●授業内容・授業計画

- ① インTRODクシヨン：講義の構成と学習方法について解説
- ② 地図1：地図の深層を「読む」方法
- ③ 地図2：様々な古地図に表現される世界史
- ④ 地図3：地図のもつ恣意性とウソを見破る
- ⑤ 空間1：伸びたり、縮んだり、歪んだりする空間の性質
- ⑥ 空間2：造られた空間として古代から現代の都市を考える
- ⑦ 空間3：設計やゾーニングによって人間を制御する空間
- ⑧ 中間テスト
- ⑨ 場所1：私たちにとって特別な意味をもつ空間としての場所

- ⑩ 場所2：モニュメントに込められた想いと対立
- ⑪ 場所3：まちづくりと景観保存＝場所を失う、守る、造る
- ⑫ スケール1：ローカルからグローバルへと私たちが取りまく空間の重なり
- ⑬ スケール2：マクドやスタバなどグローバル企業の立地戦略
- ⑭ スケール3：グローバル化によって外国人が集住するコミュニティ
- ⑮ 期末テスト

#### ●評価方法

出席 (10%)、テスト (60%)、レポート (30%) などによります。詳細は講義中に説明します。

#### ●受講生へのコメント

講義の進行上、コンピュータおよびインターネットを使用できることが必要ですが、そうでない場合でも受講は可能です。

#### ●教材

教科書は使用しません。必要な教材は担当教員のホームページを通して提供されます。詳しくは以下をご覧ください。

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamataka/home.htm>



## 都市の地理学

Geography of Urban Area

(後期 月・2 全)

2 単位

文学研究科 大場 茂明

### ●科目の主題と目標

現在、世界人口の過半数、先進工業国では国民の三分の二以上が都市に居住している。古代にメソポタミアで誕生して以来、都市の歴史は長いが、現代こそまさに「都市の時代」であるといえよう。また、都市は人々の日常生活や産業活動の舞台であると同時に、過密、環境汚染など様々な問題が集積している場所でもある。

そこで本講義では、自然・人文の諸現象が相互にむすびついて展開する地表面の空間的な構造を研究する地理学の立場から、都市の形態、機能、構造について内外の具体的事例を提示しつつ概説するとともに、近年の都市問題や今後のまちづくりの課題について考えていくことを通じて、激動する現代社会を理解するための一助とすることを目的とする。

### ●授業内容・授業計画

授業では、以下の項目に従って、映像資料などを用いて内外の具体的な素材を提示しつつ講述する（数字は授業回数）。なお、最初の20分間を利用して、コミュニケーション・カードに基づき、質疑応答など前回内容の確認を行う。

- ① 序：地理学では都市をどう捉えるか？
- ②・③ 都市の形成過程

- ④・⑤ 都市機能分化と空間構造の変容
- ⑥・⑦ 日本の都市
- ⑧・⑨ 現代社会と都市問題
- ⑩・⑪ 都市更新事業とまちづくり
- ⑫・⑬ 人口減少と都市の縮退
- ⑭ まとめと今後の展望：都市の未来像

### ●評価方法

評価は、毎回の授業終了時に記入してもらうコミュニケーション・カードによる平常点（20%）と、定期試験の点数（80%）によって行う。

### ●受講生へのコメント

授業では、理論や概念のみを取り上げるのではなく、具体例に則して進めていく。したがって、高校時代に地理を履修していたかどうかは問わないし、特別な予備知識も必要としない。むしろ、地理学というフィルター（＝地理的なものの見方）を通じて、現代都市の諸現象を考察していく術（すべ）を身につけてもらいたいと考えている。

### ●教材

教科書：使用しない（講義資料として、授業時にプリントを配布する）。

参考書：必要に応じて授業時に紹介する。

## 文化人類学入門

Introduction to Cultural Anthropology

(前期① 火・3 全)

2 単位

(前期② 火・1 全)

2 単位

文学研究科 多和田 裕司

### ●科目の主題と目標

文化人類学とは、自分とは「異なる」人々にたいする理解を深め、同時に、どうすれば「異なる」もの同士の間でよりよいコミュニケーションを持つことが出来るのかを探ろうとする学問である。文化人類学を学ぶことで、自分たちの身のまわりの人間関係といったことから、文化摩擦や民族紛争などの世界規模の問題にいたるまで、「異なる」ことに起因するさまざまな問題を考えるためのなんらかの手がかりを得ることができよう。

本講義においては、諸学説や具体的な民族誌の紹介をとおして、文化人類学がこれまで「他者／異文化」をどのようにとらえてきたかについて検討する。その作業のなかで、受講者それぞれが「他者／異文化」とのかかわり方のありようについて考えてほしい。

### ●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 文化人類学とはどういう学問か
- ② 文化人類学の対象：他者、文化、異文化

- ③ 文化人類学の方法：フィールドワーク
- ④ レポート作成についての説明と助言
- ⑤⑥ 推論と偏見による異文化理解
- ⑦⑧ 「科学的」異文化理解への志向
- ⑨⑩ 文化相対主義とアメリカ文化人類学
- ⑪⑫ 文化を解釈する
- ⑬⑭ 双方向的異文化理解へ向けて
- ⑮ テスト

### ●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。

（レポート課題）

海外から日本を訪問中の人を対象にインタビューを行い、(1) その人が「日本にたいして感じたこと」、(2) 自分が「そのインタビュー経験のなかで感じたこと」、についてまとめる。なお留学生や教員等をインタビューの相手とすることは認めない。詳細については授業中に説明する。

## ●受講生へのコメント

文化人類学の知識を得るといよりも、人類学的なものの見方を習得してほしい。

## ●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

## 言語学入門

Introduction to Linguistics

(後期 火・2 全)

2単位

文学研究科 田中 一彦

## ●科目の主題と目標

この科目は「ことばとは何か」および「ことばはどのように機能しているか」といった言語学の最も根源的かつ重要な問いに答えるための一つのヒントを提供することを目標としている。

これらの問いを考える中で、例えば、次のような問題点をこの科目では追求することになる。すなわち、「すべての言語に共通する特徴はあるのか。あるとすれば、それはどんな特徴か」「言語間に違いがあるとすれば、それはどのような範囲の差異なのか」「われわれは自分の言いたいことをすべて言語化するのか」「子供はどのようにしてことばを使うことが出来るようになるのか」などである。

これまでは無意識のうちに使っていたことばを意識的に分析する態度を身に付けることが肝要である。

## ●授業内容・授業計画

第1回～第3回

言語比較論 - 言語の共通性について -

第4回～第6回

言語意味理論 - 意味とは何か -

第7回～第9回

言語運用論 - 含意とは何か -

第10回～第11回

言語獲得論 - 我々はいかにして言葉をしゃべるようになったか -

第12回～第13回

認知言語学 - 我々は回りの世界をどのように認知しているか -

第14回

日常の言語学 - 身近な言葉の不思議にせまる -

## ●評価方法

基本的には出席と学期末の試験で評価する。積極的な授業への参加態度も評価対象とする。ただし、4回以上欠席した場合は評価の対象としない。

## ●受講生へのコメント

自分も言語学者になったつもりで、「ことば」の不思議の解明をして欲しい。授業中の積極的な発言を歓迎する。

## ●教材

ハンドアウト等を配布する。参考書に関しては適宜指示する。

## ことばと文化

Japanese and our culture

(後期 水・2 全)

2単位

文学研究科 丹羽 哲也

## ●科目の主題と目標

この科目の目標は、現代日本語およびその歴史的背景について、基礎的・体系的な知識を身につけ、我々が普段何気なく使っている言葉に対して、自覚を深めることである。日本語に関して、ことば遣いや敬語の誤りを嘆き、外来語の氾濫に眉をひそめ、方言の喪失を惜しみ、あるいは、現れては消えてゆく新語・流行語を面白がる、ということがよく行われる。これらは当然の関心であるが、ともすると興味や知識が断片的なままに終わりがちである。正しい日本語というものがあらかじめ定まっているわけでもなく、どういう言葉遣いをするのが良いのかは、一人一人が自分で決めていくべきことである。この授業は、そのようなことを考えてゆくよすがとしたい。

## ●授業内容・授業計画

具体的には以下のようなことを扱う。

1. 日本語の位置
2. 言葉の「乱れ」と規範
3. 言葉の「乱れ」と言語変化
4. 言葉の「乱れ」と位相
5. 外来語の受容の歴史
6. 漢語の受容の歴史
7. 敬語の体系 (1)
8. 敬語の体系 (2)
9. 敬語の体系 (3)
10. 敬語の「誤用」
11. 敬語の歴史
12. 言葉の地理的変異 (1)
13. 言葉の地理的変異 (2)
14. 文字表記の多様性

ことばに対する考え方には、規範主義的な考え方と記

述主義的な考え方があり、日本語について何か問題にされるというのは前者の立場からの発言が多く、一方、学問研究としては後者の立場で進められることが多い。この両方の立場のバランスを取りながら、身の回りの言葉を取りあげていく。

●評価方法

毎回課される課題の提出（30％）と学期末の試験（70％）による。

●受講生へのコメント

課題の問題は、題材は身近でも、必ずしも簡単なもの

ではない。問題を通して、ことばの論理性と多様性を学んでもらう。

●教材

プリントを配布する。

参考書：井上史雄『日本語ウォッチング』（岩波新書）、同『敬語はこわくない』（講談社現代新書）、菊地康人『敬語再入門』（丸善ライブラリー）、井上ひさし『ニホン語日記1、2』（文春文庫）など、日本語に関して手軽に読める本はいろいろあります。

<h2 style="text-align: center;">景観と文化</h2> <p style="text-align: center;">Landscape and Culture</p>	（前期 木・2 全）	2 単位
	特任 山野 正彦	

●科目の主題と目標

この科目の目標は、人間が地表空間に作りあげる「景観 (landscape)」あるいは「場所 (place)」が、人間の生活の仕方としての「文化 (culture)」とどのように関わっているのかを考えようとするにある。文化が景観を作り出すという観点から、現代都市に出現する新しい景観の具体例を紹介しつつ、消費生活で覆われた現代都市文化の特質と問題点を明らかにし、これからの「場所」づくりと、ほんものの生活の仕方について熟考しようとする。

●授業内容・授業計画

1970年代ごろから都市空間に新しいコンセプトやデザインに基づいて建設された建築、町並み、商業・観光施設などが現われ、日常生活の様相が変化してきている。ポストモダンのデザインに従った斬新な建築群、ディズニーのテーマパークのような商業建築やツーリストのための場所を創造しようとする傾向など、新しい景観の創造を意図した都市再開発が進められている。授業では、現代の消費文化が生み出した景観の特徴を示すとともに、このような一見したところ魅力的で便利そうに見える現代の都市景観が、人間の生き方についてどのような問題点を含んでいるのかについて考察を進めてゆく。究極に、「景観」や「場所」がわれわれの生活のコンテクストとなり、アイデンティティの形成と密接につながっていることを明らかにしたい。授業内容は以下のとおりである。

- (1) はじめに：消費の景観と消費の文化（2回）、
- (2) 再開発によって生み出された景観（2回）、(3) 場所のマクドナルド化と均質化（2回）、(4) 場所のディズニー化（2回）、(5) ショッピングモールの景観（2回）、(6) アメリカ村・堀江界隈の形成、(7) コンビニの機能と日常生活の変化、(8) ツーリズムの景観、(9) まとめ：場所づくりとほんものの生活の仕方再考

●評価方法

レポートによる

●受講生へのコメント

この科目は、単に科学的知識や技術を教えることを目的とするものではない。現代の都市文化と景観の性格について、人間の日々の生活の仕方と公共空間のありかたについて深く考えようとする受講者の参加を期待している。

●教材

参考書：レルフ、高野・阿部・石山訳『場所の現象学』、ちくま学芸文庫、1999。ボードリヤール、今村・塚原訳『消費社会の神話』、紀伊國屋書店、1995。フェザーストン、川崎・小川編著訳『消費とポストモダニズム』（上・下）、恒星社厚生閣、2003。リッツァ、正岡寛司監訳『マクドナルド化した世界』、早稲田大学出版部、2008。ブライマン、能登路雅子監訳『ディズニー化する社会』、明石書店、2008ほか、授業中に適宜指示する。

## アジアの文化

Culture of Asia

(前期 月・3 全)

2単位

文学研究科 中川 眞

### ●科目の主題と目標

本講義では東南アジア、特にインドネシアの文化について論じる。インドネシアは1万以上の島からなる島嶼国家であり、オランダの植民地領を引き継ぐ形で1945年に独立した。内発的な統一国家としてスタートしたわけではなく、様々な民族、文化が並存している。本講義では、音楽、演劇、儀礼などの視点から、特にジャワ（イスラーム）、バリ（ヒンドゥー）の両文化を比較しながらその特質を論じ、「多様性のなかの統一」という国是について考える。さらに、「グローバルとローカル」という視点も導入し、伝統的な側面だけではなく、21世紀になって顕著となってきた現代的な都市文化の創造についても論じる。私たちはアジアをひとつくりにできないと同様に、インドネシアをもひとつくりにできないことを思い知るだろう。

### ●授業内容・授業計画

- (1) グローバル化時代における東南アジアの文化
- (2～3) インドネシアへの序章
- (4～8) ジャワの芸能

- (9～12) バリの芸能と儀礼
- (13) 異文化のなかのインドネシア
- (14) 新たな都市文化の創造
- (15) まとめ

### ●評価方法

初回の講義時に「私とアジア文化」というテーマでレポート（1200字程度）を提出することが受講の条件である。この場合の「アジア」には日本は含まない。事前に調べる必要はなく、あなたの体験に即した感想文を自由に書いてほしい。その他、指定図書の後レポート、イベントレポートなど、多くの課題が出され、それをもって評価する。

### ●受講生へのコメント

前期の期間中に開催されるアジア関係の美術展やコンサートなどにも積極的な参加を望むなど、時間外活動も重視するので、相当の時間を費やすことを念頭におくこと。

### ●教材

講義時に指示する。

## アジアの地域と文化 演習

Seminar: Regional and Cultural Studies of Asia

(後期 月・2 全)

2単位

文学研究科 中川 眞

### ●科目の主題と目標

本演習ではインドネシアのガムラン音楽の演奏法習得を通じて、アジア的な音楽表現に親しむ。音楽は楽譜ではなく身体にある、ということを実感するだろう。そういった音楽の身体を体験することによって、音楽に対するこれまでの先入観は打ち砕かれていく。と同時に、日本とアジアの文化を比較し、アジア的眼差しから欧米の文化を見つめるための端緒を得るだろう。まずはガムラン音楽の基礎からはじめ、いくつかの楽器の習得し、最終的には3～4曲を演奏することができるようにしたい。

### ●授業内容・授業計画

- (1) ガムランとは何か
- (2～6) ランチャラン形式の演奏法習得
- (7) ガムランコンサートの鑑賞（随時）

- (8～12) ラドラン形式の演奏法習得
- (13～14) 演奏の仕上げ
- (15) まとめ

授業は基本的に実習形式であり、初歩からの演奏の手ほどきを行う。音楽経験の有無は問わない。

### ●評価方法

出席点とともに、演奏の習得レベルをチェックする。学期末の終了時に実技習得の見極めチェックを行う。

### ●受講生へのコメント

楽器の数に制約があるため、受講生の数を15名以内に制限する。受講希望多数の場合は抽選等で選抜する。ガムランはコミュニティ重視の音楽であり、他者への関心と寛容性を心がけてもらいたい。

### ●教材

授業中に配布する。



## 日本事情 I A

Current Japanese Culture and Society I A

(前期 金・1 全)

2 単位

非常勤 川端 伸典

### ●科目の主題と目標

「日本事情 I A」は、本学で学ぶ留学生のために置かれた科目である。留学生の皆さんが、一日も早く大学での学習や研究に適応できるように、日本に関する基礎知識を身につけることをめざして本科目は開設されている。また、他文化地域出身の留学生とも交流が円滑にできるよう相互理解を深めたい。

(※日本の学生は聴講はできるが、単位の修得はできないので、注意。)

### ●授業内容・授業計画

皆さんが、日常生活をしていて、疑問に思うことや不自然に感じることに、随時、こたえていきたい。また、学生の積極的な質疑を通して相互理解のあり方と可能性を、授業を通して探ってみたい。

日本列島概観

- ①アジアと日本 (古代)
- ②武士社会と儒教
- ③日本の伝統芸を見る

④「近代」への道

⑤「近代」とは何だったか

⑥軍国主義

⑦戦後の社会

⑧現代の社会

⑨アジアと日本の課題

⑩特別講義 (その1)、特別講義 (その2)、予定

なお、受講生の要望により、授業内容は適宜変更する。

### ●評価方法

①テスト

②出席重視 (半数以上の欠席は単位修得不可)

### ●受講生へのコメント

①日常生活をしていて、疑問に思うことを報告してもらいたい。

②担当者の連絡先

e-mail: kawabata0512@yahoo.co.jp

### ●教材

随時配布する

## 日本事情 I B

Current Japanese Culture and Society I B

(後期 金・1 全)

2 単位

非常勤 川端 伸典

### ●科目の主題と目標

「日本事情 I B」は、本学で学ぶ留学生のために置かれた科目である。誰も、自らの文化のあり方を当然のことと思っているが、その当然のことが、他文化地域出身者には必ずしも当然ではない。そのことを、自他のスピーチを通して、確認できるだろう。その差異=異文化を理解した上で、どのような交流ができるのかを、各自のスピーチをもとに討議し、探っていきたい。

(※日本の学生は聴講はできるが、単位の修得はできないので、注意。)

### ●授業内容・授業計画

皆さんが、日常生活をしていて、疑問に思うことや不自然に感じることに、随時、こたえていきたい。また、学生の発表と積極的な質疑を通して相互理解のあり方と可能性を、授業を通して探ってみたい。

「科目の主題と目標」にも記したように、受講者のスピーチと、その後の討議をおこなう。スピーチの内容は自

由。毎回二人、15分程度の発表をすることになるだろう。発表者は、発表原稿または内容の要約を準備する。

なお、発表の順序は初回の授業で決める予定。

また、各学部の教官による特別講義も2回設けられる予定である。

### ●評価方法

①テスト

②出席重視 (半数以上の欠席は単位修得不可)

③スピーチ

### ●受講生へのコメント

①他者の意見をよく聞き、積極的に発言することを希望する。

②担当者の連絡先

e-mail: kawabata0512@yahoo.co.jp

### ●教材

随時配布する。



## 日本事情 II A

Current Japanese Culture and Society II A

(前期 水・3 全)

2 単位

文学研究科 増田 聡

### ●科目の主題と目標

現代日本のポピュラー音楽文化や都市の音楽環境の諸相について議論する。留学生が参加する授業という特性を生かして、受講者間の討議を交えながら、文化相対主義的な観点から現代日本の音文化・大衆文化を検討する批判的視座の獲得を目指す。

### ●授業内容・授業計画

カラオケ、ポータブルオーディオ、多彩なCM音楽、携帯電話着信メロディ、Jポップ、レンタルCD店、YouTubeなど、現在の日本の都市空間やメディア空間で目に（耳に）することができる音楽環境は、あるものは海外から由来し、あるものは日本に生まれたものであるが、さまざまな歴史的・社会的な文脈を経て現在あるような姿へと至っている。われわれが聞き流す「あたりまえ」の音楽や音楽環境が、異なる社会の耳にとってどのように聞こえているかを探るべく、留学生と日本人学生との意見交換を行いながら授業は進行する。よって、下記の授業計画は大まかな方向性を示すものであり、受講生の関心に応じて内容は適宜変更される。

授業はゼミ形式を軸に、ときおり講義を交えるかたちで行われる。何度かのレポート提出を経た後、受講生は、日本の（あるいは自国の）音楽文化について、映像や音楽を用いたプレゼンテーションを、最低一人あたり一回は必ず行うことになる。発表準備はかなりの負担と

なるので、覚悟して受講すること。日本や諸外国のポピュラー音楽文化について知見を深めようとする学生の受講を期待する。

(1～2) イントロダクションと授業方針の決定

(3～5) Jポップ、歌謡曲における「日本のイメージ」の諸相

(6～10) 日本の都市音楽環境・音楽メディア環境について

(11～15) 諸外国の都市音楽環境・音楽メディア環境について

### ●評価方法

出席点と発表内容、討議への参加度、随時課されるミニレポート、および最終レポートを総合して評価する予定だが、受講者数によっては変更する可能性がある。

### ●受講生へのコメント

留学生特例科目のため、留学生は優先的に全員受け入れ、日本人学生を選抜して受講生の上限を20名程度とする予定。受講生の選抜方法などは初回の授業で指示するので必ず出席すること。初回の授業に欠席した学生の受講は認めない。また、出席と討議への参加を非常に重視する。

### ●教材

授業内で指示する。

## 日本事情 II B

Current Japanese Culture and Society II B

(後期 月・4 全)

2 単位

非常勤 鈴木 伸太郎

### ●科目の主題と目標

留学生向けに日本の現状を分かりやすく解説するのが「日本事情」であるが、この講義は主に日本の経済や社会の最近の変化に着目しながら説明するものである。また、日本で生まれ育った人たちが聴いても参考になる内容になるようにしていきたい。

日本事情といっても、必ずしも日本の「特殊事情」の解説ではなく、公共サービスの担い手の問題や、少子高齢化など、世界の他の国々にも共通する課題の中で、日本はどのような「解」を出そうとしているのか、どの程度までそれが成功と言えるのか、などについて理解を深めることが講義の目的である。言い換えるなら、21世紀初頭の世界における一社会としての日本社会がテーマであり、留学生を含めて受講生の現在の生活空間である日本社会の理解を通して、世界の他の国々（あるいは受講生の出身国）の社会の「事情」についての理解が少し

でも深まるようにしていきたいと思う。

### ●授業内容・授業計画

まずは日本政府の財政事情をとりあげる。その桁外れの深刻さ、そこに至る経緯、そうした深刻な財政問題が政策や社会生活全般に影を落としている現状、および将来の努力の方向性などについて理解することを目指す。このことが「郵政民営化」をはじめとする「構造改革」のような政策が立案される背景になっている。そのような政策のプラス面とマイナス面、つまり現実の政策を評価するのに必要な視点を各自が獲得できるようにしていく。公共サービスの民間への開放、バブル経済の崩壊、公共事業の見直し、度重なる談合事件、地方経済の低迷、「格差社会」とも言われる状況が出現したこと、「貯蓄から投資へ」向かわせるような政策などが関連するテーマとしてとりあげられることになるだろう。いずれも、政治的な論議を呼んできた問題である以上、単に現状を批

判したり否定したりすることよりはむしろ、それぞれのテーマの背景を理解していくことに主眼がおかれる。

また、少子高齢化は特に日本では他の国々に比べてスピードが速く、そのために将来に対する不安が増大しているのも事実である。年金や医療といった問題にそれが典型的に、また集中的に表われている。受講生の皆さんはこれらの問題についても理解を深めて、今後の社会の課題について自ら考えていく力を養ってほしいと思っているし、受講する皆さんとともに私も考えていきたいと思っている。

以上のような講義の筋書きは一応用意されているが、実際に受講される皆さんの理解度や関心に、なるべく柔軟に対応できるようにしていきたい。

#### ●評価方法

レポート試験（やや長文・5000字程度）の評価が主

体である。ただし、毎回の授業で（参加人数に応じて）討論または作文という形で各自の意見を発表することを課題にする予定なので、（講義の出席状況も含めた）課題への取り組み状況が悪い受講生はマイナス評価となる。

#### ●受講生へのコメント

受講生は留学生であることを想定しているが、留学生以外の学生の履修も認める。しかし受講希望者が多い場合には、留学生以外の学生の履修を制限することがあるので、受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。

#### ●教材

教科書は指定しない。参考書は随時紹介し、必要な資料は授業において配布する。

## 日本の古典文学

Introduction to the Classics of Japanese Literature

（後期 火・2 全）

2単位

文学研究科 小林 直樹

#### ●科目の主題と目標

人間が、長い時間の経過によっても侵食されることのない、不易の側面を有していることは言うまでもない。古の書物をひもとけば、古人の喜び、悲しみ、悩む姿が現前して、我々の共感を誘い、また数々の智慧の言葉が発せられて、我々の心をとらえる。時代を超えて読みつがれる古典というものは、こうした点によって支えられている面が大きいと言えよう。

けれども、その一方で、人間の営みの中には、時代と共に変化し、あるいは失われて、後代の人間の常識や感覚では、もはや捉えがたくなってしまふような部分が存在することも否定できない。古典を読む際、この点はいくらかの障害となって前方に立ちふさがることもある。が、我々が少し努力して古人の側に身を添わせるなら、そこに、日頃何らの疑念も抱かずに当然視してきた「常識」を相対化し、くつがえす新鮮な視点が潜んでいるのを発見することも稀ではないのである。

本科目では、実地に古典文学の世界に触れる中で、上記のような、現代において古典をよむ楽しみと意義を理解してもらうことを目的としている。何百年という時を超えて、古典の世界に飛び込み、しばし古人と哀歓を共にし、また大いに彼らに学びたいと思う。

#### ●授業内容・授業計画

本年度は、日本の説話絵巻を代表する傑作、『伴大納言絵巻』と『信貴山縁起絵巻』をよむ。詞書（文章の部分）を読んだ後に、それに該当する絵画部分を鑑賞し、物語を総合的に味わう。予定している授業の概略は以下の通り。

ガイダンス（1回）、『伴大納言絵巻』（6回程度）、『信貴山縁起絵巻』（7回程度）。

#### ●評価方法

試験による。ただし、授業中に書いてもらうコミュニケーションカードの内容も加味する。

#### ●受講生へのコメント

テキストの指示された箇所は必ず目を通した上で受講すること。授業中はテキスト世界にひたすら没頭し、床への着席、おしゃべりは厳禁、即刻退出を命ず。

#### ●教材

教科書：プリントを配布。

参考書：益田勝実『説話文学と絵巻』（ちくま学芸文庫）

宮本常一『絵巻物に見る日本庶民生活誌』（中公新書）他

## 西洋の文学

European Literature

(前期 木・4 全)

2単位

非常勤 神野 ゆみこ 他

## ●科目の主題と目標

「世紀転換期の虚構と現実」19・20世紀転換期のイギリスとオーストリアという2つの帝国の文学を、虚構と現実という視点からいくつかの作品を読み解き、それぞれの作品に描かれた社会や文学の問題点や共通点を考察してゆく。

## ●授業内容・授業計画

担当は神野ゆみこと高橋章夫の二人。授業では、最終回の導入とまとめ以外は、次の3つの小テーマをたて、小テーマ1つにつき2回ずつ、担当者が講義をする。

1. スキャンダル
2. ユートピアを夢見て
3. 生と死

第1回： 導入 (神野ゆみこ・高橋章夫)

第2～3回：「スキャンダル 1」(神野)

当時のウィーンの性の二重モラルとその中で生きて行く人間のしたたかさを描いた作品から、スキャンダルが通俗小説から文学作品の題材となり得たウィーンの文学を考察する。

シュニッツラー『レデゴンダの日記』、ヘルマン・バール『ジャネット』他。

第4～5回：「スキャンダル 2」(高橋)

スキャンダルが成立する前提として、品格のある人物の存在が不可欠であるが、王政復古期から現代に至るまで、風習喜劇においてどのようにして作家たちはそのような人物を創造しているか、またどのようにスキャンダルを笑いに変えているかを見ていく。

オスカーワイルド『真面目が肝心』他

第6～7回：「ユートピアを夢見て 1」(神野)

暗鬱な世相の中で、作家たちは悦楽の世界へ逃げようとする。その虚構の世界の中に潜む現実を考える。

エゴン・フリーデル『タイム・マシーン』、ヘヴェジエー『地獄のジュヌ・ヴェルヌ/天国のジュヌ・ヴェルヌ』

第8～9回：「ユートピアを夢見て 2」(高橋)

現実世界の鏡のような存在であるユートピアとディストピアに投射されている、現実の環境・思想を、ダーウニズムと文学との関連を軸にして分析する。

オルダス・ハックスリー『すばらしい新世界』他

第10～11回：「生と死 1」(神野)

オーストリア・バロックから綿々と連なる死への想念が、作品にも影を落としている。第1次大戦中から戦後にかけて一層濃くなる死の影と戦う、あるいはそれに呑み込まれていく人間の姿を追う。

ヨーゼフ・ロート『ファルメライヤー駅長』他

第12～13回：「生と死 2」(高橋)

西部戦線という生と死が隣接した世界を経験した作家が、自分自身の体験を自伝の中でどのように描いているかを見ていき、自伝文学の特質を考える。また、第一次世界大戦に関する歴史研究の中で、どのように文学が扱われているかを検証する。

ロバート・グレイヴズ『さらば古きものよ』他

第14回 まとめ (神野ゆみこ・高橋章夫)

## ●評価方法

期末試験、小レポート、出席状況を総合的に判断し、評価する。

## ●受講生へのコメント

授業で指示された作品は、邦訳でよいので読んでおくこと。

## ●教材

(神野) 池内紀編訳 『ウィーン世紀末文学選』 岩波文庫

その他、プリントを配布、あるいは授業内で参考図書を指示する。

(高橋) プリントを配布、あるいは授業内で参考図書を指示する。

## 日本の詩歌

Japanese Poetry

(前期② 火・2 全)

2単位

文学研究科 村田 正博

## ●科目の主題と目標

詩歌は、古代の祭祀における呪祷の言葉と共同作業における結束の詠唱を母胎として生まれ、王朝の折節を彩り、主として貴族の交流の具として発展を遂げた一、それが古代の詩歌。王政が揺らぎ、王朝から逸脱したところで言葉の新しい可能性を追究し、風雅に遊び「わび・さび」といった境地へといたる一、それが中世の詩歌。

明治維新を経て、西洋化が進む中で、一個の人格として思うこと、感じることを吐露するのが詩歌だと自覚し、恋を歌い苦悩をうたい勇気を歌う一、そうしてそこ人として生存してある根源の、言葉による把握と表明を行なおうとする一、それが近代の詩歌。時代三区分法によって言うならば、ざっとしたところ、そんな展開をたどって、日本の詩歌の千数百年の蓄積がある。

この展開は、政治や社会の展開に比べて、微細であり緩慢でもあり、それを考察の対象としてみたところで、はかばかしい成果をあげることができるものかどうか、必ずしも見透しは明るくはなく、大きな期待も寄せられていないのが現状である。

しかし、人間を人間としてあらしめる最も根幹をなすもので言葉があることを重視するならば、言葉を手立てとして人間存在の根源に迫ろうとする詩歌というものは、さまざまな言葉のありようの中で、最もその本質に関わるものであることに、人間として、実は、気づいていなければならない道理である。

われわれは、詩歌を、不当に軽く見てはいないであろうか。詩歌は、言葉の、最も言葉らしい顕現なのであり、したがって、それが軽視されるとき、人間の存在そのものが軽視されているのだと言っても、けっして言い過ぎではないのである。

これから半期をかけて試みる授業が、以上のような主張に見合うものとなるかどうか、担当者として精一杯の努力を約束するとともに、受講の諸君の感性と誠意に期待する。

●授業内容・授業計画

- ①詩とはなにか？ (2～3回)
- ②詩のことば・日常のことば (2～3回)
- ③新しい時代を拓いた詩 (4～5回)
- ④ゆかしき詩人たち (4～5回)

- ⑤詩人が追放されない国をめざして (最終回)
- ⑥まとめ・レポート受取 (最終回)

(授業回数は、だいたいの目安である。①の授業で③の内容にふれるといったことも、テーマの性質上、おそらくあるだろう。諒とされたい。)

●評価方法

毎回の授業に対する意見・感想(特製出席カード)と期末のレポート(授業の趣意に沿って諸君の思索のあとを披瀝すること)による(評価の比重は、前者50%・後者50%)。

●受講生へのコメント

教えるとは、夢を語ること、  
学ぶとは、誠実を胸に刻むこと。

これは、フランスの詩人、アラゴンの言葉。そんな授業が実現されるように…。

●教材

プリント配布。

参考書：茨木のり子『詩のこころを読む』

(岩波ジュニア新書)

澤 正宏・和田博文『日本の詩 近代篇』

(和泉選書)

宗 左近『あなたにあいたくて生まれてきた詩』・『詩のささげもの』(ともに新潮社)

正津 勉『詩人の愛』(河出書房新社)

## 芸術の世界

Aesthetics and Science of Art

(前期 月・2 全)

2単位

文学研究科 高梨 友宏

●科目の主題と目標

「芸術への美学的ないし哲学的アプローチの試み」

古来、人の心を引きつけてやまない芸術作品。人は芸術作品にときに慰めを見だし、ときに生きる希望を与えられてきた。芸術に理屈はいらない。ただ作品を前にして、心の感じるままにふるまえばよい。そう考えることももちろん間違いではない。しかし、芸術に心惹かれている状態から、一歩踏み込んでみよう。するとそこには、私たちが芸術に惹かれるのはなぜか、その背後には何があるのかといった問いが開かれている。そんな問いは、やり過ごしたところで日常生活に支障が出るたぐいの問いではない。無意味な問いとさえ、人は言うかもしれない。しかし問わなくてもよいからこそ、問うに値する問いというものがある。問うこと自体がその目的であるような純粋な問い、つまり哲学的な問いがそれである。

古来、芸術に心惹かれた人たちのなかには、芸術の本質をたずねて、こうした哲学的問いに取り組んだ者が少なからずいた。美は本来どこにあるのか。芸術は美とどう関係するのか。自然の美と芸術の美は違うのか同じな

のか。芸術の本質は変化するのか、変わらないのか。芸術によって人は善くされるのか、墮落させられるのか。芸術は人間より上なのか下なのか…。

芸術をめぐるそうした哲学的問いを問うた西洋の先人たちの思索の歩みに歩調を合わせ、この問いの世界をみなさんとともに散策してみようと思う。

●授業内容・授業計画

- ①「はじめに、または芸術(美)・真理・善」
- ②-⑤「芸術と美」  
美の所在/自然美と芸術美(2回)/美の判定
- ⑥-⑨「芸術と崇高」  
崇高論/崇高と芸術/共感覚と触覚的視覚/美的近代の変様
- ⑩-⑫「芸術と倫理」  
美的経験と道徳/芸術による人間形成/芸術と環境
- ⑬-⑭「まとめ(予備)」

●評価方法

学期末試験による評価。

●受講生へのコメント

予備知識は特に必要としないが、芸術への関心はもと



より、哲学や美学に関心を持つ人を歓迎。面倒な理屈に付き合う覚悟を携えて受講してほしい。

### ●教材

教科書：ドイツ観念論研究会編『思索の道標をもとめ

て－芸術学・宗教学・哲学の現場から－』萌書房,2007年。

参考書：適宜授業中に指示する。

## 西洋美術の流れ

History of Western Art

(後期 金・4 全)

2単位

非常勤 石黒 義昭

### ●科目の主題と目標

絵画、彫刻、建築などの美術作品には、人々が世界をどのように認識してきたかということ、つまり人間の「ものの見方」が刻み込まれている。

この講義では、古代ギリシアからバロックにいたる代表的な美術作品について美学・藝術学の観点（哲学的立場）および美術史学の観点（実証的立場）から考察し、「美術とはなにか」、「人間は美術とどのように関わってきたか」といったことを問う。

造形芸術だけではなく、適宜、音楽や文学の作品もとりあげ、ヨーロッパの人たちが、どのような価値観を形成してきたのか、総合的に考えていく。

### ●授業内容・授業計画

- ・基本的な進め方はつぎのとおり。
  - ①テーマをしめす（「ヘレニズム」など）。
  - ②DVD教材などによって理解をふかめる。
  - ③重要な問題にかんしては、学生にコメントを書いてもらう（400字程度）。興味深いコメントや質問があれば、次回の講義で紹介する。
  - ④テーマについて解説する。
- ・授業計画（状況によって変更される可能性あり）
 

第1回～第4回 古代ギリシア

- 第5回～第6回 古代ローマ
- 第7回～第8回 中世
- 第9回～第12回 ルネサンス
- 第13回～第15回 バロック

### ●評価方法

登録者が100名未満の場合は、授業中のコメント（30%）と学期末のレポート（70%）。

登録者が100名を越えた場合は、学期末の定期試験（100%）。

### ●受講生へのコメント

特別な知識は前提としないが、ヨーロッパの歴史をある程度理解していることが望ましい。

美学や美術史学は、個々人の藝術経験をもとにして成り立っている。概説を聴いて、通り一遍の知識を得たところで、実際に藝術作品にふれなければ、あまり意味がない。受講生には、展覧会や音楽会などに足をほこび、さまざまな藝術作品に接することをとめる。

### ●教材

特定の教科書は使用しない。初回に参考文献一覧を紹介する。

視聴覚教材をつかうときは教室の明かりを消すので、手許を照らすライトなどを持参すること。

## 音楽の諸相

Aspects of Music

(前期 水・4 全)

2単位

文学研究科 増田 聡

### ●科目の主題と目標

英米圏を中心とした20世紀のポピュラー音楽史について論じる。19世紀末に出現し、20世紀初頭に欧米から世界中に普及していったレコードやラジオといった音響複製メディアは、それまでの音楽文化の姿を大きく変えることになった。さまざまな民族や都市文化の美学を反映した多様なポピュラー音楽が市場に出回り、音楽産業は巨大なビジネスになっていく。本講義では、とりわけ20世紀の音楽産業の発展に最大の影響をもたらした英米のポピュラー音楽史を、技術、経済、思想、政治、民族性、美学などの観点から、映像資料に基づいて概観していく。

### ●授業内容・授業計画

- (1) ポピュラー音楽の社会的背景
- (2～4) 初期音楽産業、ジャズとブルース（アメリカ黒人音楽文化の浮上）
- (5) ロックンロールの誕生
- (6) 公民権運動とフォークロック
- (7) 60年代ソウル
- (8) 英国へのアメリカ黒人音楽の影響
- (9) サイケデリック文化とロック
- (10) 70年代ロックの拡大
- (11) パンク・ロック
- (12) 70年代黒人音楽の発展（ファンク、ディスコ）
- (13) 80年代のMTV文化とヒップホップ



(14) 90年代以降のテクノ／クラブカルチャーの展開  
 (15) MTV的な音楽／映像文法の諸相  
 順序は入れ替わったり、二つの主題を同じコマで行う場合もある。

●**評価方法**

学期末レポートもしくは学期末試験

●**受講生へのコメント**

例年受講希望者が多く、受講の可否は抽選となる可能性が高い。単位取得ではなく、講義内容に関心を持つ学

生の受講を希望する。時間割を埋めるための履修登録は講義内容に関心をもつ学生にとって迷惑となるので避けること。初回授業に欠席した学生の受講は認めない。

●**教材**

教科書として下記を指定する。通読したうえで必ず毎回授業に持参すること。

増田聡・谷口文和『音楽未来形——デジタル時代の音楽文化のゆくえ』（洋泉社）

## 視覚文化の世界

The World of Visual Culture

(後期 火・4 全)

2単位

非常勤 元井 めぐみ

●**科目の主題と目標**

服装と言うものは無くしてはならないものであり、身近な文化のひとつでもある。一方で、今日の私たちが着ているものはほとんどが西洋由来のものであることも確かである。古代から現代まで、人々がなぜ、そのような服を着、飾ったかを学ぶことはより端的に文化のあり方を知るきっかけとなる。服飾を通じて西洋の歴史を見ていくことで人の「おもしろさ」「不思議さ」を学んでいく。

●**授業内容・授業計画**

- ① 古代エジプトとメソポタミア
- ② 古代エーゲ海文明とギリシア
- ③ 古代ローマとビザンチン
- ④ ゴシックとロマネスク
- ⑤ スライド上映・総括（古代～ロマネスク）
- ⑥ ルネサンス

- ⑦ バロックとロココ
- ⑧ 革命とナポレオン
- ⑨ ロマン主義と世紀末
- ⑩ スライド上映・総括（ルネサンス～世紀末）
- ⑪ ベル・エポック
- ⑫ 戦後
- ⑬ 現代
- ⑭ スライド上映・総括（ベル・エポック～現代）

●**評価方法**

定期試験。授業態度や出席状況も減点の対象とする。（3分の1以上の欠席者は不合格とする）

●**受講生へのコメント**

知的好奇心を持ってください。知性は力です。

●**教材**

参考書は授業中に適宜指示する。

## 文学と芸術へのいざない

Introduction to the Literature and Art

(前期 木・3 全)

2単位

特任 浅岡 宣彦

●**科目の主題と目標**

文学と音楽との関係を中心に取り上げる。19世紀初頭に活躍したロシアの詩人プーシキンと、彼の作品を素材に作られたオペラ作品、特にチャイコフスキイのオペラとを比較し、文学と音楽の表現の相違、作家と作曲家の解釈の相違などを検討する。

●**授業内容・授業計画**

プーシキンの韻文小説『エヴゲーニイ・オネーギン』、叙事詩『ポルトワ』、小説『スぺードの女王』を題材に、チャイコフスキイは3曲のオペラを作曲した。オペラ《エヴゲーニイ・オネーギン》、《マゼッパ》、《スぺードの女王》である。プーシキンの作品を読んでもらい、並行してオペラを鑑賞しつつ、いくつかの問題点に絞って受講者と議論を交わし、作品の理解を深めていく。三つのクールに分けて、『オネーギン』は5回、『ポルトワ』

は4回、『スぺードの女王』は5回の授業を配分し、各最終回に簡潔なレポートを作成してもらう。

●**評価方法**

3回のレポートと平常点（出席率、意欲など）で総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

- 1) 受講生の数は20名前後とする。
- 2) ロシアのイメージにとらわれず、ロシアに関心のある方を歓迎。
- 3) プーシキンの作品は名訳があるので、それを使用する。

●**教材**

教材は特になし。

プーシキン『エヴゲーニイ・オネーギン』木村彰一訳、講談社文芸文庫

プーシキン『スペードの女王・ベールキン物語』神西清訳、岩波文庫

他の参考文献は適宜、授業中に指示する。

## 数学の歩み

Progress in Mathematics

(後期 月・3 全文)

2単位

特任 住岡 武

### ●科目の主題と目標

数学は科学の言葉であり、現在の科学文明の礎をなしている。数ある学問の中で一番役に立っているのは数学であると言っても過言ではない。しかし数学には、役に立つという実益の面だけでなく、美意識に訴える芸術的な面があり、一つの文化をなしている。多くの数学者は、実益の面より、むしろ美意識に動かされて数学を作ってきたと思われる。また歴史は、美意識を動機として作られた美しい数学が、時代を経て役に立つことを証明している。

この講義では、数学の面白さ、美しさ、文化としての数学を伝えたい。そこから、数学の歩みが学び取れればと思う。

ユークリッドから現代に至る数学の中から、幾つかの話題をオムニバス形式で取り上げる。話題間に緩やかな関連がある場合もあるが、基本的に各話題は独立し1～3回で読みきりとする。

### ●評価方法

出席点、レポート、小テストによって評価する。

### ●受講生へのコメント

予備知識はあまり必要ない。高校までの内容で十分である。しかし、数学への興味と論理的思考力があることは不可欠である。

### ●教材

教科書、参考書は用いない。適宜プリントを配付する。

## 数学の歩み

Progress in Mathematics

(前期② 月・1 全)

2単位

理学研究科 高橋 太

### ●科目の主題と目標

数学は自然科学の言語であり、現在の科学文明の礎をなしているが、数学それ自身もその内的な欲求から常に発展・進化を遂げてきている。

その様子を眺めていると、数学はひとつの統一的な目標に向かっていくというよりも、むしろより広がりを持った、今までは『数学』ではなかった周辺分野をも取り込んで、あたかも地下水が広範な土地を潤すように広く深く浸透していくかのように見える。

この講義では、この数学のダイナミックな発展の様子を、当事者である数学者たちの視点から眺めてみたい。

### ●授業内容・授業計画

ギリシャ時代から現代に至る数学の発展の中で活躍したユニークな数学者たちを列伝的に紹介しながら、背後にある数学的なアイデアにも光を当てる。

基本的には毎回の講義は独立していて、読みきり形式で行う。

### ●評価方法

出席および課題レポートの提出(複数回予定)によって評価する。

### ●受講生へのコメント

予備知識はあまり必要ない。ただ数学への強い興味と少しの忍耐が必要である。黒板を用いたオーソドックスな講義形式の授業を行う。

### ●教材

教科書は用いない。毎回、簡単なプリントを配布する。参考書として以下を挙げておく。

E.T. ベル 「数学をつくった人々」

志賀浩二 「無限からの光芒」

瀬山士郎 「はじめての現代数学」

## ニュートンからアインシュタインへ

History of Physical Concept from Newton to Einstein

(前期 木・2 全文、H(人)) 2単位

非常勤 内藤 清一

### ●科目の主題と目標

古典物理学から相対性理論や量子力学に代表される現代物理学に至る歴史的過程において、種々の自然現象を理解するために先人達により工夫、発見された種々の物理的思考方法を、できるだけ易しく理解できるように講義する。

### ●授業内容・授業計画

特に、力学的現象を中心に、ビデオ教材を利用しながら授業を進める。

1) ニュートンの法則 2) リンゴと月 3) 調和振動  
4) 宇宙の航行 5) エネルギーの保存 6) 運動量の保存  
7) 角運動量 8) 四つの力 9) 落体の法則  
10) 慣性 11) 円運動 12) ミリカンの実験 13) ケプラーの法則  
14) 波動 15) 温度と気体の法則 16) 曲がった空間とブラック・ホール

更に、“物理学読本”（朝永振一郎編、みすず書房）を準教科書として採用し、以下の項目より適宜説明する。

1) 月はなぜ地球に落ちてこないか。地球の重さはどうしてはかるか。 2) 光が波であるとはどういう意味か。  
3) エネルギーの旅 4) 電気振動 5) 原子論の発展  
6) 原子内部の構造 7) 量子の概念と物理学の将来

### ●評価方法

出席率、中間試験及びレポートなど。

### ●受講生へのコメント

講義内容が広範囲にわたるので欠席しないように心がける。また、講義項目は講義の進捗状況により変わることがある。数式は若干使用する。

### ●教材

教科書 朝永振一郎「物理学読本」(みすず書房)。

## ミクロとマクロの世界

(後期① 火・3 全文) 2単位

(後期② 火・1 全) 2単位

非常勤 牲川 章

### ●科目の主題と目標

自然界の理解に向けた人類のあくなき挑戦を通じて、一方でミクロ世界、他方でマクロ世界の理解が進んできた。ミクロ世界に分け入っていくと以下のような階層構造が見えてくる：物質→分子→原子→原子核+電子、原子核→陽子+中性子→クォーク。現在までにクォークは6種類確認されている。電子は、仲間と共にレプトンと呼ばれるグループを構成しているが、このグループも6種類の粒子から成っている。ここまでの、現在人類が到達しているミクロ世界の最前線である。他方、恒星や宇宙などのマクロ世界に関する関心は太古の昔から存在した。現在では、星の構造やその進化、並びに宇宙そのものの進化に関する理解が深まり、これらは上述のミクロ世界の物理学と密接に関係していることが判明している。

本科目では、ミクロ世界からマクロ世界に亘る物理学を、その有機的つながりを軸にできるだけ数式を用いずに平易に解説する。

### ●授業内容・授業計画

以下の順序を進める。

1. 物性物理学：物質は分子、原子から出来ているシステムであるという視点から解説する。磁石、超低温での超伝導現象などをとりあげる。
2. 素粒子物理学：上述のミクロ世界の物理学を採りあげる。2008年度ノーベル物理学賞の受賞対象となった南部陽一郎（大阪市大名誉教授）、小林-益川の理論についても概説する。
3. 宇宙物理学：恒星の構造とその一生、137億年前のビッグバンに始まる宇宙の進化と現在の宇宙の構造などについて概説する。

### ●評価方法

理解度（毎回提出、出席票を兼ねる）、課題レポート（2回程度）、出席状況等による総合評価。

### ●受講生へのコメント

授業中の質問は歓迎する。又、理解度を計るために毎回配布する用紙に「質問」を書き加えることも歓迎する。尚、上記の授業内容は一部変更することがある。

### ●教材

教科書は使用せず、プリントを毎回配布する。参考書は必要に応じて授業中に指示する。

## 物質の多様性

The Versatility of Matters

(後期 月・2 全文)

2単位

理学研究科 品田 哲郎

### ●科目の主題と目標

本講義では、私たちを取り巻く物質について共に考えてみたい。具体的には、我々の生活と切り離すことができない関係にある「薬」を題材に取り上げる。

薬はどちらかといえば「与えられるもの」であるが「選んで使う」場合が増えつつある。その一方で「薬とは何か」を学ぶ機会は少ない。本講義では、薬の概論を講義したのち、Q&A(約50問)を通じて具体的な事例から、薬に対する理解を深めていきたい。

### ●授業内容・授業計画

最初の数回は概論を講義する。残りの時間を使ってQ&Aに取り組む

- 1) 薬の歴史：西洋、東洋における薬の発展。
- 2) 薬は体内でどうなるのか1：薬物の体内動態について。食べ物との違い。
- 3) 薬は体内でどうなるのか2：作用点に到達する過程と作用機構。
- 4) 薬はどのように作られていくのか。
- 5) 薬の安全性：その評価法と調べ方。

6) ~14) Q&A50問の解説。以下に一部を列挙する。

誤飲を防ぐため薬は苦くしてある？；子供には大人の量の半分を与える目安がある？；漢方薬には副作用がない？；抗生物質は風邪に効く？；ビタミン剤には副作用がない？；薬は胎盤を通過できない？；注射剤、錠剤、座薬のうち効き目をもっとも遅いものは、座薬である？；食間とは食事中に飲むことである？；10秒で崩壊する錠剤がある？；他。

### ●評価方法

出席、レポート、および試験によって評価する。

### ●受講生へのコメント

薬に関する幅広い内容を、物質の観点から捉えることに主眼をおく。授業は板書を中心として、パワーポイント、プリントを補助的に用いる。薬の歴史に始まり、体内から出て行くまでの過程や、体内での変化過程などを理解した上で、薬がどのように作られ、その安全性が評価されているのかを学んでゆく。

### ●教材

授業中に参考文献を示す。

## 化学の世界

World of Molecular Chemistry

(前期① 月・3 全文・H(人)) 2単位

(後期② 水・1 全) 2単位

特任 工位 武治

### ●科目の主題と目標

私たちの日常の健康に重要な役割を果たす食品や医薬品は、化学物質からできている。また、PCをはじめとするエレクトロニクス、ニューセラミックス、高速光通信などに使われている素材は高度な化学技術の上に成り立っている。無論、私たちの身体はすべて化学物質からできており、生命体としての機能は物質の機能に支えられている。本科目では、化学を専門としない学生に、化学に興味をもってもらうこと、ちょっとした化学の知識と考え方が質の良い生活(QOL=Quality of Life)を日常的に送るために大変役に立つことを念頭において、どのような化合物が何のために、どのように使われているか、その根底にある化学の法則とはどのようなものか、また物質の構造はどのようにして決められるかなどを学ぶ。講義の進め方は私たちにとって重要で身近な現象を取り上げ、それらの背後に潜む謎を解き明かすと共に、ユビキタス化学といってもよい現代の分子科学の果たし

ている役割について考える。

### ●授業内容・授業計画

- ①化学に強くなる「化学の基礎」
- ②生活と化学(水は何色、地球上の水はどこから来たかなど)
- ③環境・気候変動(地球温暖化)と化学
- ④地磁気の消滅と渡り鳥の謎
- ⑤生命の化学と分子進化
- ⑥DNAの分子科学  
各課題を2-3週間で消化する。

### ●評価方法

レポートと平常点を含む総合評価。

### ●受講者へのコメント

化学に関するどんな疑問・質問にも答えます。

### ●教材

教科書の指定はない。教材は担当者が提供する。



## 生物学への招待

Introduction to Biology

(前期① 水・3 全文・H(人)) 2単位

(前期② 水・1 全) 2単位

理学研究科 田中 俊雄 他

### ●科目の主題と目標

地球上に生命が誕生して35億年ほどが経過した。この間、生物は遺伝子DNAを営々と子孫に伝え、そこに刻まれた暗号を弛まなく変化させながら進化した。本講義では、まず、肉眼では見ることのできないミクロの生命体、すなわち微生物を題材として、その多様性やヒトとの関わりについて論じる。次いで、遺伝子の実体やそこに暗号として刻まれた情報がどのように生命現象と関わっているか、また、遺伝子の不偏性を動物の胚を例にとって概説する。さらに、動物を題材としたマクロな視点から生物進化をとらえ、進化における性の意義を解説する。

[第1ターム] ヒトのゲノムが解読された今日においても、微生物はあいかわらず私たちにとって未知の存在であり、あるものは私たちの生命を脅かす存在である。多種多様な微生物の姿をとおして、その分類上の位置づけや生物界における意義、役割について学ぶ。

[第2ターム] 遺伝子の本体であるDNAの初期化はどのようなものであるか、クローニングされた遺伝子の機能解析はどのように行われているのか、クローン動物やiPS細胞に見られる遺伝子の初期化の意義を、アフリカツメガエルやマウスを材料にミクロな視点から概説する。

[第3ターム] 当たり前と思っていることもよく考えると不思議なことが多い。動物にはなぜ雄と雌があるのだろうか。なぜ雄と雌の数はほぼ1対1なのか。動物には一夫一妻のものもいれば、ハレムを作るものもいるし、

一妻多夫のものもいる。なぜだろう。中には性転換するものもいる。これら性にまつわるさまざまな現象も現代の進化理論から統一的に説明できる。

### ●授業内容・授業計画

[第1ターム] 担当：田中俊雄

1. 細胞とは何か 2. 微生物とは何か 3. 微生物の多様性 4. 微生物とヒトとの関わり 5. 微生物についての総括と小テスト

[第2ターム] 担当：池西厚之

1. DNAと遺伝子 2. トランスジェニック動物の作成の意義 3. クローン動物 4. ES細胞とiPS細胞 5. ノックアウトマウスによる遺伝子の機能解析

[第3ターム] 担当：幸田正典

1. 生物進化とその機構-なぜ、雄と雌がいるのか？  
2. 動物の多様な「婚姻形態」？なぜ、そうなるのか？  
3. 性転換や環境により決まる性。4. ヒトの進化：「人種」とは何か？

### ●評価方法

小テスト、レポート、出席点。

### ●教材

プリント：適宜配布

参考書等：田中 担当：村尾澤夫ら『くらしと微生物』（培風館）、池西 担当：石原勝敏『図解 発生生物学』（裳華房）、桑村哲生『生命の意味』（裳華房）、幸田 担当：長谷川真理子『クジャクの羽はなぜ美しい』（紀伊国屋書店）

## 地球の科学

Earth system science

(後期 火・1 全文)

2単位

理学研究科 益田晴恵・領木邦浩

### ●科目の主題と目標

「環境の世紀」と言われる21世紀に、私たちは生きている。私たちが暮らす自然環境が、様々な自然現象の微妙なバランスの上に保たれていることを理解することなくして、地球環境問題を考えることは難しい。本講義では、地球表層部で起る様々な自然現象を、人間社会との関係から考察しよう。そのために、地震や環境汚染などの身近な自然災害を取りあげよう。また、地球システムという概念に基づいて、地球の歴史、物質とエネルギー循環を理解し、人類の社会的選択についても考えたい。

### ●授業内容・授業計画

人間の社会活動と関係の深い地震や都市災害、環境汚染、地下資源など、地球の現在の姿と将来予測を概説す

る。また、地球の姿を理解してこようとしてきた科学史を織りまぜながら、最新の地球学の知識に基づいて、地球の歴史を概観し、地球について理解することの意義を考える。以下にその内容を示す。

- 1 地震と災害
- 2 津波の発生と伝播、被害と対策
- 3 活断層と表層地質構造
- 4 断層周辺の歪と応力
- 5 構造探査と資源調査
- 6 都市地盤の特性と住環境
- 7 地磁気の変遷と地球中心核（以上、領木担当）
- 8 地球誕生と初期進化。地球システムの概念。
- 9 海洋と大気の歴史



- 10 プレートテクトニクスとブルームテクトニクス。固体地球内部でのエネルギー循環と物質分化。
- 11 地球の表層循環。大気圏と水圏の構造とエネルギー循環。
- 12 炭素循環と生物活動、地球温暖化
- 13 水循環と水質汚濁
- 14 生物と地球の共進化。大量絶滅事件。(以上、益田担当)

#### ●評価方法

出席点40点、レポートと期末試験各30点。出席点に

は、講義ごとに行う小テストを含む。

#### ●受講生へのコメント

これまでで地学の授業を受けたことがないことを前提に授業を行う。自然環境問題に興味がある人はもちろん、持たない人にも、「地球の歴史と現在の姿を知る」ことの大切さがわかる授業を行いたい。

#### ●教材

講義の資料は準備する。参考書は授業中に指示する。

## 地球の科学

The Aspect of the Earth

(後期② 木・2 全)

2単位

理学研究科 奥平 敬元 他

#### ●科目の主題と目標

46億年の歴史を持つ地球はどのような物質から構成されどのように変遷してきたのであろうか。地球を構成する岩石と鉱物の特徴、固体地球内部の変遷と大陸の離合集散について紹介する。また、特に地球表層部は、生活・産業・災害など、人間の諸活動に密接な関りを持っている。そこでみられる地球科学的な諸現象を、様々な計測や観察による情報を手掛かりに、固体地球から身近な地域までの各スケールでとらえていきたい。

#### ●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス：履修概要と地球科学を学習することの意義等を解説する（奥平）
- 第2－4回 固体地球の構成：固体地球を構成する鉱物・岩石の特徴を紹介する（奥平）
- 第5－7回 固体地球の変遷：固体地球の層状構造および大陸の離合集散について紹介する（奥平）
- 第8・9回 地震災害：地震による災害の実態を紹介し、表層地質の観点からみた対策について検討する（領木）
- 第10回 断層と地殻の変動：地震の発生様式およびその原因論について考察し、特に地球表層で観察される活断層に関する知見を紹介する（領木）

第11・12回 地震学の発展と地球の内部：地球内部構造の解析について解説する（領木）

第13回 人工地震による資源の探査：人工地震による手法を述べ、その成果を紹介する（領木）

第14回 磁場の変遷とプレートテクトニクス：岩石中に残された地球内部磁場の変化の検討から打ち立てられたプレートテクトニクスの発展過程を紹介する（領木）

第15回 期末試験

#### ●評価方法

定期試験による。また、レポートおよび小テストを随時行い総合的に判断する。

#### ●受講者へのコメント

受講者へのコメント：講義内容が多岐にわたり、適当な教科書・参考書が少ないため、欠席しないように心掛け、かつノートをとること。

#### ●教材

教科書：特に指定しない。テキストを配布する。

参考書：力武常次「簡明地球科学ハンドブック」（聖文社）、杉村 新ほか「図説地球科学」（岩波書店）。

# 実験で知る自然の世界

Expedition to Science World

(後期 水・3-4 全文・H (人)) 3単位

理学研究科 飯尾 英夫 他

## ●科目の主題と目標

現代における自然科学の発達は著しく、私たちの身の周りのみならず、社会のあり方にまで大きな影響を及ぼしている。本科目は、文科系専攻（H・人間福祉を含む）の学生を対象に、身近なテーマの自然科学実験を通して自然の世界に親しみながら、現代人にとって必要な自然科学の知識を身につけてもらうことを目指す。

## ●授業内容・授業計画

第1回目はガイダンスおよび消火訓練を行い、第2回目からは以下の実験を行う。（ ）内は各テーマの担当教員を示し、適宜、実験室の技術職員が加わる。

### 1. 「植物の形態とフラクタル」(伊東 明、名波 哲)

構内に生育する植物の形態を観察し、さらに樹形形成過程のコンピュータシミュレーションを行って、植物の形の多様性と生態学的意義を理解する。

### 2. 「DNAとRNAの抽出」(若林和幸、曾我康一)

生物の設計図である遺伝子の本体は核酸であり、DNAとRNAの2つの種類が存在する。植物組織から変性剤等を用い、DNAとRNAをそれぞれ分けて抽出し観察する。

### 3. 「地球の重力加速度」(鐘本勝一)

ガリレオやニュートンの言うように物体の自由落下が等加速度的かどうかを確かめ、ボルダの振り子の周期から重力加速度を求める。

### 4. 「楽器と声の音波」(小原 顕)

電子楽器や自分の声をマイクロホンで電気信号に変え、音を波としてとらえて、音の基本的な性質を理解する。

### 5. 「電卓を使った数学の実験(1)」(高橋 太)

8桁電卓を用いて、 $n=100$  までの2の  $n$  乗の首位の数が何になるかを調べて、そこから規則性を見つけよう。なぜそのようなのか理由を考える。電卓を持参すること。

### 6. 「電卓を使った数学の実験(2)」(高橋 太)

有理数を小数で表すと必ず循環小数になる。電卓を用いて、長い循環節を持つ有理数の循環節を求めよう。分母に表れる数と循環節の長さや種類との関係についていろいろと予想してみよう。

### 7. 「おいしい水の話-陸水の化学成分形成」

(益田晴恵、土江秀和)

ミネラルウォーターの分析を通して、水循環と水質について考える。

### 8. 「3Dで診る大阪の地形」(原口 強)

デジタル標高地形図「大阪」を立体視し、地形の凹凸を実感しながら地形図の読み方を学び、大阪の様々な地形を生みだした歴史や地質構造を考える。

### 9. 「医薬品の活性成分-解熱剤からアスピリンの単離」(館祥光)

身近な化学物質の一つである医薬品を通じて物質の性質を理解するとともに、医薬品に含まれる物質とその役割について考察する。

### 10. 「地球温暖化・温室効果ガス、二酸化炭素分子の秘密」(工位武治)

二酸化炭素は何故に地球温暖化の原因物質なのかを分子の世界の言葉で考え、この分子に隠された秘密を先端化学によって解き明かす。また、地球温暖化は日常生活に何をもたらしつつあるかを知る。

### 11. 「生物発光と化学発光」(品田哲郎、飯尾英夫)

生物発光および化学発光は熱を伴わない発光(冷光)である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。

### 12. 「平面を覆う正多角形のタイルの図形は3種類しかない」(村田恵三)

正多角形で平面を覆うには、許される多角形は、3、4、6角形しかなく、それ以外にはない。これを利用して水面を覆う多数の6角形で、自然に微結晶から、大きな結晶に成長することを体験する。結晶化とは自己組織化そのものである。これと、二酸化炭素排出削減の効果について学ぶ。

## ●評価方法

毎回の平常点を総合して成績を付ける。また、最後にどれか1つの実験に関するレポートを出してもらい、平常点に加点する。

## ●受講生へのコメント

初心者歓迎。白衣貸与。定員48名。第1回目のガイダンス(基礎教育実験棟308室集合)時に受講者を定める。『実験で知る自然環境と人間』(前期開講)と本科目をともに履修することはできない。

## ●教材

実験指導書を配布する。

## 地球学入門

Introduction to Geosciences

(後期 火・1 全文、H (人)) 2単位

理学研究科 前島 渉

〔「地球の科学」の単位を修得した者は、本科目を履修することはできない。〕

### ●科目の主題と目標

現在の地球の姿は46億年にわたる地球の生成流転のほんのつかの間の姿にすぎない。地球の創生以来、幾多のできごとがあり、地球は変貌をとげてきた。そして現在の豊かな地球がつくりあげられてきた。人間社会と地球自然とのかかわりが問い直されているいま、かけがえない地球について理解をより深めるために、そしてわれわれ人間が今後地球に対してどうあるべきかを考えていくために、惑星としての地球から身近な地域まで、さまざまなスケールで地球をとらえる。

### ●授業内容・授業計画

まず現在の地球の構成と構造を概観する。とくに、人間の様々な活動の場である地球表層部の構成と運動について、自然災害との関連を含めて解説する。ついで、太陽系における地球の特異性を理解するために、地球環境の生い立ちと変遷を、他の惑星との比較を含めて解説する。また、地層に残された記録から過去の地球環境を探る方法とその具体例を紹介し、地球史規模での環境変動とその背景要因を考える。

1. 地球の構成と構造：地球の内部を探る様々な方法、地震波の伝わり方と地球の内部構造、重力からみた地球の内部構造。(2回程度)
2. 地球の表層部：地球表層部の物質と構造、大陸移動説、海洋底の拡大、プレートテクトニクス、プルームテクトニクス。(3回程度)
3. 日本列島周辺のプレート運動と地震活動：日本列島周辺のプレート配置と運動、沈み込みプレート境界に

おける巨大地震の発生機構、内陸部における活断層と直下型地震。(1回)

4. 地球の生成と進化：隕石が語る原始太陽系と地球の創成、地球の大気・水の起源とその変遷、地球にならなかった金星と火星。(3回程度)
5. 過去の地球環境を探る：地層に残された過去の地球環境変遷の記録、地層から読みとる地球の変動リズム、地層に記録された年・月・日・時。(2回程度)
6. 生物の大量絶滅とその背景：古生代/中生代境界における大量絶滅－プルームの冬－、中生代/新生代境界における大量絶滅－衝突の冬－(2回程度)。
7. 地球の年齢を測る：地球の年齢を知るさまざまな試みとその社会背景、放射性同位体による岩石の年代測定。(2回程度)

### ●評価方法

定期試験(70%)、レポートなど(30%)を総合して評価する。

### ●受講生へのコメント

高等学校で地学を履修しなかった学生を念頭において講義する。授業内容の講義項目は授業の進捗状況によって変わることがある。「地球の科学」の単位取得者は本科目を受講することはできない。

### ●教材

教科書は使用しない。授業に必要な資料をプリントとして配付する。参考書は必要に応じて授業中に適宜指示する。

## 科学と社会

Science and Society

(前期 木・4 全) 2単位

非常勤 木野 茂

### ●科目の主題と目標

この授業では環境問題をテーマにするが、そのなかで科学と社会のかかわりを人間を軸にして考えたい。さらに、この授業を受けることで、他の人とコミュニケーションを取る力と自分で考える力をつけてもらうことを目標にしたい。

この授業は私(現在、立命館大学)が本学にいたときに始めた科目であるが、いつも授業を行う上で重視しているのは、①分かりやすく、②興味深く、③双方向型に(一方的な講義にならないように)、である。

### ●授業内容・授業計画

1. 環境問題とは何か?－アスベスト問題から
2. 公害の原点：水俣病から学ぶ
3. 水俣病は今も終わっていない
4. 公害と労災職業病：住民と労働者
5. 環境公害行政の現場から  
(ゲスト：二木洋子さん・高槻市会議員)
- 6～8. デイバート  
(地球温暖化問題をテーマに全員参加型授業)
9. 薬害エイズは今・・・  
(ゲスト：花井十伍さん・薬害H I V被害者)

10. 原子力の光と影
11. 環境問題と差別  
(受講生による討論劇を予定)
12. 被害を防いだ労働者  
(ゲスト：四宮充普さん・大鵬薬品労組)
13. 環境問題と専門家の役割
14. まとめ (レポート提出)

●**評価方法**

レポート評価7、授業への積極度3で総合評価する。レポートは自力で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。

●**受講者へのコメント**

環境問題に関心を持っている人はもちろん、聞くだけの授業に不満な人、生徒と学生の違いを体得したい人を歓迎する。

参考までに以前の受講生の感想を紹介しておく。

「この授業には来る度に何か気づかされたり、考えさせられたりした。授業が終わっても今後ずっと考えていかななくてはならないと思った。」(L1)

「先生からのメッセージ、“自分で考えて下さい”、絶対に頭の中に入れておきます。短い間でしたが、1つ1つの授業+α、自分の目で確かめ、頭で考えること。一番大切なことを学びました。」(M1)

関連科目：「ドキュメンタリー・環境と生命」

問い合わせはe-mailで：skino@fc.ritsumei.ac.jp

●**教材**

教科書：木野茂編『新版 環境と人間－公害に学ぶ』(東京教学社)。

教室では、毎回、授業用プリントを配布する。

参考文献やビデオは学術情報総合センターに多数揃えられているので、自由に利用すること。

## 現代科学と人間

Today's Natural Sciences and Human Beings

(前期 木・4 全)

2単位

理学研究科 宮田 真人 他

●**科目の主題と目標**

自然科学の最先端の知識を正確に理解した上で、現代の人間生活に及ぼす科学的成果の功罪を考察する。

●**授業内容・授業計画**

1. パンデミックへの警鐘－病原微生物の逆襲：1970年代、人類は抗生物質やワクチンなどによってすべての感染症を制圧したかに見えたが、それは一瞬の幻想にすぎなかった。今日、AIDS、O157、炭疽菌、プリオン、SARS、鳥インフルエンザなど、感染症が話題にあがらない日がめずらしいと言って過言ではない。現代社会は高度に発達した医療技術を有している反面で、グローバリゼーション、高齢化、テロリズムの横行といった、アウトブレイクを誘発しうる要因も多々有している。感染症を扱ったいろんなカテゴリーの映画を用いて、病原体とアウトブレイクの秘密に迫る。(宮田真人)
2. 幹細胞学について：近年、医療面での期待を含めて幹細胞移植やES細胞などに関するトピックスが新聞などをにぎわしている。これらの細胞は「未分化細胞」であると言われている。この未分化細胞の対極に位置するのが「分化した細胞」である。この違いは何なのだろうか？この違いを分子(遺伝子)の言葉を使って明らかにしたい。その後幹細胞について解説し、医療面での技術的・道徳的な問題点について意見交換を行いたい。(小宮 透)

3. 近代科学の研究手法：今日の物質文明の繁栄をもたらした近代科学、そこでは物理学における研究手法が原点となっている。自然現象の解明を目指す際の基本的アプローチの方法を、物理現象を例にとりて分かり易く解説する。同時に、そこで得られた成果を人類が賢く享受する為の方法を教える(浜端広充)

4. グリーンケミストリー：地球規模での環境に対する視点無くしては社会的活動が極めて困難な時代が訪れた。物質を取り扱う科学としてどのような視点を持つことが必要だろうか？近年、持続可能な将来を目指す視点で、“グリーンケミストリー”が提唱されている。これを紹介することによって、環境に対する新しい考え方を提案する(木下 勇)

5. 討論会：講義内容からテーマを選び、発表と討論を行う。

●**評価方法**

質問カード(毎時間提出)・レポート・討論により総合的に評価する。

●**受講者へのコメント**

積極的な発言を希望する。

●**教材**

教科書は使わず、参考図書を各時間に指示する。また、ビデオを用いる。



## 日本の科学技術

Science and Technology of Japan

(後期① 木・4 全) 2単位

(後期② 木・1 全) 2単位

非常勤 大久保 稔

### ●科目の主題と目標

今日の科学技術の発展は素晴らしい。それは社会や生活を根本から揺り動かす力強さをもっている。こうした成果は人類の長い苦闘の末に得られたものであるが、特に産業革命以後に著しい。わが国では戦後、焼け跡から急速に発展し今日の隆盛を実現した。

### ●授業内容・授業計画

本講では、①科学と技術の連関を考察しつつ、②日本の科学技術の発展について述べる。

講義計画は次の通り。

1. (1) 科学と技術の軌跡  
宗教→哲学→科学 労働→工作→生産手段  
科学と技術→科学技術 経験主導技術→科学主導技術
2. (2) 海外からの我が国への影響
  - ①古代インドの科学思想  
般若心経、色即是空、6 不気、陰陽説、5 行説
  - ②古代中国の科学思想、技術  
陶磁器、紙、鉄、中世3大発明
  - ③西欧の科学、技術  
シルクロード経由文物、種子島伝来、シーボルト
5. (3) 我が国での展開
  - ①古代から明治維新まで  
法隆寺建立、大仏鑄造、漆塗料、日本刀、吉宗  
蘭学、文明開化、和魂洋才
  - ②我が国での開拓者  
伊能忠敬、島津源蔵、島野敬三
  - ③戦前から戦後まで  
～昭和30、傾斜生産
8. (4) 現代の科学技術
  - ①特徴

科学と技術の一体化、科学技術立国、  
量産→高品質、高度成長、世界の順位

9. ②例1 科学主導型技術  
石油化学工業→プラスチック産業
10. ③例2 苦闘と成果  
ノーベル賞とプロジェクトX
11. ④例3 身近な科学技術  
3EBI、CT診断、FC電池
12. (5) 世界に先行する科学技術  
ニュートリノ、トヨタ電燃自動車、  
ナノコンポジット、シャープ液晶、  
ホンダ歩行型ロボット、リアモーター
13. (6) 国家プロジェクト  
基盤科学技術
14. (7) 科学技術の功と罪  
イノベーション、未来展望

### ●評価方法

レポートの出題によって行う。(60点)  
出席状況も評価の中に加える。(40点)

### ●受講生へのコメント

1. 講義の前に約10分間、小話をする
2. 理系、文系を問わず、科学技術に対する総合的視野、創造的視点が必要になっている。文、理両面に強い関心を持つ諸君を待つ。
3. 参考書をざっと読んであらかじめアウトラインをつかんでおいてほしい。

### ●教材

図、表で要点をまとめたプリントを配布する。  
参考書は授業中にも指示するが、以下に幾つかしめす。  
鈴木幸次・馬場政孝：『科学・技術史概論』（建帛社）  
溝口元：『科学の歴史』（関東出版社）  
湯浅光朝：『日本の科学技術（上、下）』（中央公論社）  
有沢、他：『日本産業百年史（上、下）』（日経新書）

## 心と脳

Mind and Brain

(後期② 月・2 全) 2単位

文学研究科 川辺 光一

### ●科目の主題と目標

脳科学は今世紀における自然科学の最も重要な研究テーマの一つとされている。脳は、外界からの感覚情報を処理し、行動や運動の制御を行う生体の司令塔としての役割を果たしている器官であるといえるが、脳の構造はあまりに複雑であるため、その機能的役割については未

だ不明な点が多い。しかしながら、生理学、解剖学、心理学、分子生物学、薬理学、医学、工学などさまざまな領域からアプローチが試みられ、数々の研究手法や方法論が開発された結果、20世紀後半に脳研究は飛躍的な発展を遂げた。現在でも数多くの精力的な研究がなされており、高次精神機能と脳の関係についても解明が進み



つつある。

この講義は、脳研究においてこれまで得られている知見を概説することにより、脳や神経細胞の構造、神経系における情報伝達の仕組みや、脳と精神機能・行動との関係についての理解を深めることを目的とする。

●**授業内容・授業計画**

講義は概ね以下の内容で進められる。ただし、授業進度の関係上、講義の順番が変更されたり、一部を省略したりすることもあるということを付記しておく。

- 1) 行動神経科学とは
- 2) 行動神経科学における研究手法
- 3) 脳の構造と機能
- 4) 神経系を構成する細胞とその機能
- 5) 神経系における情報伝達機構
- 6) 脳と睡眠・覚醒
- 7) 脳と生物時計
- 8) 脳と摂食
- 9) 脳と情動
- 10) 脳と学習・記憶
- 11) 脳と思考

- 12) 脳と精神疾患
- 13) 脳と薬物、薬物依存

●**評価方法**

試験の成績を基本とするが、これに出席点を加味する。試験は、授業内容についての深い理解が求められるので、講義には必ず出席すること。

●**受講生へのコメント**

授業を通して、脳と精神、行動の関係についての正しい知識を得てもらいたい。

●**教材**

毎回、その日の講義に関する図表等をプリントとして配布する。

参考書：ブルーム, F.E. 他 (中村克樹・久保田競 監訳) 『新・脳の探検 (上・下)』 講談社ブルーバックス  
 カールソン, N.R. (泰羅雅登・中村克樹 監訳) 『神経科学テキスト—脳と行動 (第2版)』 丸善  
 ピネル, J.P.J. (佐藤敬他 訳) 『バイオサイコロジ—：脳一心と行動の神経科学』 西村書店  
 ベアー, M.F. 他 (加藤宏司他 監訳) 『神経科学—脳の探求—』 西村書店

<p><b>ドキュメンタリー・環境と生命</b>                  Documentary・Environment and Life</p>	<p>(後期 水・4 全) <span style="margin-left: 100px;">2 単位</span></p> <p>非常勤 木野 茂</p>
--	---

●**科目の主題と目標**

いま、環境と生命に関わる問題は人々から大きな関心をもたれているテーマである。

この授業では環境と生命に関するテレビ・ドキュメンタリーの中から選んだ9本を教材にし、鑑賞後の意見交換を通じて、自分の意見を人に伝える力と自分の考えをまとめる力をつけることを目指す。

さらに、ドキュメンタリーの鑑賞だけでなく、ドキュメンタリーに関連するテーマを自分たちで設定してグループ研究を続け、その成果を教室で発表し、クラスメイトとQ&Aを行う機会を設ける。

●**授業内容・授業計画**

前半の授業では最初に30分～50分程度のテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。ドキュメンタリーの作品は最近数年間に放映されたものが中心で、これまでに取り上げたテーマは、成人式、水俣病、サリドマイド、薬害ヤコブ病、誕生の風景、化学物質過敏症、SARS、原発と地震、割り箸、林業、食品偽装、回転ドア事故、ハンセン病、福島智、湯布院、矢祭町、地球家族、マイクロクレジット、差別体験授業、中村哲など、多岐に渡っている。

毎年一部更新しながら番組表を編成しているが、今期の番組一覧は第1回目の授業で発表する。教室での鑑賞後は、自分の感想や考えを400字程度にまとめ、メーリングリストでクラスメイトと交換する。

また、2回目からの授業では、ドキュメンタリーごとにグループ研究を始めるので、1回目の授業の後半ではグループ作りを行う。各自の関心を尊重しながら5-6人程度のグループになるよう調整する。

2回目から9回目の授業では、ドキュメンタリー鑑賞後、グループごとに別れて鑑賞後の感想交換とグループ研究の相談を行い、グループワークの報告をメーリングリストに提出する。

授業の10回目からは、グループ研究の成果を全員でプレゼンテーションし、クラスメイトとQ&Aを行う。

●**評価方法**

毎週のメーリングリストへの感想意見5、番組要約1、グループ研究2、レポート2の割合で総合評価する。

番組要約は各自1回ずつ担当する。

レポートの課題は、授業期間中に放送されるテレビ・ドキュメンタリーの中から一つを選び、その番組要約と感想意見をまとめることである。

●**受講生へのコメント**

ドキュメンタリーの好きな人、環境と生命に関心を持つ人、聞くだけではなく自分たちも参加できる授業を求めている人を歓迎する。とくにグループワークをやってみたい人にはお勧めである。

毎週のメーリングリストで最も良かったと思う意見を全員の投票で選び、1分間スピーチとちょっとしたプレゼントで表彰するアトラクションもある。

この授業では、何事にも縛られずに自由に学ぶことの楽しさを味わってほしい。

関連科目：「科学と社会」

問い合わせはe-mailで：skino@fc.ritsumei.ac.jp

### ●教材

毎回、プリントを配布する。

## 実験で知る自然環境と人間

Exploration into our Natural Environment

(前期 水・3-4 全)

3単位

理学研究科 飯尾 英夫 他

### ●科目の主題と目標

複雑な地球環境のもと私たち現代人が生きていく上では、私たちを取り巻く自然環境や私たち自身のことを深く理解することが要請されている。本科目では理系学生も含め全学の学生を対象に、地球環境や人間についての身近なテーマを取り上げる。実験・実習をつうじ幅広く体験し、自ら対応できる力をつちかい総合的に判断する力を養う。

### ●授業内容・授業計画

第1回目はガイダンスおよび消防訓練を行い、第2回目からは以下の実験を行う。( )内は各テーマの担当教員を示し、適宜、実験室の技術職員が加わる。

#### 1. 「動物のからだ」(水野寿朗)

自由生活をする動物には我々ヒトと同様に外皮、神経系、筋肉、消化管など基本的な器官が揃っている。小動物のすがたを実体顕微鏡で観察し、動物のからだの成立ちについて理解を深める。

#### 2. 「色で見分ける殺菌パワー」(田中俊雄、藤田憲一)

メチレンブルーは細胞の酸化・還元力のインディケーターであり、細胞の生死を簡便に判定できる。本課題では、酵母を用いて市販の抗菌剤、抗生物質の殺菌力を評価するとともに、身近な食品成分の殺菌力についても検討する。

#### 3. 「植物の光周性」(宇高寛子、平澤栄次)

植物には日の長さが短くなると花を咲かせる短日植物、長くなると花を咲かせる長日植物、そして日の長さにかかわらず、一定期間で花を咲かせる中性植物がある。実験では短日植物のアサガオの花芽誘導を調べ、花芽と葉芽の違いを実体顕微鏡で観察する。

#### 4. 「都市環境とセミの生活」(沼田英治)

近年大阪では、クマゼミが著しく増加した。都市環境とセミの生活の関係を考察するために、キャンパス内でクマゼミの観察を行うとともに、クマゼミの卵が雨に日に孵化するしくみについての実験を行う。

#### 5. 「放射線を測る」(神田展行)

五感に感じない放射線を測定器を使って測る。また、霧箱を使って放射線の飛跡を観察したり、身の回りの自然放射線を測定してみる。

#### 6. 「3Dで診る東京の地形」(原口 強)

デジタル標高地形図「東京」を立体視し、地形の凹凸を実感しながら地形図の読み方を学び、東京の様々な地形を生みだした歴史や地質構造を考える。

#### 7. 「河原の礫と海岸の礫」(前島 渉)

礫の形や丸さかげんが河原の礫と海岸の礫とでどうちがっているかを調べ、川の水の流れと海岸の波による礫の摩滅の受け方のちがいを理解するとともに、川や海岸の波の作用と我々の生活との関連を考える。

#### 8. 「分子の宝石ー分子結晶をつくらうー」(中沢 浩)

分子を結晶にすると宝石のようにキラキラと美しい輝きを放つ。実験では、キノンとヒドロキノンを用いて、金属光沢をもつ結晶をつくり、分子の水素結合や電荷移動相互作用を考えていく。

#### 9. 「地球温暖化・温室効果ガス、二酸化炭素分子の秘密(工位武治)」

二酸化炭素は何故に地球温暖化の原因物質なのかを分子の世界の言葉で考え、この分子に隠された秘密を先端化学によって解き明かす。また、地球温暖化は日常生活に何をもたらしつつあるかを知る。

#### 10. 「生物発光と化学発光」(品田哲郎、飯尾英夫)

生物発光および化学発光は熱を伴わない発光(冷光)である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。

#### 11. 「身の回りにある色素の謎を探る」

(臼杵克之助、飯尾英夫)

美しく華やかな花や果実の色素を抽出する。そして化学合成で手にした色素とその性質を比較することにより、物質の機能と分子構造との関連を考察する。

#### 12. 「平面を覆う正多角形のタイルの図形は3種類しかない」(村田恵三)

正多角形で平面を覆うには、許される多角形は、3、4、6角形しかなく、それ以外にはない。これを利用して水面を覆う多数の6角形で、自然に微結晶から、大きな結晶に成長することを体験する。結晶化とは自己組織化そのものである。これと、2酸化炭素排出削減の効果について学ぶ。

### ●評価方法

毎回の平常点を総合して成績を付ける。また、最後にどれか1つの実験に関するレポートを出してもらい、平常点に加点する。

### ●受講生へのコメント

初心者歓迎。白衣貸与。定員48名。第1回目のガイダンス(基礎教育実験棟308室集合)時に受講者を定める。『実験で知る自然の世界』(後期開講)と本科目をともに履修することはできない。

●教材

実験指導書を配布する。

## 森林環境と人間社会

Forest environment and human society

(前期 火・3 全) 2単位  
(後期 火・4 全) 2単位  
大学教育研究センター 大久保 敦

●科目の主題と目標

この授業では科学的な視点で森林環境を観ることを通して、森林環境と人間社会の関わりを学習します。また特に、これまで取り上げられることのなかった、地球46億年の歴史の中で森林の生い立ちや森林存在の意義を考えます。

授業目標

半期の授業のみでは森林環境問題の全てを網羅することは不可能です。従って、この授業では森林環境問題を考える「きっかけ作り」を目指します。具体的には

- ①森林に関する興味・関心を持つこと
- ②森林に関する科学的な基礎知識を身につけること
- ③森林環境と人間社会の関わりについて高い意識を持つこと

の3点を目標とします。

●授業内容・授業計画

- ①森と林の違いは？（森林の基本概念）
- ②身の回りの植物
- ③森林の恩恵1
- ④森林の恩恵2
- ⑤森林の恩恵3
- ⑥森林の恩恵4
- ⑦森林の生い立ち1 陸に上がった植物
- ⑧森林の生い立ち2 最初の森林の出現

- ⑨森林の生い立ち3 針葉樹の森林・広葉樹の森林の出現
- ⑩日本の森林
- ⑪世界の森林
- ⑫人間社会と森林1 日本の森林問題
- ⑬人間社会と森林1 地球規模の森林問題
- ⑭人間社会と森林3 人間社会と森林問題

●評価方法

- 1. 平常点 (50点)
  - ・授業参加度：30点（毎授業後提出の課題など）
  - ・小レポート：20点
- 2. 最終レポート (50点) \*内容を重視します
- 3. 出席 (10回の出席が単位修得最低要件)
  - ・欠席回数に応じて総合点から減点
  - 1、2、3を総合的に評価

●受講生へのコメント

積極的に授業に参加しようとする人を期待しています（受身の授業を期待している人には不向き）。授業の内容は毎回完結していますが、それぞれリンクしているので授業目標を達成するために、出席を重視します（評価方法参照）。高校時代に生物を履修していない人を対象に授業内容を設定します。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

## 21世紀の植物科学と食糧・環境問題

Plant Biology for Addressing Societal Challenges of the 21st Century

(後期 火・3 全) 2単位  
理学研究科 飯野 盛利 他

●科目の主題と目標

この世紀、人類はかつてない深刻な問題に直面することが予測されている。その一つは、増え続ける人口を支えるための食糧供給の問題（食糧問題）であり、もう一つは、人類の活動による環境破壊がもたらす諸問題（環境問題）である。植物の光合成によって固定される光エネルギーは、私たち人間を含めた全ての動物の生命活動を支えている。植物の機能を理解し、植物を基礎にする生態系を理解することは、食糧・環境問題の根本を理解し、その解決策を探るための重要な基盤である。本講義では、食糧・環境問題を植物科学の観点から考える。

●授業内容・授業計画

- 1. 食糧・環境問題の現状（飯野盛利 担当、1回分）

- 2. 生態学から見た環境問題（伊東明 担当、3回分）
 

環境問題には様々な側面がある。ここでは、「生態学」の視点から環境問題を考えて見たい。生き物と環境との関わりを研究してきた生態学には、生物（人間）にとって環境とは何か、環境が変わると生物にどんな影響が出るか、生物の活動が環境にどう影響するか、など、環境問題を考えるときの参考になりそうな概念がたくさんある。そこで、（1）共有地の悲劇、（2）生物多様性、（3）森林破壊と地球温暖化、など、具体的なトピックスを紹介しながら、関連する生態学の基本概念について解説し、環境問題に関する情報や報道を理解する時の助けとしたい。



3. 食糧・環境問題に対する植物科学からのアプローチ  
(植松千代美 担当、3 回分)

不可分の関係にある食糧問題と環境問題の現状を認識することが問題解決の第一歩となる。植物科学、特に遺伝学の立場からその解決を目指す取り組みとその功罪について解説する。

(1) 環境問題と食糧問題入門、(2) 遺伝子組換え植物とその問題点、(3) 植物園と環境問題。

4. 地球温暖化防止のために  
(外部講師 3 名 担当、各 1 回)

(1) 地球温暖化—国際会議の現場から— (1 回)、(2) 木質バイオエタノール (1 回)、(3) 菜の花プロジェクト (1 回)。

5. 生物の進化および地球環境の変遷と食糧・環境問題  
(飯野盛利 担当、2 回分)

誕生から現在までの生物の進化、およびそれと密接に関連する地球環境の変遷について、最近の研究成果も踏まえて概説する。これらの知見から現在の食糧・環境問題のもつ意味を探る。

6. 植物科学の発展と食糧・環境関係  
(飯野盛利 担当、2 回分)

分子遺伝学・遺伝子工学の発展によって、人類は植物の遺伝子进行操作し、その機能を改変することを可能にした。一方、分子遺伝学・遺伝子工学は植物の機能を明らかにするための強力な研究手段としても用いられている。後者の具体例を紹介し、植物科学の発展がもたらす可能性について、食糧・環境問題との関係から論じる。

●**評価方法**  
授業で課す小テスト・レポートと各担当者が期末に課すレポート、ならびに出席率によって評価する。

●**受講生へのコメント**  
食糧・環境問題は社会的な問題であり、解決策は一つとは限らない。受講生各自がこれらの問題にどう対処するかを考えるきっかけとなることを期待する。

●**教材**  
教科書は使用しない。適宜、プリントを配布し、参考図書を紹介する。

## 植物と人間 演習

Seminar : Plants and human life

(前期 集中 全)

2 単位

理学研究科 岡田 博 他

●**科目の主題と目標**

植物園は世界各地から種子や苗を収集し、育成保存している。これらは様々な人間生活に活用する遺伝子資源として広く国内外の研究機関に提供し、生きた教材として教育にも利用されている。

本授業では植物園において育成している様々な植物を利用しながら、植物園が果たしている社会的役割を考え、そのことを通して植物と人間との関わりについてより深く理解することを目差す。

●**授業内容・授業計画**

岡田 博：近年の地球環境の悪化に伴って、日本の自生植物のかなりの種が絶滅を危惧されている。この原因の1つには植物の生態特性、特に繁殖様式が関係している。本授業では植物にみられるさまざまな生態特性や繁殖様式を解説し (1.5回分)、人間活動と植物との共存について考察する (1 回分)。植物園の取り組んでいる植物の保護についても園内に実際に育成している植物を見ながら説明する (1.5回分)。

飯野 盛利：植物は適した環境を求めて移動することができない。しかし、環境要因を情報として読み取り、成長と生理過程を調節することによって環境への適応を果たしている。エネルギー源である光はそのような情報源としても特に重要な役割をしている。本授業では植物のもつ環境適応能力を光環境との関係に注目して解説する (2 回分)。21世紀には人口増に伴って食糧が不足すると推定されている (食糧問題)。植物の環境適応能力を食糧増産に結びつく課題としても論じる (1.5回分)。

田村 実：人間が植物と関わっていく上で、植物進化を理解することは重要である。本講義では、植物進化の道筋をダイジェスト版で紹介する。植物はどのようにして起源し、陸上進出を果たし、花を創り上げて、被子植物にみられる多様性を獲得したのか、その謎に迫る (2 回分)。分子生物学的アプローチによる仮説も盛り込み、最新情報を提供する (1.5回分)。

植松千代美：メンデルの遺伝の法則が再発見されて以来、わずか100年の間に私たちは遺伝子の本体であるDNAを操り遺伝子組換え植物を作り出すに至った。本授業ではバイオテクノロジーが21世紀の環境問題や食糧問題解決のためにどのように貢献できるのかを考察する。植物組織培養 (1 回分)、遺伝子組換え技術 (1 回分)、遺伝子組換え植物とその生態系への影響 (1 回分)、バイオテクノロジーの可能性と限界 (1 回分) などを中心に最新の研究成果を交えて紹介する。

●**評価方法**  
各担当教員が提示した課題へのレポートへの100点満点の評価を平均して評価する。また、授業内容について意見を述べるなどの積極的発言は評価し、加点する。

●**受講生へのコメント**  
授業は附属植物園内で、各教員によるオムニバス方式で行う。

●**教材**  
プリントを適宜配布する。スライド、OHP、ビデオを使用することがある。

## 情報基礎

2 単位

### Introduction to Information Processing

(以下の科目の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

- ・平成 17 年度以前の「情報処理 I」
- ・平成 17 年度以前の「コンピュータのシステムとその応用」
- ・平成 10 年度以前の「コンピュータのシステム」)

創造都市研究科

#### <1部>

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
全	前・月・3-4	村上 晴美	全理	前・金・1-2	(米澤 剛)
全文	前・火・1-2	安倍 広多	全	前・金・1-2	ベンカテッシュ・ラガワン
全	前・火・1-2	(米澤 剛)	全理	前・金・3-4	中野 秀男
全文	前・木・3-4	大西 克実	全	前・金・3-4	永田 好克
全	前・木・3-4	(豊田 博俊)			

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
全	後・木・3-4	(豊田 博俊)	全	後・金・3-4	安倍 広多
全	後・金・1-2	村上 晴美			

#### <2部>

クラス	期・曜・時	担当者
全	前・金・1-2	永田 好克

#### ●科目の主題と目標

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピュータを道具として使いこなすことをコンピュータリテラシと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピュータの利用が不可欠になりつつある中で、将来も柔軟にコンピュータとかわかっていけるよう、リテラシの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なツールに慣れ親しむことを交えながら、コンピュータの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピュータを活用できる能力を涵養する。

#### ●授業内容・授業計画

##### ①② コンピュータになじむ

この授業で採用しているシステムに慣れる。また電子メール、Web ブラウザ、ワードプロセッサなどの初歩的なツールに慣れる。

##### ③④ Web ページの作成手始め

簡単な Web ページを作成しながら、ファイルシステム、ソースファイルの編集、HTML の基礎を理解する。

##### ⑤ 画像と描画ツール

画像ファイルの取り扱いや、画像描画ツールの考え方を理解する。

##### ⑥⑦ 情報の符号化

デジタルとアナログの違い、2 進数や 16 進数の表現、

情報符号化の考え方、情報圧縮、文字コードなどを理解する。

##### ⑧ コンピュータの仕組み

コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアについての基礎的な知識を習得する。

##### ⑨ インターネット通信の仕組み

インターネット通信によって目的のコンピュータと情報を交換する仕組みを理解する。

##### ⑩⑪ 洗練されたWeb ページを目指して

ソースファイル編集の視点から、また、Web ページ閲覧者の視点から、洗練された Web ページとは何かを理解する。

##### ⑫ 情報セキュリティ

通信の秘密と信憑性を確保する技術とその意味について理解する。

##### ⑬ 情報システムの利用と社会的問題

情報システムの利用につきまとう社会的問題について、その事象と対処法を理解する。

##### ⑭ 表計算、プレゼンテーションなど

表計算、プレゼンテーション、あるいはその他の基礎的内容や発展的内容を取り扱う。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがある。

#### ●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

#### ●受講生へのコメント



コンピュータに関する予備知識や経験がほとんどない学生は、特に前半に授業外でも積極的にコンピュータに慣れる機会を作り、経験者に追いつく努力をすることが望ましい。

●教材

講義メモやWebページなどを活用する。

参考書：

情報処理学会編集ITText一般教育シリーズ「情報とコンピューティング」

情報処理学会編集ITText一般教育シリーズ「情報と社会」

担当者：大西、中野秀男、ラガワン、米澤

●授業内容・授業計画

- ① コンピュータとその操作の基礎
- ② 電子メールとコミュニケーション  
電子メールの作成で文書作成の基礎を修得し併せてコミュニケーションの便利さと問題点を覚える。
- ③④ リテラシと情報セキュリティ  
コンピュータリテラシ、ネットワークリテラシ、メディアリテラシやリテラシのレベル等を学び、併せて情報セキュリティ、プライバシーや知的財産権/著作権などの考え方を知る。
- ⑤⑥ 情報発信－ホームページ作成  
各自のホームページ作成を通して、インターネット世界での情報収集や情報発信の便利さと問題点を覚える。併せて、プライバシーや著作権の重要性も理解する。
- ⑦⑧ 調べ方－情報検索  
インターネットでの検索エンジン等を使いながら、基

礎的な情報検索手法を学ぶ。併せて、インターネットでのセキュリティについても理解を深める。

⑨⑩ 考え方－アルゴリズム

コンピュータで考え方を実現するのはプログラミングであるが、その基本となるアルゴリズムを疑似言語等を使いながら修得する。論理的な考え方を身につけることも目的の一つである。

⑪⑫ 空間情報の利用

地球上の位置と直接・間接に関連づけられた対象物や現象に関する情報である空間情報の取扱い方法の理解を深める。

⑬⑭ 情報セキュリティ

ここまで修得した情報検索や学術情報総合センターの図書サービス等を使い、文章の組み立てを考えながら、表作成と文章作成を組み合わせたレポート作成を修得する。

講義の部分ではVOD (Video On Demand) 等の教材を使って自学自習が可能になるように配慮している。また、演習では各自の習熟度に応じた対応を考えている。

なお、担当者はそのクラスの採点責任者であるが、講義の内容に応じて、教材作成担当者がその時間の質問などを受ける場合もある。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●教材

Webページを基本的に利用する。

<h2 style="margin: 0;">プログラミング入門</h2> <p style="margin: 0;">Introduction to Programming</p>	<p>(前期 金・3－4 全)            2単位</p> <p>(後期 金・3－4 全)</p> <p>創造都市研究科    石橋 勇人</p>
---	--

●科目の主題と目標

この講義は、いわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通してコンピュータについての理解を深めることを目的とする。特定の言語 (Pythonを用いる予定) を通してプログラミングを体験的に学びつつ、どのプログラミング言語にも共通する概念を身につけ、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

各回、原則として1コマを講義、1コマを演習に充てる。毎回課題を課し、提出を求める。

- (1) イントロダクション (授業の概要, プログラム作成から実行までの流れ, など)
- (2) 変数と制御構造
- (3) リストとディクショナリ
- (4) 文字列処理

- (5) ファイル入出力と関数
- (6) 中間課題
- (7) オブジェクト指向プログラミング
- (8) 再帰呼び出し
- (9) プログラムと効率
- (10) GUIプログラミング
- (11) コマンドの作成
- (12) ネットワークプログラミング
- (13) 最終課題
- (14) 試験

※内容や順序は必要に応じて適宜変更する場合がある。

●評価方法

演習課題, 試験および出席率

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザ、電子メールなどは自由に使えることを前提とする。演習を重視した授業を行うの

で、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Webページなどを使用する。

<h2 style="text-align: center;">プログラミング入門</h2> <p style="text-align: center;">Introduction to Programming</p>	(前期② 金・1-2 全)	2単位
	(後期① 金・1-2 全)	2単位
創造都市研究科 松浦 敏雄		

●科目の主題と目標

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を、教育用の擬似言語を用いて体験的に学ぶ。

さらに、特定の言語（Javaを用いる予定）を通して、プログラミングの経験を積み重ね、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) 変数、文、制御構造などプログラミングの基本概念を学ぶ。
- (2) 条件分岐：条件文の書き方を学び実際に簡単なプログラムを作成する。
- (3) 繰り返し：繰り返し構造および実数の扱い等を学ぶ。
- (4) 配列：配列および乱数の扱い方を学ぶ。

- (5) 図形描画：図形描画を通じて、変数や制御構造等について復習する。
- (6) 文字列、ファイルの入出力について学ぶ。
- (7) オブジェクト指向の考え方を学ぶ。
- (8) クラス、メソッドなどの書き方を学ぶ。
- (9) クラスの継承について学ぶ。
- (10) 最終課題  
(それぞれが1回の授業に対応するわけではない)

●評価方法

出席、レポートおよび試験により総合的に判断する。

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどは自由に使えることを前提とする。「情報基礎」を受講していることが望ましい。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

配布資料およびWebページなどを利用する。

<h2 style="text-align: center;">プログラミング入門</h2> <p style="text-align: center;">Introduction to Programming</p>	(後期 木・3-4 全)	2単位
	創造都市研究科（兼）学術情報総合センター 大西 克実	
(平成17年度以前に「情報処理Ⅱ」の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)		

●科目の主題と目標

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語（Javaを用いる予定）を通して、プログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) プログラム言語の構成・ソースファイルの入力・コンパイル、コマンドプロンプト使用法
- (2) Java・形式、コメント・入力の扱い方・変数、演算子、型
- (3) 型の変換・制御構造 (if,while)
- (4) 制御構造 (for,continue,break) ・配列・アルゴリズム (1) [数列]
- (5) 参照型の特徴・アルゴリズム (2) [成績処理]
- (6) メソッド・クラス・オブジェクト指向プログラミング

- (7) データ構造・再帰呼出
- (8) 整列問題 (1)
- (9) 整列問題 (2)
- (10) ファイル入出力
- (11) アプレットプログラミング (1) GUI部品
- (12) アプレットプログラミング (2) イベント処理
- (13) ネットワーキング  
(それぞれが、1回の授業に対応するわけではない)

●評価方法

出席とレポート

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどは自由に使えること（「情報基礎」程度）を前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Webページなどで提示する。

## 情報の探索と利用

－インターネットでレポート、論文作成の手引き－  
Information retrieval and it's application

(前期 月・3 全)

2 単位

創造都市研究科 北 克一 他

### ●科目の主題と目標

本講義では、インターネットを活用し、情報の探索と利用の「達人」をめざす。

このために、インターネットを使用したレポートや論文作成のステップを、段階的に取り上げる。また、「畳の上の水練」にならないように、各ステップでは、実際にコンピュータを操作し、力が身につく実践的な授業を行う。

なお、対象とする情報源は、インターネット上の無料サイトと学内で無料使用ができる情報資源の範囲に限定する。

### ●授業内容・授業計画

- ①インターネットで、レポート、論文作成のステップ (概説)
- ②－⑦テーマを絞り込む：絞込みの3方法
  - ・辞典・事典・用語集の活用：インターネット上の資源
  - ・文献リストを読む：雑誌記事索引の利用
  - ・検索エンジンやリンク集、アーカイブサイトの活用
- ⑧－⑨資料・文献、情報を集める
  - ・図書を探す：OPAC、総合目録、横断検索など
  - ・雑誌論文を手に入れる：ILL: InterLibrary Loan、国立国会図書館複写サービスなど
  - ・新聞、統計、白書などを集める：各種のデータベース

スなど

- ・レファレンスサービスを活用する
- ⑩資料・文献、情報を見分ける－騙されないためのコツ
  - ・あやしい資料・文献、情報のタイプと見分け方
  - ・あやしいレポート、論文を作らないための注意点
- ⑪－⑫レポート、論文を執筆する
  - ・レポート、論文の執筆準備とデータ処理法
  - ・Webデータ、PDFデータの活用等
  - ・評価されるレポート、論文の構造、そのコツ
  - ・引用の記述：資料および情報の引用
- ⑬レイアウトを工夫する、
  - ・読んでもらえるレポート、論文のレイアウト
  - ・図表などの挿入
  - ・プレゼンテーションに強くなろう
  - ・レポート、論文を電子提出する

電子提出のマナーと技術

### ●評価方法

演習課題の提出レポートを対象に評価する。

### ●受講生へのコメント

講義と実際の演習を組み合わせる。

### ●教材

高嶽裕樹著『デジタル情報資源の検索』日本図書館協会発売、2007.

その他、適時にプリントを配布する。

## 情報の探索と利用

－インターネットでレポート、論文作成の手引き－  
Information retrieval and it's application

(後期 月・1 全)

2 単位

非常勤 米谷 優子 他

### ●科目の主題と目標

本講義では、インターネットを活用し、情報の探索と利用の「達人」をめざす。

このために、インターネットを使用したレポートや論文作成のステップを、段階的に取り上げる。また、「畳の上の水練」にならないように、各ステップでは、実際にコンピュータを操作し、力が身につく実践的な授業を行う。

なお、対象とする情報源は、インターネット上の無料サイトと学内で無料使用ができる情報資源の範囲に限定する。

### ●授業内容・授業計画

- ①インターネットで、レポート、論文作成のステップ (概説)
- ②－⑦テーマを絞り込む：絞込みの3方法
  - ・辞典・事典・用語集の活用：インターネット上の資

源

- ・文献リストを読む：雑誌記事索引の利用
- ・検索エンジンやリンク集、アーカイブサイトの活用
- ⑧－⑨資料・文献、情報を集める
  - ・図書を探す：OPAC、総合目録、横断検索など
  - ・雑誌論文を手に入れる：ILL: InterLibrary Loan、国立国会図書館複写サービスなど
  - ・新聞、統計、白書などを集める：各種のデータベース
- ・レファレンスサービスを活用する
- ⑩資料・文献、情報を見分ける－騙されないためのコツ
  - ・あやしい資料・文献、情報のタイプと見分け方
  - ・あやしいレポート、論文を作らないための注意点
- ⑪－⑫レポート、論文を執筆する
  - ・レポート、論文の執筆準備とデータ処理法
  - ・Webデータ、PDFデータの活用等

- ・ 評価されるレポート、論文の構造、そのコツ
  - ・ 引用の記述：資料および情報の引用
- ⑬レイアウトを工夫する、
- ・ 読んでもらえるレポート、論文のレイアウト
  - ・ 図表などの挿入
  - ・ プレゼンテーションに強くなる
  - ・ レポート、論文を電子提出する

電子提出のマナーと技術

●評価方法

演習課題の提出レポートを対象に評価する。

●受講生へのコメント

講義と実際の演習を組み合わせる。

●教材

高嶽裕樹著『デジタル情報資源の検索』日本図書館協会発売、2007.

その他、適時にプリントを配布する。

## 地図と地理情報

Map and Geographic Information

(前期 火・2 全) 2単位

文学研究科

森 洋久

●科目の主題と目標

ことさら地理学と呼ばれない諸分野においても、地理学的、空間的思考は重要である。地理、空間という視点からいろいろな分野を眺める。

●授業内容・授業計画

地理の一つは人間や人間社会の活動空間の構造(理-ことわり)を解くもの、もう一つは、自然界の空間的構造を解くもの、と考えたでしょう。地理情報はそれを情報化していく手段、方法、あるいは、対象である。

周囲の処分やを眺めてみると、ことさら地理学と呼ばれない諸分野においても、地理は非常に重要である。本

講義では、地理、空間という切り口から様々な分野を眺める試みである。物理学や数学などの理系の分野においては空間という捉え方は一般的である。一方で、人類学、考古学、あるいは社会学においても地理学的な思考方法が存在する。音楽や絵画における空間や地理の要素も紹介する。無論、古地図や測量図の歴史といった地理学プロパーな話題にも触れる。

●評価方法

授業における各種課題と、期末レポート。

●教材

<http://www2.globalbase.org/osaka-cu/2008/>

## 情報化の光と影

Information Age : It's Bright and Dark Side

(後期① 木・2 全) 2単位

(後期② 木・1 全) 2単位

医学研究科

中村 肇 他

●科目の主題と目標

情報化は、コンピュータやITのみに代表されるものではない。そのルーツは、大衆が多くの知識を得るために開発されたグーテンベルグの活版印刷システムに見ることが出来る。しかし、人々は本を離れ、インターネットを介しウェブやメールで、画像や動画を含む多くの知識を簡単に得ることが出来るようになった。さらに携帯電話の普及により、子供達までも携帯メールというきわめて手軽な情報交換ツールをフルに利用している時代となっている。便利な社会であることに異論はないが、それで十分なのであろうか？ 本科目では、この現在社会における情報化について、文学、法学、医学、経営学、経済学という多視点から眺め、その功罪についてともに考えてみたい。

●授業内容・授業計画

文学研究科・進藤雄三(1、2、3)

「情報化」が時代のキーワードの一つとなってから、すでに数十年近くの歳月が流れている。この言葉は正確には何を意味しているのだろうか。そしてその可能性と問題はどこにあり、この駆動力は社会とそこに生きる

人々の生活のありようをどのように変えてゆくのだろうか。本講義ではまず(1)「情報化」社会論の歴史的生成過程をまず整理し、次に(2)「情報化」社会論の提示した具体的内容を概括した上で、(3)現代社会におけるその潜勢力と陥穽を、政治・経済・文化・社会の諸領域における諸動向と関連づけながら、考察を試みる。

法学研究科・和久井理子(4、5)

インターネットを用いた商品の売買はすっかり社会に定着した。もっとも、インターネット上で提供される商品情報は、不十分であったり、誤りを含んでいたりすることがよくある。消費者が判断を誤って商品を注文することによるトラブルも頻繁に生じている。人々が情報化の光を享受できるためには、これら問題に対処するための法的ルールが適切に整えられている必要がある。本講義では、インターネット上の取引、なかでも企業と消費者の間の取引が、公平かつ円滑に行われるようにするための法的ルールとその課題について検討する。

医学研究科・中村肇(6、7)

医療面におけるICT(information and Communication Technology)には、へき地の遠隔医療やユビキタ



ス機器を用いた遠隔診断などがある。しかし、本来医療は医師と患者の直接対面で行うことが必要で、単に最先端の技術を導入することには問題がある。一方、医師と患者の間には、医師が圧倒的に情報を多く持つという「情報の非対称性」が存在していた。情報時代の現在、インターネットには莫大な情報が流れ、患者も簡単に専門情報にアクセスできるようになり、医学知識の情報格差は減少している。このような医学医療面の情報化について論じてみたい。

経営学研究科・太田雅晴、テキ林瑜、高田輝子

(8、9、10)

情報システム及び情報ネットワークの進展は、企業経営だけでなく企業関係も変貌させつつあり、それは私たちの生活、価値観さえも変えさせようとしている。本講義では、次のような視点で、企業と情報、企業と情報システムの関係を論じる。

- (1) 情報化と企業戦略、太田雅晴
- (2) 情報と企業行動、テキ林瑜
- (3) 情報と金融市場、高田輝子

経済学研究科・中島義裕 (11、12、13)

市場は取引を実現させる場所であるが、同時に価格を発見する所でもある。情報化は、迅速な情報伝達や情報格差の解消など、適正な価格形成に寄与すると考えられる。その一方で、現実の株式市場や為替市場などは、時代が進むにつれて混迷の度を増しているようにも見える。この講義では、価格形成について近年の人工市場による研究成果などを含めて紹介する。

- (1) 市場と価格の基礎
- (2) 特殊な価格形成
- (3) 市場制度の影響

●評価方法

期末試験、出席、小テストなど（講義担当者による）。  
1 研究科20点、計100点で評価します。

●受講生へのコメント

情報化社会について、いろいろな側面から一緒に考えてみましょう。オムニバス形式なので、毎回出席するのが望ましい。

●教材

必要があれば掲示します。



# 初年次セミナー

First Year Seminar

〔この科目は、1回生を対象にした少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業である〕

(前期 1回生のみ)

2単位

大学1回生となった諸君、諸君は、これから始まるうとする大学生活というものに、きっと、胸をときめかせ、夢をふくらませておられることだろう。大学生活をどのようなものとして実現してゆくか、それは、諸君の思索と感性とによって、自由にデザインし、細心に・大胆に造型してゆけば、よい。型にはめられた無難より、新しい時代を拓こうとする混沌こそ、若い諸君には、ふさわしい。

しかし、それは、我流を通すということでは、必ずしも、ない。我流を通すことで新しい時代を拓いた、いわゆる天才と称される人々がいたことは、たぶん、確かである。しかし、天才は、大学で学んでなれるものではなく、大学もまた、天才を輩出することを任務とは考えていない。

大学は、学ぶこと・感じること・思索することを通して、諸君の中に潜んでいる可能性をそれぞれに発見するための場であり、その可能性を人類の幸福のために発揮する、その方策をとものにさぐろうとするところである。大学に入られた諸君の前に、共通教育科目・専門教育科目、さらに大学院前期博士課程・後期博士課程が用意されているのは、その目的の実現のためにほかならない。

共通教育では、幅広い教養を身につけることにより、多様な分野と関わりを持つことができる間口の広さを、専門教育では、選び取った専門分野に関する深い理解を、大学院においては、当該の専門分野の研究者・専門家の養成を、それぞれの目的としている。その、まさしく入り口に、諸君は、いま立っているわけである。

果敢に・柔軟に、諸君がそれぞれの道程を進んで行くならば、必ずや、諸君は、みずから望む以上の可能性を諸君の中に見出されることであろう。だが、同時に、自分の立っている位置や向かうべき方向がわからず、文字どおり途方に暮れることがあるだろうことも予想される。その状況における真摯な模索こそが、諸君が、これまで形成してきた自分というものの殻から脱皮して、もうひとふり大きく成長するための、言わば生みの苦しみというものであって、諸君の可能性を本物にするための、だれもが経験する試練なのだ。

存分に苦しみなさい。その試練に耐え抜こうとする意志があれば、道は開けるだろう。と同時に、学びの道における少しばかりの先達として、この大学では「初年次セミナー」と名づけられた、これから大学で学ぶにあたってまず身につけておくのが望ましい、言わば学び・考えるためのマナーについて、諸君とともに思索する時間を、以下のように用意している。もちろん、こういう趣旨だから、講義を聴くだけというのではなく、少人数の

クラス編成でactive learning をめざす時間であり、諸君がそれぞれの道程を拓いてゆくための底力を養成する、その介添えをすることができればとの大学の念願をかたちにしたものである。

これら「初年次セミナー」では、通常の授業では必ずしもあらわではない、大学教員の、諸君と同様に迷い・苦しみ、それを克服しようとする姿にふれることもあるだろうし、同輩の人々の、同じ弱さや卓抜する力量に安堵したり発憤させられたりすることもあるだろう。その経験は、諸君がこれから大学生活を豊かなものとして実現してゆかれる際の、よき手引きとなるものであることを願って、今年度は、9名の教員による、9コマの「初年次セミナー」をもって、諸君との道交（感応道交、心ばかりか魂まで結ばれること）をはかろうと目論んでいる。

## 「初年次セミナー」

(前期 月・2) 文学研究科 森 洋久

### ●科目の主題と目標

本講義は多様な専門性や志向性を持つ学生同士が互いに議論したり、自分の意見や考えを、専門も興味関心も異なる人々の前で発表したりする機会を持つ場とし、学生が「自分の知っている世界や学んでいる専門知識を、より広い視点で相対化してみることができるようになる」とともに、それまで気づかなかった新たな問題を発見する機会や、自身の有する知識形態が社会の中でもちうる意義と限界を再確認する機会」となることを目指す。

### ●授業内容・授業計画

1. 当セミナーにおいて最初の講義で与える大枠の課題から取り組む課題・問題は学生が自身で発見・設定する。
2. 学生自身が設定した課題・問題について、学生自身に何らかの調査（文献の調査を含む）などをする。
3. 調べた課題について定期的に議論や発表を行う。
4. 最終的にレポートを作成する。

という授業を通して、以下のようなスキルを身につけよう。

- ・受講生が自分の興味関心、考えかた、専門に対する態度を相対的にとらえることができるようになる。
- ・受講生が自らの興味関心の幅を広げる。
- ・より広い視野から、キャリアデザインや人生設計を考える端緒を獲得する。これからの人生において大学生活がどのような意義をもつのかを、イメージや先入観だけに頼らずに考えることができるようになる。
- ・異なる考え方や知識をもつ人々とコミュニケーションができるようになる。

・情報検索、レポート執筆等のアカデミック・スキルを活用・増強させる。

#### ●評価方法

毎回の授業における取り組み姿勢の評価とレポート評価。

#### ●教材

<http://www2.globalbase.org/osaka-cu/2009/>

#### 「初年次セミナー」

(前期 月・3) 文学研究科 堀内達夫

#### ●科目の主題と目標

「知識創造の方法、論文の書き方・読み方」

大学は学問を通じて知識を創造する場です。高校までの既成の知識・技能の理解や習得に留まるものではありません。これからの大学4年間で、知識創造の方法を、それぞれの専門分野に分かれて習得していくこととなりますが、このセミナーでは、その基本的な考え方や方法について、とくにレポートや論文の書き方・読み方に焦点を当てて学びます。これは、大学における全学共通教育や各学部専門教育の授業で課されるであろうレポート作成や4年次に取り組む卒業研究にも役立つでしょう。ただし、ここで扱う方法論は、主として文献に基づく研究であり、実験的な研究ではありません。しかし、研究の成果を文章にまとめる際には、どの分野にも有効だと思えます。

#### ●授業内容・授業計画

セミナーは、つぎのように進めていきます。①オリエンテーション(本セミナー趣旨説明、各自自己紹介)②知識の創造、すなわち研究を始めるには、人間や社会・自然の事象に関する問題関心を持たねばなりません。そこで、まず、研究につながる問題関心とはなにかについて学びます。③つぎに、自らの問題関心(テーマ、トピック)に関わる文献の読み方に進みます。その前提として、関連文献を調べておく必要があります。実際に、履修者各自の問題関心に合った記事等を自ら選んで紹介してもらいます。④そして、研究結果を文章にまとめる書き方について学びます。アウトライン、下書き、推敲、清書などが求められます。実際に、選定された論文を読んで、その論理の構成・展開などを把握します。⑤最後に、研究発表及び討論についてもその基本的な方法について学びます。

なお、授業は、テキストおよびプリントを用いて、また班別討論を交えて行います。

#### ●評価方法

平常点

#### ●受講生へのコメント

受講生は15名までとします。超過した場合は抽選とします。

#### ●教材

澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫を共通テキストとします。

#### 「初年次セミナー」

(前期・火・3) 大学教育研究センター 渡邊席子

#### ●科目の主題と目標

本セミナーは、①教えてもらうのではなく、大学で「自ら学ぶ」ために必要なクリティカル・シンキング(批判的・創造的・科学的にもの考えること)の基礎、および、②知的コミュニケーションに必要な4つのスキル(読む・書く・聴く・話す)の基礎の確立を目標とする演習科目である。

本セミナーには、さまざまな学部の1回生が集うこととなる。自分とは異なる興味・関心・専攻分野をもつ他学部の学生と交流する機会を積極的に利用して相互理解を深めることも、セミナーの目標のひとつである。

以上の目標を達成するため、本セミナーはactive learning形式(学生によるプレゼンテーションやディスカッションを伴う形式)を取り入れる。受講者には、積極的にセミナーに参画することを通じて、知的思考の方法、知的表現の方法、礼節ある討論の姿勢を相互に学びあっていたきたい。

#### ●授業内容・授業計画

セミナーでは、個人またはグループでactive learning課題に取り組む。課題への取り組みを通じて、何が問題の本質であるのかをよく吟味しながら(クリティカル・シンキング)、資料調査を綿密に行い(読む)、受講者同士で創造的な討論を行い(聴く・話す)、2000字程度の小レポートとしてまとめ(書く)、発表し(聴く・話す)、相互に評価しあうことによって、自分の強みを把握し、かつ、弱みのカバーを目指す。

第1回：セミナーの進め方に関するガイダンス、受講者決定

第2～3回：クリティカル・シンキングとコミュニケーションスキル 基礎演習1(クリティカル・シンキングとは何か、コミュニケーションとは何か)

第4～9回：クリティカル・シンキングとコミュニケーションスキル 基礎演習2(そもそもレポートとは何か、要点をおさえた小レポートの作成、相互評価、自己評価)

第10～14回：クリティカル・シンキングとコミュニケーションスキル 基礎演習3(クリティカル・シンキングスキルおよびコミュニケーションスキルの確認、相互評価、自己評価)

第15回：まとめと総合自己評価

なお、取り組むべき課題・宿題の詳細に関しては、セミナーを進めていく中で随時説明する。

#### ●評価方法

(1) 課題への取り組みに対する評価(教員・学生それぞれからの評価)：60点満点

(2) 参画への意思・態度・行動(積極的に意見を述べたか、報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか等)：40点満点

→合計100点満点

## ●受講生へのコメント

- ・受講希望者は、第1回目のガイダンスに必ず出席すること。また、受講人数の上限を12名とし、全回出席を基本とする。
- ・小レポートはワープロで作成すること。
- ・セミナーの進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いてきていることを前提にセミナーを進める。

## ●教材

教材はセミナー中に適宜配布される。なお、教材となりうる素材を受講者自身が調査の上集めて持ち寄る場合もある。

## 「初年次セミナー」

(前期 火・3) 文学研究科 土屋貴志

## ●科目の主題と目標

大学で諸君が行うのは「勉強」ではなく「学問」である。学問とはその字の通り「学ぶ」と「問う」ことからなる。自ら問い、問いの深め方やその問いに関する知識を学び、問いを深めてまた学ぶ。そうした「問い」と「学び」を主体的に繰り返していくのが学問である。本授業では、そのような問いの立て方と深め方、学ぶための方法、他者に自らの問いと学びを伝える方法などを、ディスカッションや実習を通して、身に付けることを目指す。

## ●授業内容・授業計画

授業では以下のような活動を行う予定であるが、適宜変更する可能性もある。研究テーマのプレゼンテーション(3)およびレポート草稿の発表(11)には授業複数回を費やす。

1. アイスブレイキング(クラスメイトと打ち解ける)
2. 自己紹介(自分はどういう人かクラスメイトに伝える)
3. 研究テーマのプレゼンテーション(自分は何を問うのか最初に発表しコメントをもらう)
4. 学情センターツアー(どこで何が出来るのか確認する)
5. テーマに関連する書籍の検索
6. 新聞記事の検索
7. 雑誌論文や記事の検索
8. テレビ番組の検索
9. インターネットを用いた情報検索
10. レポート草稿の執筆
11. レポート草稿の発表
12. レポートの仕上げ(4000字程度)

## ●評価方法

レポートの評点を中心に、授業への参加姿勢などを加味して評価する。評価内容は「受講カード」に記録し、いつでも閲覧に応じる。学期末試験の代わりに採点に関する面談を行う。受講カードおよびレポートは採点面談時に返却する。

## ●受講生へのコメント

受講者数を12名に制限する。希望者が12名を超えた場合には、受講生の所属学部が偏らないように抽選を行う。受講生諸君の主体的な作業を中心とし、毎回のように入業時間外に行う課題を出す。ついていく自信がない者は、抽選で外れる者の履修機会を奪わないために、決して受講希望を出さないこと。

## ●教材

共通の教材は指定しない。各自が自分の研究テーマに沿った「教材」とその探し方を身に付けるのがこの授業のひとつの目標である。

## 「初年次セミナー」

(前期 火・4) 大学教育研究センター 飯吉弘子

## ●科目の主題と目標

「大学生としての基本的な学びの姿勢」を身につけることを目指している。「大学での学び方の基本」を学び、「自ら」調べ・「自ら」考え、考えたことを他者に伝えるように表現するという、レポート作成の一連の流れ・プロセスに沿って、とくに「自分で考える」ことを重視し、また、「自分とは異なる考えを持つ他者とそれらを共有する経験」を重視して授業を進めていく。

この授業の最終的な目標は、第1に「自ら課題を探し考える力や姿勢の基本を身につける」、第2に「資料・文献の調べ方やレポート作成の基本を学ぶ」、第3に「プレゼンテーションと意見交換の基本を学ぶ」である。「大学生として学び考えること」を学んでほしい!

## ●授業内容・授業計画

具体的には、以下のプロセスを個人のペースにあわせて進めるが、授業進行の目安は以下の通りである。

- 1～2回: ガイダンスとテーマ選定
- 3～5回: 文献検索、資料収集、テーマ・仮説の決定
- 6～8回: 資料読解、アウトライン決定、レポート執筆と第1次提出
- 9～11回: 資料読解、アウトライン調整、レポート執筆と第2次提出・発表準備
- 12～14回: 発表と相互評価、最終レポート提出

毎回、各自の進行状況報告を行い、クラス全体で問題の共有化・意見交換を行う。

各プロセスの進め方の説明、学術情報総合センターの活用法のガイダンス、レポート執筆の個別指導も行うが、大前提となるのは、授業時間内外における受講生個々人の自発的かつ積極的な取り組み・学びである。

## ●評価方法

授業への参加、プロセスへの真剣な取り組み、レポート・発表などを総合評価する。すなわち、最終レポートや発表の評価はもちろん、作業プロセスの記録・授業内提出物・資料やレポート作成の途中成果物(第1次草稿・第2次草稿ほか)等をすべてファイリング保存しておき、最終レポートと共に提出してもらい、それらの全体の評価を行う。

成績評価の割合は、授業への参加度合20%、提出課



題20%、最終発表の相互評価20%、最終レポート30%、途中資料・プロセス10%とする。

#### ●受講生へのコメント

1. 毎回の授業で報告や意見交換を行い、1人1人が「考える」プロセスに教員もじっくりつきあひながら個別指導を行うため、受講生は12名程度までとする。
2. 自分で考え・探っていくという作業は、途中プロセスは苦しい反面、それが最終的に形になっていくと楽しい作業でもある。途中で投げ出さず最後までがんばって取り組んでみてほしい。
3. 全学共通のセミナーなので、様々な学部・分野の仲間とのコミュニケーションを存分に図り、多様な考え方やアプローチがあることを実感してほしい。

#### ●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介する。

#### 「初年次セミナー」

(前期 水・4) 文学研究科 古賀哲男

#### ●科目の主題と目標

「自己の夢を実現するためのレッスン」

大学での学習を円滑に行い、基本的な知識や技術を身につけられるよう、セミナー形式で講義・演習を行う。中学・高校とは違い、大学では自立的で主体的な学習が要求されるので、それを行うにはどのようなことに留意したらいいかを常に念頭に置き、授業の予習・復習のみならず、プレゼンテーションの行い方、レポート提出の方法、試験に対する臨み方のみならず、図書館でのリサーチ、思考を深めるためのヒントなどを課題の遂行によって習得することを目標とします。特に日本語のみならず、英語での学習・発表も視野に入れた指導も行います。

#### ●授業内容・授業計画

主体的に学習するにはどのような事柄を基本的に知らねばならないかを自己チェック・自己表現・討論によって学んでいきます。具体的な学習内容・トピックは以下の通りです。

- 1) カリキュラムの作成：いかにしたら、自己目標に到達できるか
- 2) リサーチの基本的行い方：図書館やネットの利用方法
- 3) 授業と授業外の活動の有効化にむけて：効率的な大学生活とは
- 4) 「効率性」で計れない価値を知るには：長期休暇の過ごし方
- 5) 自己表現の磨き方：プレゼン、レポートで高得点を取るには
- 6) 卒論を視野に入れた学習：専門性とは何か
- 7) キャリアを考える：大学卒業後の進路を視野に入れた学習
- 8) ボーダーレスな時代環境を乗り切る：英語学習について
- 9) 生涯学習という観点からの大学での学習

10) 大学における社会活動、あるいは社会に発信する学習とは

#### ●評価方法

授業での課題報告を総合的に評価する。

#### ●受講者へのコメント

受講生は15名以下に制限します。受講希望人数が越えた場合は抽選とします。

#### ●教材

特に指定しませんが、授業中にはプリントを通じ、指示します。

#### 「初年次セミナー」

(前期 火・4)

(前期 木・2) 大学教育研究センター 矢野裕俊

#### ●授業目標

大学で学ぶうえでは、もちろん高等学校までの学習との連続性の点からも考えるべきですが、これまでの高等学校での学びとは違った学習を目指すことも同時に求められます。大学では、自ら問題を発見し、それについて自ら考え、調べ、答えを出す、という学び方を身につけ、さらに学んだことを共有しあうことが大事になります。それは大学卒業後にも求められる力です。

それを身につけるためには、自分のこれまでの学習経験を振り返ること、大学とくに市大がもつ学習資源について知ること、また、自分でテーマを見つけてそれを実現可能な計画として具体化すること、それを実行して結果をレポートにまとめること、自分が学んだことを他の人たちに伝えること、他の人との対話やディスカッションにより学ぶこと、といった一連の経験が必要です。

このセミナーでは、そうしたことを経験することにより、みなさんが大学でこれから積極的に学んでいくために、また良いスタートを切るのに大切なことを経験により学びます。

重視するのは、問題を見つける (20)、資料や文献を調べる (25)、レポートを書く (30)、発表により伝え合う・学び合う (25)、の4つです。( )内は評価のウェイトです。

#### ●授業内容・授業計画

以下の諸点を授業の内容とします。

- 1) 自分がこれまでどのように学んできたかを振り返り、今の自分に備わっている能力、これから身につけたい能力を明確にする
- 2) 市大にある学習資源のありかとその活用の方法を知り、それらを実際に使う
- 3) 学習・研究活動の計画を自ら立てる
- 4) 計画を実行に移す
- 5) 学んだ成果をレポートにまとめる
- 6) 学ぶプロセスでの協働や相互学習を大事にする
- 7) 学んだ成果を発表し、他の人と共有する  
自分がセミナーを通して何を身につけたのかを振り返る

●**評価方法**

授業への参加、発表、レポートを総合して評価します。

●**受講者へのコメント**

お互いに学びあうという関係を重視するので、履修者数は15名までとします。短期間の授業であり、随時発表や討論を行うので、欠席しないようにしてください。

●**教 材**

齊山弥生・沖田弓子『研究発表の方法－留学生と日本人学生のためのレポート作成・口頭発表のための準備の手引き－（第3版）』産能短期大学、2001年。

「初年次セミナー」

（前期 木・2）大学教育研究センター 大久保 敦

●**科目の主題と目標**

身近な自然（キャンパス内の植物）を対象としたフィールドワークを通して、①大学で学ぶための方法を身につけること、②映像と音声を用いて効果的に自分の意志を伝える方法（ビデオ番組作成）を身につけること、および③円滑にチームワーク（小グループの作業中心）を行えるようになることを目標とします。

●**授業内容・授業計画**

- ①オリエンテーション
- ②身近（キャンパス近辺）な自然に親しむ
- ③調査地域の分担、調査方法の基礎
- ④プレ・プレゼンテーション
- ⑤プレ・プレゼンテーション
- ⑥効果的なプレゼンテーション法（第4、5回のプレ・プレゼンテーションをもとに）
- ⑦観察法
- ⑧調査
- ⑨調査
- ⑩調査
- ⑪調査
- ⑫プレゼンテーション準備
- ⑬リハーサル
- ⑭最終プレゼンテーション

●**評価方法**

平常点（授業参加度（20%）、小レポート・中間発表（30%）及びレポート・発表（50%）を総合的に評価します。（ ）の数字はおおよその評価の割合を示します。

●**受講生へのコメント**

受講生は15名までとします。植物に興味があり、積極的に授業に参加しようとする人を期待しています（自身の授業を期待している人には不向き）。

●**教 材**

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。



### 3. 基礎教育科目

# 線形代数 I

2 単位

Linear Algebra I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI 数	前・木・4	古澤 昌秋 (理)	TI 電建1~22	前・木・1	古澤 昌秋 (理)
SI 物TI (情1-32)	前・木・1	金信 泰造 (理)	TI 建23~ (都)	前・木・1	河田 成人 (理)
SI (化生) HI (環)	前・木・1	藤井 準二 (理)	TI (情33~) 機	前・木・1	加戸 次郎 (理)
SI (地) TI (化)	前・木・1	栢田 幹也 (理)			

## 科目の目標

行列と行列式に関する基礎的概念と計算力の習得。

## 授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質……行列式の基礎事項と計算練習。
3. 行列式の展開公式。
4. 正則行列の性質……行列の演算における除去の可能性について論じ、余因子行列を用いた逆行列の求め方を解説する。
5. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramerの公式) の解説。
6. 同次連立一次方程式の理論……非自明解を持つ条件の考察。
7. ベクトルの幾何学……空間のベクトルに関する基本事項、空間内の直線、あるいは平面のベクトル表示も

解説。

8. ベクトル積……ベクトル解析の基礎として、ベクトル積の定義とその特徴付けを解説する。

## 評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

## コメント

クラスごとに授業内容あるいは、その重点の置き方が多少変わることがある。

高等学校の数学Cの知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続の関係で、SI 数のクラスの線形代数 I の授業を必ず受講すること。

## 教科書等

津島行男『線形代数・ベクトル解析』(学術図書)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

# 線形代数 II

2 単位

Linear Algebra II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI 数	後・木・4	谷崎 俊之 (理)	TI 電建1~22	後・木・1	古澤 昌秋 (理)
SI 物TI (情1-32)	後・木・1	金信 泰造 (理)	TI 建23~ (都)	後・木・1	谷崎 俊之 (理)
SI (化地) HI (環) TI (化)	後・木・1	藤井 準二 (理)	TI (情33~) 機	後・木・1	加戸 次郎 (理)

## 科目の目標

数ベクトル空間を基盤にして、線形代数の基本的手法を解説する。

## 授業内容

1. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立およびそれらの判定条件に関する解説。
2. 数ベクトル空間の基底……次元に関する基本事項の解説。
3. 行列の階数……基本変形による階数の計算と関連事項の解説。
4. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法、特に、同次連立方程式の基本解の理論の解説。
5. 基底変換とその行列……基底変換の一般論、及び空

間における直交座標系の取り替えに関する具体例の計算。

6. 線形写像……線形写像の基礎概念と直交変換を素材にした、その図形面での応用。
7. 固有値問題……行列の固有値と固有ベクトルに関する基本事項、その応用としての行列の対角化 (特に対称行列の場合)、線形差分方程式の解法。

## 評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

## コメント

クラスごとに授業内容の重点の置き方が多少変わることがある。

とがある。

線形代数 I の知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続の関係で、SI 数のクラスの線形代数 II の授業を必ず受講

すること。

教科書等

線形代数 I と同じものを使う。

## 解 析 I

### Analysis I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI 数	前・火・2	高橋 太 (理)	TI 電建1~22	前・火・2	森内 博正 (非)
SI 物 TI (情1-32)	前・火・2	小松 孝 (特任)	TI 建23~終 (都)	前・火・2	河内 明夫 (理)
SI (化生) HI (環)	前・火・2	古澤 昌秋 (理)	TI (情33~終) 機	前・火・2	加藤 信 (理)
SI (地) TI (化)	前・火・2	住岡 武 (特任)			

#### 科目の目標

ニュートンやライプニッツによって基礎が造られて以来、自然科学を記述する言葉として発展してきた微積分学は、現代科学技術においてもその土台となっている。それは力学と共に近代解析学へと進展し、理論的發展が現在も続いている。

この科目では、解析学の序章ともいべき極限概念や1変数関数の微積分法について、その知識や応用能力の習得を目指す。

その項目は高校での微積分と重複する部分が多いが、総合性や理論水準からみて、その内容は高校でのものとは大きく異なるであろう。

本科目は理工系学生にとって必須である解析学への入門部分であるから、その理解度が後に続く多くの理系科目の習得に大きく影響すると考えられる。

#### 授業内容

関数や写像の概念から始まり、初等関数の性質、平均値の定理、テイラーの定理、初等超越関数のべき級数展開、関数の極限值計算、リーマン積分、微積分法の基本定理、有理関数の不定積分、三角関数や無理関数の不定積分、広義積分、面積や曲線の長さの計算への応用の一

項目について解説し演習も行う。

そして最後に、これらの極限計算や微積分法の基礎である、実数の完備性や連続関数の諸性質について解説し、解析 II への準備を整える。

#### 評価方法

基本的には学期末試験の成績と授業の中で行われる演習によって評価する。

それだけでは評価が困難な場合には、レポートや授業出席回数を評価の参考に加えることもある。

#### コメント

高等学校の数学 III、数学 C の知識を前提とする。解析 I と解析 II の内容は、以前通年で授業が行われていたものであり、これらは解析 III、IV の前提にもなっているので、合わせて履修することが望ましい。

数学科の学生は、専門科目の解析学 I、II との接続の関係で、SI 数のクラスの解析 I の授業を必ず受講すること。

#### 教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学 (上)』(学術図書)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

## 解析 II 2単位

### Analysis II

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
SI数	後・火・2	西尾 昌治 (理)	TI電建1~22	後・火・2	森内 博正 (非)
SI物TI (情1~32)	後・火・2	小松 孝 (特任)	TI建23~終 (都)	後・火・2	伊達山 正人 (理)
SI (化生) HI (環)	後・火・2	谷崎 俊之 (理)	TI (情33~終) 機	後・火・2	吉田 雅通 (理)
SI (地) TI (化)	後・火・2	住岡 武 (特任)	SII (生) TII (化バ)	後・火・2	佐官 謙一 (理)

#### 科目の目標

様々な物理量はベクトル場、すなわち時空の位置によって変化するベクトルで表される。

物理現象を記述する言葉として誕生した微分積分学は、もともとベクトル場という多変数の写像を対象としていた。多変数関数の微分とは、変数の微小変位に対する関数値の増分の線形近似のことであり、多変数関数の微積分に関する定理の多くは、線形代数学における定理と深く関係している。

微積分の考え方は1変数の場合で尽くされているとはいえ、自然科学への応用のためには、ベクトル場の微積分が必要となる。本科目では、線形代数学との対応に注意しながら、多変数関数の微積分やベクトル解析の中の積分定理について解説を行う。

理工系の学生は、本科目の中で、大学における解析学独特の内容に接することになる。

#### 授業内容

多変数の連続写像、多変数関数の微分、合成関数の微分に関する連鎖律、ヤコビ行列、微分演算子とラプラシアン、テイラーの定理と極値問題、陰関数・逆関数定理、ラグランジュ乗数法、可測性と可積分性、累次積分、多

重積分の変数変換公式、広義積分とガンマ関数、線積分と面積分、ガウス・グリーン・ストークスの定理、ポテンシャルと微分形式が授業予定の項目である。ただし、授業の効率の点から、いくつかの項目については直観的説明に留め、詳細については学生の自習に委ねることもある。

#### 評価方法

学期末試験の成績と演習による評価が基本であるが、授業担当者によっては、小テストを実施したり、レポート提出を課したり、授業出席回数を記録したりして評価の参考にすることもある。

#### コメント

予備知識としては解析 I や線形代数学の基本的内容を想定している。

数学科の学生は、専門科目の解析学 I、II との接続の関係で、SI 数のクラスの解析 II の授業を必ず受講すること。

#### 教科書等

釜江哲朗/小松孝共著『解析学 (上)』(学術図書)  
担当者によって使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

## 解析 III 2単位

### Analysis III

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
SII物 (質化生地) TII (基1~20都)	前・火・1	西尾 昌治 (理)	TII (機材基21~終) (化バ)	前・火・1	佐官 謙一 (理)
TII (電情建物) HII (環)	前・火・1	伊達山 正人 (理)			

#### 科目の目標

未知関数の微分や偏微分を含む関係式を微分方程式という。その方程式を解いて未知関数を求めるという微分方程式論は、理工学の多くの分野において、現象解析のために不可欠な手段を提供している。

微分方程式の理論の出発点は常微分方程式論である。その中でも基本となるものは、線形方程式に関するもの

であるが、計算機の普及に伴って、非線形方程式の定性理論が重視されるようになった。

本科目では、線形方程式を中心とする常微分方程式の解法について議論を展開すると共に、非線形方程式の解の多様な挙動について解説し、理工系学生が、微分方程式に関して基本的知識を持ち、その初等解法を習得することを目標とする。

### 授業内容

2階斉次線形微分方程式、基本解と定数変化法、定数係数線形微分方程式と演算子、行列の指数関数、Laplace変換による解法、常微分方程式の基本定理、Hamilton系と勾配系、不動点の安定性、解の極限軌道－以上が授業予定の項目である。授業の進度によっては、非線形微分方程式に関する詳しい解説は省略することもある。

### 評価方法

学期末試験の成績によるが、1回の試験での評価の不

安定さを軽減するため、授業担当者によっては、小テストを行ったり、演習問題のレポート提出を求めたり、授業出席回数を記録したりすることもある。

### コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）及び線形代数学の基本的内容を想定している。

### 教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

## 解 析 Ⅳ

2単位

Analysis IV

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
TⅡ（建物電情化バ） HⅡ（環）TⅣ（都）	後・火・1	竹内 敦司（理）	SⅡ物（質化地） TⅡ（機材） TⅣ（都）	後・火・1	加藤 信（理）

### 科目の目標

複素数が登場したのは高次方程式の解法研究の過程においてである。

変数の範囲を複素数にまで拡張した関数の微積分を論じるようになったのは、数学における必然的発展である。19世紀にCauchy、Riemannらによって基礎が造られた複素関数論は近代数学における中心課題となった。

複素関数は、2変数の実関数の組合せで表現できるが、複素関数論で取り扱うのはこのような広い意味の複素関数ではなく、正則関数と呼ばれる、複素変数に関して微分可能な関数である。

それは複素変数のべき級数に展開可能な関数であり、そのような関数は物理的にも重要な意味を持っている。純粋数学的な発足の経緯にもかかわらず複素関数論は理工学において、理論面からも応用面からも大変有用であることが明らかとなった。

線形常微分方程式の解の挙動の複雑さの理由も、複素数の指数関数を考えることにより理解出来るであろう。この科目では、理工系の学生が、専門基礎として複素関数論の基本的内容を習得し、今や解析学の古典となった複素関数論の理論的美しさを理解することを目標とす

る。

### 授業内容

複素平面と複素数の指数関数、正則関数、等角性と1次関数、整級数、Cauchyの積分定理、留数の定積分計算、Cauchyの積分公式とTaylor展開、最大値原理とLiouvilleの定理、Laurent展開－が予定の授業項目である。Riemann面、解析接続、調和関数、等は複素関数論の重要項目であるが、授業時間数の制約のため割愛する。

### 評価方法

学期末試験の成績による評価を基本とするが、授業担当者によっては、先行試験、レポート、授業出席回数、等を加えて総合的に評価することもある。

### コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）の基本的内容を想定している。

### 教科書等

今吉洋一『複素関数概説』（サイエンス社）

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。



# 応用数学 A

2 単位

Applied Mathematics A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II (物質化) T II 機材	前・月・1	吉田 雅通 (理)	S II (生地) T II (化建バ) T III (基都)	前・月・1	竹内 敦司 (理)
			T II (電物情) H II (環)	前・月・1	小松 孝 (特任)

## 科目の目標

本科目のテーマは確率・統計である。

統計学の目的は、我々がその性質を知りたいものの集まりがあるが、その全てのものを調べることが不可能なとき、その集まりから一部を標本として取り出し、この標本から全体の性質を推測する方法を考えることである。一部のものから全体について客観的な判断をするために、統計学が用いられる。理工系の学生にとって、基本的な統計学の応用能力を持つことは必須であろう。

統計学は確率の考え方に基礎を置いているので、確率の理解なくして統計的手法の有効な利用は不可能である。無限の事象があるとき、それらの事象の確率は測度という概念を用いて定義される。

標本は確率測度の定義された空間上の関数として捉えられる。このような数学的定式化は、標本平均や標本分散等の、色々な統計量の確率分布を理解するのに不可欠であろう。

本科目では、確率論の基礎と統計学の基本的内容を解

説し、理工系学生が、有効な統計的推測能力を身につけることを目標とする。

## 授業内容

確率の定義、確率変数と期待値、典型的な確率分布、独立確率変数、大数の法則と中心極限定理、正規母集団と統計量、推定、仮説検定（適合度、独立性、分散分析）、回帰分析－以上が授業予定の項目である。

理論的内容についての解説は、統計学の応用に最低限必要な程度に留める。

## 評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

## コメント

予備知識としては、微積分学（解析 I、II）および線形代数の基本的事柄を想定している。

## 教科書等

上記の授業内容に近い形式でまとめられている本を、各授業担当者が選んで使用する。

# 応用数学 B

2 単位

Applied Mathematics B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II (物質) T II (機材電物)	後・月・1	小松 孝 (特任)	S II (化生地) T II (化建バ) T III (基) T II (都情) H II (環)	後・月・1	伊達山 正人 (理)

## 科目の目標

本科目のテーマはFourier解析と偏微分方程式である。

関数をFourier級数やFourier積分に展開することの意義は、その関数によって表現される物理量を、三角関数が表す基本的な量に分解することによって、もとの物理量の性質を調べることを可能にすることにある。

Fourier解析は偏微分方程式論と強い関わりがある。古典的応用数学は、偏微分方程式の境界値問題と、それを処理するのに必要な特殊関数の研究を中心としていた。本科目では、物理学や工学においてしばしば登場する基礎方程式である、熱伝導方程式、波動方程式、Laplace

方程式の、初期値・境界値問題について解説する。

初期値問題の解はFourier変換によって見出すことができる。変数分離法は解の具体的表現を求める有力な方法であり、固有関数展開が行われる。その際、Fourier級数や特殊関数による展開が用いられる。

## 授業内容

複素形式の、Fourier級数、Fourier正弦、余弦展開、Fourier変換、Delta関数、物理学における基礎方程式、矩形領域での初期値・境界値問題、Helmholtz方程式とBessel関数・Legendre関数、円筒領域での初期値・境界値問題、Greenの積分公式とLaplace方程式－以上が授

業予定の項目である。

#### 評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

#### コメント

予備知識としては、解析Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び線形代数学の

基本的事柄を想定している。

#### 教科書等

上記の授業内容を含む記述がされている本を参考書として用いる方針である。

## 応用数学C

2単位

Applied Mathematics C

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ (物質化生地) TⅡ (材物情が機電化建) TⅢ (都) HⅡ (環)	後・金・4	藤井 準二 (理)

#### 科目の目標

コンピュータの、個人レベルでの利用が容易になり、実験系・理論系を問わず理科系全般に、さらに幅広い分野で、利用されるようになってきた。また、各方面で利用できるソフトウェアの充実によって、プログラムを自分で組むことなしに、それまで困難だった多くの計算を要する思考実験や、データの統計的な取り扱いも可能になってきた。

しかし、一方踏み込んだ使用を考えるとときには、用意された機能だけでは、役に立たなくなってくる。誤差の累積などにより、計算結果に疑問が生じたとき、あるいは誤差の範囲を厳密に知る必要があるとき、また計算にあまりに多くの時間を要すると思われるときには、その計算がどのような計算手順（アルゴリズム）でなされているかを知る必要がでてくる。そして、必要によっては、自分でプログラムを組まなければならない。その際に、問題解決のためのアルゴリズムの基本的な知識は不可欠である。

この授業では、問題解決のための基本的なアルゴリズムを学ぶ。そのことによって、使用するプログラム言語によらずに存在する不動小数点演算の誤差の問題、問題

解決のための計算量の問題等、アルゴリズム固有のことがらを正確に認識できる知識と判断力を養うことが、本講の目的である。

#### 授業内容

コンピュータ関連の入門コースの多くは、プログラム言語の修得と簡単なプログラミングとなっている。本講義では、応用数学A（確率・統計）、応用数学B（偏微分方程式）に現われる数学的事実からトピックスを選び、コンピュータでの数値計算の数学的側面を講義する。したがって、上記2つの講義単位取得者が望ましく、あくまで数学である事に留意されたい。

もちろん、線形代数、微積分学の知識は前提とされている。

トピックスは正規方程式、モンテカルロ法、偏微分方程式の差分近似法などである。

#### 評価方法

定期試験の成績で決定する。

#### 教科書等

特に指定しない。

## 基礎数学 A 2単位

Fundamental Mathematics A

〈第1部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CEIa (CI001~055) (EI001~055)	前・月・4	小松 孝 (特任)	(H I) 全	前・火・4	辻井 健修 (非)
CEIb (CI056~110) (EI056~110)	前・月・4	住岡 武 (特任)			
CEIc (CI111~165) (EI111~165)	前・月・4	金信 泰造 (理)			
CEId (CI166~終) (EI166~終)	前・月・4	河内 明夫 (理)			

〈第2部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CE	前・金・1	藤井 準二 (理)

### 科目の目標

関数の微分法を中心にして、数学的手法の基礎理論を展開する。

### 授業内容

1. 初等関数の定義とその性質……三角関数、指数関数、対数関数などの代表的な初等関数の定義とその性質を解説。
2. 極限の概念。
3. 微分の基礎理論……積の微分、合成関数の微分公式。
4. 初等関数の微分……有理関数、三角関数、指数関数、対数関数などの微分法。
5. テーラー展開……関数の多項式による近似の理論。
6. 数値計算の基礎……近似計算の手法と誤差の考察。
7. 積分法の基礎
8. 2変数関数に関する基礎概念……2変数関数の極限と連続性の解説。

9. 偏導関数……2変数関数における偏微分の定義と関連事項の解説。

10. 全微分……2変数関数の全微分の定義とその図形的意味などの解説。

11. 簡単な微分方程式の解法。

12. 極値問題 (条件付き極値問題、ラグランジュの未定係数法)

### 評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

### コメント

経済学部・商学部においては、基礎数学Aにおける授業内容の1から7の項目を講義する。

### 教科書等

線形代数と微積分を主テーマとした教科書を使用する。

## 基礎数学 B 2単位

Fundamental Mathematics B

〈第1部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CEIa (CI001~055) (EI001~055)	後・月・4	佐官 謙一 (理)	H I (全)	後・火・4	辻井 健修 (非)
CEIb (CI056~110) (EI056~110)	後・月・4	住岡 武 (特任)			
CEIc (CI111~165) (EI111~165)	後・月・4	大仁田 義裕 (理)			
CEId (CI166~終) (EI166~終)	後・月・4	谷崎 俊之 (理)			

〈第2部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CE	後・金・1	兼田 正治 (理)

**科目の目標**

線形数学を素材とした数学的手法の基礎理論を展開する。

**授業内容**

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質。
3. 正則行列の性質……行列の演算における除法の可能性についての解説。
4. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramerの公式)
5. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立、および、それらの判定条件に関する解説。
6. 数ベクトル空間の基底……次元に関連する基本事項

の解説。

7. 行列の階数……行列の基本変形による階数の計算。
8. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法。

**評価方法**

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

**コメント**

経済学部・商学部においては、基礎数学Aにおける授業内容の8から12の項目を講義する。

また必要に応じて基礎数学Bにおける授業内容の1から4の項目についても解説する。

**教科書等**

基礎数学Aと同じ教科書を使う予定。

## 統計学 A

2 単位

Statistics A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI 医	前・木・3	福井 充 (医)

**科目の目標**

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では統計的考察を行なう上で必要な基礎的な概念と、推定・検定の概念の習得を目的とする。また、応用として1母集団の比率についての検定・推定も学ぶ。

**授業内容**

統計学の基礎として記述統計、確率分布と応用としての推定法についての講義を行なう。具体的には

1. 記述統計：度数分布表・ヒストグラム・散布図、平均・分散・標準偏差・相関係数
2. 確率分布：確率変数・確率分布の概念、代表的な確率分布 (正規分布・二項分布・ポアソン分布)
3. 推定の考え方：点推定、区間推定

4. 検定の考え方：有意水準と検出力、片側検定と両側検定、棄却域、P値
5. 1母集団の母比率の検定・推定  
演習は講義時間内に適時行なう。

**評価方法**

定期試験を行なう。レポートも加味する。

**コメント**

解析学 (微積分) ・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。

関数電卓を用意すること (詳細は授業時に指示)

**教科書等**

丹後俊郎著「新版 医学への統計学」(朝倉書店)

注) この教科書は統計学B、3・4回生での推計学でも使用する。

# 統計学 B

2 単位

Statistics B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI	後・木・3	福井 充 (医)

## 科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では実際の問題に対する統計的手法を習得することを目標とする。

## 授業内容

各種統計的手法の適用についての講義を行なう。具体的には

1. 1つの正規母集団の母平均・母分散についての検定・推定
2. 2つの正規母集団の母平均・母分散の比較
3. 2つの非正規母集団についてのノンパラメトリック検定
4. 母比率の比較、分割表の検定

演習は講義時間内に適時行なう。

## 評価方法

定期試験を行なう。必要に応じてレポートも加味する。

## コメント

解析学（微積分）・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。また、統計学 A での講義内容を前提とする。

関数電卓を用意すること（詳細は授業時に指示）

## 教科書等

丹後俊郎著「新版 医学への統計学」(朝倉書店)

注) この教科書は統計学 A、3・4 年生での推計学でも使用する。

# 基礎物理学 I

4 単位

Basic Physics I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI 物 (数地)	前・月1・金4	糸山 浩 (理)	TI 機	前・月1・金4	牲川 章 (非常勤)
SI (化生) TI 電	前・月1・金4	神田 展行 (理)	TI 情建	前・月1・金4	河合 俊治 (特任)

## 科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象として、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、演習により理解を深めると共に応用力をつける。

## 授業内容

1. 運動：空間と時間、速度
2. 運動の法則：慣性、運動の法則、作用・反作用の法則、運動量と力積
3. 運動とエネルギー：1次元の運動、1次元の運動とエネルギー、2次元の運動、仕事と運動エネルギー、力のポテンシャルとエネルギーの保存
4. 惑星の運動と中心力：ケプラーの法則、クーロン力による散乱

5. 角運動量：角運動量と力のモーメント

6. 質点系の力学：運動量保存の法則、2体問題、運動エネルギー、角運動量

7. 剛体の簡単な運動：剛体の運動方程式、固定軸をもつ剛体の運動、剛体の慣性モーメント

8. 相対運動：回転しない座標系、重心系と実験室系、座標変換、回転座標系

## 評価方法

授業で行う演習、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

## 教科書等

戸田盛和著『力学』(岩波書店) を用いる。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。



# 基礎物理学Ⅱ

4 単位

Basic Physics II

クラス	期・曜・時	担当者
SI物(数化生地)	後・月1・金4	浜端 広充(理)
TI(機)	後・月1・金4	河合 俊治(特任)
TI電情	後・月1・金4	飯田 武(非常勤)

## 科目の目標

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習する。講義とともに演習を行い、より深い理解と応用力をつけることを目標とする。

## 授業内容

### 1. 静電場

- ・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
- ・静電ポテンシャル、・電気双極子、
- ・コンデンサー、・誘電率

### 2. 定常電流

- ・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則

### 3. 電流と磁場

- ・磁場、・磁場に関するガウスの法則、
- ・アンペールの法則、・ビオ・サバールの法則、

- ・ローレンツ力、・磁気双極子、・透磁率、
  - ・変位電流
4. 電磁誘導と準定常電流
- ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導、
  - ・過渡現象
5. 電磁気学の基本法則
- ・マクスウェルの方程式、・電磁波

## 評価方法

通常授業で行う演習、レポート課題、定期試験により評価する。

## 教科書等

教科書として「砂川重信著『電磁気学[改訂版]初めて学ぶ人のために』(培風館)」を用いる。副読本として「砂川重信著『物理テキストシリーズ4電磁気学』(岩波書店)」を使用する。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

# 基礎物理学Ⅰ－A

2 単位

Basic Physics I - A

クラス	期・曜・時	担当者
SI物 TI電	後・水・1	石原 秀樹(理)

## 科目の目標

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、基礎物理学の範囲内で、基礎物理学ⅠのAdvanced Courseとして設けられた力学の講義である。ここでは基礎物理学Ⅰと同様、マクロな身近に起こる現象を対象にしている。授業では例題をなるべく多くとり入れて、理解し易いよう解説する。

## 授業内容

1. 振動：単振動、減衰振動、強制振動、連成振動
2. 波動：波動方程式、重ね合わせ、反射、透過と定常波、波の運ぶエネルギー、有限個の自由度をもった媒

質

3. 弾性体：弾性体、応力、歪み、弾性エネルギー、塑性変形

## 評価方法

主として、レポートや期末試験などによって評価する。

## コメント

基礎物理学Ⅰの履修がされていることが前提である。主として授業内容は1. と2. について行う。

## 教科書等

長岡洋介著『振動と波』(裳華房)を用いる。

# 基礎物理学Ⅱ－A

2単位

Basic Physics Ⅱ－A

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ物 TⅡ(物)	前・水・3	石原 秀樹(理)

## 科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、基礎物理学の範囲内で、基礎物理学ⅡのAdvanced Courseとして設けられた電磁気学の講義で、マクスウェル方程式の微分形を使いこなせるようになることを目標とする。そのために必要なベクトル解析をも学習する。また、理解を深めると共に応用力をつけるために演習を行う。

## 授業内容

- ベクトル解析の基礎
  - ベクトル場、ベクトルの発散・回転、線積分、面積分、体積積分、ガウスの定理、ストークスの定理
- マクスウェル方程式の微分形
  - マクスウェル方程式の微分形、電磁場のエネルギーと運動量、電磁ポテンシャル

## 3. 電磁波と放射

・自由空間における電磁場、電磁場の放射

## 4. ローレンツ変換

・物理法則の不変性、電磁気学とローレンツ変換、4元ベクトル

## 評価方法

期末試験、レポートなど。

## コメント

基礎物理学Ⅱの履修を前提として講義を行う。

## 教科書等

教科書として砂川重信著『物理テキストシリーズ4 電磁気学』(岩波書店)、を使用する。また、副読本として砂川重信著『理論電磁気学』(紀伊国屋書店)を使用し、戸田盛和著『理工系の数学入門コース3 ベクトル解析』(岩波書店)を参考書とする。他の参考書や演習書は適宜紹介する。

# 基礎物理学Ⅰ－E

2単位

Basic Physics Ⅰ－E

クラス	期・曜・時	担当者
SⅠ(数化生) S低(地)H低(食環)	前・月・1	有馬 正樹(理)
TⅠ(化)	前・月・1	山本 和弘(理)
TⅠ(都)	前・月・1	中川 道夫(非)

## 科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象に、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、例題により理解を深めると共に応用力をつける。

## 授業内容

- 力のつりあい：変位とベクトル、力のベクトル、力のつりあい、いろいろな力
- 速度と加速度：直線上の運動、2次元、3次元の運動、円運動の速度と加速度
- 運動の法則：慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則
- いろいろな運動：落体の運動、単振動、等速円運動、抵抗力をうけた物体の運動

5. 力学的エネルギー：仕事、運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギーの保存

6. 運動量と角運動量：運動量と力積、2物体の運動、角運動量

7. 慣性の力：慣性系と慣性の力、回転系における運動

8. 剛体のつりあいと回転

## 評価方法

授業で行う演習、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

## コメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

## 教科書等

長岡洋介著『物理の基礎』(東京教学社)を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

# 基礎物理学Ⅱ－E

2単位

Basic Physics II - E

クラス	期・曜・時	担当者
S I (数化生) S低(地) H低(食環)	後・月・1	寺本 吉輝(理)
T I (化建) T IV (都)	後・月・1	牲川 章(非常勤)

## 科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象にする電磁気学を学習する。

## 授業内容

1. 電荷と静電場
  - ・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
  - ・静電ポテンシャル、・電気双極子、
  - ・コンデンサー
2. 定常電流と静磁場
  - ・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則、

- ・磁場、・ローレンツ力、・ビオ・サバールの法則、
- ・磁気双極子、・アンペールの法則、

## 3. 電磁誘導

- ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導、

## 4. 電磁気学の基本法則

- ・変位電流、・マクスウェルの方程式、・電磁波

## 評価方法

レポート課題、定期試験により評価する。

## 教科書等

教科書として「長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）」を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

# 基礎物理学F

4単位

Basic Physics F

クラス	期・曜・時	担当者
T I (旧基・都)	後・火2・木1	河合 俊治(特任)

## 科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、身近にある流動体を対象とした力学を講義する。流体力学は物理以外に気象、地球、天体から機械、航空、土木など広い分野の応用面でも重要である。授業では、流体力学に必要な数学的知識と、流体の物理的扱いの基礎を理解させる。

## 授業内容

1. 静止流体の圧力、浮力
2. 質量：質量と密度、連続の式
3. 速度：速度と流線、渦度と渦線、速度の展開、速度ポテンシャル、流れの関数、複素速度ポテンシャル
4. 加速度：加速度
5. 力：力、物体が流体より受ける力

6. 理想流体の力学：オイラーの運動方程式、オイラーの運動方程式の変形

7. 粘性流体の力学：ナビエ・ストークスの方程式、ナビエ・ストークスの方程式の変形、レイノルズの相似則

## 評価方法

レポート課題、定期試験など。

## コメント

基礎物理学Ⅰと高等学校での微分積分学の履修を前提にする。

## 教科書等

教科書として、大亀衛著「やさしくわかる流体の力学」（内田老鶴圃）を用いる。また適宜参考図書を紹介する。

# 基礎物理学Ⅲ

2 単位

Basic Physics III

クラス	期・曜・時	担当者
S II 物 (数質化生地) T II 物	前・水・1	鈴木 正人 (理)
T II (機電化材)	前・水・1	吉野 治一 (理)
T II (建情パ都)	前・水・1	飯田 武 (非常勤)

## 科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、日常生活で体感される熱現象を基に築かれた現象論としての熱力学を学習する。熱力学は物理学のみならず工学の分野においても実用的な面から非常に有用である。

## 授業内容

- 熱現象と熱力学
  - 熱平衡と温度, ・状態量, ・理想気体の状態方程式
  - ファンデルワールの状態方程式
- 熱力学第1法則
  - 準静的過程, ・熱力学第1法則, ・内部エネルギー,
  - 熱容量と比熱, ・等温過程, ・断熱過程,
  - カルノーサイクル
- 熱力学の第2法則
  - 可逆と不可逆過程, ・熱力学の第2法則,
  - 熱機関の効率, ・熱力学温度,

- ・クラジウスの不等式
- エントロピー
    - ・エントロピー, ・エントロピー増大の法則, 不可逆性と確率論的意味, ・微視的状态
  - 熱力学関数
    - ・エンタルピー, ・自由エネルギー, ・熱平衡
  - 気体分子運動論
    - ・エネルギー等分配の法則, ・速度の分布則

## 評価方法

主として期末試験により評価する。

## 教科書等

教科書として「國友正和著、基礎熱力学 (共立出版)」を使用する。また、副読本として「R.A.Serway著、松村訳『科学者と技術者のための物理学Ⅱ熱力学』(学術図書出版社)」を使用する。演習書を指定する場合はある。また、参考図書を適宜紹介する。

# 基礎物理学Ⅳ－A

2 単位

Basic Physics IV - A

クラス	期・曜・時	担当者
S II 物 (数質化生地) T II (機電材) T IV (建都)	後・水・1	奥沢 徹 (理)

## 科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、現代物理学の根幹をなし、物質、生命、化学、工学、宇宙など自然科学のあらゆる分野において、ミクロな自然現象を理解するための基礎となっている量子力学の基本的事項を学ぶ。特に、量子力学特有の新しい概念や考え方をしっかり理解すると共に、簡単な数式・例題を通してその本質の理解を深め、より専門的な科目を学習するための基礎を身につけることを目的とする。

## 授業内容

- 古典物理学の限界：光の粒子性、電子の波動性、粒子性と波動性の二重性、ド・ブロイの関係式
- シュレディンガー方程式：古典的波動方程式、自由

粒子のシュレディンガー方程式と平面波、物理量と演算子、時間に依存するシュレディンガー方程式、波動関数と確率解釈、確率の保存則、波束とフーリエ変換、ディラックのデルタ関数

- 定常状態のシュレディンガー方程式：演算子の固有値と固有関数、時間に依存しないシュレディンガー方程式、束縛状態と非束縛状態
- 1次元問題1 (束縛状態)：変数分離と1次元のシュレディンガー方程式、井戸型ポテンシャル、調和振動子ポテンシャル
- 1次元問題2 (反射と透過)：1次元の自由運動、階段型ポテンシャルによる反射と透過、ポテンシャル障壁の透過 (トンネル効果)
- 3次元問題：球対称ポテンシャル中での粒子の運動、

球座標によるシュレディンガー方程式、球面調和関数と軌道角運動量、動径方向のシュレディンガー方程式

#### 評価方法

期末試験を行う。また、適宜レポート課題を課す。

#### コメント

基礎物理学 I および解析学の基礎が理解されているこ

とを前提に講義をすすめる。特に振動・波動の学習を推奨する。

#### 教科書等

原康夫著『量子力学』（岩波基礎物理学シリーズ⑤、岩波書店）。また、参考図書・演習書等を適宜紹介する。

## 基礎物理学Ⅳ－B

2 単位

Basic Physics IV - B

クラス	期・曜・時	担当者
S II (数質化生地)	後・水・1	飯田 武 (非常勤)
T II (化情バ)		
T IV (建都)		

#### 科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、特に現代物理学が解明したミクロの世界における重要な物理現象や、そこから基礎法則を導出した量子論の概略と、その物質系への応用例を概説する。さらに研究の最前線のトピックスのいくつかを紹介する。授業は下記の項目の中から適宜選択しておこなう。

#### 授業内容

1. 古典物理学の限界：光の粒子性、エネルギー量子
2. 量子論の概要：シュレディンガー方程式、角運動量、スピン
3. 原子・分子：水素原子、元素の周期律
4. 固体の成り立ちと固体中の量子現象：結晶結合、バンド構造、半導体

5. 原子核と素粒子：原子核の構造、破壊、反応、多様な素粒子とその構造

6. 相対性理論

7. 物理学最前線：いくつかのトピックスを紹介する。

#### 評価方法

期末試験、レポートなど。

#### コメント

基礎物理学 I および II が履修されていることを前提に講義を進める。高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理 I, II の履修者のため、適宜補足的説明を行う。

#### 教科書等

1. 江幡、内田、坪田著『基礎物理学コースⅡ』（学術図書出版社）
2. 原、桜井著『物理学－その現代的アプローチ』（東京教学社）



# 物理学 I

2 単位

Introduction to Physics I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI医	前・木・1	櫻木 弘之(理)

## 科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学Iでは、主に、力学と波動の分野を中心に学ぶ。

## 授業内容

1. 物理学とは
  - ・物理学の学び方、・物理量の表し方
2. 運動の記述
  - ・速度、・加速度、・等速円運動
3. 運動の法則と力の法則
  - ・運動の第1, 2, 3法則

## 4. 力と運動

・運動方程式とその解

## 5. 振動

・単振動、・減衰振動、・強制振動

## 6. 仕事とエネルギー

・仕事、・エネルギー、・保存力、・エネルギー保存則

## 7. 回転運動

・角運動量、・回転運動の法則

## 8. 剛体の力学

・剛体の運動方程式、慣性モーメント

## 9. 見かけの力

・加速度系からみた運動

## 10. 波動と光

## 評価方法

中間試験と期末試験の結果を総合して評価する。

## 教科書等

教科書として、原 康夫著『(第3版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

# 物理学 II

2 単位

Introduction to Physics II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI医	後・木・1	高橋 保(非常勤)

## 科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学IIでは、主に、電磁気学と現代物理学の分野を中心に学ぶ。

## 授業内容

1. 真空中の静電場
  - ・電荷、・クーロンの法則、・電場のガウスの法則
2. 導体・誘電体と静電場
  - ・導体、・誘電体、・キャパシター

## 3. 電流と回路

・オームの法則、・キルヒホッフの法則、・CR回路

## 4. 電流と磁場

・電流のつくる磁場、・ローレンツ力、  
・ビオサバールの法則、・磁場のガウスの法則  
・アンペールの法則

## 5. 電磁誘導

・電磁誘導の法則、・自己誘導、・相互誘導

## 6. マクスウェル方程式と電磁波

## 7. 現代物理学の概要

・相対性理論、・ミクロの世界と量子論、  
・原子核と素粒子

## 評価方法

中間試験と期末試験の結果を総合して評価する。

## 教科書等

教科書として、原 康夫著『(第3版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

# 物理学 A

2 単位

Physics A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI 医	前・火・3	木村 政継 (医)

## 科目の目標

物理学的な「自然観」或いは「世界観」は自然科学の分野だけでなく、広い領域に採り入れられているが、医学部においては総合化の視点に立ってとらえなければならない。物理学 I (理学部担当)において力学の基礎を学び、それと並列に行う物理学 A は熱力学を中心に学ぶことになる。熱力学は、直感的概念からスタートしながら量子力学によって初めて理解される内容まで含んでいて、一般に分かりにくいとされているが、生化学反応や種々の物理現象の理解の基礎となる分野であることに留意しつつ、分かりやすい講義を心がける。

## 授業内容

1. 数学的補足：微分方程式に慣れる 2. ファンデルワールスの状態方程式 3. 熱学 4. 熱力学第一法則 5. 熱機関の効率 6. エントロピー 7. 熱力学

第二法則 8. 分子運動論 9. 等重率の原理とカノニカル分布 10. エンタルピーと反応熱 11. 自由エネルギー 12. 相平衡 13. 化学平衡 14. 質量作用の法則と生化学反応 15. 電気化学的応用評価方法

## 評価方法

試験の成績に、平常の演習及び出席点を加味して評価する。

## コメント

高等学校で微・積分学をある程度学んでいることを前提とするが、熱力学を学ぶうえで十分とは言えないので、補足する。

## 教科書等

教科書として、医歯系の物理学（赤野松太郎他著、東京教学社）を使用し、適宜、プリント教材で補う。

# 物理学 B

2 単位

Physics A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI 医	後・火・4	木村 政継 (医)

## 科目の目標

原子と原子核の物理は、医学的診断や癌治療に広く利用されている放射線をはじめとして、医学的重要性が高い。医学系物理の締めくくりとして、近代物理学的な視点から医学的応用も含めて幅広く解説する。

## 授業内容

1. 特殊相対性理論 (1) 2. 特殊相対性理論 (2) 3. 熱放射と光子 4. 原子の構造 5. 量子力学の成立 6. 磁場の中の電子 7. ESRとNMR 8. 磁気共鳴イメージング 9. 原子核と加速器 10. X線の発生 11. X線の物理 12. 放射線の物理 13. 放射線の管理 (1) 14. 放射線の管理 (2)

## 評価方法

試験の成績に、演習と出席状況を多少加味して評価する。

## コメント

この分野は医療や医学的研究の基礎としてきわめて重要である。

## 教科書等

プリント教材をメインとしつつ、教科書として医歯系の物理学（赤野松太郎他著、東京教学社）を使用する。

参考書：アイソトープ手帳 (日本アイソトープ協会編、丸善)。

# 入門物理学 I

2 単位

Introduction to Physics I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I (数生化) S 低 (地) T I (化)	前・月・1	奥沢 徹 (理)
H 低 (食環) M I 看	前・月・1	石川 修六 (理)

## 科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

## 授業内容

最も身近にある物理現象を記述する力学を中心に講義を行う。始めに物理学の学び方をのべ、項目として、

- 1) 速度と加速度  
速度、加速度、等速直線運動、等加速度運動
- 2) 運動の法則(ニュートンの運動の法則)  
座標系、ベクトル、運動の法則、力、放物運動
- 3) 周期運動  
周期運動、単振動、単振り子、等速円運動

- 4) 力と運動、エネルギー  
力と仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存則、運動量、運動量保存則
- 5) 剛体の運動  
剛体、慣性モーメント、重心の運動、回転運動
- 6) 熱と温度  
熱、温度、状態方程式、プランクの法則、熱力学の法則  
などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、各項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

## 評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

## コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学 I-E を履修すること。

## 教科書等

原 康夫著『基礎からの物理学』(学術図書出版社)

# 入門物理学 II

2 単位

Introduction to Physics II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I (数生化) S 低 (地) T I (化)	後・月・1	杉崎 満 (理)
H 低 (食環)	後・月・1	鈴木 正人 (理)

## 科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

## 授業内容

電氣的・磁氣的現象の基礎となる、電磁気学を中心に学び、現代物理学と呼ばれているミクロな世界の物理、相対性理論、原子核・素粒子論などの新しい物理学の展開の概略についても講義する。項目として、

- 1) 電荷と電気力  
電荷と電気力、電荷の保存則、静電誘導、クーロンの法則
- 2) 電場  
電場、ガウスの法則
- 3) 電位

- 位置エネルギー、電位と電位差、
- 4) 誘電体とキャパシタ  
キャパシタ、電気容量、電場のエネルギー、誘電体と電場
  - 5) 電流とオームの法則  
電流、起電力、オームの法則
  - 6) 電流と磁場  
磁場、アンペールの法則、磁気力
  - 7) 電磁誘導  
電磁誘導、誘導起電力、磁場のエネルギー
  - 8) 新しい物理学の展開  
光・電子の二重性、不確定原理、相対性理論、原子核

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、各項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

#### 評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

#### コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学Ⅱ-Eを履修すること。

#### 教科書等

原康夫著『基礎からの物理学』（学術図書出版社）

## 入門物理学実験 2単位

Introductory Physics Experiments

クラス	期・曜・時	担当者
S低（数化生地） H I食（環）	後・金・3~4	鐘本 勝一（理） 山本 和弘（理） 川上 三郎（特任）

#### 科目の目標

高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

#### 授業内容

入門物理学実験は、高校で物理学を履修してこなかった場合でも理解できるように、解説・講義を交えて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスをする。実験は2回1テーマ、原則として2名1組で行う。各テーマとも、1週目に実験の説明・諸注意の後、測定を行い、2週目に解析・実験結果に関して討論し、レポートを作成する。テーマは次の予定である。

「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧・電流特性を測定

し、その整流作用を観測する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 $\gamma$ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による $\gamma$ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは2週目終了時に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

#### 評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

#### コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した、必修以外の学生は、基礎物理学実験Ⅰを履修すること。本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱおよび物理学実験S Bを受講することができる。また、本科目を履修した者は、基礎物理学実験Ⅰおよび物理学実験S Aを履修することはできない。必要な場合は基礎物理学実験Ⅱもしくは物理学実験S Bを履修すること。

#### 教科書等

本理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』（東京教学社）

# 基礎物理学実験 I

3 単位

Basic Physics Experiments I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 物 S 低 (質) T I 電 (機)	前・火・3~5	清矢 良浩 (理) 小原 顕 (理) 川上 三郎 (特任)
T I 情 (機都)	前・木・3~5	山本 和弘 (理) 杉崎 満 (理) 川上 三郎 (特任)
S 低 (数化生地) T I (建化) H I (環)	後・火・3~5	小原 顕 (理) 川上 三郎 (特任)

## 科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

## 授業内容

基礎物理学実験 I は高校で物理学を履修した学生を対象とする。1 回目は履修に当たってのガイダンスと、実験全体に共通の事柄について講義を行う。2 回目以降は、前半・後半各 6 テーマとして、1 回 1 テーマ、原則として 2 名 1 組で実験を行い、レポートを作成する。

### 前半テーマ

「剛体の等加速度運動」：斜面を転がる剛体の運動を調べ、剛体の慣性モーメントを求める。「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「熱の仕事当量」：電流による発熱と水温上昇の関係から熱の仕事当量を求める。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧-電流特性を測定し、その整流作用を観測する。

### 後半テーマ

「ヤング率・剛性率」：力による金属の伸びや曲がり

からヤング率を測定する。また、ねじれ振り子の周期から針金の剛性率を求める。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「固体の線膨張」：金属棒の熱による膨張を観測し、線膨張率を測定する。「トランジスタの特性」：トランジスタの静特性と動特性を測定し、動作原理・増幅作用を理解する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 $\gamma$ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による $\gamma$ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは当日時間内、あるいは 1 週間以内に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

## 評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

## コメント

本科目を修得したものは基礎物理学実験 II あるいは物理学実験 S B を受講することができる。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理 I、II の履修者のため、適宜補足的説明を行う。

## 教科書等

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第 3 版』(東京教学社)



# 基礎物理学実験Ⅱ

3単位

Basic Physics Experiments II

クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ電(材)	前・月・3~5	中野 英一(理) 小松 晃雄(特任)
SⅡ物(数質化生地) TⅡ物(機情)	後・月・3~5	杉崎 満(理) 萩尾 彰一(理) 小松 晃雄(特任)

## 科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

## 授業内容

基礎物理学実験Ⅱは、入門物理学実験又は基礎物理学実験Ⅰを修得した学生を対象に、より高いレベルのテーマを、より高度な測定機器を用いて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスを行う。2回目以降は、次のテーマの中から、原則として2名1組で実験を行う。

「万有引力定数」：大球と小球の間に働く力をねじれ秤を用いて測定し、万有引力定数を求める。「光の速度」：パルス化したレーザー光を用い、空気中の光速を直接測定する。「光の回折」：レーザーの平行単色光を用い、1次元および2次元格子による光の回折現象を調べる。「過渡現象と交流回路」：抵抗・コンデンサー・コイルを含む回路を用いて過渡現象を観測し、交流についての理解を深める。「差動増幅器」：OPアンプを用いて簡単な差動増幅器を実際に作り、その動作を調べる。「電磁波」：波長約3cmのマイクロ波を用い、電磁波の反射や干渉などの基本現象を学ぶ。「磁化曲線」：強磁性体の磁化曲線を測定し、磁性の基礎を学ぶ。「電子の比電荷」：電磁場中での荷電粒子の運動を観察し、電子の比電荷を測定する。「レーザー」：固体レーザーの発振の様子や第二高調波発生の観測を通して、非

線形光学の基礎を学ぶ。

「真空」：低圧気体の熱伝導の圧力依存性を調べる。「熱放射」：黒体から放射される電磁波のエネルギーおよび強度の波長依存性を測定し、温度との関係を調べる。「原子スペクトル」：水素原子の輝線スペクトルを観測する。「 $\gamma$ 線スペクトル」：シンチレーション検出器と波高分析器を用い、 $\gamma$ 線のエネルギースペクトルを測定する。

各実験終了後、レポートを次回までに提出する。最終週は実験・レポート等の総合的な指導を行う。また、欠席者に対しては、補充実験を追加して行う。

## 評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

## コメント

本科目を履修するためには、入門物理学実験又は基礎物理学実験Ⅰ(それに相当したもの)を修得していなければならない。また、本科目を履修した者は、原則として、物理学実験S Bの履修を認めない。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理I、IIの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

## 教科書等

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』(東京教学社)

# 基礎生体物質学

2単位

Material Science of Life, Fundamentals

クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ(化物)	後・火・1	飯尾 英夫(理)

## 科目の目標

生命現象を科学的に理解するために、生体物質の基礎知識を修得することを目標とする。生体構成物質の有機化学的基礎、および生体における役割あるいは生体機能発現と調節の機能等について学習する。

## 授業内容

1. 生体分子の立体化学(1回)
2. 糖質の化学(3回)
3. 脂質の化学(2回)
4. タンパク質の化学(4回)
5. 核酸の化学(3回)

## 6. 生体分子の反応（1回）

基本的な生命現象に関与している各種の生体物質群の構造、および生体機能発現との関係について重点的に解説し、十分な理解が得られるようにする。演習問題もできるだけ取り上げ理解の徹底を図る。

### 評価方法

期末試験（85点）と、毎回宿題として課す演習問題のレポート（15点）により評価する。

### コメント

基礎有機化学ⅠおよびⅡの履修が望ましい。

関連するホームページを紹介するので、あわせて学習してほしい。この科目開講は今年度限りの予定です。

### 教科書等

教科書：相本三郎、赤路健一著『生体分子の化学』（化学同人）

参考書：H. ハート著／秋葉欣哉、奥彬訳『ハート／基礎有機化学』（培風館）

# 基礎物質科学実験

3単位

Fundamental Experiments in Material Science

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ質（物化生地） TⅡ（機物材）	前・月・3～5	寺岡 淳二（理） 塩見 大輔（理） 他

### 科目の目標

実験を通して、分子、巨大分子、分子集合体、微粒子などの持つ性質を調べ、それらを統計的な手法や分子レベルにおける考察によって理解する。また、物質科学の研究において必要な基本的実験操作を修得する。さらにはコンピュータを活用した研究手法にも馴れ親しむ。

### 授業内容

第1週 [ガイダンス1] 実験内容の説明と安全指導。  
第2～4週 [実験1：物質の色と分子] いくつかの色素を合成し、その吸収スペクトルを測定し、吸収する光の波長と分子構造との関係を調べる。また、コンピュータによる電子状態の計算から、望みの色を示す分子の設計を行う。第5～7週 [実験2：金属錯イオンのつくる電荷移動錯体] 錯体の集合体としての電荷移動型錯体を合成し、それらの酸化還元電位や電子スペクトルを反射法で測定することによって、錯体間の相互作用を調べる。第8～10週 [実験3：DNA] DNAの融解温度の測定と

電気泳動法、高速液体クロマトグラフィー法による分析によって、DNAの性質を分子レベルで観る。また、生体物質を使った実験に特有な基本操作を学ぶ。第11～13週 [実験4：ブラウン運動] 微粒子の溶液中でのランダムな運動を観察し、移動距離の時間経過を測定する。ブラウン運動は拡散の法則に従っていることを理解し、拡散定数とアボガドロ定数を求める。データ処理の基礎についても学ぶ。第14週以降 [ガイダンス2] データ処理方法の説明とレポート作成法及び口頭発表の仕方を指導する。

### 評価方法

実験テーマごとのレポート。

### コメント

基礎教育科目として提供されている実験科目を1年次に履修していること。

### 教科書等

基礎物質科学実験書

# 基礎物理化学 A

2単位

Basic Physical Chemistry A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI化	前・水・1	宮原 郁子 (理) 塩見 大輔 (理)	MI医	前・水・1	神谷 信夫 (理)
TI (電) HI (食環)	前・水・1	佐藤 和信 (理)	SI (数物生地) TI情 (建) TIII (電)	後・木・3	麻田 俊雄 (非常勤)

## 科目の目標

我々の身の回りは、さまざまな物質で溢れている。物質の構造、機能、反応を扱う化学が現代社会の中で果たしている重要性は非常に大きい。本科目では、量子の法則に基づく原子、分子の構造と化学結合の基礎を理解することを目標として、ミクロな視点から物質を理解するために必要な化学の基本概念を学ぶ。

## 授業内容

第1~4回 原子の構造と量子論の基礎

第5~7回 二原子分子の化学結合-共有結合とイオン結合

第8、9回 三原子分子と結合角-分子を曲げる力の謎  
第10~12回 分子軌道法と混成-多原子分子の構造  
第13~14回 分子間に働く力

## 評価方法

試験の成績 (80点) に演習レポート (20点) を加味して評価する。

## 教科書等

適宜、資料プリントを配布する。

参考書: P. W. アトキンス著「物理化学 (上)」

(東京化学同人) (SI化)

# 基礎物理化学 B

2単位

Basic Physical Chemistry B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI (数物生地) TI (建都) TIII (電)	前・火・1	田中 礼二 (非常勤)	TI (機電) HI (食)	後・水・1	八ッ橋 知幸 (理)
			SI化 HI (環)	後・水・2	豊田 和男 (理)

## 科目の目標

自然は「物質の拡散」と「エネルギーの拡散」を伴いながら、「自ずから然り」の言葉通り自発的に変化して現在の姿となっている。いかなる拡散過程もそっくりには後戻りできない「不可逆過程」である。自然を支配している不可逆の法則を表したのが熱力学第2法則であり、エントロピー増大則である。エントロピー概念を正しく理解して、循環過程が成立する条件を学ぶ。また、自由エネルギー概念を導入して、定められた環境の中に置かれた系が自発的に変化して平衡状態に達する法則を学ぶ。

## 授業内容

● SI (数物生地) TI情 (建都) TIII (電) クラス、SI化 HI (環) クラス:

高校で物理を履修していない学生にも理解できるように、熱、仕事、温度、状態量、可逆過程と不可逆過程、エントロピー、自由エネルギーなど、熱力学における基本的な概念を分かり易く解説しながら、論理的な思考力

を養う。

1. 系と環境 2. 熱力学第1法則 (内部エネルギー、熱、仕事) 3. 熱平衡と温度 4. 状態の記述 (熱力学的平衡、状態量、可逆過程と不可逆過程) 5. 蒸気機関の改良とカルノー・サイクル 6. 熱力学第2法則 7. エントロピー概念と熱力学温度の確立 8. 不可逆過程とエントロピー 9. 循環過程の成立条件 10. 閉じた系の熱力学 (エンタルピー、熱容量、自由エネルギー)

● TI (機電) HI (食) クラス

1. 化学反応を眺める視点 (1回) 2. 熱と温度 (1回) 3. 熱を作り出すには (2回) 4. 熱はなぜ生じるのか (1回) 5. 仕事を生み出すには (2回) 6. エネルギーの相互変換 (1回) 7. 動力を取り出すには (3回) 8. エネルギーの保存と方向性 (1回) 9. 化学反応における熱力学 (2回) 以上の課題を元に講義する。講義中に関連した演示 (教卓) 実験を15程度行う。演示実験に対するレポートを毎回講義中に提

出し、翌週の講義で実験の背景、原理、追加実験の結果や身近な例を学び、復習することにより熱力学に対する理解を深める。

#### 評価方法

宿題、小テスト、試験、欠席率等により総合的に評価する。感想文（田中）、レポート（ハッ橋）を含む。

#### 教科書等

(SI (数物生地) T I 情 (建都) T III (電)、SI 化 H I (環)) 田中礼二 著、『熱力学の基礎と考え方』(市大生協書籍部発行)

(T I (機電) H I (食)) 特に指定しないが、高等学校で使用していた化学と物理の教科書を用意すること。

## 基礎有機化学 I

2 単位

Basic Organic Chemistry I

クラス	期・曜・時	担当者
SI 化 (数物生地)	前・月・2	岡田 恵次 (理)

#### 科目の目標

我々の体は主として有機化合物で成り立っている。また、身の回りにも、天然および人工の有機化合物が溢れている。これらの有機化合物はどのような性質をもっているのだろうか。また、これらはどのように作られるのだろうか。そのような疑問を解くためには、有機化合物の結合や反応性等の基礎的事項を修得することが必須である。本科目および基礎有機化学IIでは、有機化学の基礎概念の修得を目標として、有機化合物の結合、構造、官能基の性質や反応性について、系統的に解説を行い、有機化合物についての理解を深める。

#### 授業内容

1. 結合と構造異性 2. アルカンとシクロアルカン  
3. アルケンとアルキン 4. 芳香族化合物 5. 立体異性 6. 有機ハロゲン化合物 7. アルコールとフェ

ノール 8. エーテルとエポキシド

などの各論を統計的に講義する。

#### 評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

#### コメント

有機化学の最初の章で学ぶ1) 形式電荷を理解し構造式を正しく書くこと、2) 反応式における矢印の意味を理解すること、3) 紙と鉛筆を用いてそれらを書けるようにすることは、その後の章の内容を理解する上で極めて大切である。また、演習問題を解くことによって知識を自分のものとするができる。

#### 教科書等

H. ハート/L. E. クレーン/D. J. ハート共著・秋葉欣哉・奥彬共訳 「ハート基礎有機化学」(培風館)

## 基礎有機化学 II

2 単位

Basic Organic Chemistry I

クラス	期・曜・時	担当者
SI 化 (数物生地)	後・月・2	小嵜 正敏 (理)

#### 科目の目標

基礎有機化学 I に継続する科目であり、I、II を連続して受講することにより、有機化学全体の基礎概念を修得出来る。種々の官能基を持つ化合物の構造、性質、反応について系統的に学び、有機化学の理解を深める。

#### 授業内容

1. アルデヒドとケトン 2. カルボン酸とその誘導体  
3. アミン 4. 複素環化合物 5. 生体関連化合物

#### 評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習

#### コメント

基礎有機化学 I を受講しておくこと。授業終了後演習問題を解いて、よく復習すること。

#### 教科書等

H. ハート著・秋葉欣哉・奥彬共訳 「ハート基礎有機化学」(培風館)

# 基礎有機化学 2単位

Fundamental Organic Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
T I (建電都) T III (電)	前・水・2	古市 公彬 (非常勤)

## 科目の目標

我々の身の回りには、天然および人工の有機化合物が溢れている。近年、これらの化合物について基本的性質を知りその働きを理解することは、化学を専門としない理系の学生にとっても必要となってきた。ここでは化学を専門としない理系の学生を対象に、有機化学の基本概念の習得を目標として有機化合物における官能基とその性質・反応性について系統的に解説を行い、有機化合物についての理解を深める。

## 授業内容

1. 結合と構造異性、2. アルカンとシクロアルカン、アルカンとアルキン、3. 芳香族化合物、4. 立体異性、5. 有機ハロゲン化合物、6. アルコール、フェノール、とチオール、7. エーテルとエポキシド、8. アルデヒドとケトン、9. カルボン酸とその誘導体、10. アミ

ンとそれに関連した窒素化合物などの各論を系統的に講義する。

## 評価方法

試験、レポート等を総合的に評価する。

## コメント

有機化学の最初の時間で学ぶ1) 形式電荷を理解し構造式を正しく書くこと、2) 反応式における矢印の意味を理解すること、3) 紙と鉛筆を用いてそれらを書けるようにすることは、その後の章の内容を理解する上で極めて大切である。また参考書の演習問題を解くことによって知識を自分のものとしてすることができる。

## 教科書等

参考書：H.ハート/D.E.クレーン/D.J.ハート共著・秋葉欣也/奥 彬共訳「ハート基礎有機化学」(培風館)

# 基礎有機化学M 2単位

Fundamental Organic Chemistry M

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	後・火・3	古市 公彬 (非常勤)

## 科目の目標

生体成分である糖、タンパク質、遺伝子、脂肪、その他低分子の有機化合物が複雑に絡み合い調和され、生命現象を営んでいる。従って、医学においては、最も基本単位である糖、アミノ酸や脂質などの生体機能分子の生体化学を学ぶことは大変重要である。また、医薬品や内分泌物質などの生体に作用する物質も低分子有機化合物である。これらの構造と性質を学ぶことにより、より生命現象を深く理解することができる。

## 授業内容

1. 有機化合物の基本概念：原子構造、分子構造、命名法、立体化学、反応機構 (4コマ) 2. アルコール、フェノール、エーテルおよびそれらの硫黄類似体、(1コマ) 3. アルデヒドおよびケトン、(1コマ) 4. カルボ

ン酸とその誘導体、(1コマ) 5. 有機窒素化合物、(1コマ) 6. 糖質、(1コマ) 7. アミノ酸、ペプチド、およびタンパク質、(2コマ) 8. 芳香族化合物、核酸およびヌクレオチド補酵素、(2コマ) 9. 脂質、(1コマ)

## 評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

## 教科書等

参考書：P.W.グランドウオーター G.A.テイラー著、安藤喬志 木村隆英 中澤 知男 共訳「バイオサイエンス基礎有機化学」(化学同人)、その他必要に応じ資料を配布する。



# 基礎無機化学

2 単位

Basic Inorganic Chemistry

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II 化 T II (化バ)	前・水・2	中沢 浩 (理)	M I 医	後・水・1	築部 浩 (理)
S II (数物質生地) T II (機材建基物都情) T III (電)	前・水・2	板崎 真澄 (理)			

## 科目の目標

無機化学は、多彩な分子や化合物、錯体の合成、構造、性質を系統的に理解することを目的とする化学の一分野である。基礎無機化学では、化学系・非化学系・医学系の3コースについて、それぞれがより高度な化学および関連領域を理解するために必要な基本的な考え方を習得する。

## 授業内容

S II 化 T II (化バ) クラス：

無機化学の基礎を理解するため、原子構造と分子構造、分子の形と対称性、固体の構造、配位化合物(金属錯体)などを中心に講義する。原子を取り扱うための考え方を分子や固体にどのように応用できるかを、電子構造や幾何学的な形と関連させながら理解し、さまざまな化学的な性質や反応性を説明できることを示す。分子化合物、錯体の構造や物性を、電子のレベルから解き明かし、化学的な現象と理論的な取り扱いとを関連付けながら解説する。

M I 医クラス：

無機化学の基本を理解するために、まず周期表と各元素の関係について概観する。次に原子の電子構造と性質、そして分子の構造を決める要因と結合について解説する。また、酸および塩基の概念、酸化と還元について理解を深める。生体内で様々な代謝過程、呼吸、シグナル伝達などに重要な役割を担う金属錯体についても学ぶ。

コメント：毎回小テストを行い理解度をチェックしながら進める。

S II (数物質生地) T II (機材建基物都情) T III (電) クラス：

無機化学の基礎をまず原子や電子の構造および元素の性質と周期性から理解する。次に無機分子の結合、構造、反応性の特徴ならびに身近に存在する典型元素(非金属元素)や遷移金属を含む化合物の性質や反応を系統的に講義する。また、酸、塩基の概念や酸化と還元についても学ぶ。さらに遷移金属錯体や無機材料、生体材料などに焦点をあてた今日的なトピックスも取り上げながら、電子や原子のレベルから無機化合物の特徴を系統的に理解できることを解説する。

## 評価方法

出席状況、レポート、試験などの成績を総合的に評価する。

## 教科書

(S II 化 T II (化バ)) シュライバー著「無機化学(上)」(東京化学同人)

(M I 医) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

## 参考書

(S II (数物質生地) T II (機材建基物都情) T III (電)) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

# 基礎分析化学

2 単位

Basic Analytical Chemistry

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II 化 (質) T II (化バ)	前・金・3	市村 彰男 (理)	S II (数物生地) T II (建基物都) H II (食環)	後・金・3	土江 秀和 (理)

## 科目の目標

分析化学は環境、生体、材料などに存在するあらゆる天然や人工の物質の化学的組成を定性的および定量的に識別するための方法を確立することを目的とする化学の一分野である。現在の化学分析および機器分析法の多く

は、選択性を有しているため、定量分析が定性分析にもなりうる。従って分析化学反応を定量的に取り扱う方法を学び取る。さらに、自然の認識を深め、また物質系の挙動を予測するために、各種分析法の基本となる理論や反応を理解する。

## 授業内容

SII化(質) TII(化バ) クラス:

溶液内反応に基づく分析法の基礎理論と平衡計算: 酸・塩基平衡、錯形成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡を含む、溶液内平衡を理解する。そしてこれら平衡の問題を解くために、近似法、図的法、数値法、コンピュータ法などの各種の解法を学ぶ。また、それぞれの平衡反応を用いる滴定(中和滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定)を定量的に取り扱う。

SII(数物生地) TII(基物都) HII(食環) クラス:

機器分析概論: 環境試料や生体試料などの最新の分析法も含め、各種機器分析法の原理、特徴および測定方法について概観する。

始めの2回分で、機器分析概論と分析値の信頼性や統計処理、次の2回分で、電磁波を利用する分析法の基礎と歴史、次の2回分で、紫外・可視吸光度法と蛍光・りん光分析法、次の2回分で、赤外吸収分光法とラマン

分光法、次の2回分で、核磁気共鳴分光法、次の4回分で、クロマトグラフィーやキャピラリー電気泳動法などの分離分析法について講義する。

## 評価方法

定期試験

## 教科書等

教科書:

SII化(質) TII(化バ) クラス: 姫野貞之、市村彰男著『溶液内イオン平衡に基づく分析化学』(化学同人)  
SII(数物生地) TII(基物都) HII(食環) クラス: 保母敏行、他著『理工系・機器分析の基礎』(朝倉書店)  
参考書:

土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学I基礎』(丸善)

H. Freiser, "Concepts and Calculation in Analytical Chemistry" (CRC)

渡辺邦洋、他著『分析化学・検出・濃縮・分離法』(宣協社)

# 入門化学

2単位

Introduction to Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
MI看 SI(数物生地)	前・月・2	工位 武治(特任)

## 科目の目標

化学を専門としない理系学生を対象とした科目である。高校時代に化学を学んでいない学生が高校レベルの化学の知識と越え、かつ現代化学が理解できるように、講義する。高校程度の基礎からはじめ、元素の周期表なども短期間で「全部」記憶できる効果的な方法(オリジナル版)などを提供すると同時に、現代化学の体系の基礎を習得することを目指す。最終的には、医薬品、化学添加物をはじめ、日常に溢れる化学物質を理解できるようになるだけでなく、物質社会の根底にある化学の法則とはどのようなものか、また物質の構造はどのようにして決められるか、現代化がこの果している役割などを学ぶことを通じて、化学の面白さ・学問的な深さを知る。

## 授業内容

- ①原子・分子・微視的粒子の世界の法則
- ②化学に強くなる「化学の基礎」
- ③元素の周期表を全部丸ごと憶える  
(オリジナル版完全記憶方法の提供)

- ④原子核の基礎化学
  - ⑤化学結合と分子を理解のための初歩的量子化学
  - ⑥紙とエンピツで分子の中の電子軌道をつくる
  - ⑦金属イオンを含む化合物・配位化合物の化学
  - ⑧現代の有機化学の基礎と日常生活
  - ⑨光学異性体の不思議と化学
  - ⑩タンパク質とDNAの分子科学・分子進化
  - ⑪化学反応とエネルギー・熱・温度・光
  - ⑫化学のために初歩的熱力学
- 各課題を1-2週間で消化する。

## 評価方法

レポートと定期試験。

## コメント

化学に関するどんな疑問・質問にも答えます。

## 教科書等

教科書の指定はない。教材は担当者が提供する。

# 基礎化学実験 I

3 単位

Basic Chemistry Experiments I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
T I 化 (建)	前・火・3~5	品田 哲郎 (理) 廣津 昌和 (理) 中島 信昭 (理) 他
T II (情) H I 食 (環)	前・木・3~5	同上
S 低 (数物生地) T I (都電)	後・火・3~5	同上
S I 化 T II (機材)	後・木・3~5	同上

## 科目の目標

身近の物質変化を基にした基礎的実験を通して、現代科学および技術にとって必須の化学的知識を理解する。実験に際しては注意深く観察し、種々の現象を理論的に考える。また実験結果を整理して、自然の摂理を理解する能力を養う。

## 授業内容

1~6. 陽イオンの定性分析実験：(1) 銀、銅、スズ族イオン混合試料の分離分析と各イオンの確認

(2) 沈殿反応、炎色反応を利用した未知試料の分析等

7. 原子スペクトル分析実験：原子固有のスペクトル線の吸収および発光を利用した分光分析法による微量金属の定性および定量分析

8~11. 有機化合物の合成実験：(1) 有機実験基本操作法 (2) 純物質の単離・精製実験“アスピリン錠剤からアセチルサリチル酸の抽出”(3) 機能性物質の合成実験“メチルオレンジの合成”(4) 酢酸イソアミルの合成

12~14. 物理化学実験：(1)「時計反応」と名付けられた反応を利用して、反応する物質の濃度や温度が反応速度に及ぼす効果を調べる (2) 酸化還元反応を利用した滴定により溶液中の溶質濃度を決定する (3) 実験結果のまとめ方、レポート作成上の注意等に関する講義

## 評価方法

毎回出欠の確認をとり、実験後は口頭試問やレポートの提出を義務づけている。

## コメント

各実験のはじめに指導教員から実験内容の説明や注意事項が与えられるので定刻までに必ず入室しなければならない。実験の内容は予習しておき、操作の意味を十分理解して実験にのぞむべきである。分からないことは、積極的に担当者に質問し、あいまいな理解のままにしておかないこと。

## 教科書等

『基礎化学実験』(大阪市立大学理学研究科・基礎教育実験棟化学実験室編、2006、ふくろう出版)

# 基礎化学実験 II

3 単位

Basic Chemistry Experiments II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II 化 (質) T II 化	後・月・3~5	篠田 哲史 (理) 八ッ橋 知幸 (理) 森本 善樹 (理) 他

## 科目の目標

自然科学は実験によって明らかとなった事を積み重ねて組み立てられている。特に化学は実験が重要な役割を果たしている。講義を聴いただけでは分かりにくいことも、自ら実験することによって鮮明に理解することができる。科学的方法に従って自然と対話しながら、自分に

とって多くの新しいことを発見する。また、実際のプロセスを通じて実験を推し進める方法を学ぶ。

## 授業内容

初回に、実験に際しての基礎的事項や注意事項についてガイダンスを行う。

「有機化学」：次の1~5課題を実施する。1. 有機化

学実験法 2. アジピン酸の合成 3. 安息香酸メチルの合成 4. ジベンザルアセトンの合成、5. 口頭試問  
これらの合成実験を通して得られた化合物のスペクトル測定を行い、分子構造を推定する。

「無機化学」：2回の実験を実施する。1. 赤外吸収スペクトルおよびイオンクロマトグラフィーを活用した陰イオンの定性分析 2. 遷移金属錯体の合成（ニッケル（II）およびコバルト（III）アンミン錯体）と配位子置換反応

「物理化学」：6回の実験を実施する。1. 凝固点降下 2. 界面活性剤水溶液の表面張力とミセル形成 3. 分子の振動回転 4. 分子力学法による炭化水素化合物の構造とエネルギー 5. 分子発光－電子的励起状態の描像 6. 核磁気共鳴 7. 分子の対称性と量子力学的縮

重 8. 窒素レーザーによる発光寿命の測定

初回到レポートの作成、国際単位系、測定誤差と有効数字、天秤の扱い等について解説する。

#### 評価方法

レポート、口頭試問および実験に対する姿勢等を総合的に評価する。

#### コメント

基礎化学実験Iを履修した学生に対して提供される基礎科目である。また、基礎教育科目の「基礎有機化学Ⅰ、Ⅱ」、「基礎無機化学」、「基礎物理化学A、B」を履修していることが望ましい。

#### 教科書等

『基礎化学実験』（大阪市立大学理学研究科・基礎教育実験棟化学実験室編、2006、ふくろう出版）

## 化学実験

2単位

Laboratory Work in Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
HⅡ食	後・木・3~4	古澤 直人（生） 菊崎 泰枝（生） 市川 直樹（生） 金 東浩（生）

#### 科目の目標

基礎化学実験Ⅰを履修した食品栄養科学科2年次の学生が、実験を通してさらに化学的知識・技術を深めるとともに、3年次からの学生実験の基礎を習得することを目的とする。

#### 授業内容

- 1) 有機化合物の同定 3週 ①結晶性有機化合物の融点測定、②脂肪族および芳香族化合物のスペクトル（IR,NMR）測定を行う。IR,NMRの原理とスペクトル解析法を解説し、さらに有機化合物の同定法全般について概説する。
- 2) 精密機器－HPLCの実際 4週 分析化学分野で汎用されているHPLCの原理とその有用性を知ることが目的に、HPLCを用いて食品中に残存する数種抗菌性物質の定量を行う。
- 3) 分光光度計によるブロムフェノールブルーのpKa決定 3週 ブロムフェノールブルー（BPB）は水素イ

オン濃度（pH）の変化に伴い、変色する酸塩基指示薬である。

本実験では、種々なpHのBPB溶液の吸光度を測定し、BPBの解離平衡方程式を用いてBPBの酸解離定数（pKa）を求めることにより、pH滴定法および吸光度測定による酸解離定数の測定法を学ぶ。

- 4) 生物化学 4週 タンパク質、アミノ酸の定性分析、SDS-PAGEによるタンパク質の分離、コウシ胸腺からのDNAの抽出、DNAとタンパク質の紫外吸収曲線の比較などを行う。

#### 評価方法

各課題レポート25点×4で評価する。

#### コメント

補講に相当する追加実験は提供しない。

#### 教科書等

実験指導書を配布する。



# 生物学概論 A

2 単位

General Biology A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I (全) T I (建電) T II (機材) T III (都)	前・水・1	山倉 拓夫 (理) 幸田 正典 (理)	T I (化) H I (食環)	後・金・2	高木 正興 (理) 伊東 明 (理)

## 科目の目標

生物界は階層構造をなす。ミクロの階層を扱い、生物の物質的側面に迫る分子生物学は、現代生物学の一方の極であるが、それのみでは生物の本質を全体的に理解することはできない。本科目では、生物の個体以上の階層（レベル）を対象とし、生物がどのような相互作用を営み、それがどのように進化してきたのかを学ぶ。

## 授業内容

授業の前半（山倉・伊東）では、身の回りの環境問題と関連してしばしば耳にする、生態系のしくみ（構造）と働き（機能）について考える。生態（エコ）系（システム）とは、地域に住むすべての生物と地域の物理的環境をひとまとめにして、物質の循環やエネルギーの流れを主要な変数として、生物集団の機能を解析するためのシステムである。このシステムは水域にも陸域にも存在するが、授業では、主に陸域の生態系を取り上げる。

授業の後半（幸田・高木）では、行動生態学の視点か

ら、様々な動物の行動や形質とその意味について考える。また、生物進化の実態としての生命の歴史と進化の理論を学ぶ。

## 評価方法

試験の成績に、平常の小テストやレポートの成績を加味して評価する。

## コメント

資料を多数用意し配布する予定である。また、スライドを使用し、動物行動についてはビデオも見せる。

## 教科書等

参考書（前半）：四手井綱英、吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』（人文書院）、岩坪五郎編『森林生態学』（文永堂）

（後半）：クレブス・デービス著『行動生態学』（蒼樹書房）、ドーキンス著『利己的な遺伝子』（紀伊国屋書店）

# 生物学概論 B

2 単位

General Biology B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I (全) T I (電建) H I (食環)	後・水・2	保尊 隆享 (理) 藤田 憲一 (理)

## 科目の目標

生物は、外部環境から隔てられた体内で、生体分子による複雑な物質代謝・エネルギー代謝を行っている。また、環境の情報を捉え、それに様々な形で反応し、適応している。このような生命を維持するしくみについて生化学的および生理学的に理解する。

## 授業内容

前半担当：藤田

まず、外部環境と内部環境を区切っている生体膜の役割について概説する。ついで、生体内で活躍する基本的な低分子、炭水化物や脂質、アミノ酸などの生体分子の構造とその生体内における役割について紹介し、それら分子が相互変換する代謝とその調節について触れる。さらに生体膜を挟んだ生体分子の輸送や環境シグナルの受容についても話題を提供する。

1. 生体膜の役割（1 週目）
2. 生体分子（2、3 週目）

3. エネルギー獲得系の代謝（4 週目）
4. 生体膜の内外での物質輸送（5 週目）
5. 膜蛋白質の構造と機能（6 週目）
6. 環境シグナルの受容体（7 週目）

後半担当：保尊

外部環境に対する生物の反応について、主に植物を例として概説する。まず、生命活動に影響する環境要因の種類と反応の概要について述べ、次に、各環境シグナルの受容のしくみ、受容されたシグナルの変換・伝達機構、そして伝達されたシグナルに対する応答や適応のメカニズムについて解説する。

1. 環境要因の種類と反応の概要（1 週目）
2. 光に対する反応（2、3 週目）
3. 重力に対する反応（4、5 週目）
4. 温度に対する反応（6 週目）
5. 水分に対する反応（7 週目）



### 評価方法

試験を中心として、レポートや質問状況等を加味する。

### コメント

高校生物・高校化学の基礎知識の習得が望ましい。

### 教科書等

参考書：生化学及び植物生理学の入門書。

## 生物学概論 C

2 単位

General Biology C

クラス	期・曜・時	担当者
S II (全)	後・水・2	寺北 明久 (理)
T II (建基都物) TVI (都)		後藤 慎介 (理)

### 科目の目標

代謝生物学・調節生物学：生物はいろいろな代謝系を有し、外界から取り入れた養分を用いて、エネルギーや生体構成物質を生成している。また、一方では貯蔵物質として蓄えたり不要となったものを分解再利用したり排出したりしている。本講義では、代謝とそれを調節する機構について学習する。

### 授業内容

生体構成上の高分子物質（生体高分子）、特に核酸とタンパク質の生合成とその調節のメカニズムについて概説する（寺北担当）。続いて、さまざまな動物を例に食物を摂取してエネルギーを獲得するしくみとその調節機構について解説を加える（後藤担当）。

- 1) DNAの生合成
- 2, 3) RNAの生合成
- 4, 5) タンパク質の生合成
- 6) タンパク質の品質管理

7) 遺伝子発現の調整

8～11) 摂食・消化・栄養

12～14) エネルギー代謝

### 評価方法

試験

### コメント

高校程度の生物と化学を習得していることが望ましい。

### 教科書等

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

### 参考書

寺北担当分：ブルース・アルバーツ他著Essential細胞生物学 原書第2版(南江堂)

後藤担当分：クヌート・シュミット=ニールセン著『動物生理学 [原書第5版] 環境への適応』(東京大学出版会)

## 生物学概論 D

2 単位

General Biology D

クラス	期・曜・時	担当者
S II (全)	前・水・2	中村 太郎 (理) 小宮 透 (理)
T II (建化物材情)		
H II (食) T III 電		
T IV (建都)		

### 科目の目標

DNA研究の爆発的な発展により、遺伝子が生命の営みにどのように関わっているかが明らかになりつつある。細胞レベル、個体レベル、そして集団レベルまで、さまざまな生命現象を明らかにするために、DNA解析が用いられている。また、遺伝子組換え植物や遺伝子治療に代表されるように、遺伝子研究は私たちの生活とも密接なつながりを持つ。本講義では、遺伝子の構造と機

能や遺伝子組換え技術をやさしく解説したあと、主として植物について、野生集団を対象とした最先端の遺伝子研究がもたらした成果を紹介する。遺伝子の働きの理解を通して、統一的な生命観の確立を目指す。

### 授業内容

1. 遺伝子とは何か：DNAの構造と複製
2. 遺伝子発現のしくみ：遺伝情報t発現
3. 遺伝子研究を支えるさまざまな技術

4. DNA研究の応用
  5. さまざまなDNAマーカー
  6. 生物集団の遺伝的多様性
  7. 生物集団における遺伝子の流れ
  8. DNAから生命の歴史を探る
- 1から4は中村が、5から8は名波が担当する。

#### 評価方法

試験を行なう。

#### 教科書等

参考書：ワトソン他著『組換えDNAの分子生物学』  
種生物学会編『森の分子生態学』  
(教科書は用いない。)

## 生物学概論 I 2単位

An Introduction to Biology I

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	前・水・2	沼田 英治 (理) 志賀 向子 (理)

#### 科目の目標

動物たちは、地球上のさまざまな環境に適応して生きている。本講義では、環境に対する適応のしくみを通して、動物の生理的調節機構について学習する。

#### 授業内容

- 1) 動物の生理的調節機構の例として、温度適応機構と体液の恒常性を維持するしくみを概説する(沼田)。温度効果、体温調節、水と浸透調節(講義回数7回)
- 2) 動物の生理的調節機構において、主要な役割を果たしている神経系と内分泌系について概説する(志賀)。制御と統合、ホルモン制御、情報と感覚(講義回数6回)

動物の生活の多様性に配慮し、ヒトをはじめとする脊椎動物はもとより、無脊椎動物も含むさまざまな実例を提示する。

#### 評価方法

2回の試験(中間試験50%と定期試験50%)で評価する。

#### コメント

高等学校で生物、化学、物理を履修したことを前提とする。

#### 教科書等

教科書：クヌート・シュミット=ニールセン「動物生理学-環境への適応」(東京大学出版会) 6~8章(沼田)、11~13章(志賀)

## 生物学概論Ⅱ

2単位

An Introduction to Biology Ⅱ

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・水・2	宮田 真人(理) 水野 寿朗(理)

### 科目の目標

一見多様に見える生命現象も、必要な情報は全て遺伝子として細胞中に保持されている。遺伝情報の機能を理解するためには、ミクロからマクロに至る多様な生命現象についての素養が求められる。本講義では、(Ⅰ) 遺伝子がどのように維持され発現するかを、細胞と生体高分子の構造に対する考察と共に解説する。また、(Ⅱ) 多細胞動物の発生過程に注目し、組織・器官・形態を構築する仕組みについて、さまざまな視点から概観する。以上を通じ、ヒトのからだと様々な疾病を理解するための生物学的なバックグラウンドを養う。

### 授業内容

(Ⅰ) 1. 細胞、2. タンパク質、3. セントラルドグマ、4. 転写、5. 翻訳、6. DNA複製

(Ⅱ) 1. 動物形態学の歴史、2. 動物の組織と器官、3. 体軸と胚葉、4. 後口動物群、5. 前口動物群、6. 個体発生と系統発生

### 評価方法

小テスト、講義中のレポート、定期試験の総合点により評価する。再試は行わない。

### コメント

積極的な受講姿勢を期待する。

### 教科書等

参考書：アルバート他「細胞の分子生物学」(教育社)、ストライヤー「生化学」(東京化学同人)、越田豊「教養の生物学：ヒトを中心とした比較生物学」(培風館)、団まりな「動物の系統と個体発生」(東京大学出版会)

## 生物学概論Ⅲ

2単位

An Introduction to Biology Ⅲ

クラス	期・曜・時	担当者
MI看	前・火・4	福永 昭廣(医)

### 科目の目標

近年の生物科学研究の発展はめざましく、その研究成果をもとに医療分野や農業分野における遺伝子治療・クローン動物・ES細胞などの新しい技術の開発が行われており、看護・医療に携わる者にも、生命現象に関する幅広い知識が求められるようになってきた。本講義では、生物の基本単位である細胞の構造と機能を中心に、生体を構成する高分子物質、生体の成り立ち、細胞分裂と配偶子形成について解説し、生命現象に関する理解を深める。

### 授業内容

1. 生体を構成する物質 2. 原核細胞と真核細胞

3. 細胞の構造と機能 4. 生体の構成  
5. 体細胞分裂 6. 減数分裂と配偶子形成

### 評価方法

試験により評価する。

### 教科書等

講義に必要な教材資料は配布する。

参考書：室伏きみ子、小林哲幸共著「やさしい細胞の科学」、渡部強三他著「人の生命科学」(医歯薬出版)、アルバート他「細胞の分子生物学」(Newton Press)

# 生物学 A

2 単位

Biology A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI 医	前・木・4	原田 正史 (医)

## 科目の目標

ヒトは生物の一員であり、医学はヒトの生物学を基礎とする。近年の生物学の発展はめざましく、細胞の構造やその機能はいうにおよばず、遺伝情報の伝達機構についても分子レベルで理解できるようになってきた。生物学Aでは、生命の基本単位である細胞を中心に、生物学の基礎を学ぶ。

## 授業内容

1. 細胞の概念 2. 遺伝子の構造 3. 細胞膜の構造と機能 4. リボソームの構造と機能 5. 小胞体・ゴルジ体の構造と機能 6. 細胞骨格の構造と機能 7. ミトコンドリアの構造と機能 8. リソソームの構造と機能 9. 体細胞分裂の過程 10. 減数分裂の過程と多様性 11. 細胞周期 12. 染色体の概説と分裂

時の挙動 13. 性の決定と伴性遺伝 14. 染色体異常

## 評価方法

試験の成績で評価する。

## 教科書等

講義に必要な教材は配布する。

参考書：アルバート他『細胞の分子生物学』(Newton Press)、ストラッチェンおよびリード『ヒトの分子生物学』(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、Cambell 他『Biology; Concept & Connrctions』(Person Education)、和田勝著『細胞学・細胞生物学』(羊土社)、田村および山本著『分子生物学イラストレイテッド』(羊土社)、中村著『分子細胞生物学』(丸善)、『生命科学』(羊土社)、竹島編『医歯薬系学生のための基礎生命科学』(廣川書店)

# 生物学 B

2 単位

Biology B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI 医	後・木・4	福永 昭廣 (医)

## 科目の目標

脊椎動物における諸器官の構造と機能の変化を系統的に学び、ヒトとヒト以外の脊椎動物との類似性について考え、医学を志す学生が今後集中的に学ぶことになるヒトについての理解を深めることを目的とする。

## 授業内容

1. 脊椎動物の系譜 2. 脊索動物の特徴 3. 脊椎動物の特徴 4. 脊椎動物の構造と機能 1と2では、脊椎動物に最も近いと考えられている動物群(尾索類と頭索類)について学び、脊椎動物との類似性を考える。3では脊椎動物の特徴について他の動物群の構造と比較しながら学ぶ。授業の中心は4脊椎動物の構造と機能で

あり、循環器系、泌尿生殖器系、消化器系などについて、脊椎動物各綱の構造と機能の変化を学び、人体の構造と機能との関連について考察する。

## 評価方法

試験の成績により評価する。

## 教科書等

講義に必要な教材資料は配布する。参考書：A. S. Romer and T. S. Parson著 平光訳「脊椎動物のからだ」(法政大学出版局)、M. Fingerman著 青戸訳「比較動物学」(培風館)、B. M. Carlson著 白井敏夫監訳「パッテン発生学」(西村書店)

# 生物学実験A

2単位

Biological Laboratory A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II (質) T II (機建材バ) T III (都) S I (化)	前・木・3~4	水野 寿朗 (理) 他	S 低生 (数物化地)	前・金・3~4	水野 寿朗 (理) 他

## 科目の目標

本実習では、以下の実習テーマを通じ、生物学研究の方法を広く体験し、生物学の実験方法を理解・修得することを目的としている。生命の持つ多様な側面を把握するため、分子生物学、生化学、生理学、形態学、分類学、生態学までの広範な分野の実習を行う。1. 植物の成長生理 2. 遺伝子の構造 3. 動物の行動 4. 動物の発生 5. 植物の形態と分類 6. 生化学反応の特性(酵素の性質) 7. 植物の生態と個体群動態

## 授業内容

1. ガイダンス。 2. 気孔の開閉運動と環境応答機能の解析。 3. 植物の成長過程での細胞伸長の観察と浸透圧の測定。 4. 植物からの核酸(DNA・RNA)の抽出と同定。 5. 昆虫を用いた行動観察による学習能力の解析。 6. 細胞分裂と染色体の観察。 7. 脊

椎動物の胚発生の観察。 8. 植物体を形づくる諸器官の形態観察と花の色素の分析、植物種の系統類縁関係についての考察(2回)。 9. 酵素活性の測定(他物質の共存下での酵素の働きと、同じ基質に作用する複数の酵素の作用)、および反応生成物の比較検討などの生化学的解析など(3回)。 10. コンピュータを用いた植物個体群動態のシミュレーション(2回)。

## 評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

## コメント

受講人数は70名以下とする。

## 教科書等

各実習ごとに、実験方法等のプリントを配布する。実習材料等の都合により、順序を変更することがある。

# 生物学実験B

2単位

Biological Laboratory B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
T I 化 (1~28) H I 食	後・木・3~4	水野 寿朗 (理) 他	S 低生 (数物質化地) T I 化 (29~終)	後・金・3~4	水野 寿朗 (理) 他

## 科目の目標

生物学実験Aと同様に、本実習では、以下の実習テーマを通じ、生物学研究の方法を広く体験し、生物学の実験方法を理解・修得することを目的としている。生命の持つ多様な側面を把握するため、分子生物学、生化学、生理学、形態学、分類学、生態学までの広範な分野の実習を行う。1. 植物の環境応答 2. 昆虫の分類 3. 動物の形態および生態(コンピュータ操作を含む) 4. 遺伝子操作法 5. 微生物の形態と生理 6. 高分子の研究法 7. 原生动物の生理

## 授業内容

1. ガイダンス。 2. 体内時計の解析。 3. 昆虫の形態観察と同定、標本作製。 4. 動物の形態の観察、スケッチ、および生態学的研究における実験計画法など(2回)。 5. PCR(遺伝子増幅)、プラスミド精製、制限酵

素処理、電気泳動の手法を用いた遺伝子操作(3回)。 6. 微細環境中に生息する中小型動物の形態と分類。 7. 細菌からカビ・酵母にいたる種々の微生物の形態観察、細菌のグラム染色による分類および、酵母のアルコール発酵能の測定(2回)。 8. 生体高分子のin vitro, in silico検出(2回)。 9. ゾウリムシを用いた細胞器官の形態観察とその機能の解析。

## 評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

## コメント

受講人数は70名以下とする。

## 教科書等

各実習ごとに、実験方法等のプリントを配布する。実習材料等の都合により、順序を変更することがある。



# 生物学実験M

1単位

Biological Laboratory M

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・金・3~5	原田 正史 福永 昭廣

## 科目の目標

医学を志す学生にとって、動物の基本構造についての知識は、将来、人体の構造と機能を学ぶために必要なものである。ここでは、下等脊椎動物である軟骨魚類、高等脊椎動物である哺乳類、その間に位置する両生類の解剖を行い、脊椎動物の諸器官の構造変化を系統的に理解することを目的とする。

## 授業内容

第1週：ウニの発生観察 第2週：サメの解剖（消化器・泌尿器・循環器の観察） 第3週：カエルの解剖（消化器・泌尿器・循環器の観察） 第4週：ラットの解剖（消化器・泌尿器・循環器の観察） 第5週：サメ・カエルの脳解剖 第6週：ラットの脳解剖 第7週：試験

第1週はウニの受精卵からブルテウス期までの顕微鏡観察を行い、動物の初期発生を学ぶと共に、顕微鏡の使用方法についても習熟する。第2週から7週では脊椎動物の構造を系統的に理解するため、軟骨魚類・両生類・哺乳類の解剖実習を行い、消化器系・泌尿器系・脳神経系などの諸器官の構造を観察する。また、解剖用メス、ハサミなどの使用方法についても習熟する。

## 評価方法

出席率とレポートの内容により評価する。

## コメント

先に講義を行い、引き続き実習に移るので、1時半までにM1講義室に集合のこと。

## 教科書等

実験書は配布する。

# 一般地球学A-I

2単位

General Geosciences A-I

クラス	期・曜・時	担当者
SI地 S低(数物質 化生) H低(環)	前・水・2	升本 眞二(理)

## 科目の目標

地球とはどういうものか、現在の地球はどのような状態にあるのか、また、どのような過程を経て現在のようになったかの理解を目標とする。とくに、地球の過去を解明するための基本として必要な年代測定法とそれらに基づく地球・生物の変遷史、および地球上でおこる様々な地学現象を理解するためのプレートテクトニクスなどを重点的に学ぶ。

## 授業内容

1. 地球を解明するための視点（時間と空間のスケール）
2. 岩石・地層等の年代（放射年代と化石；3回）
3. 地球・生物の歴史と環境変遷（2回）
4. 地球の形と地図（2回）
5. 地球表層部の形態（陸地と海洋の形）
6. 地球の物理学的特性（重力・磁力・熱）
7. プレートテクトニクス（生成から消滅，運動学；3回）

8. 岩石の種類とその成因

9. 地震と活断層

（教材に基づいた講義を主として、演習等を毎回行う。）

## 評価方法

地球の形や地球の過去の歴史とそれらを解明するための手法、プレートテクトニクスの考え方などの理解度を演習・小テスト・レポートによる平常点（40%）と期末試験の成績（60%）で評価する。

## コメント

高等学校での地学の履修の有無は問わない。なお、理学部地球学科の必修科目である。

## 教科書等

教科書は使用しない。講義に関係する教材を適宜配布する。  
参考書：A.ホームズ著『一般地質学I・II・III』（東京大学出版会）。上田誠也著『新しい地球観』（岩波新書）など。

# 一般地球学A-Ⅱ

2単位

General Geosciences A-I

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地 S 低(数物質 化生) H 低(環)	後・水・2	篠田 圭司(理)

## 科目の目標

地球は様々な物質から構成され、温度・圧力の変化にとともに状態変化を起こす。また、地球誕生以来、時間の経過に伴って地球は様々な変遷を経てきた。地球物質の多様性と時間的経過の観点から地球を理解するために、地球を構成する物質の特徴と年代の決定法、それに伴う地球の活動を概説する。

## 授業内容

1. 固体地球の構造(2回)：地震波による地球内部構造の推定法。地球内部構成物質の特徴。
2. 岩石と鉱物(2回)：化学組成による岩石・鉱物の分類、鉱物の同定法など。
3. 地球の歴史(3回)：放射性同位体を用いた絶対年代決定法。安定同位体と環境の推定。
4. 水惑星としての地球(4回)：水の化学的特徴と環境に及ぼす影響。海洋と大気形成、地球の平均気温と温室効果。大気と海洋の運動。

5. 地球の活動(3回)：火成作用、変成作用など、地殻における物質の変遷。地球物質の温度・圧力による状態変化の基本的な考え方。

## 評価方法

主として期末試験により評価する。

## コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の地学の未履修者には、地学の基礎的事項の自習を期待する。高校の理科の基礎的な知識を前提とする。

計算機を持参すること。

地球学科の必修科目である。

## 教科書等

図説地球科学(岩波書店)

基礎地球科学(西村祐二郎他、朝倉書店)

地球学入門(酒井治孝、東海大学出版)

他の参考書等は授業中に適宜指示する。

授業内容に関連した印刷物を配布する。

# 一般地球学B-I

2単位

General Geosciences B-I

クラス	期・曜・時	担当者
S 低(数物質) T I(機建電) T III(電) H 低(環)	前・水・2	江崎 洋一(理)

## 科目の目標

これからの人類には、生存の基盤である地球をよりよく理解することが求められる。本科目では、地球学の基礎概念、基本的な地球の構成と歴史、及びそれらの研究方法を学ぶ。そして、最近、次々と明らかになってきている大規模な地球環境の変遷に焦点をあわせ、これからの地球に対して人類はどうあるべきかを考える。

## 授業内容

1. 地球の構成：地球システムにおける様々なサブシステム、地球ダイナミクス(物質循環)。
2. 原始地球の発達過程：マグマオーシャンの形成、コア・マントルの分離。
3. 地殻の発達過程：大陸・超大陸の出現と離合集散、

プレートテクトニクス。

4. 生物の進化過程：生命の誕生、カンブリア紀大爆発(爆発的多様化)、5大生物大量絶滅事件。
5. 地球環境の変遷：大気・海洋の出現と変遷、全球凍結事件、氷期・間氷期、地球環境問題。

## 評価方法

定期試験により評価する。

## コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わない。

## 教科書等

特に指定しない。必要な資料は適宜プリントにて配付する。

# 一般地球学 B - II

2 単位

General Geosciences B - II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S 低 (数物質)		
T I (機建電都)	後・水・2	井上 淳 (特任)
T III (電) H 低 (環)		

## 科目の目標

地球システムと地球の歴史、地球科学の発展過程を理解し、地球システムが私達の生活や現在の環境とどのように関連しているかについて考える。

## 授業内容

1. ガイダンス・自然科学の概要
2. 地球の形と大きさ
3. 地球の重さと年代
4. 地球の内部構造
5. 岩石の区分と成因
6. ヴェゲナーと大陸移動説
7. プレートテクトニクスへの発展

8. 日本列島の形成史
9. 山地・丘陵・平野の形成・地質
10. 気圏と大気循環
11. 水圏と海流
12. 第四紀の自然環境史
13. 生物の進化
14. 人類の歴史

## 評価方法

主に試験成績で評価する。

## 教科書等

指定しない。副読本「地球学へのいざない」(大阪公立大学共同出版会)

# 建設地学

2 単位

Geology for Engineers

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
T II (基都)		
T II (建)	後・月・3	三田村 宗樹 他
H II (環)		

## 科目の目標

固体地球に関わる諸現象の理解は、建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって不可欠な素養である。本科目は、地球に直接携わる技術者となる学生を対象とし、地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、人為的環境変化、自然災害と防止に関する基礎的知識を習得する。

## 授業内容

1. 地球の形と内部構造：地球の大きさ、地球の成層構造、プレート運動
2. 岩石を構成する鉱物：鉱物の定義と観察、X線回折による同定法
3. 火山活動と火山災害：火山の噴火様式、火山災害の種類、ハザードマップ
4. 岩石の構成鉱物と分類：岩石の成因、分類、命名法
5. 地層を読む：地層に記録された過去の地球環境と環境変遷
6. 地球の歴史：地球の成り立ちと生き立ち、地球史の研究手法
7. 日本列島の地史：付加体の形成過程、日本列島の誕

生

8. 第四紀堆積盆地の成り立ち
9. 第四紀の自然環境変遷：第四紀の堆積物・地層から自然環境を解読する研究方法
10. GISとリモートセンシング：地球の情報を処理するためのGISの基礎概念と応用、リモートセンシングによる地球科学解析
11. 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、水質獲得、水資源問題
12. 脆弱な日本の国土と災害、地震の発生と地盤災害・津波災害との関係
13. 地震の発生と地震動の予測：強震動の予測手法と最近の地震被害状況についての概観
14. 都市の地盤構造と地盤災害：地盤沈下・地震時の地盤挙動、平野の地層構成との関係

## 評価方法

地球に関する基礎概念(地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、環境変化、自然災害と防止)に対する理解の程度を定期試験の成績(50%)と小テスト・レポートの成績(50%)で評価する。

## コメント

高等学校における「地学」を履修していないことを前提に授業を行う。「建設地学実習」と連動した講義を行うので、原則として同時に受講すること。時間割等の都合で、「建設地学」のみを受講したい場合は担当者に相談すること。

## 教科書等

授業で用いる参考図表は、その都度配布する。

参考書：藤田和夫他著『改稿 新地学』（学術図書出版）、アーサー・ホームズ著上田誠也他訳『一般地質学 I、II、III』（東京大学出版）、Skinner and Porter “The Dynamic Earth”（Wiley）

# 建設地学実習

1 単位

Geology, Laboratory Exercises for Engineers

クラス	期・曜・時	担当者
T III (基都)		
T II (建)	後・月・4	三田村 宗樹 他
H II (環)		

## 科目の目標

現在の建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって、地球に対する基礎知識が不可欠である。具体的な実験および実習を通じて、地球物質の特性、地球の進化および地球環境についての認識を深める。

## 授業内容

下記の項目について、実習・実験を行う。

1. 歩測による距離の測定：複歩の数え方、歩幅の算定、歩数による距離の算定、歩測の精度
2. 鉱物の観察と同定。粉末X線回折による鉱物同定
3. 火山活動の様式：火山噴出物の観察、火山地形・火山地質図の読み方
4. 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類、肉眼・顕微鏡による観察法
5. 水流による砂床形：水路実験による砂床形の観察
6. 古生物から知る地球の歴史：地球史における生物変遷と化石観察法
7. 化石の摘出・観察・解析
8. 地質図の書き方と読み方：地層の走向傾斜の測り方、地質図の作図法の基礎
9. 堆積物の分類と粒度組成：堆積物の分類、粒度分析

10. GISとリモートセンシング：GISによる地球情報の処理・可視化およびリモートセンシングによる植生指標の抽出
11. 都市の水環境：大和川の水質汚染
12. 地震と活断層：空中写真による活断層の地形判読
13. 断層模型を用いたアスペリティの理解，地震動波形と音響波形，パネ・質点模型を用いた地盤増幅の理解。強震による地盤被害
14. 都市の地盤特性と地震動被害：データベースで見る大阪の地盤特性

## 評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

## コメント

高等学校における「地学」を履修していないことを前提に授業を行う。「建設地学」と連動した実習・実験を行うので、原則として同時に受講すること。時間割等の都合で、「建設地学実習」のみを受講したい場合は担当者に相談すること。

## 教科書等

テキストを配布する。

# 地球学実験A

2 単位

Geosciences, Laboratory Exercise A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 地 S 低 (数物質化生) T II (機材)	前・木・3・4	升本 眞二 他

## 科目の目標

地球の大部分は我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、多くの場合、これをある程度の確かさで知ることができる。この解析のためには、広範な知識や、やや特殊な技術が必要となる。これらの基本的な事項について、具体的な実験および演習を通して幅広く習熟する。

## 授業内容

- 第1・2回 地質図の描き方と読み方
- 第3・4回 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類および命名法
- 第5・6回 岩石の構成鉱物と内部構造：肉眼・顕微鏡による観察
- 第7・8回 堆積岩の構成と分類：碎屑粒子の観察、粒度特性
- 第9・10回 堆積岩の構成と分類：礫の形状・水流による砂床形

第11・12回 地震波による地球内部の構造解析：地震波の計測方法、走時曲線と速度構造解析・地球内部の速度分布と物性分布

第13・14回 パソコンによるデータ処理：測定値の基本処理

第15回 レポート

## 評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

## コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学」を受講しておくか、同時に受講することが望ましい。実験テーマの順番を入れ替えることがある。

## 教科書等

テキストを配布する。

# 地球学実験B

2 単位

Geosciences, Laboratory Exercises B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 地 S 低 (数物質化生) T II (建) T III (都)	後・木・3・4	江崎 洋一 他

## 科目の目標

地球の大部分は我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、多くの場合、これをある程度の確かさで知ることができる。この解析のためには、広範な知識や、やや特殊な技術が必要となる。これらの基本的な事項について、具体的な実験および演習を通して幅広く習熟する。

## 授業内容

- 1 パソコンによるデジタル地形図の作成と3次元可視化
- 2 地球表層部の構造解析：地形図・空中写真による地形判読と災害
- 3 地層形成と平野地盤の特性：平野地盤の物理的特性・平野地盤情報のコンピュータによるデータ処理

4 鉱物の同定法：鉱物によるX線の回折（回折格子によるレーザーの回折）、粉末X線回折による鉱物の同定

5 地球史における生物変遷と化石記録

6 化石の摘出・観察・解析

7 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応

8 揚水試験の実施と解析

以上の実験テーマを14回に割り振って実施する。

第15回 レポート

## 評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

## コメント



受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。順番を入れ替えることがある。

#### 教科書等

テキストを配布する。

## 図形科学 I

2 単位

Graphic Science I

クラス	期・曜・時	担当者
T II (情) H I 環	前・月・2	鈴木 広隆 (工)
T I 建 (電)	前・金・3	鈴木 広隆 (工)
T I (都)	前・金・4	鈴木 広隆 (工)

全学基礎教育課目図形科学 I・II は、設計製図の基礎としてではなく、図を介してコミュニケーションを円滑に行う能力を養成するデザイン言語教育として開講されている。

#### 科目の目標

図形科学 I では、デザイン言語教育の一環として、図法幾何学における投影法、及び図形解析を学ぶ。投影法は、3次元の図形・空間情報を2次元に変換する理論・技術を学ぶことを目的としている。図形解析は、様々な図形・空間情報の状態を定量的に評価する理論・技術を学ぶことを目的としている。図形解析の実践的な理解のため、地理情報システム (GIS) を用いた演習形式の授業も取り入れている。

#### 授業内容

- 第1週 ガイダンス (講義の目的、計画、用意するもの)
- 第2週 投影法の分類、平行投影、正投影 (第三角法)
- 第3週 直軸測投影法 (等測投影)、斜軸測投影法
- 第4週 中心投影、透視投影 1 (直接法 1)
- 第5週 透視投影 2 (直接法 2)
- 第6週 中間試験
- 第7週 透視投影 3 (消点法 1)
- 第8週 透視投影 4 (消点法 2)

第9週 透視投影 5 (距離点法 1)

第9週 透視投影 6 (距離点法 2)

第10週 透視投影 7 (簡易消点法)

第12週 図形の分析評価 1 (地理情報システムインタラクティブ)

第13週 図形の分析評価 1 (形の複雑さを測る)

第14週 図形の分析評価 1 (点の分布及び線分のネットワークの特性を測る)

#### 評価方法

中間試験の結果 (10%) 及び学期末試験の結果 (90%) により評価を行う。なお、出席は、評価の上で点数としては考慮しないが、出席が4/5に満たない場合は単位を認めない。

#### コメント

授業の中で作図の演習を行うため、直定規(透明30cm以上)・三角定規(斜辺25cm以上)・コンパス(足の開きをコマでコントロールするタイプ)などの作図用具が必要となる。詳細は、初回の授業のガイダンスの際に指示を行う。

#### 教科書等

鈴木広隆「図形科学 I」(大阪市立大学生協で販売)を使用。演習課題については適宜配布する。

# 図形科学Ⅱ

2単位

Graphic Science II

クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ(情)HI環	後・月・2	鈴木 広隆(工)
TⅠ建(電)	後・金・3	鈴木 広隆(工)
TⅠ(都)	後・金・5	鈴木 広隆(工)

## 科目の目標

図形科学Ⅱでは、図を介してコミュニケーションを行う能力を養成するデザイン言語教育の一環として、コンピューターグラフィクス(CG)に関する講義・演習を行う。図形科学Ⅰでの作図は、線画によるものが中心であったが、図形科学Ⅱでは、光や色による効果なども学び、その上で自分で新たな図形を生み出すデザイン力を身に付けることを目標としている。

## 授業内容

- 第1週 Introduction
- 第2週 POV-Rayの基礎
- 第3週 オブジェクトの記述方法
- 第4週 移動、拡大・縮小、回転
- 第5週 繰り返し、条件分岐
- 第6週 集合演算
- 第7週 中間試験
- 第8週 テクスチャー、多角柱、回転体
- 第9週 光の取り扱い(光源、反射、透過)
- 第10週 その他知っておくと良いこと
- 第11週 CGアニメーションの作り方1
- 第12週 CGアニメーションの作り方2
- 第13週 CGアニメーションの作り方3、幾何学グラフィクスについて

## 第14週 GUI型モデラーを用いた図形デザイン

### 評価方法

2つの小課題の提出作品(20%)、最終課題の提出作品(44%)、中間試験の結果(10%)及び学期末試験の結果(26%)により評価を行う。なお、課題の提出と学期末試験は必須であるので、どれか1つでも不足がある場合には単位を認めない。

### コメント

手書きによる図の描き方、投影法の知識などが必要となるので、図形科学Ⅰを事前に履修しておくことが望ましいが、必須条件ではない。

授業中に演習の時間を確保するが、作品を完成させるためには授業時間を超える取り組みが必要となる。このため、履修学生自身が所有するコンピューターか学術情報センターの端末を利用することとなる。

### 教科書等

鈴木広隆、倉田和夫、佐藤尚著、CG-ARTS協会出版「POV-Rayによる3次元CG制作ーモデリングからアニメーションまでー」を使用。過去の提出作品や履修学生へのメッセージは、次のURLのホームページに掲載されている。

<http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/zukeikagaku/>

## 4. 外国語科目

### (1) 第 1 部

- 外国語科目のクラス分け
- 外国語の科目の履修について
- シラバス

英 語  
ド イ ツ 語  
フ ラ ン ス 語  
中 国 語  
ロ シ ア 語  
朝 鮮 語  
日 本 語

○外国語のクラス分け

英語のクラス分け表 \*別途掲示によること。

新修外国語クラス分け表 \*クラス内の数字は、各所属学部 of 学籍番号下 3 桁を表す。

学部	科目	ドイツ語				フランス語					
	クラス	基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	特修 (12科目)	基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	特修 (10科目)		
商学部		1 クラス		1 クラス	1 クラス	1 クラス		1 クラス	1 クラス		
経済学部		1 クラス				1 クラス					
法学部	a	001~085	001~085			1 クラス	1 クラス				
	b	086~終	086~終								
文学部		1 クラス	1 クラス			1 クラス	1 クラス				
理学部	a	数学・生物	※下記参照			1 クラス	1 クラス	※下記参照		1 クラス	
	b	物理・地球									
	c	化学・理科選択									
工学部	a	機械工学科	1 クラス			1 クラス	1 クラス	工学部T、 生活科学部H (T,H)クラス		1 クラス	
	b	電子・物理工学科 建築学科 (001~017)									
	c	情報工学科 建築学科 (018~終)									
	d	化学バイオ 工 学 科									
	e	都市学科									
医学部		1 クラス			1 クラス						
生活科学部		1 クラス		1 クラス	1 クラス		工学部T、 生活科学部H (T,H)クラス				

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

新修外国語クラス分け表 \*クラス内の数字は、各所属学部学籍番号下3桁を表す。

学部	科目	中 国 語				ロ シ ア 語			朝 鮮 語				
	クラス	基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	特修 (10科目)	基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A、2 A 応用 1 B、2 B	特修 (2科目)	基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A、2 A 応用 1 B、2 B	特修 (2科目)		
商学部	a	001~065		001~065									
	b	066~130		066~130									
	c	131~終		131~終									
経済学部	a	001~075											
	b	076~150											
	c	151~終											
法学部	a	001~085	001~085										
	b	086~終	086~終										
文学部	a	001~075	001~075										
	b	076~終	076~終										
理学部		※下記参照				1クラス		1クラス	1クラス	※下記参照	1クラス	1クラス	
工学部	a	機械工学科 電子物理工学科											
	b	情報工学科 化学バイオ工学科											1クラス
	c	建築学科 都市学科											1クラス
医学部	a	医学部 居住環境											
生活科学部	b	食品栄養 人間福祉											2クラス 学部内 クラス選択

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。



## ○ 外国語科目の履修について

### (1) 提供科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語の6か国語を提供している。なお、外国人留学生を対象に日本語も提供している。

### (2) 科目の構成及び履修方法

#### ア. 英語

##### ① 必須科目

###### [平成19年度入学学生の場合]

学部別提供英語として、1年次は「College English (CE) I・II・III・IV」が、2年次には「College English (CE) V・VI」が提供されている。クラス指定制とする。

###### [平成18年度入学学生の場合]

「英語1A・1B」「英語2A・2B」「上級英語A・B」用に再履修科目が提供されている。

###### [平成17年度以前入学学生の場合]

「英語1A・1B」「英語2A・2B」「英語3A・3B」「英語4A・4B」用に再履修科目が提供されている。

##### ② 全学向け提供の科目

Advanced College English (ACE)

☆受講希望者は、「EWの履修方法について」(P.179~180)を参照すること。

#### イ. 新修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語）

##### [平成18年度以降入学学生の場合]

新修外国語では、コア科目である「基礎1・2」「基礎3」「基礎4」の他に、Aパターンの学部向けに「応用1A」「応用2A」が、Bパターンの学部向けに「応用1B」「応用2B」が提供されている。また、全学向けに「特修」が提供されている。

前期に「基礎1・2」「応用1A」および「応用1B」が、後期に「基礎3」「基礎4」「応用2A」および「応用2B」が提供される。「特修」は、前期ならびに後期に提供される。

なお、「新修外国語履修の仕方について」(P.183)を参照すること。

##### [平成17年度以前入学学生の場合]

平成18年度以降入学学生向けの科目をもって読み替える。詳しくは、「新修外国語履修の仕方について」(P.185)を参照すること。

#### ウ. 日本語（外国人留学生向け）

日本語は「1A、1B」「2A、2B」「3A、3B」「4A、4B」「5A、5B」（Aは前期、Bは後期）が提供されている。なお、「新修外国語履修の仕方について」(P.184・186)を参照すること。

### (3) 単 位

新修外国語の「特修」および、ペア科目の「基礎1・2」は各セメスターで2単位である。他は、各セメスターで1単位である。

★ 出席日数が実授業日数の3/4に満たない場合は、単位を与えないことがある。

○ シ ラ バ ス

英 語 English

**カリキュラム概要**

日本の中学校・高等学校における英語教育は、単に技能の習熟にとどまらず、全人教育を目指すものである。本学では、これをさらに発展させ、生きたことばとしての英語の習得を目的とする。生きたことばとは、自分の考えを表現し、相手の意図を理解するために自然に使われることばを指す。そこには、コミュニケーションの道具としてだけでなく、思考の手段としてのことばも含まれる。本学において、生きたことばとしての英語の習得を達成するために、母語獲得の場合と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく普通に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。

この考えに基づき、昨年、英語カリキュラムが大幅に変更された。1年生、2年生ともに25名程の少人数・習熟度別クラス編制で、必修科目のCollege English (CE) が、1年生で4時間、2年生で2時間の合計6時間提供される。本カリキュラムに基づき、先述の英語運用能力の習得を目指す。

1年生の授業は、英語が母語の教員が主に担当し、学生のレベルに合わせた英語教育を行う。前・後期ともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標とし、リスニングとスピーキング中心のクラスと、リーディングとライティング中心のクラスをそれぞれ1時間ずつ、合計週2時間の授業を行う。前期の授業では、中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルにあった話題を扱い、4技能の基礎力の育成と強化を目指す。後期の授業では、前期と同レベルで、大学生の知的好奇心を満たす話題を扱いながら、授業で扱う英語の量を前期と比較して1.5倍に増やし、それに比例して英語の理解と表現に費やす時間を増やすことにより、4技能の基礎力の定着を図るとともに応用力を養成する。

2年生の授業では、1年生で培った英語運用能力の強化、即ち、基礎力のアップと応用力の習得を目的とする。前期の目標は、CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることにある。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。後期の授業目標は、所属学部の専門性を考慮し、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることにある。具体的には、専門に近い内容を扱い、リーディングとライティングに重点を置いた授業を行う。これにより、専門科目で使用される英語に対処できる応用力の習得を目指す。

さらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、理解力を磨くことを目的とした自由選択科目のAdvanced College English (ACE) を開講する。

**英語カリキュラム編制表**

必修科目				選択科目
		月曜	水曜	
1年	前期	CE I	CE II	ACE
	後期	CE III	CE IV	
2年	前期	CE V		
	後期	CE VI		

## 履修科目内容

< 1 年 >

### (1) College English I (CE I)

**目標：**中学・高校で習得した基本的な英語のリスニング・スピーキングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英語で表現しようとする力を養う。

**評価方法：**定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、60：40とする。

**段階別到達度：**段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リスニングからスピーキングへ段階的に移行する。
- (2) リスニングとスピーキングの双方向で言語運用を行う。
- (3) スピーキングを通してリスニングを強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I a	月・1	(Fenstermaker)	TN I a	月・3	(Stepanczuk)
CL I b	月・1	(Beresford)	TN I b	月・3	(Campbell)
CL I c	月・1	(Nuspliger)	TN I c	月・3	(Quinn)
CL I d	月・1	(Sievert)	TN I d	月・3	(Feldman)
CL I e	月・1	(Chen)	TN I e	月・3	(Jacobs)
CL I f	月・1	(Mercier)	TN I f	月・3	(Fenstermaker)
CL I g	月・1	(Thorson)	TN I g	月・3	(Beresford)
CL I h	月・1	[Leigh]	TN I h	月・3	(Nuspliger)
CL I i	月・1	(Stepanczuk)	TN I i	月・3	[Noda]
CL I j	月・1	(Campbell)	TN I j	月・3	(Chen)
CL I k	月・1	(Quinn)	TN I k	月・3	(Mercier)
CL I l	月・1	(Feldman)	TN I l	月・3	(Thorson)
CL I m	月・1	Takashima	TN I m	月・3	(Sievert)
CL I n	月・1	Richards	TN I n	月・3	Yamamoto
EJ I a	月・2	(Quinn)	SMH I a	月・4	(Mercier)
EJ I b	月・2	(Feldman)	SMH I b	月・4	(Thorson)
EJ I c	月・2	(Jacobs)	SMH I c	月・4	(Sievert)
EJ I d	月・2	(Fenstermaker)	SMH I d	月・4	(Stepanczuk)
EJ I e	月・2	(Beresford)	SMH I e	月・4	(Campbell)
EJ I f	月・2	(Nuspliger)	SMH I f	月・4	(Quinn)
EJ I g	月・2	(Sievert)	SMH I g	月・4	(Feldman)
EJ I h	月・2	(Chen)	SMH I h	月・4	(Jacobs)
EJ I i	月・2	(Mercier)	SMH I i	月・4	(Fenstermaker)
EJ I j	月・2	(Thorson)	SMH I j	月・4	(Beresford)

EJ I k	月・2	[Leigh]	SMH I k	月・4	(Nusplinger)
EJ I l	月・2	(Stepanczuk)	SMH I l	月・4	[Noda]
EJ I m	月・2	(Campbell)	SMH I m	月・4	[Leigh]
EJ I n	月・2	Yamamoto	SMH I n	月・4	(Chen)
EJ I o	月・2	Richards			

## (2) College English II (CE II)

目標：中学・高校で習得した基本的な英語のリーディング・ライティングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。

授業では大学生の知的レベルに合った話題を扱い、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英文で表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、70:30とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リーディングからライティングへ段階的に移行する。
- (2) リーディングとライティングの双方向で言語運用を行う。
- (3) ライティングを通してリーディングを強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I a	水・1	(Nusplinger)	SMH I a	水・3	(Quinn)
EJ I b	水・1	(Lau)	SMH I b	水・3	(Feldman)
EJ I c	水・1	(Feugas)	SMH I c	水・3	(Jacobs)
EJ I d	水・1	(Mercier)	SMH I d	水・3	(Micklas)
EJ I e	水・1	(Thorson)	SMH I e	水・3	(Fenstermaker)
EJ I f	水・1	(Sievert)	SMH I f	水・3	(Beresford)
EJ I g	水・1	(Campbell)	SMH I g	水・3	(Nusplinger)
EJ I h	水・1	(Quinn)	SMH I h	水・3	(Lau)
EJ I i	水・1	(Feldman)	SMH I i	水・3	(Feugas)
EJ I j	水・1	(Micklas)	SMH I j	水・3	(Mercier)
EJ I k	水・1	(Fenstermaker)	SMH I k	水・3	(Thorson)
EJ I l	水・1	(Taga)	SMH I l	水・3	(Sievert)
EJ I m	水・1	Ikari	SMH I m	水・3	(Campbell)
EJ I n	水・1	(Beresford)	SMH I n	水・3	[Leigh]
EJ I o	水・1	[Leigh]	TN I a	水・4	(Thorson)
CL I a	水・2	(Micklas)	TN I b	水・4	(Sievert)
CL I b	水・2	(Fenstermaker)	TN I c	水・4	(Campbell)
CL I c	水・2	(Beresford)	TN I d	水・4	(Quinn)
CL I d	水・2	(Nusplinger)	TN I e	水・4	(Feldman)
CL I e	水・2	(Lau)	TN I f	水・4	(Jacobs)
CL I f	水・2	(Feugas)	TN I g	水・4	(Micklas)
CL I g	水・2	(Mercier)	TN I h	水・4	(Fenstermaker)
CL I h	水・2	(Thorson)	TN I i	水・4	(Beresford)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I i	水・2	(Campbell)	TN I j	水・4	(Nusplinger)
CL I j	水・2	(Quinn)	TN I k	水・4	(Lau)
CL I k	水・2	(Feldman)	TN I l	水・4	(Feugas)
CL I l	水・2	Richards	TN I m	水・4	Yamazaki
CL I m	水・2	(Jacobs)	TN I n	水・4	(Mercier)
CL I n	水・2	(Taga)			

### (3) College English III (CE III)

**目標：**前期の授業を発展させ、リスニング・スピーキングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解する力、並びに、自分の考えを英語で適切に表現する力を養う。

**評価方法：**定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、60:40 とする。

**段階別到達度：**段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にスピーキングに移行する。
- (2) リスニングとスピーキングを強化しながら、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) スピーキング力を向上させることにより、リスニング力をさらに強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I a	月・1	(Thorson)	TN I a	月・3	(Jacobs)
CL I b	月・1	(Stepanczuk)	TN I b	月・3	(Feldman)
CL I c	月・1	(Chen)	TN I c	月・3	(Fenstermaker)
CL I d	月・1	(Beresford)	TN I d	月・3	(Mercier)
CL I e	月・1	(Campbell)	TN I e	月・3	(Quinn)
CL I f	月・1	(Nusplinger)	TN I f	月・3	(Sievert)
CL I g	月・1	(Feldman)	TN I g	月・3	[Noda]
CL I h	月・1	(Fenstermaker)	TN I h	月・3	(Thorson)
CL I i	月・1	(Mercier)	TN I i	月・3	(Stepanczuk)
CL I j	月・1	(Quinn)	TN I j	月・3	(Chen)
CL I k	月・1	[Leigh]	TN I k	月・3	(Beresford)
CL I l	月・1	(Sievert)	TN I l	月・3	(Campbell)
CL I m	月・1	Richards	TN I m	月・3	(Nusplinger)
CL I n	月・1	Yamazaki	TN I n	月・3	Yamamoto
EJ I a	月・2	(Mercier)	SMH I a	月・4	(Beresford)
EJ I b	月・2	(Quinn)	SMH I b	月・4	(Campbell)
EJ I c	月・2	[Leigh]	SMH I c	月・4	(Nusplinger)
EJ I d	月・2	(Sievert)	SMH I d	月・4	(Jacobs)
EJ I e	月・2	(Thorson)	SMH I e	月・4	(Feldman)
EJ I f	月・2	(Stepanczuk)	SMH I f	月・4	(Fenstermaker)
EJ I g	月・2	(Chen)	SMH I g	月・4	(Mercier)



クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I h	月・2	(Beresford)	SMH I h	月・4	(Quinn)
EJ I i	月・2	(Campbell)	SMH I i	月・4	(Sievert)
EJ I j	月・2	(Nuspliger)	SMH I j	月・4	[Noda]
EJ I k	月・2	(Jacobs)	SMH I k	月・4	(Thorson)
EJ I l	月・2	(Feldman)	SMH I l	月・4	(Stepanczuk)
EJ I m	月・2	(Fenstermaker)	SMH I m	月・4	(Chen)
EJ I n	月・2	Yamamoto	SMH I n	月・4	[Leigh]
EJ I o	月・2	Richards			

#### (4) College English IV (CE IV)

**目標：**前期の授業を発展させ、リーディング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で書かれた文章を正確に理解する力、並びに、自分の考えを英文で適切に表現する力を養う。

**評価方法：**定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、70：30とする。

**段階別到達度：**前期と比べ、扱う言語データ量（文字）を1.5倍ほどに増やす。前期と比べ、扱う言語データ量（音声）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にライティングに移行する。
- (2) リーディングとライティングを強化しつつ、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) ライティング力を向上させることにより、リーディング力をさらに強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I a	水・1	(Lau)	SMH I a	水・3	(Mercier)
EJ I b	水・1	(Feugas)	SMH I b	水・3	(Micklas)
EJ I c	水・1	(Beresford)	SMH I c	水・3	(Quinn)
EJ I d	水・1	(Campbell)	SMH I d	水・3	(Sievert)
EJ I e	水・1	(Nuspliger)	SMH I e	水・3	(Thorson)
EJ I f	水・1	(Feldman)	SMH I f	水・3	(Lau)
EJ I g	水・1	(Fenstermaker)	SMH I g	水・3	(Feugas)
EJ I h	水・1	(Mercier)	SMH I h	水・3	(Beresford)
EJ I i	水・1	(Micklas)	SMH I i	水・3	(Campbell)
EJ I j	水・1	(Quinn)	SMH I j	水・3	(Nuspliger)
EJ I k	水・1	(Sievert)	SMH I k	水・3	(Jacobs)
EJ I l	水・1	(Taga)	SMH I l	水・3	(Feldman)
EJ I m	水・1	Ikari	SMH I m	水・3	[Leigh]
EJ I n	水・1	(Thorson)	SMH I n	水・3	(Fenstermaker)
EJ I o	水・1	[Leigh]	TN I a	水・4	(Feldman)
CL I a	水・2	(Quinn)	TN I b	水・4	(Fenstermaker)
CL I b	水・2	(Thorson)	TN I c	水・4	(Mercier)
CL I c	水・2	(Lau)	TN I d	水・4	(Micklas)
CL I d	水・2	(Feugas)	TN I e	水・4	(Quinn)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I e	水・2	(Beresford)	TN I f	水・4	(Sievert)
CL I f	水・2	(Campbell)	TN I g	水・4	(Thorson)
CL I g	水・2	(Nuspliger)	TN I h	水・4	(Lau)
CL I h	水・2	(Jacobs)	TN I i	水・4	(Feugas)
CL I i	水・2	(Feldman)	TN I j	水・4	(Beresford)
CL I j	水・2	(Fenstermaker)	TN I k	水・4	(Campbell)
CL I k	水・2	(Mercier)	TN I l	水・4	(Nuspliger)
CL I l	水・2	Richrads	TN I m	水・4	Takashima
CL I m	水・2	(Taga)	TN I n	水・4	(Jacobs)
CL I n	水・2	(Micklas)			

再履修クラス (CE I・II・III・IV)

目標：平成19年度以降の入学で再度履修者を対象とし、CE I・II・III・IVの再習熟をはかる。

履修条件：受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、各学期の最初の授業に出席して担当者に申込みこと。

CE I・II (後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	[Noda]	全「再」	水・5	Yamamoto

CE III・IV (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	[Noda]	全「再」	水・5	Yamamoto

< 2年 >

(5) College English V (CE V)

目標：1年生で培った英語運用能力の基礎力アップを目指す。CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることを目標とする。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、70：30とする。

段階別到達度：4技能に関して、インプットとアウトプットのバランスを考慮し、以下の段階を踏まえた授業を行う。

- (1) リスニングとリーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リスニングとリーディングに、それぞれスピーキングとライティングの要素を取り入れた授業を行う。
- (3) スピーキングとライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CⅡa	火・1	(筒井)	HⅡc	木・1	(藤井)
CⅡb	火・1	[野田]	HⅡd	木・1	(中村)
CⅡc	火・1	(山澤)	HⅡe	木・1	(笠巻)
CⅡd	火・1	(倉恒)	SⅡa	木・2	(山口)
CⅡe	火・1	(高)	SⅡb	木・2	(要)
CⅡf	火・1	杉井	SⅡc	木・2	(藤井)
CⅡg	火・1	荒木	SⅡd	木・2	(川端)
CⅡh	火・1	古賀	SⅡe	木・2	(高橋)
JⅡa	火・2	(伊原)	SⅡf	木・2	田中一
JⅡb	火・2	[野田]	EⅡa	木・3	(中村)
JⅡc	火・2	(筒井)	EⅡb	木・3	(坂田)
JⅡd	火・2	(倉恒)	EⅡc	木・3	(丹羽)
JⅡe	火・2	(高)	EⅡd	木・3	(高橋)
JⅡf	火・2	(須賀)	EⅡe	木・3	高島
TⅡa	火・3	(伊原)	EⅡf	木・3	岩田
TⅡb	火・3	(須賀)	EⅡg	木・3	杉井
TⅡc	火・3	(筒井)	EⅡh	木・3	瀬戸
TⅡd	火・3	(平出)	EⅡi	木・3	山崎
TⅡe	火・3	(名和)	MⅡa	木・3	(川越)
TⅡf	火・3	(山澤)	MⅡb	木・3	(長嶺)
TⅡg	火・3	野末	MⅡc	木・3	廣田
TⅡh	火・3	田中孝	LⅡa	木・3	(中村)
TⅡi	火・3	衣笠	LⅡb	木・4	(坂田)
TⅡj	火・3	古賀	LⅡc	木・4	(丹羽)
TⅡk	火・3	田中一	LⅡd	木・4	高島
TⅡl	火・3	岩田	LⅡe	木・4	荒木
HⅡa	木・1	(山口)	LⅡf	木・4	瀬戸
HⅡb	木・1	(要)			

(6) College English VI (CE VI)

**目標：**1年生の時に学んだCE I～IV、及び、CE Vで培った基本的な英語運用能力の上に、応用力を習得することを目的とする。所属学部の専門性を考慮し、専門に近い内容を扱うリーディングとライティングに重点を置いた授業を行うことにより、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることを目指す。

**評価方法：**定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

**段階別到達度：**段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した授業を行う。

- (1) リーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リーディングの中にライティングを取り入れた授業を行う。
- (3) ライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
C II a	火・1	衣笠	H II a	木・1	(川端)
C II b	火・1	古賀	H II b	木・1	(山口)
C II c	火・1	杉井	H II c	木・1	(要)
C II d	火・1	(筒井)	H II d	木・1	(藤井)
C II e	火・1	[野田]	H II e	木・1	(中村)
C II f	火・1	(山澤)	S II a	木・2	廣田
C II g	火・1	(倉恒)	S II b	木・2	(高橋)
C II h	火・1	(高)	S II c	木・2	(山口)
J II a	火・2	(須賀)	S II d	木・2	(要)
J II b	火・2	(伊原)	S II e	木・2	(藤井)
J II c	火・2	[野田]	S II f	木・2	(笠巻)
J II d	火・2	(筒井)	E II a	木・3	荒木
J II e	火・2	(倉恒)	E II b	木・3	山崎
J II f	火・2	(高)	E II c	木・3	高島
T II a	火・3	田中一	E II d	木・3	瀬戸
T II b	火・3	杉井	E II e	木・3	廣田
T II c	火・3	荒木	E II f	木・3	(中村)
T II d	火・3	岩田	E II g	木・3	(坂田)
T II e	火・3	古賀	E II h	木・3	(丹羽)
T II f	火・3	関	E II i	木・3	(高橋)
T II g	火・3	(山澤)	L II a	木・4	山崎
T II h	火・3	(伊原)	L II b	木・4	(長嶺)
T II i	火・3	(須賀)	L II c	木・4	(中村)
T II j	火・3	(筒井)	L II d	木・4	(坂田)
T II k	火・3	(平出)	L II e	木・4	(丹羽)
T II l	火・3	(名和)	L II f	木・4	(高橋)

CEVI (前期)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
M II a	木・4	廣田	M II c	木・4	(長嶺)
M II b	木・4	(川越)			

## Advanced College English (ACE)

Advanced College EnglishはCollege English (CE) で培った英語運用能力よりもさらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

### Advanced College English (ACE) の履修方法について

#### (1) ACEの履修制限について

1 セメスター1科目とする。

前期にACE科目の受講を希望する者は、学生支援課共通教育係に申込みこと。「用紙交付」および「受付」は4月3日(金)9時から17時までと6日(月)9時から15時までとする。提出できる枚数は、前期・後期ともそれぞれ1枚である。

希望者多数の場合は抽選を行う。受講確定者名を4月8日(水)11時に掲示で発表する。

前期の授業は、受講者確定後から行う。

後期の受講については、7月中旬に掲示するので見ておくこと。

#### (2) クラス規模について

各科目とも25名程度とする。

#### 「ACE : TOEFL80」(前期・後期)(全学提供 1単位)

**目標**：本講座では、米国及びカナダの主要大学入学の基準である80点(従来のCBTの213点に相当)を取得することを目標とした訓練を行う。ドリル等の演習形式の授業を通して、読解能力・聴解能力の向上、並びに、語彙・文法に関する知識の増強を目指す。

**評価方法**：出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

#### 「ACE : TOEIC650」(前期・後期)(全学提供 1単位)

**目標**：企業で海外出張の対象となる基準点突破を目標とした様々な訓練を行う。データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

**評価方法**：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

#### 「ACE : Critical Writing」(前期・後期)(全学提供 1単位)

**目標**：ある問題やトピックを主体的に設定し、その問題、あるいはトピックに関する資料を検索、収集、分析、統合、最終的に、問題提起や問題解決策の提示、新たな説の展開等という形で自らの考えを表現する力を養成する

**評価方法**：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

#### 「ACE : Media English」(前期・後期)(全学提供 1単位)

**目標**：現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。本講座では、特に、ジャーナリスト的な英語の読解力、聴解力の強化を目的とする。

**評価方法**：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

#### 「ACE : Literature」(前期)(全学提供 1単位)

**目標**：英米の文学作品を教材に取り上げ、英語の表現の理解だけにとどまらず、その作品をとりまくさまざまな要因(時代背景、作家自身のこと)を考慮に入れながら、その作品を読み解く力を養成する。

**評価方法**：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

#### 「ACE : Presentation」(後期)(全学提供 1単位)

**目標**：様々な専門分野に必要な英語による口頭発表能力の向上を図るため、色々な題材を用いた英語によるプレゼンテーションの訓練を行う。

**評価方法**：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価



「ACE : Film」(後期)(全学提供 1単位)

目標:必ずしも英語そのものの理解だけでなく、作品の背景や登場人物あるいは作者の思いなども含め、映画を教材にして、総合的な英語力の養成を目指す。

評価方法:出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Discussion」(前期)(全学提供 1単位)

目標:筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

評価方法:出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Intensive Reading」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標:表現・内容ともにややレベルの高い評論やエッセイを素材にして、英文を正確綿密に、かつ批判的に読む力を養成する。

評価方法:出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(Kasamaki)
TOEIC 650	全	木・1	(Kawabata)
Critical Writing	全	水・3	Richards
Discussion	全	木・4	(Chen)
Intensive Reading	全	火・2	Seki
Media English	全	木・3	K.Tanaka
Literature	全	火・4	Nozue

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(Kawabata)
TOEIC 650	全	木・1	(Kasamaki)
Critical Writing	全	木・4	(Chen)
Presentation	全	水・2	[Leigh]
Films	全	水・3	(Taga)
Media English	全	木・3	(Nagamine)
Intensive Reading	全	火・2	Iwata

再度履修者向けクラス(英語1A・B、2A・B、3・4A、上級英語A・B、CEV、経済専修)

目標:平成18年度までの入学者で再度履修者を対象とし、英語1A・B、2A・B、3A・B、4A・B、上級英語A・B、CEV、経済専修の再習熟をはかる。

履修条件:受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、各学期の最初の授業に出席して担当者に申込みこと。ただし、1クラスの受講者の上限を40名、それを越えた場合は抽選とする。各クラスとも複数の時間帯で提供されているので、空きがある方のクラスにまわること。それでも抽選にもれて、やむを得ない場合には、同一学部・学年の同一クラスへ出向き、担当者の許可を得ること。

評価方法:出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点・レポート等で評価

[今年度開講科目]

英語1AB/2AB(後期)

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	金・2	(荒木)

## 英語3AB/4AB (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	水・5	野末	全「再」	金・1	(荒木)

## 英語上級AB (前期)

クラス	曜・時限	担当者			
全「再」	金・2	(荒木)			

## 英語上級AB (後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	瀬戸	全「再」	金・1	(荒木)

## 英語3AB/4AB (後期)

クラス	曜・時限	担当者			
全「再」	火・4	(平出)			

## CE V (前期)

クラス	曜・時限	担当者			
全「再」	月・5	瀬戸			

## CE VI (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	関	全「再」	水・5	田中孝
全「再」	水・5	衣笠			

## 経済専修AB (前)

クラス	曜・時限	担当者			
経済	火・4	(名和)			

## CE V (後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	関	全「再」	水・5	田中孝
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	水・5	野末

## CEVI (後期)

クラス	曜・時限	担当者			
全「再」	水・5	衣笠			

# 新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、日本語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語（英語以外の外国語）を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげてくれることを諸君に期待する。

# 第 1 部

## 新修外国語履修の仕方について

(平成18年度以降入学学生用)

### ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

新修外国語の履修には、学部により、「基礎」をコアとした次のA、B二つのパターンがある。  
提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

(どのパターンをとるかは、各学部で異なるので、所属学部の履修規程に基づくこと)

A.

1 年次前期	基礎 1・2 Basic 1・2	応用 1 A Applied 1 A
1 年次後期	基礎 3 Basic 3      基礎 4 Basic 4	応用 2 A Applied 2 A
2 年次以降	特修 1 Specialized 1 特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 . . .	

B.

1 年次前期	基礎 1・2 Basic 1・2	
1 年次後期	基礎 3 Basic 3      基礎 4 Basic 4	
2 年次前期	応用 1 B Applied 1 B	特修 1 Specialized 1
2 年次後期	応用 2 B Applied 2 B	特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 . . .

三重線で囲まれた部分は必修科目

二重線で囲まれた部分は学部によって必修科目

単線で囲まれた部分は自由選択科目

### 日本語教育編成表 (留学生対象)

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
1 A	1 B	3 A	3 B
2 A	2 B	4 A	4 B
		5 A	5 B

## § 1. 標準的履修の場合

### I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 1年次前期で、Aパターンの学部の学生は「基礎1・2」(2単位)および「応用1A」(1単位)を、Bパターンの学部の学生は「基礎1・2」を履修すること。なお、「基礎1・2」はペア科目になっているので、月曜日と水曜日に提供されている両方とも履修しなければならない、どちらか片方だけを履修することはできない。したがって、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。
2. 1年次後期で、Aパターンの学部の学生は「基礎3」「基礎4」および「応用2A」(各1単位)を、Bパターンの学部の学生は「基礎3」「基礎4」を履修すること。  
なお、新修外国語では、グレード制を採用しており、「基礎1・2」の単位を修得していないと、Aパターンの場合は「基礎3」「基礎4」ならびに「応用2A」を、Bパターンの場合は「基礎3」「基礎4」を履修することができないので、十分注意すること。
3. Bパターンの学部の学生は、2年次前期で「応用1B」(1単位)を、2年次後期で「応用2B」(1単位)を履修すること。  
なお、「基礎3」「基礎4」の受講後でなければ「応用1B」「応用2B」を履修することができないので、十分注意すること。
4. さらに学びたいという意欲のある2年次以上の学生のために、「特修」(2単位)が提供されている。各学生は、複数提供される科目を複数回、選択することができる。  
なお、「基礎3」「基礎4」のいずれかの単位を修得していないと「特修」を履修することができないので、注意すること。

#### 備考

高校での既習者ならびに帰国生徒の履修に関しては、所属学部事務室に願い出、当該外国語カリキュラム担当者に相談すること。

### II. 日本語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A：新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが望ましい。  
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。  
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B」+「4A～5Bから2科目」  
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A～4Bから2科目」  
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B：「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

## § 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1・2」「基礎3」「基礎4」「応用1A」「応用2A」の不合格者は、2年次で、不合格であった科目を再度履修すること。2年次提供の「応用1B」「応用2B」の不合格者は、3年次で、不合格であった科目を再度履修すること。



# 第 1 部

## 新修外国語履修の仕方について

(平成17年度以前入学学生用)

### ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

	基 本 科 目		特 修 科 目	
	前 期	後 期	前 期	後 期
ステージⅠ (入門・初級)	入門 1・2 Introductory 1・2	初級 1 Elementary 1 初級 2 Elementary 2	入門 3 Introductory 3	初級 3 Elementary 3
ステージⅡ (中 級)	中級 1 Intermediate 1 中級 2 Intermediate 2	中級 3 Intermediate 3 中級 4 Intermediate 4		
ステージⅢ (上 級)			上級 1 Advanced 1	上級 2 Advanced 2

※ステージⅠ、Ⅱ、Ⅲは概ね1年次、2年次、3年次の履修に対応する。(ただし、「上級」に関しては、特例措置により、「入門」「初級」「中級」から6単位以上を修得した者には、2年次後期から、さらに、1年次提供の「入門1～3」「初級1～3」の6単位を完全に修得した者には、2年次前期からの履修を特別に認める。

※※「基本科目」とは、まずは優先して履修すべき科目のことであり、具体的には、「入門1・2」「初級1、2」と「中級1、2、3、4」がこれに当たる。このうち、二重線で囲まれた「入門1・2」「初級1、2」は、新修外国語を学ぶ以上、必ず履修しなければならない「必修科目」である。修得すべき単位数が8単位以下となっている学部・学科の学生は、「基本科目」から履修することが望ましい。「特修科目」とは、「基本科目」にプラスして、運用能力向上のためにさらに履修することのできる、関連科目のことであり、具体的には、「入門3」、「初級3」、「上級1、2」がこれに当たる。

### 日本語教育編成表 (留学生対象)

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
1 A	1 B	3 A	3 B
2 A	2 B	4 A	4 B
		5 A	5 B

## § 1. 標準的履修の場合

### I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. まず、1年次前期で、「入門1・2」を履修すること。「入門1・2」はペア科目になっているので、月曜日と水曜日に提供されている両方とも履修しなければならないが、どちらか片方だけを履修することはできない。したがって、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。なお、新修外国語では「入門」から「初級」へ、「初級」から「中級」へと、「グレード制」を採用していて、したがって、「入門1・2」の単位を修得していないと、「初級」を履修することができないので、十分注意すること。なお、平成18年度から「入門1・2」は提供されていない。次の「§ 2. 再度履修の場合」を参照すること。
2. ひきつづき、1年次後期で、「初級1」、「初級2」を履修すること。「入門1・2」、「初級1」、「初級2」は、新修外国語の習得に最低限必要な「必修科目」となっているので、「入門1・2」を修得したからといって、受講を取りやめてはいけぬ。「初級1」、「初級2」はペア科目になっていないので、単位もそれぞれ1単位ずつ認定される。「初級1」、「初級2」のいずれかの単位さえ修得できていれば、「中級」を履修することはできるが、**両科目とも不合格の場合は、「中級」の履修はできないので、注意すること。**なお平成19年度から「初級1」「初級2」は提供されない。次の「§ 2. 再度履修の場合」を参照すること。
3. さらに、余裕と意欲のある学生のために、1年次前期で「入門3」（1単位）が、ひきつづき後期で「初級3」（1単位）が、提供されている。「初級3」は、「入門1・2」の単位さえ修得していれば、履修できる。修得すべき単位数が12単位となっている文学部学生は、必ず履修しなければならない。なお、平成18年度から「初級3」は提供されていない。次の「§ 2. 再度履修の場合」を参照すること。
4. 2年次前期では「中級1」（1単位）、「中級2」（1単位）が、後期には「中級3」（1単位）、「中級4」（1単位）が提供されている。「中級」は、「初級1」か「初級2」のいずれかが合格であれば、履修できる。また、前期の「中級」の単位を修得できなくても、後期の「中級」を履修することができる。なお平成19年度から「中級」の提供は、各外国語とも編成され、かつ全学向けとなる。次の「§ 2. 再度履修の場合」を参照すること。
5. その上、余裕と意欲のある学生のために、3年次前期で「上級1」（1単位）が、後期で「上級2」（1単位）が提供されている。ただし、特例措置により、「入門」「初級」「中級」から6単位以上を修得した者については、2年次後期から、さらに、1年次提供の「入門1～3」「初級1～3」の6単位を完全に修得した者については、2年次前期からの履修が特別に認められている。「上級」の各科目も「グレード」を設けていないので、「上級1」の単位を修得できなくても、「上級2」を履修することができる。履修条件が12単位となっている文学部学生は、必ず履修しなければならない。なお平成19年度から「上級」の提供は、各外国語とも編成され、かつ全学向けとなる。次の「§ 2. 再度履修の場合」を参照すること。

### II. 日本語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A：新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが望ましい。  
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。  
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B」+「4A～5Bから2科目」  
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A～4Bから2科目」  
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B：「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

## § 2. 再度履修の場合

### ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 「入門 1・2」の不合格者は「基礎 1・2」を履修し、「入門 1・2」に読み替えること。
2. 「入門 3」の不合格者は「応用 1 A」または「応用 1 B」を履修し、「入門 3」に読み替えること。
3. 「初級 1」の不合格者は「基礎 3」を履修し、「初級 1」に読み替えること。
4. 「初級 2」の不合格者は「基礎 4」を履修し、「初級 2」に読み替えること。
5. 「初級 3」の不合格者は「応用 2 A」または「応用 2 B」を履修し、「初級 3」に読み替えること。
6. 「中級 1」「中級 2」「中級 3」「中級 4」の不合格者は、科目のナンバーがいずれであっても、必要単位に見合うだけの「特修」を履修すること。
7. 「上級 1」「上級 2」の単位を必要とする者は、科目のナンバーがいずれであっても、必要単位に見合うだけの「特修」を履修すること。

## ドイツ語 German

### 学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読みに近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらし、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を实らせてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりが無い。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の实相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

### 目標と評価方法

#### 「ドイツ語基礎1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定 2単位)

**目標：** 連続した、もしくは密接に連携した週2回の授業を行う。ドイツ語のアルファベットと発音の基礎から始めて、単一文、単純時称などの基本的なしくみを把握する。AV機器なども用いて、ドイツ語を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」ためのバランスの取れた基礎能力を身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門1・2」に読み替えることができる。

#### 授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション(ドイツ語・ドイツ語文化への導入)

第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音

第4週～第8週：ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

**評価方法：** 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

#### 「ドイツ語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

**目標：** 「基礎1・2」での学習をふまえて、複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の構文を学習し、ドイツ語の基礎的な知識をひとつおりに身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級1」に読み替えることができる。

#### 授業内容・授業計画：

第1週：<基礎1・2>の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な文法知識の仕上げ

**評価方法：** 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題な

どを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標： 「基礎3」での学習と並行して、比較的複雑なドイツ語文を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」練習を行い、基礎的なドイツ語能力の定着をはかる。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：<基礎1・2>の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用1A」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標： AV機器なども用いて実践的な練習を行い、基礎的なドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション(ドイツ語・ドイツ語文化への導入)
- 第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音—補強
- 第4週～第9週：ドイツ語の応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ドイツ語の応用能力の発展的養成

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用2A」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標： AV機器なども用いて実践的な練習を行い、やや高度なドイツ語の応用能力を養成する。多様なシチュエーションに対応できるドイツ語の理解能力と表現能力の習得をめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：<応用1A>の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語の応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の仕上げ

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用1B」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標： 1年次で習得した基礎に立って、テキスト精読や実践的練習を通してドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：ドイツ語の応用能力への導入
- 第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の初歩的養成
- 第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の発展的養成

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。



「ドイツ語応用 2 B」(後期)(学部別提供 クラス指定 1 単位)

目標： テキスト精読や実践的練習を通して、やや高度なドイツ語の応用能力を養成し、ドイツ語の理解能力と表現能力の向上をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門 3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：<応用 1 B>の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語の応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の仕上げ

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語特修」(前・後期)(全学提供 各 2 単位)

目標： 「ドイツ語基礎 3」「ドイツ語基礎 4」のいずれかの単位を修得した学生で、さらにドイツ語を学ぶ意欲のある者を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、適切なクラス規模での授業によって、より高度なドイツ語能力の習得をめざす。

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

各クラスの授業内容は以下のとおり。

「ドイツ語特修 1 a / 1 b」(前期)「ドイツ語特修 2」(後期)(ドイツ語会話)

ネイティブ教員の担当により、ドイツ語のヒアリングおよび会話能力の養成を目的とする。ドイツ語の日常的な会話表現を実践的な練習により習得する。

「ドイツ語特修 3 a / 3 b」(前期)「ドイツ語特修 4」(後期)(映像で学ぶドイツ語)

ドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材を使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

「ドイツ語特修 5」(前期)「ドイツ語特修 6」(後期)(独検対策)

ドイツ語技能検定(独検)受験希望者を対象に、過去の出題問題をふまえて、合格をめざした練習を行う。独検においてはバランスの取れたドイツ語能力が求められるが、これで十分対応できる総合的な能力を身につけるよう授業を行う。

「ドイツ語特修 7」(前期)「ドイツ語特修 8」(後期)(ドイツ語を読むⅠ)

新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化について認識を深める。

「ドイツ語特修 9」(前期)「ドイツ語特修 10」(後期)(ドイツ語を読むⅡ)

ドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的なテキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化について理解を深める。

## 基礎 1・2 (前期)

CI (月・2) 林田 陽子 (非常勤)、(水・1) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト①小野寿美子・中川明博・西巻丈児『クロイツング』(朝日出版社) ②大岩信太郎『新正書法による快速ドイツ文法 (14課)』(朝日出版社)

EI (月・1) 長谷川 健一 (非常勤)、(水・2) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：①飯田道子・江口直光『アップフェールト スキットで学ぶドイツ語』(三修社)、②大岩信太郎『新正書法による快速ドイツ文法 (14課)』(朝日出版社)

J Ia (月・1) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：①大岩信太郎『新正書法版・身につくドイツ語』(同学社) ②小野・中川・西巻『クロイツング』(朝日出版社)

J Ib (月・1) 林田 陽子 (非常勤)、(水・2) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト：①在間進『新生ドイツ語文法V5』(朝日出版社) ②小野・中川・西巻『ドイチュ プラーヴォ！ プラスアルファ』(朝日出版社)

LI (月・2) 長谷川 健一 (非常勤)、(水・1) クラウス・プレックス (文)

・テキスト：①西本美彦・西本アンゲリカ・高田博行 共編『文法システム15 — 新改訂版』(同学社) ②『Schritte! international (Kursbuch + Arbeitsbuch)』(Max Hueber)

SI a (月・3) 三上 雅子 (文)、(水・4) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：①成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改訂版]』(郁文堂)、②荻野蔵平・A. Raab『ユネスコ世界遺産で学ぶドイツ語』(朝日出版社)

SI b (月・3) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・4) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：①大岩信太郎『新・印象的なドイツ語』(三修社)、②近藤・小林・新倉・松尾『Dialogドイツ語へのキックオフVer.4』(郁文堂)

SI c (月・3) 磯部 美穂 (非常勤)、(水・4) 寺井 俊正 (文)

・テキスト：①荻野蔵平・Andrea Raab『Tag für Tag. Leben in Deutschland』(朝日出版社)、②成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改訂版]』(郁文堂)

TI a (月・4) 田島 昭洋 (非常勤)、(水・3) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト：①清水薫『改訂版 ドイツ文法・100語の世界』(同学社)、②清野智昭『ドイツ語の時間くビデオ教材 恋するベルリン>DVD付』(朝日出版社)

TI b (月・4) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・3) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：①大岩信太郎『新正書法による 快速ドイツ語』(朝日出版社)、②荻野蔵平・A. Raab『ドイツってすてき！ [DVD付改訂版] —ビデオで学ぶドイツ語表現練習—』(朝日出版社)

TI c (月・4) 三上 雅子 (文)、(水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：①斎藤佑史・荒木詳二『若草のドイツ語文法改訂版』(三修社)、②秋田静男他『ドイツ語インフォメーション [新訂版]』(朝日出版社)

TI d (月・4) 竹内 一高 (非常勤)、(水・3) 寺井 俊正 (文)

・テキスト：①成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改訂版]』(郁文堂)

T I e (月・4) 磯部 美穂 (非常勤)、(水・3) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：①荻野蔵平・Andrea Raab『Tag für Tag. Leben in Deutschland』(朝日出版社)、②大岩信太郎『新正書法による快速ドイツ文法(14課)』(朝日出版社)

M I (月・3) 田島 昭洋 (非常勤)、(水・4) 海老根 剛 (文)

・テキスト：①清水薫『改訂版 ドイツ文法・100語の世界』(同学社) ②佐藤修子他『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』(三修社)

H I (月・3) 竹内 一高 (非常勤)、(水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：①在間進『新生ドイツ語文法V5』(朝日出版社)

## 応用 1 A (前期)

J I a (金・3) 江川 英明 (非常勤)

・テキスト：小林俊明『はじめての独作文—Version 2—』(同学社)

J I b (金・3) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：宇佐見幸彦・佐藤裕子・D.F.Schauwecker『ドイツめぐり(ユーロ版)』(朝日出版社)

L I (金・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：小塩節『希望のドイツ語〔新訂版〕』(朝日出版社)

## 応用 1 B (前期)

C II (火・2) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：木村クリスタ・立川希代子『初級総仕上げ 2度目のドイツ語』(白水社)

T II (木・1) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：佐藤修子 他『CD付き スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』(三修社)

H II (木・2) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：須澤通・Elisabeth Schmidt・浜泰子『体験するドイツ語』(郁文堂)

## 特修 1 a (前期)

全 (火・2) クラウス・ブレックス (文)

**授業内容**：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリント使用

## 特修 1 b (前期)

全 (木・2) クラウス・ブレックス (文)

**授業内容**：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリント使用

## 特修 3 a (前期)

全 (火・3) 海老根 剛 (文)

**授業内容:** 映画の対話場面を実際に演じてみることを通して、意味を単にアタマで理解するだけでなく、カラダ (声と簡単な身振り) をも通して外国語に触れることを目指す。受講者の主体的な参加が求められる。昨年度からのリピーターも歓迎する。

## 特修 3 b (前期)

全 (金・3) 田島 昭洋 (非常勤)

**授業内容:** オペラ「魔笛」の台本を読み、映像を見る。モーツァルト芸術の全要素が凝縮された本作品は、高度な芸術性と祭り上げるにはあまりにも親しみやすく楽しい。合わせ、ウィーン風景映像や楽聖映画を通じて理解を深める。  
・テキスト: プリントを配付する。

## 特修 5 (前期)

全 (火・4) 高井 絹子 (特任)

**授業内容:** ドイツ語検定試験 4 級対策として初級文法の復習からはじめます。3 級にも対応できるよう中級レベルの文法、聞き取り、読解など総合的な力をつけることを目指します。  
・テキスト: プリントを配布する。

## 特修 7 (前期)

全 (金・4) 江川 英明 (非常勤)

**授業内容:** ドイツで最近起きた出来事に関する記事を読む。文章精読して読解力を養成するとともに、基礎的な文法事項を復習する。記事内容としては、ドイツのスポーツと文化を取り扱う。  
・テキスト: A.Raab, 石井寿子『時事ドイツ語<'08年トピックス>』(朝日出版社)

## 特修 9 (前期)

全 (木・3) 三上 雅子 (文)

**授業内容:** 短編小説、エッセイ、映画シナリオ、演劇台本などの様々な文章を読む作業を通じて、ドイツ語力を養うとともに、思考力・想像力を伸ばすことに努める。期末テストで評価、出席・平常点重視。  
・テキスト: プリントを配付する。

## 基礎 3 (後期)

CI (月・2) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト: 小野寿美子・中川明博・西巻丈児『KREUZUNG』(朝日出版社)

EI (月・1) 長谷川 健一 (非常勤)

・テキスト: 飯田道子・江口直光『アプファールト スキットで学ぶドイツ語』(三修社)

JIa (月・1) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト: 大岩信太郎『新正書法版・身につくドイツ語』(同学社)

JIb (月・1) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト: 在間進『新生ドイツ語文法 V 5』(朝日出版社)

LI (月・2) 長谷川 健一 (非常勤)

・テキスト: 西本美彦・西本アンゲリカ・高田博行 共編『文法システム15 — 新改訂版』(同学社)

SIa (月・3) 三上 雅子 (文)

・テキスト：成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改訂版]』(郁文堂)

SIb (月・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎『新・印象的なドイツ語』(三修社)

SIc (月・3) 長谷川 健一 (非常勤)

・テキスト：荻野蔵平・Andrea Raab『ドイツ暮らしのスケッチ (新訂版)』(朝日出版社)

TIa (月・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：清水薫『改訂版 ドイツ文法・100語の世界』(同学社)

TIb (月・4) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎『新正書法による 快速ドイツ語』(朝日出版社)

TIc (月・4) 三上 雅子 (文)

・テキスト：斎藤佑史・荒木詳二『若草のドイツ語文法』(三修社)

TI d (月・4) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト：成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改訂版]』(郁文堂)

TIe (月・4) 磯部 美穂 (非常勤)

・テキスト：荻野蔵平・Andrea Raab『Tag für Tag. Leben in Deutschland』(朝日出版社)

MI (月・3) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：清水薫『改訂版 ドイツ文法・100語の世界』(同学社)

HI (月・3) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト：在間進『新生ドイツ語文法V5』(朝日出版社)

## 基礎 4 (後期)

CI (水・1) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎『新正書法による快速ドイツ文法 (14課)』(朝日出版社)

EI (水・2) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎『新正書法による快速ドイツ文法 (14課)』(朝日出版社)

J Ia (水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：小野寿美子・中川明博・西巻丈児『クロイツング』(朝日出版社)

J Ib (水・2) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト：小野寿美子・中川明博・西巻丈児『ドイチュ プラーヴォ! プラスアルファ』(朝日出版社)

LI (水・1) クラウス・ブレックス (文)

・テキスト：『Schritte 1 international (Kursbuch+Arbeitsbuch)』(Max Hueber)

SIa (水・4) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：荻野蔵平・Andrea Raab『ユネスコ世界遺産で学ぶドイツ語』(朝日出版社)



S I b (水・4) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：近藤・小林・新倉・松尾『Dialog ドイツ語へのキックオフ Ver.4』(郁文堂)

S I c (水・4) 寺井 俊正 (文)

・テキスト：成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改訂版]』(郁文堂)

T I a (水・3) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間<ビデオ教材 恋するベルリン>DVD付き』(朝日出版社)

T I b (水・3) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：萩野蔵平・Andrea Raab『ドイツってすてき! [DVD付き改訂版] -ビデオで学ぶドイツ語表現練習-』(朝日出版社)

T I c (水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション [新訂版]』(朝日出版社)

T I d (水・3) 寺井 俊正 (文)

・テキスト：成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改訂版]』(郁文堂)

T I e (水・3) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎『新正書法による快速ドイツ文法 (14課)』(朝日出版社)

M I (水・4) 海老根 剛 (文)

・テキスト：佐藤修子 他『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』(三修社)

H I (水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：在間進『新生ドイツ語文法V5』(朝日出版社)

## 応用 2 A (後期)

J I a (金・3) 江川 英明 (非常勤)

・テキスト：小林俊明『はじめての独作文—Version 2—』(同学社)

J I b (金・3) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：宇佐見幸彦・佐藤裕子・D.F.Schauwecker『ドイツめぐり (ユーロ版)』(朝日出版社)

L I (金・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：小塩節『希望のドイツ語 [新訂版]』(朝日出版社)

## 応用 2 B (後期)

C II (火・2) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：木村クリスタ『初級総仕上げ 2度目のドイツ語』(白水社)

T II (木・1) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：佐藤修子 他『CD付き スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』(三修社)

H II (木・2) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：須澤通・Elisabeth Schmidt・浜泰子『体験するドイツ語』(郁文堂)

## 特修 2 (後期)

全 (火・4) クラウス・ブレックス (文)

**授業内容：**授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリント使用

## 特修 4 (後期)

全 (金・3) 田島 昭洋 (非常勤)

**授業内容：**オペラ「魔笛」の台本を読み、映像を見る。モーツァルト芸術の全要素が凝縮された本作品は、高度な芸術性と祭り上げるにはあまりにも親しみやすく楽しい。合わせ、ウィーン風景映像や楽聖映画を通じて理解を深める。

・テキスト：プリントを配付する。

## 特修 6 (後期)

全 (木・2) 中村 恵 (非常勤)

**授業内容：**独検 3・4 級合格のための準備を行う。4 級受験希望者には初級文法の完全マスターを、3 級受験希望者には比較的容易なドイツ語文を読みこなす力、及び簡単な会話力の習得を訓練する。予習復習は必須。

・テキスト：恒吉良隆『独検対策 4 級・3 級問題集 (新版)《CD付》』(白水社)

## 特修 8 (後期)

全 (金・4) 江川 英明 (非常勤)

**授業内容：**ドイツで最近起きた出来事に関する記事を読む。文章を精読して読解力を養成するとともに、基礎的な文法事項を復習する。記事内容としては、ドイツの政治と経済を取り扱う。

・テキスト：A.Raab, 石井寿子『時事ドイツ語<'08年トピックス>』(朝日出版社)

## 特修10 (後期)

全 (火・3) 海老根 剛 (文)

**授業内容：**聴く能力は語学力の根幹です。発音を聞き分ける能力は正しく発音する能力の前提だからです。この授業では多様な教材とCALLシステムを活用して聴く能力を集中的に鍛えます。また随時発音の指導も織り交ぜる予定。

# フランス語 French

## 学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語＋第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

## 目標と評価方法

「フランス語基礎1・2」（前期）（学部別提供 クラス指定 2単位）

目標：「基礎1・2」では、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門1・2」に読み替えることができる。

### 授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の文字と発音

第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎3」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級1」に読み替えることができる。

### 授業内容・授業計画：

第1週：＜基礎1・2＞の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：フランス語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、流暢な発

音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級2」に読み替えることができる。

**授業内容・授業計画：**

- 第1週：＜基礎1・2＞の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な実践能力の仕上げ

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

**「フランス語応用1A」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）**

**目標：**「フランス語基礎1・2」履修中の者を対象として、「基礎1・2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門3」に読み替えることができる。

**授業内容・授業計画：**

- 第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）
- 第2週～第3週：フランス語の文字と発音—補強
- 第4週～第9週：フランス語の応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

**「フランス語応用2A」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）**

**目標：**「フランス語応用1A」履修者を対象として、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

**授業内容・授業計画：**

- 第1週：＜応用1A＞の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の応用能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語の応用能力の仕上げ

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

**「フランス語応用1B」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）**

**目標：**「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い発音の仕組み、文の構造を学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成17年（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門3」に読み替えることができる。

**授業内容・授業計画：**

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：フランス語の応用能力への導入
- 第6週～第10週：フランス語の応用能力の初歩的養成
- 第11週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

**「フランス語応用2B」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)**

**目標：**目標：「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17年(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

**授業内容・授業計画：**

- 第1週：<応用1B>の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の応用能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語の応用能力の仕上げ

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

**「フランス語特修1～10」(前期・後期)(全学提供 2単位)**

**目標：**「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、映画、料理、インターネット、新聞、雑誌、マンガ、仏検準備などを通じて、フランス語の会話力、読解力を発展させることを目的とする。

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

## **基礎1・2** (前期)

CI (月・2) 久後 貴行 (非常勤)、(水・1) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト：中村 敦子『アヴェク・トワ!』(白水社)

EI (月・1) 久後 貴行 (非常勤)、(水・2) 津川 廣行 (文)

・テキスト：藤田裕二『新・彼女は食いしん坊! 1』(朝日出版社)

JII (月・1) 藤本 智成 (非常勤)、(水・2) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二『新・えすかるご1』(朝日出版社)

LI (月・2) 白田 由樹 (特任)、(水・1) 福島 祥行 (文)

・テキスト：福島祥行・鈴木田研二『フランス・ミュルティコロール』(青山社)

SI (月・3) 安田 晋也 (非常勤)、(水・4) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：石野好一他『どこにいるの?』(朝日出版社)

MI (月・3) 白田 由樹 (特任)、(水・4) 馬場 加通子 (非常勤)

・テキスト：澤田・Lattanzio・黒川『アミカルマン<ビス>』(駿河台出版社)



HI (月・3) 酒井 美貴 (非常勤)、(水・4) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：藤田裕二他『新・東京ーパリ、初飛行 新訂版』(駿河台出版社)

TI (月・4) 安田 晋也 (非常勤)、(水・3) 馬場加通子 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二他『新・東京ーパリ、初飛行 新訂版』(駿河台出版社)

## 応用 1 A (前期)

JII (金・3) エマヌエル・アンティエ (特任)

・テキスト：Guy Capelle, Robert Menand『Le Nouveau Taxi! 1』(Hachette), Guy Copelle, Robert Menand『Cahier d'exercices 1』(Hachette)

LI (金・4) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：福島祥行・鈴木田研二『フランス・ミュルティコロール』(青山社)

## 応用 1 B (前期)

THII (木・2) 小林 裕史 (非常勤)

・テキスト：石野好一『どこにいるの?』(朝日出版社)

CII (火・2) 岩本 篤子 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二『彼女は食いしん坊 2 - フランス美味探訪の旅 -』(朝日出版社)

## 特修 1 (前期)

全 (火・3) 津川 廣行 (文)

**授業内容**：仏検 (正式名：実用フランス語技能検定試験) 3級に挑むべく、その出題傾向に添って予想問題を解いてゆく。《代名詞に関する問題》だとか《前置詞に関する問題》などの各単元において、「出題例」や「例題」などの解説をしたあと、「練習問題」を解く。宿題の提出など、平常点によって評価する。

・テキスト：『<新訂>完全予想 仏検 3級 - 筆記問題編 -』(駿河台出版社)

## 特修 3 (前期)

全 (火・4) 福島 祥行 (文)

**授業内容**：[manga の世界] 仏訳漫画 (『ハチクロ』『乙男』『君に届け』etc) を素材として会話文を学び、それらの台詞をもちいて会話の練習をおこないます。また、フランス研修の準備をかねた実践にも挑戦でもらいます。予習と積極性は必須。

・テキスト：プリント配付

## 特修 5 (前期)

全 (木・3) エマヌエル・アンティエ (特任)

**授業内容**：フランスを1, 2週間旅行するのに最低限必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。駅や空港、ホテルやレストランなど旅行で想定される様々な場面を設定して会話の練習をします。

・テキスト：内村瑠美子・七尾誠・後藤直樹『Débrouillons-nous!』(白水社)

## 特修 7 (前期)

全 (金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

**授業内容**：インターネットを活用しながら、フランスのテレビ・ラジオ・新聞を通してフランスの「今」の一端をのぞ

いてみます。メディアを通してであれ、現代のフランス社会をわずかでも知ることによって、日本のあり方をあらためて捉え返すよい機会ともなるでしょう。

・テキスト：プリントなどを随時配付。中型の仏和辞典は必ず用意して下さい。

## 特修 9 (前期)

全 (金・4) エマヌエル・アンティエ (特任)

授業内容：趣味や週末の過ごし方など日常生活をテーマにして自分について話せるようになるための表現力を身につけることを目的とします。簡単な文章を書いたり、話したりする練習を主にします。

・テキスト：コピー配付

## 基礎 3 (後期)

CI (月・2) 久後 貴行 (非常勤)

・テキスト：岩間直文『もっと話したくなるフランス語』(朝日出版社)

EI (月・1) 久後 貴行 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二『新・彼女は食いしん坊! 1』(朝日出版社)

JI (月・1) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二『新・えすかるご2』(朝日出版社)

LI (月・2) 酒井 美貴 (非常勤)

・テキスト：福島祥行・鈴木田研二『フランス・ミュルティコロール』(青山社)

SI (月・3) 安田 晋也 (非常勤)

・テキスト：プリント配付

TI (月・4) 安田 晋也 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二他『新・東京——パリ、初飛行 新訂版』(駿河台出版社)

MI (月・3) 白田 由樹 (特任)

・テキスト：澤田・Lattanzio・黒川『アミカルマン<ビス>』

HI (月・3) 酒井 美貴 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二他『新・東京——パリ、初飛行 新訂版』(駿河台出版社)

## 基礎 4 (後期)

CI (水・1) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト：中村敦子『アヴェク・トワ!』(白水社)

EI (水・2) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト：福島祥行・鈴木田研二『フランス・ミュルティコロール』(青山社)

JI (水・2) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二『新・えすかるご2』(朝日出版社)

LI (水・1) 福島 祥行 (文)

・テキスト：福島祥行・鈴木田研二『フランス・ミュルティコロール』(青山社)

SI (水・4) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：石野好一他『どこにいるの?』(朝日出版社)

TI (水・3) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：プリント配付

MI (水・4) 馬場 加通子 (非常勤)

・テキスト：中山真彦『新デパール』(白水社)

HI (水・4) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：福島祥行・鈴木田研二『フランス・ミュルティコロール』(青山社)

## 応用 2 A (後期)

JI (金・3) エマヌエル・アンティエ (特任)

・テキスト：Guy Capelle, Robert Menand『Le Nouveau Taxi! 1』(Hachette), Guy Copelle, Robert Menand『Cahier d'exercices 1』(Hachette)

LI (金・4) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：齊藤広信『シチュアション1』(早美出版社)

## 応用 2 B (後期)

THII (木・2) 小林 裕史 (非常勤)

・テキスト：石野好一『どこにいるの?』(朝日出版社)

CII (火・2) 岩本 篤子 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二『彼女は食いしん坊2 ―フランス美味探訪の旅―』(朝日出版社)

## 特修 2 (後期)

全 (火・3) 岩本 篤子 (非常勤)

**授業内容：**【フランス歌の世界】フランス語の歌(主にポップスと童謡)の内容理解・歌詞の音読・歌唱を通じて、フランス語とフランス文化への理解を深めます。仏和辞典を必ず持参。評価は、小テストの平均点によって行います。

・テキスト：プリントを配付

## 特修 4 (後期)

全 (火・4) 小田中 章浩 (文)

**授業内容：**映画『アメリー』(Le Fabuleux Destin d'Amélie Paulin)を観ながら、文法、語彙、発音のそれぞれについて、そこに用いられているフランス語を学習する。

・テキスト：教場にてプリントを配付する。

## 特修 6 (後期)

全 (木・3) 小林 裕史 (非常勤)

**授業内容：**同時代の音楽・美術・仏語テキストを味わいつつ、フランス(文化)史において時代を画した出来事・人物を取り上げる。魔女狩り、(男女同権の起点としての?)デカルト、啓蒙とそのダークサイドとしてのサド、等。

・テキスト：プリント配付

## 特修 8 (後期)

全(金・3) 藤田 あゆみ (非常勤)

**授業内容:** ワトー、ドラクロワ、マチス、ピカソなどの12の名画についての短いテキストを読みます。絵画の背景や文化、歴史を読み解くと同時に、フランス語の文章の構造についての理解を深め、読解力、表現力をつけます。

・テキスト: オリヴィエ・ビルマン/山懸直子『絵画を読む Lire des tableaux』(青山社)

## 特修10 (後期)

全(金・4) エマヌエル・アンティエ (特任)

**授業内容:** フランス人の生活スタイル、仕事、バカンスなどのフランス文化をテーマに会話の練習をします。適宜、文法説明や、聞き取り、簡単な文章の理解などを含めた総合的な授業内容です。

・テキスト: コピー配付

# 中国語 Chinese

## 学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まってくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

## 目標と評価方法

### 「中国語基礎1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定制 1単位)

**目標：**中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎1・2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用1A」ともリレー式によって授業を進めるので注意すること。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門1・2」に読み替えることができる。

### 授業内容・授業計画：

発音や簡体字に慣れ、基礎的な文法事項を修得して、簡単な会話が行えることを目標とする。

第1週：イントロダクション(中国語・中国文化の特徴に関する概説)

第2週～第4週：声調、母音、子音など、中国語の発音の基礎を身につける。

第5週～第9週：動詞構文、形容詞構文などの文法事項を中心に学習し、中国語の初歩的な運用能力を身につける。

第10週～第14週：前置詞構文や疑問詞疑問文などの文法事項を中心に学習し、中国語の運用能力を高める。

**評価方法：**平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

### 「中国語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定制 1単位)

**目標：**様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用2A」ともリレー式によって授業を進めるので注意すること。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級1」に読み替えることができる。

### 授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週～第4週：完了や進行、経験など、中国語のアスペクト助詞について学び、表現の幅を広げる。

第5週～第9週：可能の助動詞や、動詞に結果・方向・可能の意味合いを付加する補語について学び、より“中国語らしい”表現を身につける。

第10週～第14週：比較や使役の表現や受身文、また疑問詞の不定詞的用法など、学習範囲をひろげ、中国語運用能力の拡充を図る。

**評価方法：**平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。



〔中国語基礎4〕(後期)(学部別提供 クラス指定制 1単位)

目標：様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用し進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用2A」ともりレー式によって授業を進めるので注意すること。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週～第4週：完了や進行、経験など、中国語のアスペクト助詞について学び、表現の幅を広げる。

第5週～第9週：可能の助動詞や、動詞に結果・方向・可能的の意味合いを付加する補語について学び、より“中国語らしい”表現を身につける。

第10週～第14週：比較や使役の表現や受身文、また疑問詞の不定詞的用法など、学習範囲をひろげ、中国語運用能力の拡充を図る。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

〔中国語応用1A〕(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「中国語基礎1・2」と連動させりレー式に授業を進める。ネイティブスピーカーの教員が担当し、早い段階から応用練習に取りくむ。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎クラス〉と連動して授業を行う。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

〔中国語応用2A〕(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「中国語基礎3」「中国語基礎4」と連動させりレー式に授業を進める。ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。後半には、ピンインのついていない短篇の読解にも取り組む予定。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎クラス〉と連動して授業を行う。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

〔中国語応用1B〕(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：前年度後期の「基礎3・4」に続いて中国語を学ぶ学生のために提供する。様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週～第2週：一年次の復習を行う。

第3週～第8週：動詞に結果・方向・可能的の意味合いを付加する補語について学び、中国語らしい表現を身につける。

第9週～第14週：比較や使役、受け身などの表現を学び、中国語運用能力を高める。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「中国語応用 2 B」(後期) (学部別提供 クラス指定 1 単位)

目標：プリントを使って様々な文章を読みながら、補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れるさまざまな構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習を行う。

第2週～第8週：疑問詞の不定的用法など、高度な表現方法を学び、中国語運用能力を拡充する。

第9週～第14週：プリントを用いて、これまで学んだ表現や構文を体系的に把握し、中国語運用能力をより強化する。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「特修1」(前期) (全学提供 2 単位)

「特修2」(後期) (全学提供 2 単位)

目標：1回生の基礎1～4で身につけた正確な発音を基に、自由に会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行う。また口頭作文、言い換え、暗誦などを通して「話す」力も高め、会話でよく用いられる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで話せることを目指す。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修3」(前期) (全学提供 2 単位)

「特修4」(後期) (全学提供 2 単位)

目標：中国語の検定試験に合格する能力を身につけることを目標とする。現在行われている中国語の検定には、主に国内で実施される中国語検定と中国政府主催のHSK(漢語水平考試)とがあるが、今年度は中国語検定3級の取得を目指して訓練する。授業は、リスニング、文法、読解から形成されるが、特にリスニングの比重を大きくする。暗誦や長文読解(ピンインが付いていない文章の多読、速読)などにも一定時間を割き、バランスの取れた語学力の向上を目指す。月に一度は模擬試験の形式により、定着度を測る。また問題の解答・解説に終始するのではなく、日本人学習者のウィークポイントに絞って、その克服に努める。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修5」(前期) (全学提供 2 単位)

「特修6」(後期) (全学提供 2 単位)

目標：中国語を読む力、聴く力を鍛え、中国語の基礎的文献を理解する力を養成すると同時に、そのテキスト内容を通して、急速な成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することを目的とする。テキストは、最近の新聞、雑誌、書籍などから、ふさわしい話題性、問題性に富むものを選び、また必要に応じて書き下ろした。この授業で、中国語を身につけながら、すでにあるステレオタイプな「中国」像ではなく、歴史的、文化的背景に基づいた新しい「中国」像を、自らの手で作り上げてもらいたい。この授業は、テキストの購読を中心とし、文の構造の分析や解釈に重点を置くほか、適宜リスニングも取り入れる。また、テキストの内容に関わる報告やレポートの提出も求める。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点(報告・レポートなど)、学期末試験を総合して判定する。

「特修7」(前期) (全学提供 各2 単位)

「特修8」(後期) (全学提供 各2 単位)

目標：視聴覚教材を用いて、聞き取りと会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらうようにする。

評価方法：出席を前提とし、平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修9」(前期) (全学提供 各2 単位)

「特修10」(後期) (全学提供 各2 単位)

目標：一回生で習った事柄を中心に、日常的な会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、できるだけ中国語を多く使って授業を行う。自然な中国語に近づけるよう訓練する。

評価方法：出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

## 基礎 1・2 (前期)

CIa (月・2) 豊田 周子 (非常勤)、(水・1) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

CIb (月・2) 秋岡 英行 (非常勤)、(水・1) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

CIc (月・2) 福田 知可志 (非常勤)、(水・1) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

EIa (月・1) 秋岡 英行 (非常勤)、(水・2) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

EIb (月・1) 福田 知可志 (非常勤)、(水・2) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

EIc (月・1) 韓 艶玲 (非常勤)、(水・2) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

JIa (月・1) 山口 久和 (文)、(水・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

JIb (月・1) 豊田 周子 (非常勤)、(水・2) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

LIa (月・2) 大岩本 幸次 (文)、(水・1) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

LIb (月・2) 韓 艶玲 (非常勤)、(水・1) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

MIHIa (月・3) 山口 久和 (文)、(水・4) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

HIb (月・3) 長谷川 慎 (非常勤)、(水・4) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

TIa (月・4) 豊田 周子 (非常勤)、(水・3) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

TIb (月・4) 長谷川 慎 (非常勤)、(水・3) 梁 淑珉 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

TIc (月・4) 岩本 真理 (文)、(水・3) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上』(白帝社)

## 応用 1 A (前期)

JIa (金・3) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

J I b (金・3) 馮 艷 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

L I a (金・4) 范 紫江 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

L I b (金・4) 馮 艷 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

## 応用 1 B (前期)

C II a (火・2) 馮 艷 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

C II b (火・2) 梁 淑珉 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

C II c (火・2) 張 新民 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

T II (木・1) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

H II a (木・2) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

H II b (木・2) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艷玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

## 特修 1 (前期)

全 (月・3) 韓 艷玲 (非常勤)

**講義内容**：基礎 1～4 で身につけた正確な発音を基に、自由な会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。聞く力、話す力の向上を目指す。

・テキスト：塚本慶一・劉穎『2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

## 特修 3 (前期)

全 (火・3) 岩本 真理 (文)

**講義内容**：中国語検定 4 級レベルのリスニング問題に取り組みつつ、所定テキストを使用して、中級レベルの文法事項の習得、語彙力の強化を図る。

・テキスト：山下輝彦・蘇英霞『中国語を語る～文化と生活～』(金星堂)

## 特修 5 (前期)

全 (水・3) 井出 克子 (非常勤)

**講義内容**：中国語の読む力、聴く力を鍛え、基本的文献を理解する力を養成する。また、教材を通じて急速に成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することも目的とする。

・テキスト：松浦恒雄・池平紀子・王標・鈴木康予『チャイナ・アップデート』(白帝社)

## 特修 7 (前期)

全 (木・3) 張 新民 (文)

講義内容：視聴覚教材を用いて聞き取り練習、会話練習を中心に授業を進め、「聞く」、「話す」力を高めることを目標とする。

・テキスト：プリント配付

## 特修 9 (前期)

全 (金・3) 范 紫江 (非常勤)

講義内容：実践的な会話力を養うことを目標とする。聞く力、話す力を高めるため、授業はできるだけ中国語によって行う。会話がよく用いられる表現を習得し、自然なリズムで話すことを目指す。

・テキスト：胡金定『中級中国語 会話スキット24』(同学社)

## 基礎 3 (後期)

CIa (月・2) 豊田 周子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

CIb (月・2) 秋岡 英行 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

CIc (月・2) 福田 知可志 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

EIa (月・1) 秋岡 英行 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

EIb (月・1) 福田 知可志 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

EIc (月・1) 韓 艶玲 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

JIa (月・1) 山口 久和 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

JIb (月・1) 豊田 周子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

LIa (月・2) 大岩本 幸次 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

LIb (月・2) 韓 艶玲 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

MIH1a (月・3) 大岩本 幸次 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

HIb (月・3) 長谷川 慎 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)



T I a (月・4) 豊田 周子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

T I b (月・4) 長谷川 慎 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

T I c (月・4) 岩本 真理 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

## 基礎 4 (後期)

C I a (水・1) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

C I b (水・1) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

C I c (水・1) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

E I a (水・2) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

E I b (水・2) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

E I c (水・2) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

J I a (水・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

J I b (水・2) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

L I a (水・1) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

L I b (水・1) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

M I H I a (水・4) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

H I b (水・4) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

T I a (水・3) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

T I b (水・3) 梁 淑珉 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

T I c (水・3) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

## 応用 2 A (後期)

J I a (金・3) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

J I b (金・3) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

L I a (金・4) 范 紫江 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

L I b (金・4) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

## 応用 2 B (前期)

C II a (火・2) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

C II b (火・2) 梁 淑珉 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

C II c (火・2) 張 新民 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

T II (木・1) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

H II a (木・2) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 下』(白帝社)

H II b (木・2) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：プリント配付

## 特修 2 (後期)

全 (月・3) 韓 艶玲 (非常勤)

**講義内容**：基礎1～4で身につけた正確な発音を基に、自由な会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。聞く力、話す力の向上を目指す。

・テキスト：塚本慶一・劉穎『2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

## 特修 4 (後期)

全 (火・3) 岩本 真理 (文)

**講義内容**：中国語検定 3 級レベルのリスニング問題に取り組みつつ、所定テキストを使用して中級レベルの文法事項の習得、語彙力の強化を図る。長文読解問題にも取り組む。

・テキスト：山下輝彦・蘇英霞：『中国を語る～文化と生活～』（金星堂）

## 特修 6 (後期)

全 (水・3) 井出 克子 (非常勤)

**講義内容**：中国語を読む力、聴く力を鍛え、基礎的文献を理解する力を養成する。また教材を通じて、急速に成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することも目的とする。

・テキスト：松浦恒雄・池平紀子・王標・鈴木康代『チャイナ・アップデート』（白帝社）

## 特修 8 (後期)

全 (木・3) 張 新民 (文)

**講義内容**：視聴覚教材を用いて聞き取り練習、会話練習を中心に授業を進め、「聞く」、「話す」力を高めることを目標とする。

・テキスト：プリント配付

## 特修10 (後期)

全 (金・3) 范 紫江 (非常勤)

**講義内容**：実践的な会話力を養うことを目標とする。聞く力、話す力を高めるため、授業はできるだけ中国語によって行う。会話がよく用いられる表現を習得し、自然なリズムで話すことを目指す。

・テキスト：胡金定『中級中国語 会話スキット24』（同学社）

## ロシア語 Russian

### 学習の意義

国内の経済格差は解消されていないが、ロシアの経済は好調である。かつての「暗い、寒い、貧しい」というロシアのイメージは完全に払拭された感がある。国章の双頭の鷲のように、今ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアに目を向けている。村上春樹など日本の作家が読まれ、三島由紀夫の研究者ボリス・アクーニン（悪人からとったペンネーム）の推理小説が爆発的な人気を呼んだのもかなり以前の話だ。長寿国日本の食生活への関心は高く、「すし屋」(?)の看板がやたらと目に付く。ペテルブルグ（大阪市の姉妹都市）に正式に日本語学校が開かれたのは1736年、日本でロシア語を教えるようになったのは1873年（明治6年）。この130年以上の開きは今も両国の関心度の差になってはいないだろうか。ロシアの魅力は何か、と問われたら、昔は、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴーリキイなど）、という答えが多かった。延々と続くロシアの白樺の林、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ムソルグスキイ、ラフマーニノフなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きない。ロシア語は国連の公用語のひとつ。世界一広い国土（地球上の六分の一）を有する隣国の言葉です。ロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。ロシア民謡の一節を口ずさみながら。（雪の白樺並木、夕日が映える、走れトロイカ朗らかに、鈴の音高く）

### 目標と評価方法

#### 「ロシア語基礎1・2」(前期) (2クラス提供 2単位)

**目標：**担当者は異なるが、それぞれ創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化（歌、映画など）を紹介する。この「基礎1・2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎3」「基礎4」まで継続することが望ましい。

なお、平成17年（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

#### 授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）
- 第2週～第3週：ロシア語の文字と発音
- 第4週～第8週：ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

**評価方法：**出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

#### 「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」(後期) (各2クラス提供 各1単位)

**目標：**ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も採用する。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

#### 授業内容・授業計画：

〈基礎3〉

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

〈基礎4〉

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語応用1A」（前期）（全学提供「文学部必修」1単位）

目標：ロシア語をより確実に学習するためのクラスで、ネイティブの教員が担当する。発音が主として中心になるが、学習に参加する学生との「ふれあい」を大切に授業を行う。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）
- 第2週～第3週：ロシア語の文字と発音の補強
- 第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

評価方法：平常点を加味して、定期試験を行う。

「ロシア語応用2A」（後期）（全学提供「文学部必修」1単位）

目標：ロシア語の日常用いる平易な表現を使って、役に立つ会話を実践する。生きたロシア語の表現を学ぶクラスで、ネイティブの教員が担当する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

評価方法：平常点を加味して定期試験を行う。

「ロシア語応用1B」（前期）「ロシア語応用2B」（後期）（全学提供 各1単位）

目標：1年次に修得した事項をより確かなものにするため、役に立つ会話を中心に、会話と読解の基礎を構築する。ネイティブの教員が担当する。

授業内容・授業計画：

〈応用1B〉

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：ロシア語応用能力の導入
- 第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

〈応用2B〉

- 第1週：〈応用1B〉既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

評価方法：出席状況など平常点、および定期試験で総合的に行う。

「ロシア語特修1」（前期）「ロシア語特修2」（後期）（全学提供 各2単位）

目標：「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得し、さらに学びたいという意欲のある学生を対象に、様々な映像を活用してロシアの文化（音楽、演劇、映画など）を学びながらロシア語の知識を習得し、ロシア語の運用能力の向上を目指す。

評価方法：平常点を加味し定期試験で行う。



「ロシア語特修3」(前期)「ロシア語特修4」(後期)(全学提供 1単位)

目標:「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得した学生を対象に、基本的文法事項の復習をしつつ、会話と読解の力の向上を目指す。ネイティブの教員が担当し、ロシアの風俗・習慣やロシア人の暮らし振りなどを紹介しつつ、高度のコミュニケーション能力を身につけてもらう。

評価方法:平常点を加味して、定期試験で判断する。

## 基礎1・2 (前期)

商・経・法・文I (月・3) エレーナ・キリーロワ (非常勤)

授業内容:キリル文字と発音に慣れること、簡単な表現を習得することを目標とする。各テーマに沿って練習を行う。

「文字と発音Ⅰ」「文字と発音Ⅱ」「文字と発音Ⅲ」「これは何ですか」「国と人」「私の家族」「ロシア人の名前と姓」「あなたは何をしていますか」「私はロシア語を勉強しています」「私は音楽が好きです」「あなたは何が欲しいですか」「ボルシチを下さい」「何時ですか」「私は20歳です」「まとめ」

成績評価の方法:定期試験と平常点で総合的に評価する。

・テキスト:中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』(白水社)改訂版

理・工・医・生科I (月・2) 浅岡 宣彦 (特任)

商・経・法・文I (水・4) 浅岡 宣彦 (特任)

授業内容:平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進め、同時にロシア語の骨組みを理解してもらう。

ロシアの歌、映画などを紹介しつつ、ロシアおよびロシア文化への理解を深めてもらう。

成績評価の方法:「基礎1・2」で総合的に行う。

・テキスト:黒田龍之介『ロシア語文法への旅』(大学書林)適宜プリントを配布する。

工・医・生科I (水・1) ゴヴォルノワ・アリョーナ (非常勤)

授業内容:ロシア語の発話能力を身につけてもらう。またロシア語独特の発音の練習、基本的な表現と語彙の習得に加えて、ロシアの文化や歴史、風俗習慣の情報も取り入れる。

成績評価の方法:「基礎1・2」で総合的に行う。

・テキスト:中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』(白水社)改訂版

## 応用1A (前期)

全I (金・4) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

授業内容:文字と発音に慣れ、簡単な表現を修得する事を目標とする。アルファベット・発音・基本的語彙の習得、人称代名詞、動詞の現在形、過去形、格変化、前置格・前置詞、対格、命令形、生格、所有代名詞、形容詞の性と数を取り扱う。

成績評価の方法 定期試験の成績

・テキスト:『ロシア語習字ノート』(ナウカ)、プリント配布

## 応用1B (前期)

全II (月・4) エレーナ・キリーロワ (非常勤)

授業内容:基礎的な会話能力の習得を目指す。各テーマに沿って会話と聞き取りを中心とした練習を丁寧に行う。「自己紹介」「私の家族」「私の一日」「私の大学」「私の町」「私の家」「趣味」「お店にて」「私の休暇」「劇場にて」「交通機関」「誕生日」「ホテルにて」「レストランにて」「まとめ」

成績評価の方法:定期試験と平常点で総合的に評価する。

・テキスト:プリント配布

## 特修1 (前期)

全II (水・3) 浅岡 宣彦 (特任)

授業内容:授業内容:映画やオペラの映像を用いてロシアの文化を紹介し、特に民謡、ロマンスなどのテキストを通し

て、復習を兼ねながらロシア語の知識を確実なものにしていく。

**成績評価の方法**：平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

・テキスト：適宜、プリントを配布する。

## 特修 3 (前期)

全 (金・3) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

**授業内容**：教科書『ロシア語教程Ⅰ』の第12課まで復習しつつ学ぶことを目標とする。関係代名詞の用法、無人称文(副詞と述語)、数詞(40-2000)、動詞の体(その3)、出発と到着の表現、形容詞、人称代名詞、所有代名詞の前置格、形容詞、所有代名詞、指示代名詞の与格、動詞の体(その4)、体調の表現、西暦年代、を取り扱う。

**成績評価の方法**：平常点を加味して、定期試験の成績

・テキスト：『ロシア語教程Ⅰ』(東京ロシア語学院)

## 基礎 3 (後期)

理・工・医・生科Ⅰ (月・2) 浅岡 宣彦 (特任)

**授業内容**：前期の教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ビデオ教材を用いてロシアの魅力を多方面から紹介する。

**成績評価の方法**：平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

・テキスト：黒田龍之介『ロシア語文法への旅』(大学書林)他に適宜プリント配布。

商・経・法・文Ⅰ (月・3) エレーナ・キリーロワ (非常勤)

**授業内容**：「聞く・話す・読む・書く」力の基礎を養い、コミュニケーション的な表現力を開発する。各テーマに沿って練習を行う。「どこへ行くところですか」「私は車を持っています」「今日は何曜日ですか」「明日は何をするつもりですか」「昨日は何をしていましたか」「私は日本に住んでいます」「私は手紙を書いています」「お誕生日おめでとう」「まだ本を読み終えていません」「何月ですか」「今日は寒いですか」「あなたはどこから来ましたが」「私はロシアへ行く予定です」「まとめ」

**成績評価の方法**：定期試験と平常点で総合的に評価する。

・テキスト：中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』(白水社)改訂版

## 基礎 4 (後期)

理・工・医・生科Ⅰ (水・1) ゴヴォルノワ・アリョーナ (非常勤)

**授業内容**：前期の授業を継続し、受講者のロシア語発話能力の向上を計る。同時に、学習者の必要に応じて、ロシア語文法の難解な事項を用例を用いて易しく説明する。現代ロシアの情報を取り入れる。

**成績評価の方法**：平常点、定期試験の成績で総合的に行う。

・テキスト：中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』(白水社)改訂版

商・経・法・文Ⅰ (水・4) 浅岡 宣彦 (特任)

**授業内容**：前期教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ビデオ教材を用いてロシアの魅力を多方面から紹介する。

**成績評価の方法**：平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

・テキスト：黒田龍之介『ロシア語文法への旅』(大学書林)適宜プリントを配布する。

## 応用 2 A (後期)

全Ⅰ (金・4) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

**授業内容**：「聞く・話す・読む・書く」力の基礎力を養う。運動の動詞、与格、動詞の未来形、数字と名詞の結びつき、造格、完了体、不完了体、指示代名詞の性と数、動詞・副詞・活動体・不活動体(対格)、総合練習、を取り扱う。

**成績評価の方法**：平常点を加味して、定期試験の成績

・テキスト：プリントを配布

## 応用 2 B (後期)

全Ⅱ (月・4) エレーナ・キリーロワ (非常勤)

**授業内容：**授業はロシア語で進め、表現能力の幅を広げることを目標とする。各テーマに沿って会話と聞き取りを中心とした練習を継続する。「ロシアの詩文学」「ロシアの民話Ⅰ」「ロシアの民話Ⅱ」「ロシアの文学Ⅰ」「ロシアの文学Ⅱ」「ロシアの文学Ⅲ」「ロシアの町の歴史と建築Ⅰ」「ロシアの町の歴史と建築Ⅱ」「ロシアの町の歴史と建築Ⅲ」「ロシアの町の歴史と建築Ⅳ」「ロシアの芸術Ⅰ」「ロシアの芸術Ⅱ」「ロシアの映画Ⅰ」「ロシアの映画Ⅱ」「まとめ」

**成績評価の方法：**定期試験と平常点で総合的に判断する。

・テキスト：プリントを配布

## 特修 2 (後期)

全 (水・3) 浅岡 宣彦 (特任)

**授業内容：**「ロシア語特修Ⅰ」を継続する。後期はロシアの文芸映画を中心に素材を集め、文法と会話の習熟度を高めることを留意する。並行して、ロシアの歴史と文化を紹介し、ロシアへの関心と理解を深めてもらう。

**成績評価の方法：**平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

・テキスト：プリントを配布する。

## 特修 4 (後期)

全 (金・3) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

**授業内容：**『ロシア語教程Ⅰ』の残りを仕上げ、コミュニケーティヴ・アプローチによる運用能力の向上を目指す。数量の表現、複数生格、数詞 (3000-5000000)、動詞の体 (その5)、活動体対格 (複数)、複数与格、造格、前置格、形容詞短語尾、形容詞・比較級、副動詞、形動詞、を取り扱う。

**成績評価の方法：**平常点を加味して、定期試験の成績

・テキスト：教科書『ロシア語教程Ⅰ』(東京ロシア語学院)

# 朝鮮語 Korean

## 学習の意義

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の方が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

## 目標と評価方法

「朝鮮語基礎1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定 2単位)

**目標：**ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

### 授業内容・授業計画：

第1回 ハングルの歴史と構造

文字の成り立ちの理解。

第2～4回 文字と発音(基礎母音・基礎子音・激音・濃音・合成母音など)

ハングル文字の正確な発音と書き方の習得。

第5～8回 単語の読み方、基礎的な構文(体言の肯定・否定・場所の表現・助詞)

文章における発音の規則、名詞を中心とした表現の習得。

第9～12回 用言の肯定・否定、存在詞を用いた表現

動詞・形容詞を用いた構文と語法の習得。

第13～15回 進行形・敬語表現・数詞(固有数詞、漢数詞)など

基礎的な会話表現と数量表現の習得。

**評価方法：**定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

**目標：**「朝鮮語基礎1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級1」に読み替えることができます。

### 授業内容・授業計画：

第1～4回 連体形・命令表現

活用の中心となる連体形と丁寧な命令形の習得。

第5～8回 連用形・略待表現・過去形表現

母音調和の法則の理解と会話的表現の習得。

第9～12回 不可能・変則活用・希望表現など

さまざまな表現、および不規則活用の習得。

第13～15回 目的・意図表現・ぞんざい終止形

語法の仕上げと論説文体の習得。

**評価方法：**定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

**目標：**「朝鮮語基礎1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法（可能表現や婉曲語法など）や活用（不規則活用など）や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級2」に読み替えることができます。

**授業内容・授業計画：**

第1～4回 連体形・命令表現

活用の中心となる連体形と丁寧な命令形の習得。

第5～8回 連用形・略待表現・過去形表現

母音調和の法則の理解と会話的表現の習得。

第9～12回 不可能・変則活用・希望表現など

さまざまな表現、および不規則活用の習得。

第13～15回 目的・意図表現・ぞんざい終止形

語法の仕上げと論説文体の習得。

**評価方法：**定期試験と小テスト（中間テスト、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用1A」（前期）（全学提供 1単位）

**目標：**「朝鮮語基礎1・2」を履修中の人を対象に、「基礎1・2」と連携しながら、ハングル文字の発音からはじめ、朝鮮語の基礎的な構造と活用形（連体形・連用形・過去形など）や、日常生活でよく用いられる主な語法（仮定法や比喩表現など）と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざすのは基礎クラスと同じですが、それに加えて、ビデオ教材なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解の十分なまでにはまだ至りません。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

**評価方法：**定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用2A」（後期）（全学提供 1単位）

**目標：**「朝鮮語応用1A」を履修した人を対象に、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、日常生活で頻出する主な語法（可能表現や婉曲語法など）や活用（不規則活用など）や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力を養成するとともに、ビデオ教材を活用し、ニュースや映画などの生き生きした言葉に触れ、朝鮮語の感覚に慣れるようつとめます。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級3」に読み替えることができます。

**評価方法：**定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。



### 「朝鮮語応用1B」(前期) (全学提供 1単位)

**目標:** 「朝鮮語基礎1・2」の履修を終えた人を対象に、「基礎1・2」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、新たに日常生活でよく用いられる語法や語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などが独力でできる、いわゆる独り立ちできる語学力が目的です。また、ビデオ教材(ニュース・映画など)なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、やや高度な会話や構文を理解できるようになります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

**評価方法:** 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

### 「朝鮮語応用2B」(後期) (全学提供 1単位)

**目標:** 「朝鮮語応用1B」の履修を終えた人を対象に、「応用1B」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、より高度な語法や語彙を習得し、日常会話や読解に使える実践的な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などのスピードアップが独力が目的です。また、ビデオ教材(ニュース・映画など)なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、比較的高度な会話や構文を理解できるようになります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

**評価方法:** 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

### 「朝鮮語特修1」(前期) (全学提供 1単位)

### 「朝鮮語特修2」(後期) (全学提供 1単位)

**目標:** 語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。そのためにネイティブの教師が少人数クラスで集中的な授業を行い、正確な発音と作文力や読解力・語彙力を養成しながら、自然な表現の獲得を目指します。また、受講生の要望に応じ、検定試験対策も試みます。

**評価方法:** 定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な発表が重視されます。

### 「朝鮮語特修3」(前期) (全学提供 2単位)

### 「朝鮮語特修4」(後期) (全学提供 2単位)

**目標:** 教科書の中にある言葉ではなく、映画に登場する会話や新聞・雑誌などの文章をテキストとしながら、実際に使われている「生きた言葉」に触れることを目的とします。

語学的な理解のみならず、現代韓国の社会や伝統文化など、感性においてもより深いアプローチができることをめざします。

**評価方法:** 定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な質疑応答が重視されます。

## 基礎1・2 (前期)

CTI (月・2) 野崎 充彦 (文)、(水・3) 金 宝英 (特任)

**授業内容:** ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト: 高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

EMHI (月・3) 野崎 充彦 (文)、(水・4) 高 秀賢 (特任)

**授業内容:** ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト: 高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

JL I (月・4) 野崎 充彦 (文)、(水・4) 金 宝英 (特任)

**授業内容：**ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。  
・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

## 応用 1 A (前期)

全 I (木・3) 高 秀賢 (特任)

**授業内容：**基礎 1・2 と並行して朝鮮語の文字発音や基礎文法、主な語法などを習得していきませんが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題により評価します。  
・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』(白帝社)

## 応用 1 B (前期)

全 II (木・4) 高 秀賢 (特任)

**授業内容：**基礎クラスで学び残した語法をマスターして確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的シチュエーションに適した会話を通じ、短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題により評価します。  
・テキスト：李昌圭『韓国語を学ぼう』(朝日出版社)

## 特修 1 (前期)

全 (水・3) 高 秀賢 (特任)

**授業内容：**少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期試験・小テスト・課題により評価します。  
・テキスト：プリント配付

## 特修 3 (前期)

全 (木・2) 野崎 充彦 (文)

**授業内容：**より実践的な内容に重点を置きながら、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるように、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には映画のセリフや、新聞・雑誌などの文章をテキストに、「生きた言葉」に触れることを目的とします。定期テストのほか、授業中の質疑応答などにより評価します。  
・テキスト：プリント配付

## 基礎 3 (後期)

CT I (月・2) 野崎 充彦 (文)

**授業内容：**基礎 1・2 で学んだ事柄を復習しながらさらに学習を進め、規則活用や不規則活用、および日常生活でよく用いられる語法(可能・不可能表現や婉曲語法など)を習得していきます。また、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。  
・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

EMH I (月・3) 野崎 充彦 (文)

**授業内容：**前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

JL I（月・4）野崎 充彦（文）

**授業内容**：前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

## 基礎 4（後期）

CTI（水・3）金 宝英（特任）

**授業内容**：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト：金・喜多『パラッセ韓国語』初級（朝日出版社）

EMH I（水・4）高 秀賢（特任）

**授業内容**：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

JL I（水・4）金 宝英（特任）

**授業内容**：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：金・喜多『パラッセ韓国語』初級（朝日出版社）

## 応用 2 A（後期）

全 I（木 3）高 秀賢（特任）

**授業内容**：基礎 3・4 と並行して朝鮮語の基礎文法、主な語法などを習得していきませんが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』（白帝社）

## 応用 2 B（後期）

全 II（木 4）高 秀賢（特任）

**授業内容**：基礎クラスで習得した事柄を復習しながら、確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には日常会話でよく用いられる語法を中心に短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：李昌圭『韓国語を学ぼう』中級（朝日出版社）

## 特修 2（後期）

全（水・3）高 秀賢（特任）

**授業内容**：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：プリント配付

## 特修 4 (後期)

全 (木・2) 野崎 充彦 (文)

**授業内容：**より実践的な内容に重点を置きながら、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるように、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には映画のセリフや、新聞・雑誌などの文章をテキストに、「生きた言葉」に触れることを目的とします。定期テストのほか、授業中の質疑応答などにより評価します。

・テキスト： プリント配付

## 日本語 Japanese

### 学習の意義

留学生にとって日本語の習得がいかに大切なものであるかは、いうまでもない。ただ、日本語の習得といっても、その内容はさまざまである。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアによる日本語の言葉を通しての娯楽など。しかし、ここでは大学生活にとって必要な日本語の習得である。大学生活を実り豊かにするために学習・研究活動のための十分な日本語能力を身につけることが肝要である。学習活動に必要な日本語能力とは講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力などである。研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで、要約し、ゼミなどで発表する、あるいはレポートをまとめたり、論文を書く能力である。「日本語1～4」ではそのような能力の養成につとめる。なお、それぞれ内容や目的が異なるので、留学生は順次全てを履修することが望まれる。なお、「日本語5」は短期留学や交換留学生を対象とした科目である。

### 目標と評価方法

#### 「日本語1 A・1 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。具体的には①高度な論説文の読解力をつける。②むずかしい言葉・漢字を習得する。③内容を要約する力をつける。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

#### 「日本語2 A・2 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力をつける。①論文などを要約・説明・発表する。②レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を身につける。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

#### 「日本語3 A・3 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、さまざまな文献を読みこなす力を養う。①高度な論説文を読み、論点を整理する。②多彩な文献の速読能力を養う。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

#### 「日本語4 A・4 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語で議論する能力を養う。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようになることを目指す。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

#### 「日本語5 A・5 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に要する日本語能力を身につける。短期留学や交換留学の学生、とくに非漢字文化圏の学習者に対応した学習内容とする。履修に関しては担当者の許可を必要とする。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。



## 1 A (前期)

全 (月・3) 高坂 史朗 (文)

**授業内容：**その日の新聞を読む。政治・経済・社会・文化・生活などさまざまな新聞記事を速読する。それによって日本の現在を知る。

・テキスト：授業時にプリント配布。

## 1 B (後期)

全 (月・3) 高坂 史朗 (文)

**授業内容：**日本語に関する文章を読む。それによって、日本の特色を知る。速読形式で行う。

・テキスト：授業時にプリント配布。

## 2 A (前期)

全 I (火・3) 坂本 美加 (非常勤)

**授業内容：**簡単な作文を通じてレポート・論文といった論理的な文章を書くために必要な基礎的事項について学ぶ。

・テキスト：二通信子・佐藤不二子『留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク) 他

## 2 B (後期)

全 I (火・3) 坂本 美加 (非常勤)

**授業内容：**レポート・論文を書くための作文練習を行う。

・テキスト：授業時に指示する。

## 3 A (前期)

全 II (月・2) 高坂 史朗 (文)

**授業内容：**日本の文学作品を読む。川端康成「伊豆の踊り子」・三島由紀夫「潮騒」など前もって読み、章ごとに発表・鑑賞する。

・テキスト：授業時に指示する。

## 3 B (後期)

全 II (月・2) 高坂 史朗 (文)

**授業内容：**司馬遼太郎・ドナルドキーン「日本人と日本文化」(中公新書)を読み、日本の歴史と文化を考察する。

・テキスト：授業時に指示する。

## 4 A (前期)

全 II (火・4) 坂本 美加 (非常勤)

**授業内容：**口頭発表技術を高める活動を中心に行う。各自が設定したテーマで発表を行い、クラスで討論する。

・テキスト：授業時に指示する。

## 4 B (後期)

全 II (火・4) 坂本 美加 (非常勤)

**授業内容：**口頭発表技術を高める活動を中心に行う。より実践的な形での発表練習をする。

・テキスト：授業時に指示する。

## 5 A (前期)

全Ⅱ (水・4) 高坂 史朗 (文)

**授業内容：**大阪・京都・奈良・神戸の歴史と文化を学ぶ。この授業は非漢字圏の交換留学生を対象とする授業である。  
・テキスト：授業時に指示する。

## 5 B (後期)

全Ⅱ (水・4) 高坂 史朗 (文)

**授業内容：**この授業は非漢字圏の交換留学生を対象とする授業である。内容はその日の新聞を読み、日本の現在を知る。  
熟読し、漢字を覚えることを主眼とする。  
・テキスト：授業時に指示する。

## (2) 第 2 部

英 語

ド イ ツ 語

フ ラ ン ス 語

中 国 語

ロ シ ア 語

朝 鮮 語

## 英語 English

(平成20年度入学者用)

## カリキュラム概要

本年度、本学の二部の英語カリキュラムが改編される。きめ細かな指導を行うため、1年、2年共に、従来のクラスサイズより少人数のクラス編制とする。また、必修科目としてCollege English(CE)が1年で4時間、2年で2時間の合計6時間提供される。このことにより、市大生に求められる英語運用能力の習得を目指す。

1年は、前・後期の授業を通して、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標としている。CE IとCE IIIは、リスニング・リーディング中心、CE IIとCE IVは、スピーキング・ライティング中心のクラスである。前期の目標は、中学・高校で習得した基本的な英語の運用能力に基づきながら、大学生の知的レベルに合った話題を扱い、4技能の基礎的能力を育成・強化することにある。後期は前期の授業を発展させ、大学生の知的好奇心を満足させる話題を扱いながら、4技能の応用力を培うことにより、英語で大意を把握し、同時に表現する能力の開発を目指す。

2年では、1年に培った英語力に基づき、応用力・実践力を身につけることを目的とする。1年に習得した英語運用能力をさらに発展させ、専門教育につながる高度なレベルのリーディング・ライティング能力の習得に重点を置いた授業を行う。CEVでは、1年次のCE I～IVの成果を踏まえ、多読とパラグラフ・ライティングを取り入れた授業を行う。CEVIは、専門に近い英文の読解力、並びに、表現力の養成を目標とする。

また、意欲的な学生を対象に、プレゼンテーションのような高度な英語運用能力の習得を目指した自由選択科目のAdvanced College English(ACE)を開講する。

## 英語カリキュラム編制表

必修科目				選択科目
1年	前期	CE I	CE II	ACE
	後期	CE III	CE IV	
2年	前期	CE V		
	後期	CE VI		

## 履修科目内容

## &lt;1年&gt;

## (1) College English I (CE I)

**目標：**中学・高校で習得した英語のリスニング・リーディングに関する基本的運用能力をさらに伸ばすことを目指す。

授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて理解する際に必要な基礎的な聴解力、並びに、英語を読んで理解する際に求められる基礎的な読解力を習得することを目的とする。

**評価方法：**定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

**段階別到達度：**半期授業の前半と後半でリスニングとリーディングの比重を変える。

- (1) 前半はリスニングよりもリーディングに重点を置き、基本的な読解力を養成する。
- (2) 後半はリーディングよりもリスニングに重点を置き、基本的な聴解力を養成する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
J/L I a	月・2	山本	C/E I a	火・1	野末
J/L I b	月・2	関	C/E I b	火・1	衣笠
J/L I c	月・2	瀬戸	C/E I c	火・1	田中一

## (2) College English II (CE II)

**目標：**中学・高校で習得した英語のスピーキング・ライティングに関する基本的運用能力をさらに伸ばすことを目指す。  
授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語の音声と文字で自分の考えを表現する際に必要な基本的発信能力の習得を目的とする。

**評価方法：**定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

**段階別到達度：**半期授業の前半と後半でスピーキングとライティングの比重を変える。

- (1) 前半はスピーキングよりもライティングに重点を置き、基本的表現力を養成する。
- (2) 後半はライティングよりもスピーキングに重点を置き、基本的表現力を養成する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
J/L I a	水・1	(ジョーンズ)	C/E I a	木・2	(チェン)
J/L I b	水・1	古賀	C/E I b	木・2	岩田
J/L I c	水・1	田中孝	C/E I c	木・2	荒木

## (3) College English III (CE III)

**目標：**前期の授業を発展させ、リスニング・リーディングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解するための聴解力、並びに、英語の文章を読み的確に理解するための読解力の養成を目的とする。

**評価方法：**定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

**段階別到達度：**前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 前半は、前期培った基本的な読解力を基に、さらなる向上を目指す。
- (2) 後半は、前期培った基本的な聴解力を基に、さらなる向上を目指す。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
J/L I a	月・2	関	C/E I a	火・1	衣笠
J/L I b	月・2	瀬戸	C/E I b	火・1	杉井
J/L I c	月・2	山本	C/E I c	火・1	野末



(4) College English IV (CE IV)

目標：前期の授業を発展させ、スピーキング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で文章を正確に書く能力、並びに、自分の考えを英語で適切に話す能力を養うことを目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

段階別到達度：前期と比べ、扱う言語データ量（文字）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 前半は、前期培った基本的な書く能力を基に、さらなる表現力の向上を目指す。
- (2) 後半は、前期培った基本的な話す能力を基に、さらなる表現力の向上を目指す。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
C/E I a	水・1	田中孝	J/L I a	木・2	山崎
C/E I b	水・1	(ジョーンズ)	J/L I b	木・2	(チェン)
C/E I c	水・1	井狩	J/L I c	木・2	高島

(5) College English V (CE V)

多読とパラグラフ・ライティングを取り入れた授業を行う。CE Vは、CE I～IVの総仕上げの意味を持つ。長文を読み、長文を書く能力を身につけることを目標とする。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
L II	月・1	山本	C/E II b	木・1	高島
C/E II a	木・1	(チェン)			

(6) College English VI (CE VI)

専門に近い英文の読解力、並びに、表現力の養成を目標とする。単に英文が読める、書けるということではなく、専門的な内容について、読み書きできる基本的な能力を育成することを目標とする。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
L II	月・1	山本	C/E II b	木・1	(チェン)
C/E II a	木・1	荒木			

< 2部 >

### Advanced College English (ACE)

Advanced College EnglishはCollege English (CE) で培った英語運用能力よりもさらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

### Advanced College English (ACE) の履修方法について

ACEの履修については、各学部の要覧等で確認すること。

#### (1) 履修の受付について

ACE科目の受講を希望する者は、第2部事務室で「指定用紙」を受け取り、記入して、前期については4月6日(月)午後9時15分までに第2部事務室内のボックスに入れること。「指定用紙」を提出していない者の履修は認めない。

希望者多数の場合は抽選を行う。受講確定者は、前期については4月7日(火)午後3時に、第2部事務室前に掲示する。

ただし、

- ① 上回生優先とする。
- ② 10年度以降の入学者は、1セメスター1科目とする。  
後期の受講については、7月中旬に掲示するので見ておくこと。

#### (1) 9年度以前入学者の単位読み替えについて

ACEは、9年度以前開講の特修英語の単位として読み替える。

#### (2) クラス規模について

各科目とも25名を上限とする。

#### 「ACE : TOEIC650」(前期) (全学提供 1単位)

**目標:** 目標:企業で海外出張の対象となる基準点突破を目標とした様々な訓練を行う。データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

**評価方法:** 出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

#### 「ACE : Critical Writing」(後期) (全学提供 1単位)

**目標:** ある問題やトピックを主体的に設定し、その問題、あるいはトピックに関する資料を検索、収集、分析、統合、最終的に、問題提起や問題解決の提示、新たな説の展開等という形で自らの考えを表現する力を養成する。

**評価方法:** 出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

#### 「ACE : Media English」(前期) (全学提供 1単位)

**目標:** 現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。本講座では、特に、ジャーナリストイックな英語の読解力、聴解力の強化を目的としている。

**評価方法:** 出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

#### 「ACE : Discussion」(後期) (全学提供 1単位)

**目標:** 筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

**評価方法:** 出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

第2部外国語

前期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEIC 650	全	水・1	リチャーズ
Media English	全	水・2	(ジョーンズ)

後期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
Critical Writing	全	水・1	古賀
Discussion	全	水・2	(ジョーンズ)

## 新修外国語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語（英語以外の外国語）を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげることを諸君に期待する。

## 新修外国語履修の仕方について

(平成17年度以降入学学生用)

## ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

1年次前期	基礎1 Basic 1	基礎2 Basic 2
1年次後期	基礎3 Basic 3	基礎4 Basic 4
2年次以降	特修1 Specialized 1 特修2 Specialized 2	

## § 1. 標準的履修の場合

1. まず、1年次前期で、「基礎1」(1単位)、「基礎2」(1単位)を履修すること。
2. 原則として、「基礎1」「基礎2」を受講したのち、1年次後期で、「基礎3」「基礎4」を受講すること。
3. さらに学習したい者は、2年次以降で「特修1」(2単位)、「特修2」(2単位)を履修することができる。「特修1」「特修2」は毎年開講されるが、これは重複履修してよい。なお、「基礎」を受講したうえで不合格だった者も、「特修」を履修することができる。

## § 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1」、「基礎2」、「基礎3」、「基礎4」の不合格者は、2年次で、不合格であったのと同じ番号の「基礎」を再度履修すること。



## 新修外国語履修の仕方について

(平成16年度以前入学学生用)

### ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
入門1 Introductory 1	初級1 Elementary 1	中級1 Intermediate 1	中級3 Intermediate 3
入門2 Introductory 2	初級2 Elementary 2	中級2 Intermediate 2	中級4 Intermediate 4

### § 1. 標準的履修の場合

1. まず、1年次前期で、「入門1」（1単位）、「入門2」（1単位）を履修すること。「入門」の単位を修得できなくても、「初級」を履修することはできる。
2. 「入門1」「入門2」の受講者は、ひきつづき、1年次後期で、「初級1」（1単位）、「初級2」（1単位）を受講すること。「初級」の単位を修得できなくても、「中級」を履修することはできる。
3. さらに、2年次前期で「中級1」（1単位）、「中級2」（1単位）を、2年次後期で「中級3」（1単位）、「中級4」（1単位）を履修すること。前期の「中級」の単位を修得できなくても、後期の「中級」を履修することができる。

なお、既に旧課程の授業は提供されていないので、次の「§ 2.再度履修の場合」を参照すること。

### § 2. 再度履修の場合

1. 「入門1」の不合格者は「基礎1」を履修し、「入門1」に読み替えること。
2. 「入門2」の不合格者は「基礎2」を履修し、「入門2」に読み替えること。
3. 「初級1」の不合格者は「基礎3」を履修し、「初級1」に読み替えること。
4. 「初級2」の不合格者は「基礎4」を履修し、「初級2」に読み替えること。
5. 「中級1」「中級2」「中級3」「中級4」の不合格者は、ナンバーがいずれであっても、必要単位に見合うだけの「特修」を履修すること。

## ドイツ語 German

## 学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読みに近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらす、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を实らせてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりが無い。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の实相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

## 目標と評価方法

## 「ドイツ語基礎1」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

**目標:**「基礎1」では、ドイツ語を初めて学ぶ人のために、発音の基礎から始めて、ドイツ語のしくみ、単純な文の構造などを体系的に学び、ドイツ語の輪郭を知ることがめざす。ドイツ語の単文を理解し、それによる表現ができるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門1」に読み替えることができる。

**授業内容・授業計画:**

- 第1週: イントロダクション (ドイツ語・ドイツ語文化への導入)
- 第2週~第3週: ドイツ語の文字と発音
- 第4週~第8週: ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週~第14週: ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

**評価方法:** 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

## 「ドイツ語基礎2」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

**目標:**「基礎2」では、「基礎1」と平行して、ドイツ語を初めて学ぶ人のために、AV機器なども併用しながら、発音の基礎から始めて、背景となる文化をも学びながら、ドイツ語の総合的な基礎能力を身につけることをめざす。ドイツ語の輪郭と広がりを知るとともに、ドイツ語による初歩的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門2」に読み替えることができる。

**授業内容・授業計画:**

- 第1週: イントロダクション (ドイツ語・ドイツ語文化への導入)
- 第2週~第3週: ドイツ語の文字と発音
- 第4週~第8週: ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週~第14週: ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

**評価方法:** 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

## 「ドイツ語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:「基礎3」では「基礎1」で学んだ内容をもとに、やや高度なドイツ語のしくみ、複合文の構造などを体系的に学び、ドイツ語の基礎をひとつお知り知ることをめざす。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級1」に読み替えることができる。

## 授業内容・授業計画:

- 第1週: <基礎1>の既習事項の確認
- 第2週~第5週: ドイツ語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週~第10週: ドイツ語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週~第14週: ドイツ語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

## 「ドイツ語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:「基礎4」では、「基礎3」と平行しつつ、「基礎2」で学んだ内容をもとに、AV機器なども併用しながら、やや高度なドイツ語を、背景の文化も含めて総合的に理解するとともに、基本的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級2」に読み替えることができる。

## 授業内容・授業計画:

- 第1週: <基礎2>の既習事項の確認
- 第2週~第5週: ドイツ語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週~第10週: ドイツ語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週~第14週: ドイツ語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

## 「ドイツ語特修1」(前期)(全学提供 2単位)

## 「ドイツ語特修2」(後期)(全学提供 2単位)

目標: 基礎段階を履修した学生を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、少人数授業によって、充実したドイツ語能力を身につけることをめざす。

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

## 基礎1 (前期)

CE I (月・1) 三上 雅子 (文)

・テキスト: 在問進『新生ドイツ語文法V5』(朝日出版社)

JL I (火・2) 神竹 道士 (文)

・テキスト: 成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改定版]』(郁文堂)

## 基礎2 (前期)

CE I (水・4) 海老根 剛 (文)

・テキスト: 佐藤修子 他『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』(三修社)

JL I (木・1) 寺井 俊正 (文)

・テキスト: 小黒・日野・佐藤『ともかく話そうドイツ語-CD付』(郁文堂)

## 特修1 (前期)

全 (火・2) 神竹 道士 (文)

**授業内容：**ドイツ語の初級文法をひと通り終了した学生が対象である。単文から複文へとドイツ語の文章構造の理解力をレベルアップさせるのが本講義の目標である。教材はドイツ語の副文とその構造を中心に置き、平明で分かりやすい読み物と徹底的なパターン練習から構成されている。誰でも気軽に参加できる授業です。

・テキスト：神竹道士『中級へのステップアップ-副文中心 (改訂第二版)』(白水社)

## 基礎3 (後期)

CE I (月・1) 三上 雅子 (文)

・テキスト：在間進『新生ドイツ語文法V5』(朝日出版社)

JL I (火・2) 神竹 道士 (文)

・テキスト：成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改定版]』(郁文堂)

## 基礎4 (後期)

CE I (水・4) 海老根 剛 (文)

・テキスト：佐藤修子他『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』(三修社)

JL I (木・1) 寺井 俊正 (文)

・テキスト：小黒・日野・佐藤『ともかく話そうドイツ語-CD付』(郁文堂)

## 特修2 (後期)

全 (火・3) 海老根 剛 (文)

**授業内容：**ドイツ語のテキストをじっくりと読んでみる。文章の種類は参加者の希望に合わせて選択する。哲学、文学、社会科学、童話やマンガをドイツ語で読んでみたい学生の参加を歓迎する。

・テキスト：プリント配付

## フランス語 French

### 学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語＋第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

### 目標と評価方法

#### 「フランス語基礎1」（前期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

**目標：**「基礎1」では、フランス語を初めて学ぶ人のために、CD や Video, DVD などを用いながら、フランス語の発音のしくみ、文の構造、背景となる文化などをトータルに示すことによって、フランス語という言語の輪郭を知るとともに、単文を理解・発信できるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門1」に読み替えることができる。

#### 授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）
- 第2週～第3週：フランス語の文字と発音
- 第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

#### 「フランス語基礎2」（前期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

**目標：**「基礎2」では、「基礎1」とともに、フランス語を初めて学ぶ人むけに、CD や Video, DVD 機器などを用いながら、フランス語の基本的な文法要素、音韻要素、背景となる文化などをトータルに示すことによって、フランス語という言語の輪郭を知るとともに、初歩的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門2」に読み替えることができる。

#### 授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）
- 第2週～第3週：フランス語の文字と発音
- 第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

#### 「フランス語基礎3」（後期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

**目標：**「基礎3」では、「基礎1」によって学んだ内容を基とし、さらに進んだ言語のしくみを教授することによって、まとまった文章を理解・発信できるようにする。



## 第2部外国語

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス初級1」に読み替えることができる。

### 授業内容・授業計画：

- 第1週：＜基礎1＞の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

### 「フランス語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

**目標：**「基礎4」では、「基礎2」によって学んだ内容を基として、フランス語の時称システムや叙法などの進んだ文法事項や発音訓練を、コミュニケーションを深めた教授法により、平易なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス初級2」に読み替えることができる。

### 授業内容・授業計画：

- 第1週：＜基礎2＞の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な実践能力の仕上げ

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

### 「フランス語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

### 「フランス語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

**目標：**「基礎」や「応用」を修得したのち、もっと学びたいという、意欲ある学生のために提供される「特修」では、年度ごと、クラスごとにそれぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、口頭表現、長文読解、仏検準備などであり、いずれのクラスもテーマに特化した授業がおこなわれる。

**評価方法：**定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

## 基礎1（前期）

CE I（月・1）藤田 あゆみ（非常勤）

・テキスト：藤田裕二『新・彼女は食いしん坊！1』（朝日出版社）

JL I（火・2）小田中 章浩（文）

・テキスト：藤田裕二『新・彼女は食いしん坊！1』（朝日出版社）

## 基礎2（前期）

CE I（水・2）福島 祥行（文）

・テキスト：田辺保子他『Salut, tout facile!』（駿河台出版社）

JL I（木・1）白田 由樹（特任）

・テキスト：澤田・Lattanzio・黒川『アミカルマン＜ビス＞』

## 特修1 (前期)

全(火・1) 小田中 章浩(文)

授業内容：映画『アメリー』(Le Fabuleux Destin d'Amélie Paulin)を観ながら、文法、語彙、発音のそれぞれについて、そこに用いられているフランス語を学習する。

・テキスト：プリントを配付

## 基礎3 (後期)

CEI(月・1) 藤田 あゆみ(非常勤)

・テキスト：藤田裕二『新・彼女は食いしん坊!1』(朝日出版社)

JLI(火・2) 津川 廣行(文)

・テキスト：藤田裕二『新・彼女は食いしん坊!1』(朝日出版社)

## 基礎4 (後期)

CEI(水・2) 福島 祥行(文)

・テキスト：田辺保子他『Salut, tout facile!』(駿河台出版社)

JLI(木・1) 白田 由樹(特任)

・テキスト：澤田・Lattanzio・黒川『アミカルマン<ビス>』

## 特修2 (後期)

全(火・1) 津川 廣行(文)

授業内容：【フランス語検定試験の世界】一回生レベルのフランス語の復習もかねながら、仏検(正式名：実用フランス語技能検定試験)4級受験のための準備をおこないます。

・テキスト：富田正二『ニヴォー・カトルー教室で学ぶ仏検4級-』(駿河台出版社)

## 中国語 Chinese

### 学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まってくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

### 目標と評価方法

#### 「中国語基礎1」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

**目標：**中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。法文クラスでは「中国語基礎2」と連動して授業を進めるので注意すること。

#### 授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション (中国語の特徴や背景となる中国社会・文化について簡単に説明する。)

第2週～第4週：発音の基礎練習

第5週～第14週：教科書に従って学習を進める。概ね1課を2回の授業で学習する。

**評価方法：**平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

#### 「中国語基礎2」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

**目標：**中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。法文クラスでは「中国語基礎1」と連動して授業を進めるので注意すること。

#### 授業内容・授業計画：

〈基礎1〉と同様に授業を進める。

**評価方法：**平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

#### 「中国語基礎3」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

**目標：**様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。法文クラスでは「中国語基礎4」と連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

#### 授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週～第14週：教科書に従って学習を進める。概ね1課を2回の授業で学習する。

**評価方法：**平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

#### 「中国語基礎4」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

**目標：**様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあ

わせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。法文クラスでは「中国語基礎3」と連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

**授業内容・授業計画：**

〈基礎3〉と同様に授業を進める。

**評価方法：**平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「中国語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

**目標：**特に意欲のある学生のために開設する科目である。「基礎1～4」での既習事項を基礎として、より複雑な構文や、多様な文体にふれ、理解を深めていく。また、ナチュラルスピードで語られる録音教材や、最近の映画なども教材として使用する予定で、より高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成する。また、中国社会における様々な側面、文化的背景に習熟することも目指している。

**評価方法：**平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

## 基礎1（前期）

CEI（月・1）山口 久和（文）

・テキスト：梁維国・大森真理『中国語の時間』（朝日出版社）

JLI（火・2）張 新民（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』（白帝社）

## 基礎2（前期）

CEI（水・2）大岩本 幸次（文）

・テキスト：竹島金吾『中文課本・基礎編 改訂新版』（金星堂）

JLI（木・1）松浦 恒雄（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』（白帝社）

## 特修1（前期）

全（火・1）岩本 真理（文）

**授業内容：**中国語検定4級レベルのリスニング問題に取り組みつつ、所定テキストを使用して、中級レベルの文法事項の習得、語彙力の強化を図る。

・テキスト：山下輝彦・蘇英霞『中国を語る～文化と生活～』（金星堂）

## 基礎3（後期）

CEI（月・1）山口 久和（文）

・テキスト：梁維国・大森真理『中国語の時間』（朝日出版社）

JLI（火・2）張 新民（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』（白帝社）

## 基礎4 (後期)

CE I (水・2) 大岩本 幸次 (文)

・テキスト：竹島金吾『中文課本・基礎編 改訂新版』(金星堂)

JL I (木・1) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏『一步一步学漢語 上・下』(白帝社)

## 特修2 (後期)

全 (火・1) 岩本 真理 (文)

**授業内容**：中国語検定3級レベルのリスニング問題に取り組みつつ、所定テキストを使用して、中級レベルの文法事項の習得、語彙力の強化を図る。長文読解問題にも取り組む。

・テキスト：豊島裕子『やさしい中国語中級 会話・読み物』(中検4級・3級対応) (光生館)



## ロシア語 Russian

## 学習の意義

国内の経済格差は解消されていないが、ロシアの経済は好調である。かつての「暗い、寒い、貧しい」というロシアのイメージは完全に払拭された感がある。国章の双頭の鷲のように、今ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアに目を向けている。村上春樹など日本の作家が読まれ、三島由紀夫の研究者ボリス・アクーニン（悪人からとったペンネーム）の推理小説が爆発的な人気を呼んだのもかなり以前の話だ。長寿国日本の食生活への関心は高く、「すし屋」(?)の看板がやたらと目に付く。ペテルブルグ（大阪市の姉妹都市）に正式に日本語学校が開かれたのは1736年、日本でロシア語を教えるようになったのは1873年（明治6年）。この130年以上の開きは今も両国の関心度の差になってはいないだろうか。ロシアの魅力は何か、と問われたら、昔は、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴーリキイなど）、という答えが多かった。延々と続くロシアの白樺の林、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ムソルグスキイ、ラフマーニノフなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きない。ロシア語は国連の公用語のひとつ。世界一広い国土（地球上の六分の一）を有する隣国の言葉です。ロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。ロシア民謡の一節を口ずさみながら。（雪の白樺並木、夕日が映える、走れトロイカ朗らかに、鈴の音高く）

## 目標と評価方法

「ロシア語基礎1」(前期) (全学提供 1単位)

「ロシア語基礎2」(前期) (全学提供 1単位)

**目標：**担当者は異なるが、それぞれ創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化（歌、映画など）を紹介する。この「基礎1・2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎3」「基礎4」まで継続することが望ましい。

**授業内容・授業計画：**

## 〈基礎1〉

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な文法知識と初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の発展的養成

## 〈基礎2〉

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な実践能力の初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の発展的養成

**評価方法：**出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

「ロシア語基礎3」(後期) (全学提供 1単位)

「ロシア語基礎4」(後期) (全学提供 1単位)

**目標：**ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1」「基礎2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も援用する。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

**授業内容・授業計画：**

〈基礎3〉

第1週：〈基礎1〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

〈基礎4〉

第1週：〈基礎2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語の基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

**評価方法：**出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「ロシア語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

**目標：**「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得し、さらに学びたいという意欲ある学生を対象に会話力と読解力を中心としたロシア語運用能力の向上を計り、ロシア文化への理解を深めてもらう。

## 基礎1（前期）

全I（火・2）木寺 律子（非常勤）

**講義内容：**キリル文字の読み方から始めて、基礎的な文法を学習する。特に、ロシア語の音読に力を注ぎ、ロシア語の基本的表現と語彙の習得を目指す。ロシアの歌や映画にも触れて、ロシアの習慣や生活の様子を取り上げ、ロシアを身近に感じてもらう。

**成績評価の方法：**平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書 中島 由美ほか「ロシア語へのパスポート」（白水社）改訂版

## 基礎2（前期）

全I（木・1）角 伸明（非常勤）

**講義内容：**文字の読み方から始めて、基礎文法をゆっくり、楽しく学習していく。また、歌を覚えたり、ビデオ教材を用いてロシア文化（アニメ、映画、歴史的建築等）の紹介も行う。

**成績評価の方法：**平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書 黒田龍之介著「ロシア文法への旅」（大学書林）

## 特修1（前期）

全（火・1）木寺 律子（非常勤）

**講義内容：**ロシア語での簡単な会話の練習を行い、平易なテキストを読むことで文法事項の復習をしながら読解力をつける。同時にロシア文化への理解を深めてもらう。

**成績評価の方法：**平常点（出席、授業への積極的な参加、小テスト）と定期試験で総合的に行う。

教科書 プリントを配布。

## 基礎3 (後期)

全I (火・2) 木寺 律子 (非常勤)

**講義内容：**前期の授業を継続し、基礎文法を学習する。習得した文法事項を活用して簡単な会話ができるように応用の機会を設け、また読解力の向上を目指す。ビデオ教材などを活用して、ロシア文化に親しんでもらう。

**成績評価の方法：**平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書 中島由美ほか「ロシア語へのパスポート」(白水社) 改訂版

## 基礎4 (後期)

全I (木・1) 角 伸明 (非常勤)

**講義内容：**前期の教科書を継続し、基礎文法をゆっくり、楽しく学習していく。また、カードを使って日常に使用する語彙やフレーズを覚えていく。歌も唄い、ロシア文化の紹介も積極的に行う。

**成績評価の方法：**平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書 黒田龍之介著「ロシア文法への旅」(大学書林)

## 特修2 (後期)

全 (火・1) 木寺 律子 (非常勤)

**授業内容：**前期の授業を継続する。映画やアニメなどの映像資料の鑑賞を通じてロシア語を聞き取る力を伸ばし、文学作品などのより高度なテキストの読解を行う。

**成績評価の方法：**平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書 プリント配布

## 朝鮮語 Korean

### 学習の意義

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人々が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

### 目標と評価方法

#### 「朝鮮語基礎1」(前期) (全学 1単位)

**目標：**ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

**評価方法：**定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

#### 「朝鮮語基礎2」(前期) (全学 1単位)

**目標：**基礎1」とともに、ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

**評価方法：**定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

#### 「朝鮮語基礎3」(後期) (全学 1単位)

**目標：**「朝鮮語基礎1」を履修した人を対象に、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解することも可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級1」に読み替えることができます。

**評価方法：**定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

#### 「朝鮮語基礎4」(後期) (全学 1単位)

**目標：**「朝鮮語基礎2」を履修した人を対象に、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解することも可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級2」に読み替えることができます。

**評価方法**：定期試験と小テスト（中間テスト、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語特修1」（前期）（全学 2単位）

「朝鮮語特修2」（後期）（全学 2単位）

**目標**：語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。そのために正確な発音と作文力を養成しながら、自然な表現の獲得を目指します。

**評価方法**：定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な発表が重視されます。

## 基礎 1 （前期）

全I（月・1）野崎 充彦（文）

**授業内容**：ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

## 基礎 2 （前期）

全I（水・2）金 宝英（特任）

**授業内容**：ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：金・喜多『バランセ韓国語』（朝日出版社）

## 基礎 3 （後期）

全I（月・1）野崎 充彦（文）

**授業内容**：ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

## 基礎 4 （後期）

全I（水・2）金 宝英（特任）

**授業内容**：前期に引き続き、朝鮮語の基本的な活用やよく用いられる語法の習熟を通じ、簡単な会話や読解・作文力を養うことを目的とします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト：金・喜多『バランセ韓国語』（朝日出版社）

## 特修 1 （前期）

全（水・1）金 宝英（特任）

**授業内容**：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：プリント配付



## 特修2 (後期)

全(水・1)金 宝英(特任)

**授業内容：**少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：プリント配付

## 5. 健康・スポーツ科学科目

- 健康・スポーツ科学科目の履修について
- 実習事業時の集合場所
- シラバス

# 健康・スポーツ科学

Health, Exercise and Sport Sciences; HESS

## 学習の意義

近年の著しい物質文明の発達は、我々の健康にも大きな影を落とし、かつて成人病と呼ばれた疾患が若年者にも多く見られるようになって、「生活習慣病」なる言葉すら生まれるに至った。機械化や車の普及による「運動不足」や食糧事情の好転による「肥満」が、生活習慣病の大きな原因であることは周知のことであり、その結果、健康や体力への関心は年々高まり、生涯を通しての身体運動の重要性が指摘されている。肉体的な成熟期を迎えた大学生の今、新しい時代に即した健康とスポーツの情報や科学的な身体運動の理論と実践法を学びかつ体験することによって、それらを頭と体の両方で習得することは、将来健康で豊かな文化生活を送るために必要不可欠なものである。上記の理念に基づき、当科目では、1) 健康・スポーツ科学論 2) 健康・スポーツ科学実習 を通して、疾病の予防、健康・体力の維持・増進に関する知識と実践法を習得し、生涯を通して、スポーツや身体運動に親しむ習慣を獲得することを目的としている。

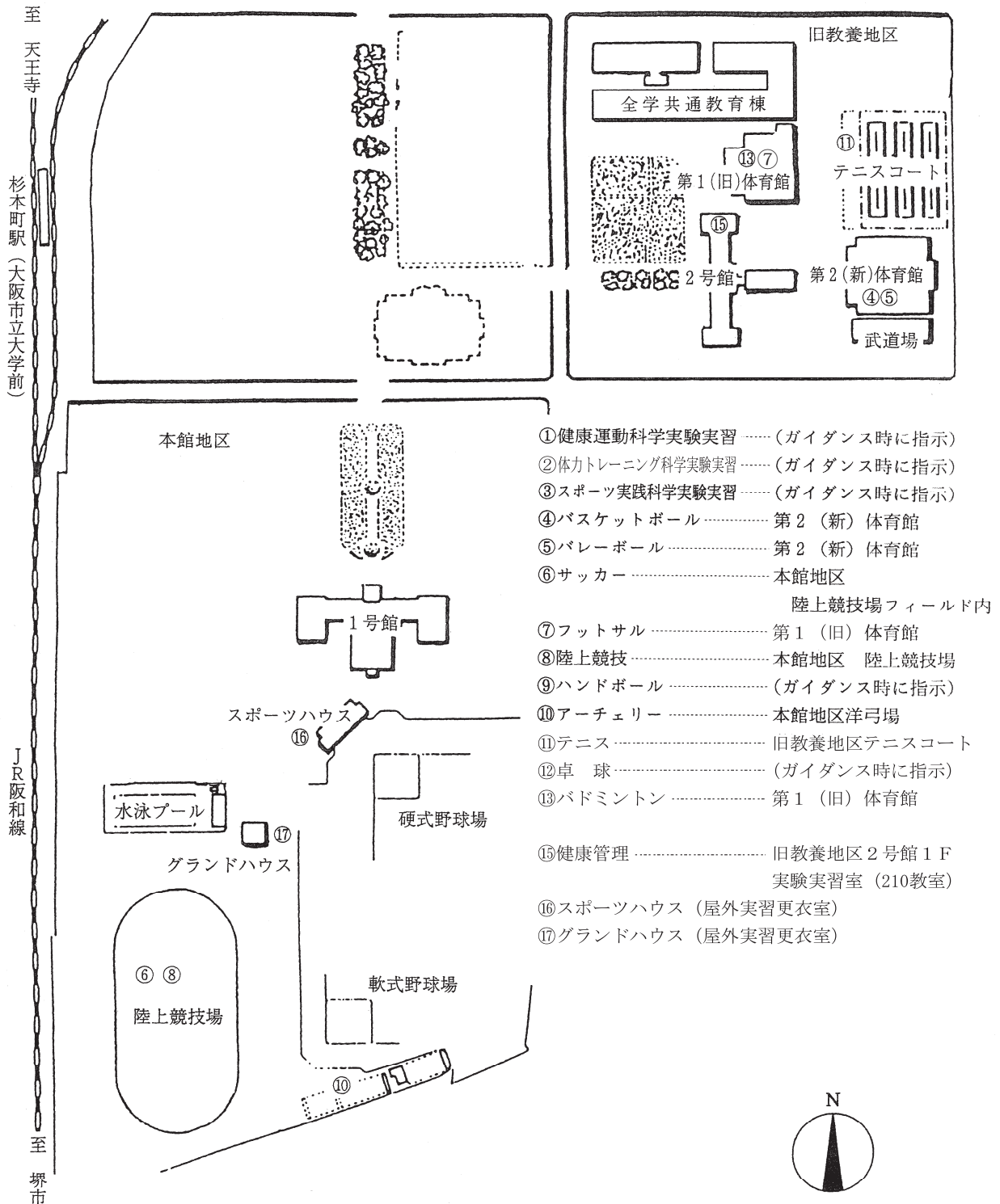
### ○ 健康・スポーツ科学科目の履修について

- (1) 健康・スポーツ科学科目の履修については、原則として所属学部指定に従って履修することが望ましい。
- (2) 健康・スポーツ科学科目の単位は、1・2年次の間に修得することが望ましい。
- (3) 健康・スポーツ科学論（以下「講義」という）の開講計画の説明は、第1週時の講義授業時に行う。
- (4) 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）は、原則として自由に選択することができるが、各実習とも定員があるため、各人の希望する実習を履修できない場合がある。
- (5) 実習の内容の説明および人員編成は、第1週時の実習ガイダンスにて行う。
- (6) 実習は、半期に2単位を修得することはできない。
- (7) 同じ実習は、原則として履修することができない。
- (8) 実習1は初心者（ビギナー）向けの内容であり、実習2は経験者（アドバンス）向けの内容である。
- (9) 実習を履修しようとする者は、本学が実施する健康診断を受けなければならない。
- (10) 健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者については、前期、水曜日の5時限に「健康管理実習」を、開講している。
- (11) 健康上の理由により、学期途中で実施を履修できなくなった者は、担当教員の指示をうけなければならない。特に、1ヶ月以上にわたる場合は、医師の診断書を提出し、担当教員の指示をうけなければならない。
- (12) 特別な事由により、学期途中で履修した実習を変更する場合（健康管理実習への変更等）は、新・旧担当教員の承認を得た上、実習変更届を所属学部の事務室に提出しなければならない。
- (13) 実習は、全開講数の3/4以上の出席がなければ、単位を修得することができない場合がある。
- (14) 履修する担当教員へ提出する「実習選択カード」は、都市健康・スポーツ研究センターが提供したカードでなければならない。
- (15) その他詳細については、第1週時に行う実習ガイダンスにおいて説明するので、必ず出席しなければならない。その日時・場所については、別途掲示する。

### 注意事項

- 1) 健康・スポーツ科学実習では、必ず運動靴および運動着（水泳は水着）に更衣すること。
- 2) 体育館、卓球場における実習は、すべて上履き専用の運動靴を使用すること。
- 3) テニス実習を履修する者は、必ずテニスシューズを使用すること。
- 4) 実習中における各自の貴重品の取り扱いについては、盗難予防のため、担当教員の指示に従うこと。
- 5) 前期実習の場合は、実習によっては実習期間中に短期間の水泳を実施することがある。ただし何らかの事由により、水泳を受けることが不可能な者は、5月末日までに担当教員に届け出ること。
- 6) 健康・スポーツ科学科目についての連絡事項（教室変更、休講等）は、第一体育館横の「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示するので、見落とさないよう注意すること。

○実習授業時の集合場所



# [健康スポーツ科学講義]

Health, Exercise and Sport Science throughout Life

## 健康運動科学 2単位

Exercise Science for Health

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	宮側 敏明

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・2	宮側 敏明

### 授業内容

健康を「健康度」として捉えることは、病気との共存を考慮に入れた新しい健康観と言える。すなわち、主観的な個人の生き方を肯定し、自分のやりたいことが自分の許容範囲でできれば、健康であるといえよう。本講義においては、運動・栄養・休養の健康維持・増進に果たす効用と役割について、科学的根拠に基づき、やさしく解説しながら、QOL：クオリティ・オブ・ライフ（：生活の質）を重視した新しい健康観を教授する。

【授業内容】 ストレス社会における現代人にとっての健康問題を身近な問題を取り上げながら解説する。また、生活習慣病の予防や運動処方について解説する。健康は貯金できることを理解させ、青年期における健康づくりについて解説する。

【授業計画】 1. ヒトの進化、適応能、寿命、2. 健

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・2	宮側 敏明

康のとらえ方と生活習慣病（メタボリックシンドローム）、3. 肥満の成因とその予防、

4. 運動処方、5. 運動と体温調節、6. 筋肉の種類と筋収縮メカニズムおよび筋トレーニング、7. 骨粗鬆症の発症要因とその予防

### 評価方法

試験、コミュニケーションカード内容、出席状況。

### コメント

授業は、普段不思議に思っていることや誤解していることを図解を多く取り入れ、楽しく解説する。

### 教材

1. 朝山正己 他編：「イラスト運動生理学」（東京大学社）
2. 配布資料

## 体カトレーニング科学 2単位

Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・4	河端 隆志

### 授業内容

スポーツの楽しみ方は、まず「経験」をすることである。良い経験とするためには、直立二足歩行動物であるヒトの動作における解剖学的構造と運動時の生理学的機能を「知る」ことが重要である。そして、こうした知識を基にスポーツ動作を「観る」ことは、少なからず、スポーツを楽しむレベルの向上へと導くものである。本講義では、スポーツパフォーマンスの改善を目標とするトレーニングの有効性について、基本的なスポーツ動作を「二軸動作」という新たな視点から解析するとともに、環境や運動ストレスに対する生理学的な適応能の仕組みを解説し、運動に対する制限因子（Limiting Factor）についての知識を習得し、実践力を養うことを目標とす

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・4	河端 隆志

るものである。

講義の構成：1. 直立二足歩行の解剖学的特徴、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 一流スポーツ選手は二軸動作Ⅰ、4. 一流スポーツ選手は二軸動作Ⅱ、5. 二軸動作を生み出すトレーニングⅠ、6. 二軸動作を生み出すトレーニングⅡ、7. 直立二足歩行の生理学的特徴、8. 運動と筋肉、9. 運動と循環、10. 運動と体温調節、11. 運動適応と環境適応、12. 一流選手の生理学的特徴、13. トレーニングの生理学的効果；骨格筋系トレーニング、14. トレーニングの生理学的効果；循環系トレーニング

### 評価方法

定期試験と小テストの結果から評価する



## 教材

必要に応じて参考資料を配布する

# スポーツ実践科学 2単位

Kinematic and Practical Science for Sports

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・3	萩田 亮

### 科目の主題と目標

我々人間にとって、スポーツは豊かな生活を営むために行う身体活動であり、生きがいであり、文化であるといえる。近年、慢性運動不足が社会問題になってからスポーツ活動は単に楽しみとして実施するだけではなく、体力の保持・向上と健康の維持・増進の手段として実施されるようになった。我々の身体は動かさないと生理機能が退化し人間本来の身体特性や生活意欲が薄れていくが、過度に使いすぎると身体の諸機能に障害を引き起こす結果となってしまう。生涯にわたって豊かな生活を営むためには、身体の諸機能についての理解や、目的に応じた効果的な運動についての理解を深めることが必要である。

この講義では運動に対する身体適応や、目的に応じた効果的な運動方法、さらには生活の中でのスポーツ実践方法を習得させることを目標とし、生涯を通じて豊かな生活を営むためのスポーツ知識について教授する。

### 授業内容・授業計画

1. スポーツの概念

2. スポーツの意義
3. スポーツと健康
4. スポーツと体力
5. スポーツと身体の仕組み
6. スポーツと身体の適応
7. 発育発達とスポーツ
8. 加齢・老化とスポーツ
9. スポーツ障害と予防
10. 環境の変化と身体の適応
11. 健康と運動処方
12. スポーツ特性とトレーニング
13. ダイエットとスポーツ
14. スポーツと生活

### 評価方法

試験、小テスト、レポート、出席状況から総合的に評価する。

### 教材

OHPやビデオを使用する。必要に応じて、資料の配布等を行う。

# スポーツ実践科学 2単位

Kinematic and Practical Science for Sports

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・4	渡辺 一志

### 授業内容

現代社会におけるスポーツは、目的が多様化し、実践する人の目的に応じたパフォーマンスの向上や運動の成果を実感するための科学的な理論と実践の方法を理解することが重要である。この講義では、生涯を通じてスポーツを楽しむ、より健康的な生活を創造するための最新のスポーツ科学について教授する。

- ・現代社会とスポーツ（1）

現代社会におけるスポーツの本質と役割  
スポーツ科学について

- ・スポーツと健康・体力について（2）

健康と体力のとらえ方  
身体組成、肥満

- ・スポーツと体力（4～5）

### 筋の構造と特徴

骨格筋の形態や機能に及ぼす影響

エネルギー代謝

- ・スポーツとコンディショニング（6～7）

ストレッチ、ウォームアップ、クールダウン、  
アイシング

熱中症とスポーツにおける水分補給

- ・スポーツとトレーニング（8～12）

トレーニングの原理・原則

体力要素（筋力、スピード、パワー、筋持久力、全身持久力、調整力、柔軟性）とそのトレーニング法

運動と生活習慣病

- ・運動と骨（13）

・スポーツと栄養 (14)

#### 評価方法

試験、レポート、小テスト、出席状況により評価する。

#### コメント

講義を通じて、身近な疑問や課題を解決して下さい。

#### 教材

必要に応じて資料の配付や文献の紹介を行う。

## [健康・スポーツ科学実習]

Practise Courses

〈実験実習〉 Experimental Education for HESS

### 健康運動科学実験実習 1

1 単位

Experimental Education for HESS (Exercise Science for Health 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・4	宮側 敏明

#### 授業内容

自然科学の諸概念は、実験や観察に基づいて得られたものである。実験実習を通じて、はじめて教科書や講義の内容がよく理解できるといっても過言ではない。本実験実習では人体を対象として、運動中の生理現象を詳細に記録や観察をし、また、それらのデータについての深い分析や疑義を深めることによって、実習の生理学的意義を考察する。さらに、なかには複雑な機械を用いた実習もあるので、実験装置の原理や取り扱いについての留意点を理解できるようにする。そして、実習成果の発表をおこない、さらに、それらの内容に関するレポートを完成させる。

【授業内容】 実習課題に取り組む前に、課題内容の説明をそのつど詳しくおこない、目的と実習内容を十分理解させる。実習にあたっては、グループ毎に取り組む、グループ内でのデータ検討を十分にさせる。実習課題別にグループによる自由課題についても実施させる。授業の最終日には、実習成果発表会を設定し、グループ毎に

プレゼンテーションを行い、個人レポート作成の一助とする。

【授業計画】 1. 研究と実験の意義についての解説とレポートのまとめ方、2. ヒトの姿勢変化に伴う心拍数、血圧の測定、3. 身体計測と体脂肪および筋肉量測定、4. 自転車エルゴメータ運動時のエネルギー代謝、心拍数、血圧測定、5. トレッドミル歩行運動時のエネルギー代謝、心拍数、血圧測定、6. 実習グループ別の実習結果プレゼンテーションと質疑応答

#### 評価方法

実習レポート、出席状況、履修態度などによって、総合的に評価する。

#### コメント

自分の体型やからだのメカニズムを客観的に知（識）ることができる楽しい実習である。

#### 教材

測定項目に関する参考資料を配布する。

### 体力トレーニング科学実験実習 1

1 単位

Experimental Education for HESS

(Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	EJ I (全文)	木・2	河端 隆志

#### 授業内容

本実習は、講義「体力トレーニング科学論」と対を成すものである。ここでは、スポーツパフォーマンスの改善を目標とするトレーニングの有効性について、基本的なスポーツ動作を「二軸動作」という新たな視点での解析や、環境・運動ストレスに対する生理学的な適応能の仕組みを実験的に体験し、運動に対する制限因子

(Limiting Factor) についての知識を習得し、実践力を養うことを目標とするものである。

実習の構成：1. 直立二足歩行の解剖学的特徴、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 一流スポーツ選手は二軸動作、4. 二軸動作を生み出すトレーニングⅠ、5. 二軸動作を生み出すトレーニングⅡ、6. 二軸動作を生み出すトレーニングⅢ、7. 直立二足歩行の生理学的特徴、

8. 高温環境と脱水、9. 運動と水分摂取 I、10. 運動と水分摂取 II、11. 運動適応と環境適応、12. トレーニングの生理学的効果：骨格筋系トレーニング、13. トレーニングの生理学的効果：循環系トレーニング、14. 実験成果の発表

**評価方法**

実験結果のまとめ方と発表、出席状況より評価する。

**教材**

必要に応じて参考資料を配付する

# スポーツ実践科学実験実習 1

Experimental Education for HESS  
(Kinematic and Practical Science for Sports 1)

1 単位

〈第 1 部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・2	渡辺 一志

**授業内容**

運動の発現や運動に伴う身体諸機能の応答、さらにはスポーツスキルを実験によって客観的に捉え評価することによって、運動やスポーツの仕組みを科学的に理解することを目標とする。

- ・ガイダンス (1)
- ・運動・スポーツと体力 (形態) (2～3)  
形態と身体組成測定の意義と方法および測定原理
- ・運動・スポーツと体力 (スピード・パワー) (4～6)  
スポーツと反応時間 (姿勢と反応時間)  
スポーツとパワー (筋パワー、自転車駆動および垂直跳におけるパワー)
- ・運動・スポーツと呼吸循環応答 (7～10)

運動中の心拍数と血圧の変化と調節

運動時の酸素摂取量

- ・運動・スポーツと筋の活動 (11～13)

筋の活動と筋電図

生体信号処理の方法と解析

- ・班別発表・総括 (14)

**評価方法**

レポート、出席状況により評価する。

**コメント**

積極的に参加し、運動・スポーツに関する科学的な理解を楽しく深めましょう。

**教材**

必要に応じて資料の配付や文献の紹介を行う。

〈スポーツ実習〉 Practise - Field Work for HESS

# バスケットボール 1

1 単位

Basketball 1

〈第 1 部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	荻田 亮
	全	火・4	荻田 亮
	STI (全理)	木・2	荻田 亮

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	水・2	荻田 亮
	EJI (全文)	木・1	荻田 亮
	STI (全理)	木・2	荻田 亮

〈第 2 部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	荻田 亮

**科目の主題と目標**

バスケットボールは、楽しさや爽やかな気持ちをもたらすと同時に、相当な運動量と判断力や調整力といった運動能力が必要とされるスポーツである。個人技術の習得には、走・跳・投など多種多様な動きが必要とされるため、オールラウンドな身体づくりが期待出来る。

この実習では、安全に、楽しくスポーツを実践するた

めの基礎的知識を深めながら、バスケットボールの技術を習得すると同時に、スポーツを実践する総合的な行為能力を育成する。さらに、バスケットボールを通して、健康で豊かに生活するために必要な運動についての知識と技能、ならびに態度を養うことを目標とする。

**授業内容・授業計画**

1. 競技特性と安全性

2. ウォーミングアップとストレッチ
3. 基本姿勢と身体調整
4. 身体の仕組みと動きの分析
5. シュート技術の分析と実践
6. パス技術の分析と実践
7. ドリブル技術の分析と実践
8. 個人技術の応用（1 on 1）
9. 個人的対峙の理解と実践
10. 集団の理解と実践（2 on 1）
11. 状況の認識と判断

12. 集団的対峙の理解と実践
13. ゲーム運営と審判法
14. ゲームの実践

#### 評価方法

バスケットボールの基礎的技術、スポーツ実践に対する基礎的知識について実技試験・レポートを実施し評価する。

#### 教材

特になし。

## バスケットボール 2

1 単位

Basketball 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	EJI (全文)	木・1	萩田 亮

#### 科目の主題と目標

バスケットボールは、協同や連携、集団的な安全行動のための規則、技術的な協調、責任の分担などに対する理解が培われる集団スポーツである。また、組織的な戦術・戦略を通して独創性や自制心、自己表現についての知識が高められる競技種目である。

この実習では、バスケットボールという集団スポーツを通して、あらゆるスポーツに対する観方、楽しみ方、そして自主的に活動へ参加する姿勢と態度を育成する。さらに、生活文化としてスポーツを理解し、生涯にわたりスポーツを実践するための知識を高めることを目標とする。

#### 授業内容・授業計画

1. 集団的な安全行動と規則
2. 集団プレーの原理と原則
3. 集団プレーの分類
4. 集団的対峙の理解と実践

5. 動きの連携と協同
6. 個人の役割と責任分担
7. 空間の認識と先取り
8. 動きの認識と先取り
9. 集団技術の基礎（2 on 1、2 on 2）
10. 集団技術の応用と実践（3 on 2、3 on 3）
11. ゲームの運営と審判法
12. 戦術行動の基礎と応用
13. 技術の指導法
14. ゲームの実践

#### 評価方法

バスケットボールの個人・集団技術、集団スポーツに対する基礎的知識について実技試験・レポートを実施し評価する。

#### 教材

特になし。

## バレーボール 1

1 単位

Volleyball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	中嶋 紀子(非常勤)
	全	火・4	中嶋 紀子(非常勤)

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI (全文)	火・3	中嶋 紀子(非常勤)
	全	火・4	中嶋 紀子(非常勤)

#### 科目の主題と目標

日常生活に役立つ正しい身体活動をバレーボール競技の実践を通して習得する。

#### 授業内容

- ①バレーボール競技中や準備段階に起きる傷害例とその予防について説明。

- ②スポーツの基本は「動き」と考える。その正しい、効果的な方法を実践する。

#### ③基本技術の習得

やさしい技術から難しい技術へ。結合練習から複合練習へ。

10週間で実施。

④コート3面で6チーム編成（各チーム8名、計48名以内）による総当たりリーグ戦5週で終了。

### <バレーボール2>

ゲームを通してチームづくり、指導方法等について教授する。

①コンビネーションスパイク

②フォーメーション（サブプレシブ、ブロックカバー、スパイクカバー）

③戦術・戦略

### 評価方法

出席率及び自己やチームが15回の実習でどのような取り組み方や、技術、体力その他について努力したか、その結果向上したかどうかにより評価する。

## サッカー 1 1単位

### Association Football (Soccer) 1

<第1部>

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	河端 隆志
	全	火・4	河端 隆志

### 授業内容

スポーツの楽しみ方は、まず「経験」をすることである。良い経験とするためにはスポーツを「知る」こと、そして「観る」能力を養うことが大切である。本実習では、「サッカー」という世界的にポピュラーなスポーツを通して、「二軸動作」から見たスポーツ動作の基礎を体験するとともに、集団でのコミュニケーション、キャプテンシーおよび協調性の重要性についての能力を養うことを目的とする。また、チームを編成し、毎回試合形式のゲームを行い、チームの問題点を定義し、チーム内で改善していくものとする（M-T-M method; match-training-match）。総合ゲームでは、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでコーディネートし

ていく。

実習の構成：1. ウォーミングアップ；ブラジル体操と二軸動作、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 走り方と二軸動作、4. キックと二軸動作Ⅰ、5. キックと二軸動作Ⅱ、6. ヘディングと二軸動作、7. 方向転換と二軸動作、8. シュートとは、9. システム、10. ゲーム分析、11. 総合ゲーム、12. 総合ゲーム、13. 総合ゲーム、14. 総合ゲーム

### 評価方法

自主性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力および出席状況の結果から評価する

### 教科書

必要に応じて参考資料を配布する

## サッカー 1 1単位

### Association Football (Soccer) 1

<第1部>

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	STI (全理)	木・1	鈴木 崇士 (非常勤)
	全文	木・2	鈴木 崇士 (非常勤)

### 授業内容

サッカーは世界中で愛されているスポーツであり、最も競技人口が多い。国内のみならず海外の試合が、連日メディアを通じて触れることができる。これらをより楽しむためには、まず「経験」し、サッカーをより良く「知る」ことが大切である。そして「観る」能力を養うことが大切である。また、サッカーにはスポーツの要素のみならず、様々な要素が含まれている。

本実習では、ボールを足で「とめる」「蹴る」「運ぶ

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI (全文)	火・3	鈴木 崇士 (非常勤)
	全	火・4	鈴木 崇士 (非常勤)
	EJI (全文)	木・1	鈴木 崇士 (非常勤)
	STI (全理)	木・2	鈴木 崇士 (非常勤)

といった基本的動作から、フィールドでの動き方を習得すると同時に、ゲームを通じて、集団でのコミュニケーション力、キャプテンシーおよび協調性についての能力を養うことを目的とする。実際にチームを編成し、試合形式のゲームを行い、チームでゲーム内容について協議し、改善していくものとする。総合ゲームでは、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでコーディネートしていく。



### 授業内容・授業計画

オリエンテーション、競技特性について。  
ウォーミングアップとストレッチ  
キック動作  
ボールコントロール  
シュート技術  
ミニゲーム  
ルール、審判法  
システム、戦術  
応用テクニック  
ゲーム分析

総合ゲーム  
総合ゲーム  
総合ゲーム  
総合ゲーム

### 評価方法

積極性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力、出席状況などを総合的に評価する。

### 教科書

必要に応じて参考資料の配布や文献の紹介をおこなう。

## サッカー 2 1単位

Association Football (Soccer) 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・4	河端 隆志 (体)

### 授業内容

スポーツの楽しみ方は、まず「経験」をすることである。良い経験とするためにはスポーツを「知る」こと、そして「観る」能力を養うことが大切である。本実習では、「サッカー」のより高度な理解度を追及するために、「二軸動作」から観たスポーツ動作の基礎を学ぶとともに、実際のJ-リーグ観戦によるゲームの分析や一流選手との交流によるプレーの解析を体験する(予定)。また、集団でのコミュニケーション、キャプテンシーおよび協調性の重要性についての能力を養うこと、チームを編成し、毎回試合形式のゲームを行い、チームの問題点を定義し、チーム内で改善(M-T-M method; match-training -match)していくものとするを目的とする。総合ゲームでは、キャプテンを中心にウォーミングアップ

プからゲームまでコーディネートしていく。

実習の構成：1. ウォーミングアップ；ブラジル体操と二軸動作、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 走り方と二軸動作、4. キックと二軸動作Ⅰ、5. キックと二軸動作Ⅱ、6. ヘディングと二軸動作、7. 方向転換と二軸動作、8. シュートとは、9. システム、10. ゲーム分析、11. 総合ゲーム、12. 総合ゲーム、13. 総合ゲーム、14. 総合ゲーム

### 評価方法

自主性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力および出席状況の結果から評価する

### 教科書

必要に応じて参考資料を配布する

# アーチェリー 1

1 単位

## Archery 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	渡辺 一志
	全	火・4	渡辺 一志
	EJI (全文)	木・1	渡辺 一志
	STI(全理)	木・2	渡辺 一志

### 授業内容

アーチェリーというスポーツ文化に接し理解を深め、その基本的技術を習得すること。また、生涯スポーツの観点から、スポーツ実践におけるコンディショニング、種々のトレーニング方法について理解することを目標とする。

- ・アーチェリーの歴史と競技の概要 (1)
- ・弓具とその取り扱いについて (2～4)
- ・基本技術の習得とシューティング (2～13)
  - ・フォームの形成・素引き (2～3)
  - ・近射 (4～5)
  - ・射距離の延長とサイトの調節 (5～8)

# アーチェリー 2

1 単位

## Archery 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI (全文)	火・3	渡辺 一志

### 授業内容

基礎的な技術をふまえて、アーチェリーの競技についての理解、技術の習得、弓具の使用などを発展させた実習である。より高い技術と競技全般に渡る知識の習得と併せてスポーツ技術を分析する科学的な方法を理解することを目標とする。

- ・アーチェリー競技の概要とルール (1)
- ・フォームとシューティング技術の発展 (2～8)
- ・視覚情報 (ビデオなど) の活用
- ・画像分析によるフォームの解析
- ・重心動揺や筋活動などの理解
- ・弓具の発展と取り扱いについて
- ・シューティング距離の延長と競技の体験 (9～13)

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	渡辺 一志

- ・スコアリングと個々の技術向上 (9～13)
- ・コンディショニングおよびトレーニング (2～9)
- ・知識の復習と総括 (14)

### 評価方法

知識、技術の習得状況、出席状況など総合的に判断する。

### コメント

積極的に参加し、アーチェリーの楽しさ、奥深さを体験するとともに、生涯スポーツへの意識を高めて下さい。

### 教材

必要に応じて資料の配付、ビデオの視聴を行う。

- ・30メートル (80cm的) のシューティング
- ・18メートル (インドア40cm的) のシューティング
- ・アーカスロン
- ・コンパウンドアーチェリー
- ・復習と総括 (14)

### 評価方法

知識、技術の習得状況、出席状況など総合的に判断する。

### コメント

アーチェリー1の受講者または経験者が対象です。より深くアーチェリーの醍醐味を味わって下さい。

### 教材

必要に応じて資料の配付、実験を行う。

# テニス 1 1単位

## Tennis 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	宮側 敏明
	全	火・4	宮側 敏明

### 科目の主題と目標

テニスは、幅が広くしかも奥行き深いスポーツである。また、どのような人でもそれぞれに楽しさを味わうことができ、上手になるにつれて、そのつど新しさに満ちた世界が開けてくるスポーツでもある。テニスの基本とは、「なぜそうしなければならないか？」という「考え方」が重要であり、また、それぞれのプレーの身体的、精神的特徴について理解することも重要である。本実習は、テニスの基本的な構えや技術の習得、そしてルールの説明をおこない、ゲーム展開を通してテニスの楽しさを教授する。

### 授業内容・授業計画

【授業内容】 初めてテニスを体験する人のために、初歩から段階的に進めていく。授業中はなるべくラケットやボールに触れる時間を多くとり入れ、ラケットが自分の体の一部と感ずるようになる。基礎的技能をマスター

したのち、ルールに従い、ゲームを楽しむ。

【授業計画】 1. ルールおよびラケットグリップの説明とボール遊び、2. ミニゲーム、3. テニスの構え、フットワーク、ラケットスイングの説明、4. フォアハンドストロークとバックハンドストロークの基本、5. グランドストローク、ボレーとスマッシュの基本、6. サービスとレシーブの基本、7. ラリー、ゲームの基本、8. ダブルスゲーム

### 評価方法

技能、履修態度、出席状況などから総合的に評価する。

### コメント

初心者を対象としているので、はじめてラケットを握る人でも安心して履修できる。雨天時には、ビデオ観賞など。

### 教材

配布資料。

# テニス 1 1単位

## Tennis 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	EJI (全文)	木・1	松原 慶子 (非常勤)
	STI (全理)	木・2	松原 慶子 (非常勤)
	全	木・3	松原 慶子 (非常勤)
	全	木・4	松原 慶子 (非常勤)

### 科目の主題と目標

テニスの基礎技術およびルールや審判法の習得を主な目的とする。

### 授業内容・授業計画

テニスは、老若男女を問わず、生涯スポーツとしても人気のある種目である。本授業では、初心者を対象にテニスの基礎技術の習得、そしてルールや審判法の理解を深めテニスの特性を理解する。雨天時については、教室でテニスの運動特性やルール、審判法についての講義、または体育館を使用し行う。

### 授業計画

- オリエンテーション 授業計画の説明、テニスの基礎知識
- ラケットイング、グリップ、グラウンドストローク

(フォアハンド)

- グラウンドストローク (フォアハンド・バックハンド)
- フォームのチェック、ラリー練習、サーブの導入
- サービスとリターン、ラリー練習
- ネットプレー (ボレー)
- テニスのゲーム (ダブルス、シングルス) 戦術論 (講義)
- ダブルスのゲーム
- ネットプレー (オーバーヘッドスマッシュ)、ロブ
- シングルのゲーム
- トータル練習 (各技術の再確認)
- 12~14. トーナメントまたはリーグ戦

### 評価方法

技能、履修態度、出席状況から総合的に評価する。

### コメント

テニスシューズを用意すること。

### 教材

必要に応じ資料配布。

## テニス 2 1単位

### Tennis 2

#### 〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	EJI (全文)	木・1	松原 慶子 (非常勤)
	STI (全理)	木・2	松原 慶子 (非常勤)

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	松原 慶子 (非常勤)
	全	木・4	松原 慶子 (非常勤)

#### 科目の主題と目標

テニスのゲームにおいて、個人の能力が遺憾無く発揮され駆け引きを楽しむことができるか。技術面、体力面、メンタル面の向上を図る。

#### 授業内容・授業計画

本授業では、テニス経験者（テニス1で、基本的技術を習得済みの者も含む）および熟練者を対象とし、より実践的な内容を

展開する。基本技術（5つのストローク）の安定性を高め、そしてより高度な技術の習得とゲームに関連させた実践的な練習を取り

入れゲームレベルの向上を図る。雨天時は、テニスの科学や戦術についての講義、または体育館を使用し行う。

#### ・授業計画

1. テニスの特性、各技術の確認
2. テニスのコーディネーション（トレーニング）、ミニラリー、ラリー練習
3. ボディコントロールとボールコントロール、球種

4. サービスとリターン

5. ネットプレー

6. 応用技術

7. 総合練習、タイブレーク方式

8. テニスの科学（バイオメカニクスの観点や用具について）講義

9. 各自の技術の評価と矯正

10. ダブルス（フォーメーション）

11. 戦術について（トップアスリートの映像から学ぶ）講義

12. シングルのゲーム

13～14. トーナメントまたはリーグ戦

#### 評価方法

技能、履修態度、出席状況から総合的に評価する。

#### コメント

テニスシューズを用意すること。

#### 教材

必要に応じ資料配布する。

## フットサル 1 1単位

### Futsal 1

#### 〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI (全文)	火・3	河端 隆志
	全	火・4	河端 隆志

#### 〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・2	河端 隆志

#### 授業内容

フットサルは、近年日本においても盛んに行われている室内で行うサッカーである。特徴としては、少ない人数で、弾みの少ないボールを用いて行う。本実習では、運動動作について「二軸動作」という新たな視点から着

目し、フットサルを通して、有効な身体動作についての知識を習得するとともに実践する能力を養うこと、さらには集団競技である利点を活かし、集団における個々のコミュニケーション力、キャプテンシーおよび協調性を身に付けることを目的とする。

実習の構成：1. ウォーミングアップ；ブラジル体操と二軸動作、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 走り方と二軸動作、4. キックと二軸動作Ⅰ、5. キックと二軸動作Ⅱ、6. ヘディングと二軸動作、7. 方向転換と二軸動作、8. シュートとは、9. ボールテクニック、10. ボールテクニック、11. 総合ゲーム、12. 総合ゲーム、13. 総合ゲーム、14. 総合ゲーム

## フットサル 1 1単位

Futsal 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	鈴木 崇士 (非常勤)
	全	火・4	鈴木 崇士 (非常勤)
	全	木・3	鈴木 崇士 (非常勤)
	全	木・4	鈴木 崇士 (非常勤)

### 科目の主題と目標

フットサルは、サッカーの4分の1ぐらいの大きさのコートで、5対5でプレーするサッカーに似たスポーツです。また、経験・年齢・性別を問わない競技性も人気であり手軽なスポーツとして受け入れられています。

本実習では、フットサルに必要な動作やテクニックの習得を中心に、フットサルの楽しさに触れ、生涯スポーツとしてのフットサルを実践する上で必要な知識と技術を身につけることを目的とする。また、チームスポーツを通じて、集団における個々のコミュニケーション力、キャプテンシーおよび協調性を身につけることを目的とする。

### 授業内容・授業計画

オリエンテーション、競技特性について、  
ウォーミングアップとストレッチ  
キック動作

### 評価方法

自主性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力および出席状況の結果から評価する

### 教材

必要に応じて参考資料を配布する

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	鈴木 崇士 (非常勤)
	全	木・4	鈴木 崇士 (非常勤)

### ボールコントロール

シュート技術

基本テクニック

ルール、審判法

システム、戦術

応用テクニック

ゲーム分析

総合ゲーム

総合ゲーム

総合ゲーム

総合ゲーム

### 評価方法

積極性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力、出席状況などを総合的に評価する。

### 教材

必要に応じて参考資料の配布や文献の紹介をおこなう



# ソフトボール 1 1単位

Sohutoboll

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	EJI (全文)	木・1	宮側 敏明

## 科目の主題と目標

ソフトボールは、アメリカのシカゴで1887年に生まれ、日本には、1921年に初めて紹介されたスポーツである。ソフトボールは、野球に比べてボールが大きく、重く、バットは細く軽いので、比較的狭い場所でも、年齢、性別に関係なく、誰でも気軽にできる特徴を持ち、多くの人々を熱中させている。本実習では、ファースト・ピッチを中心に、ピッチング、バッティング、フィールディング、ベースランニングなどの基本をしっかり獲得させると共に、ルールの説明をおこない、ゲームの楽しみ方を教授する。

## 授業内容・授業計画

【授業内容】 安全に授業を進めるために、ウォームアップの仕方とキャッチング技能の向上から導入する。次いで、その他の基本的技能を科学的根拠に基づき説明

しながら十分に理解させ、習得させる。基本的技能を習得したのち、ゲームに必要な応用プレイについて習得させる。最終的に、ゲームを中心として展開する。

【授業計画】 1. ウォームアップとウォームダウン、2. ソフトボール施設および用具とルールの説明、3. キャッチボール、4. ゴロの補球、5. スローイング、6. ピッチングとキャッチャー補給、7. バッティング、6. 各ポジションの守備、7. ゲーム

## 評価方法

出席状況、履修態度、技能修得度などからの総合評価  
コメント

基本的な技能獲得ことから進めるので、初心者はもちろん経験者も楽しく受講できる。

## 教材

配布資料

# ソフトボール 1 1単位

Sohutoboll

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	水・2	岡崎 和伸
	CLI (全文)	火・3	岡崎 和伸
	STI (全理)	木・2	岡崎 和伸

## 科目の主題と目標

ソフトボール(野球型スポーツ)未経験者や初心者が、ソフトボールに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてソフトボールを楽しむことが出来る下地を養う科目である。各種ミニゲームを楽しみながら、ボールを投げる、捕る、打つ、というソフトボールの基礎的な個人技能・技術の習得を目標とする。さらに、ソフトボールの戦術やルールだけでなく、マナーやチームプレーなどを理解し、仲間とのコミュニケーションを深めながら、競技性よりもゲーム性やスポーツの楽しみ方を学ぶことを目標とする。

## 授業内容・授業計画

【授業内容】 毎回、各種ミニゲームを行いながら、ソフトボールの基礎技術・技能(投球、捕球、打球)を段階的に習得していく。中期からは各ポジションの守備特性、ピッチングなどのソフトボール特有の技術・技能の習得に取り組む。終盤はスローピッチルールでのゲーム

を実施しながらソフトボールの楽しさ、戦術、ルール、マナー、審判法、チームプレーなどを学習する。最終的には、チームを編成し、実際のルールに従ったゲームを楽しみながら理解を深める。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、ティーボールゲーム、2. キャッチボール(ボールの握り方、クラブの使い方、送球と捕球)、ティーボールゲーム、3. ゴロ捕球、バッティング(バットの握り方、構え方、打ち方)、ティーバッティング、4. フライ捕球、トスバッティング、5. 各ポジションの体験、ポジション別の守備特性、フリーバッティング、6. ピッチング(ウインドミル投法)①、7. ピッチング(ウインドミル投法)②、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. ゲーム(スローピッチ)、ルール、審判法、10. ゲーム(スローピッチ)、戦術、11~14. ゲームの実践

## 評価方法

出席状況、授業への取り組み、技能修得度などから総合的に評価する。

## コメント

受講に際して、ソフトボール(野球型スポーツ)の経験の有

無、ボールを投げたり打ったりする能力の優劣は問わない。

## 教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考文献を紹介する。

# ジョギング・マラソン 1

## Jogging・Marathon 1

1単位

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・4	岡崎 和伸
	EJI (全文)	木・1	岡崎 和伸

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	EJI (全文)	木・1	岡崎 和伸
	STI (全理)	木・2	岡崎 和伸

## 科目の主題と目標

ジョギング未経験者や初心者、ジョギングに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてジョギングやマラソンを楽しむことが出来る下地を養う科目である。“ゆっくり走る”ジョギングの楽しさ、爽快感を体験し、自分にあったジョギングフォームやペース感覚を身につけること、マラソン出走と完走を目指した科学的なトレーニング方法を体験することを目標とする。また、身体運動やスポーツによる健康増進効果についても学習し、生涯にわたって身体運動やスポーツに積極的に取り組み、健康的な生活を送る習慣を養成することを目標とする

## 授業内容・授業計画

### 【授業内容】

ウォーキングから“ゆっくり走る”ジョギング、マラソンレースペースでのジョギングに段階的に移行する。ジョギングのペース、距離、時間は各自の走る能力に合わせて無理なく増加していく。ウォーキング、ジョギングをもとにしたリクリエーションなども実施し、仲間とのコミュニケーションを深める。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ

チング、2. ウォーキングフォーム、ジョギング体験、3. 簡易持久力評価テスト、各自の目標設定、4. ジョギングフォーム、各種ドリル、5. “ゆっくり走る”ジョギング①、6. “ゆっくり走る”ジョギング②、7. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. マラソンレースペースでのジョギング(ペース走)、10. ファルトレイクラン、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義(雨天時)、12. ジョギングマップ作成、13. ロングスローディスタンス(LSD)、14. 簡易持久力評価テスト、自己評価

## 評価方法

出席状況、授業への取り組み、課題提出状況などから総合的に評価する。

## コメント

受講に際して、ジョギングやマラソンの経験の有無、走る能力の優劣は問わない。

## 教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

# ジョギング・マラソン 2

## Jogging・Marathon 2

1単位

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CL I (全文)	火・3	岡崎 和伸
	全	火・4	岡崎 和伸

## 科目の主題と目標

ジョギングやマラソン経験者が、ハーフマラソン・マラソン完走や記録達成を目指したトレーニングを実践する科目である。各自の目標を設定し、目標達成のための練習・レース計画の立案方法、練習日誌の作成方法、科学的なトレーニング方法、ペース配分などの戦略、さらに、パフォーマンス向上のためのスポーツ科学的な知識を習得することを目標とする。

## 授業内容・授業計画

【授業内容】 ジョギングのペース、距離、時間は各自の走る能力に合わせて段階的に増加していく。授業初期に実施する各種測定結果などに基づき、各自の目標や練習・レース計画を立案する。授業で実施するトレーニングに加えて、日々の練習状況を練習日誌に記録し、毎回それを提出する。練習日誌は、担当者のコメントと共に次回の授業時に返却する。

**【授業計画】** 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、“ゆっくり走る”ジョギング、2. 持久力評価テスト、各自の目標設定、練習・レース計画の立案、3. ピッチとストライドの計測、速く走るためのフォーム、各種ドリル、4. 無酸素性作業閾値(AT)の計測、マラソンペースの設定、5. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、6. マラソンレースペースでのジョギング(ペース走)①、7. ファルトレイクラン、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. ロングスローディスタンス(LSD)①、10. マラソンレースペースでのジョギング(ペース走)②、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義(雨天時)、12. インターバル走、13. ロングスローディスタンス(LSD)②、14. 持久力評価テスト、自己評価

**評価方法**

出席状況、授業への取り組み、課題提出状況などから総合的に評価する。

**コメント**

ジョギング・マラソンⅠの受講者、あるいは、ジョギングやマラソンの経験者を対象とするが、走る能力の優劣は問わない。

**教材**

必要に応じて参考資料を配付し、参考文献を紹介する。

## バドミントンⅠ 1単位

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・2	岡崎 和伸

**科目の主題と目標**

バドミントン未経験者や初心者が、バドミントンに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてバドミントンを楽しむことが出来る下地を養う科目である。各種ミニゲームを楽しみながら、バドミントンの基礎的な技術・戦術を習得し、シングルス・ダブルスのゲームを楽しむことが出来ることを目標とする。また、ゲームを数多く体験しながら、バドミントンのルール、マナー、審判・ゲーム進行法を理解し、豊かな交流を図るとともに、スポーツの楽しさ、楽しみ方を学ぶことを目標とする。

**授業内容・授業計画**

**【授業内容】** 初期は、各種ミニゲームやストロークの練習を行いながら、バドミントンを楽しむための基礎的な個人技術を段階的に習得していく。中期からは、習得した個人技術を用いてシングルのゲームを数多く体験し、バドミントン特有の戦術の習得に取り組む。また、ダブルスの技術・戦術の習得に取り組む、コンビネーションを生かしたゲームが出来るようにする。終盤にはシングルス、ダブルスのリーグ戦を実施しながら、バドミントンの楽しさ、ルール、マナー、審判・ゲーム進行法などを学習し、他者とのコミュニケーションやゲームマネジメント・運営が出来る能力を養う。

**【授業計画】** 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ラケット・シャトルになれる、基本姿勢とグリップ、2. 基本ストローク(オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンド)、フットワーク、3～4. ストローク(クリア、ロブ)、ミニゲーム、5. ストローク(サービス、サービスレシーブ)、シングルスゲーム、6～7. ストローク(ドロップ、カット、プッシュ、ヘアピン)、シングルスゲーム、8～9. ストローク(ドライブ、スマッシュ、レシーブ)、シングルスゲーム、10～11. ルール、審判・ゲーム進行法、シングルスゲーム(リーグ戦)、12. ダブルスの技術・戦術、コンビネーションプレイ、13～14. ダブルスゲーム(リーグ戦)

**評価方法**

出席状況、授業への取り組み、技術・戦術の習得度などから総合的に評価する。

**コメント**

受講に際して、バドミントンの経験の有無や能力の優劣は問わない。

**教材**

必要に応じて参考資料を配付し、参考文献を紹介する。

# 健康管理 1

1単位

Health Improvement Exercise for The Handicapped 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	水・5	藤原 晃 (非常勤)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	水・5	藤原 晃 (非常勤)

## 授業内容

本実習は、身体的、体力的な理由により健常人と同様の運動が難しいもののために開設されたものであり、各自の体力や症状を把握し、軽スポーツや身体の調整法を痛して現在の状態を維持、向上させることを主旨とする。

ハンディキャップを抱えるものでもスポーツを楽しむ権利は平等にあり、本実習において自分に合った運動を発見し、健康に取っての運動の意義を学習する。

- ①②体力測定
- ③④自力整体
- ⑤⑥パートナーマッサージ
- ⑦⑧呼吸法
- ⑨⑩ストレッチング
- ⑪⑫⑬⑭軽スポーツ

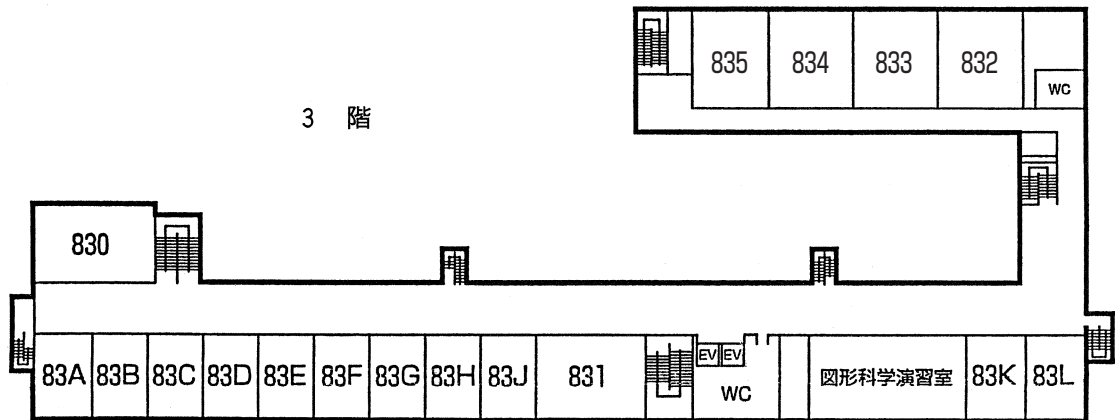
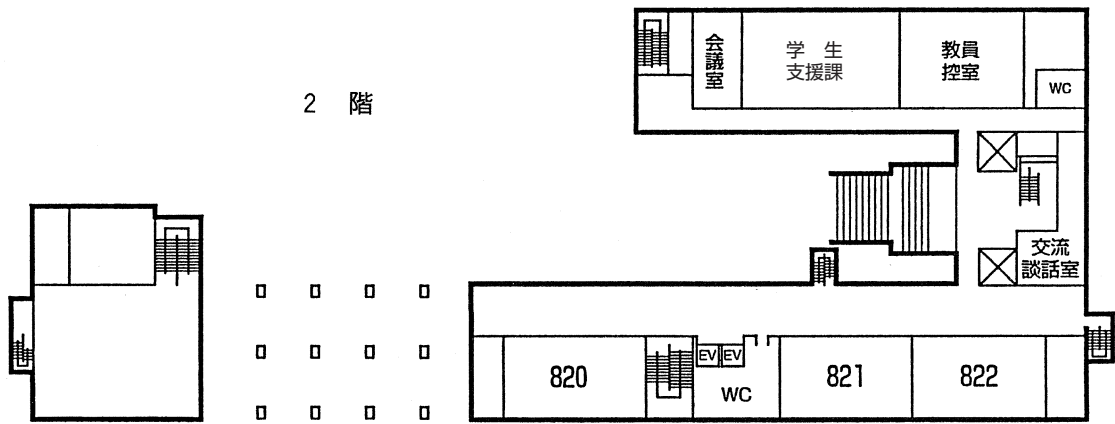
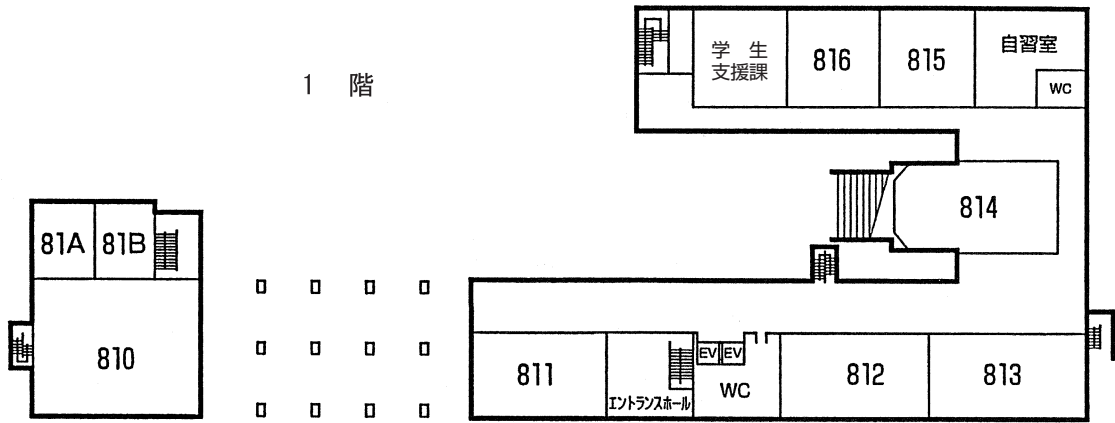
## 評価方法

出席点・授業中の平常点

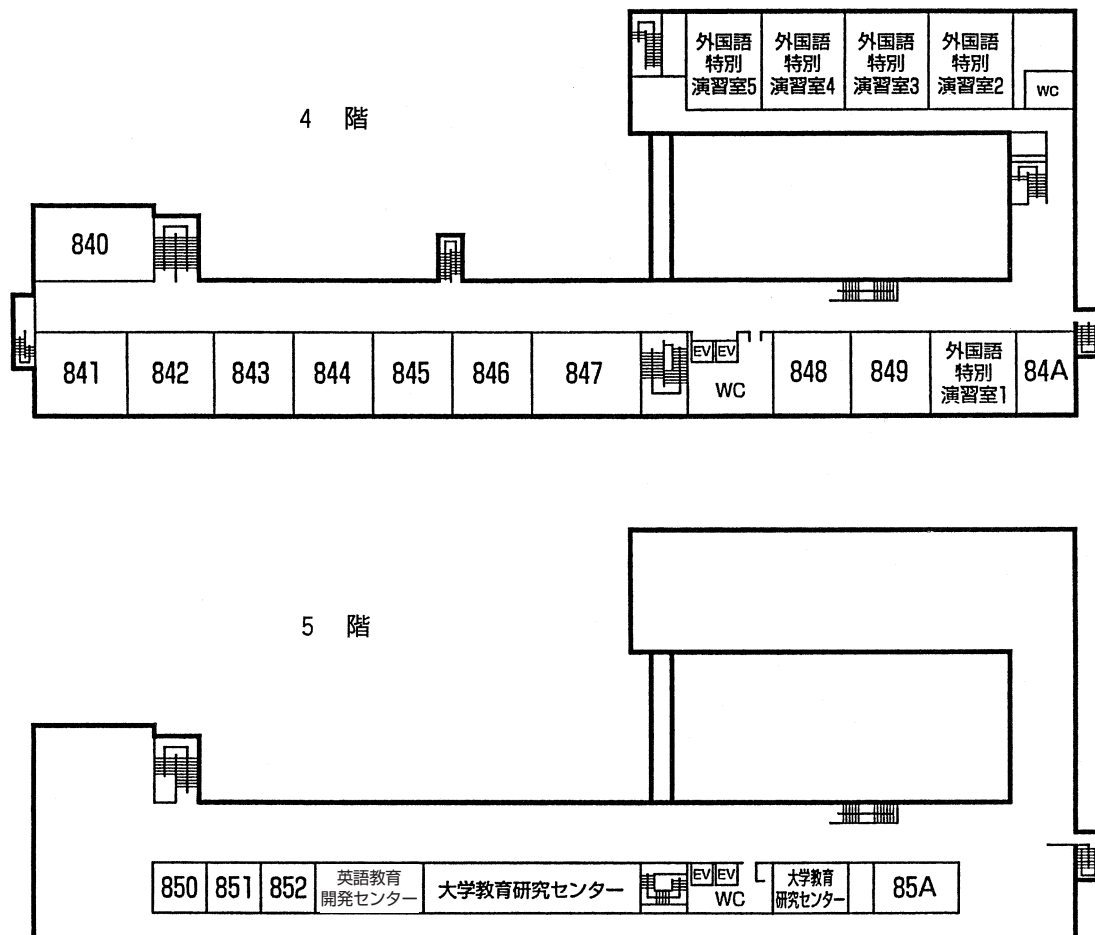
## IV 教室等施設配置図

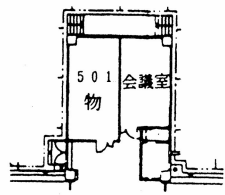


# 全学共通教育棟

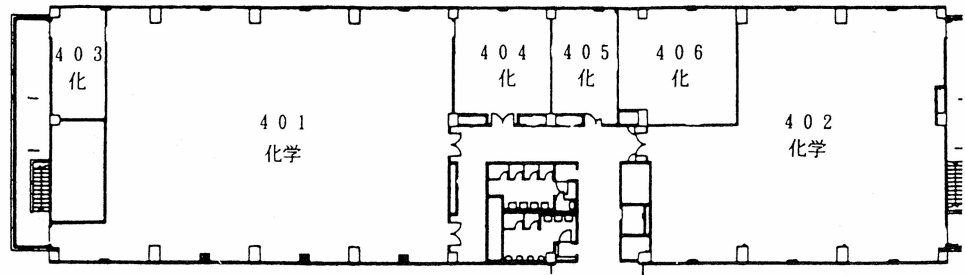


# 各教室見取図





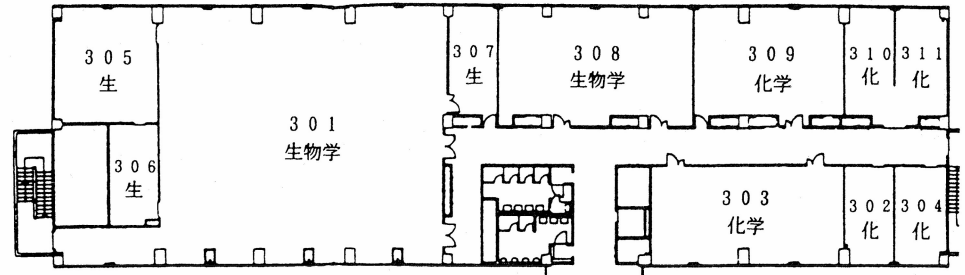
5階



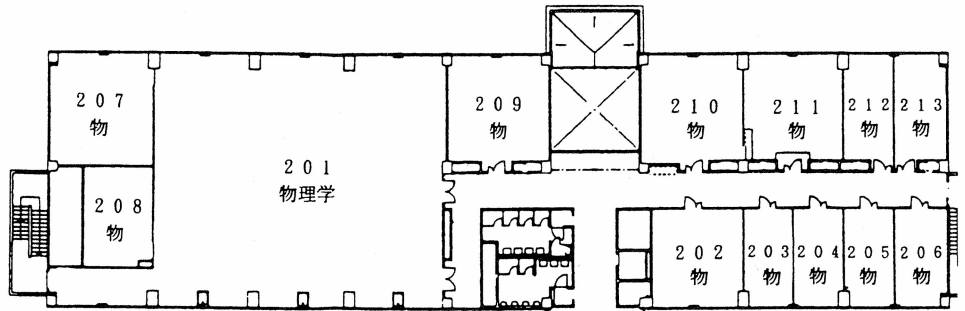
4階

# 基礎教育実験棟

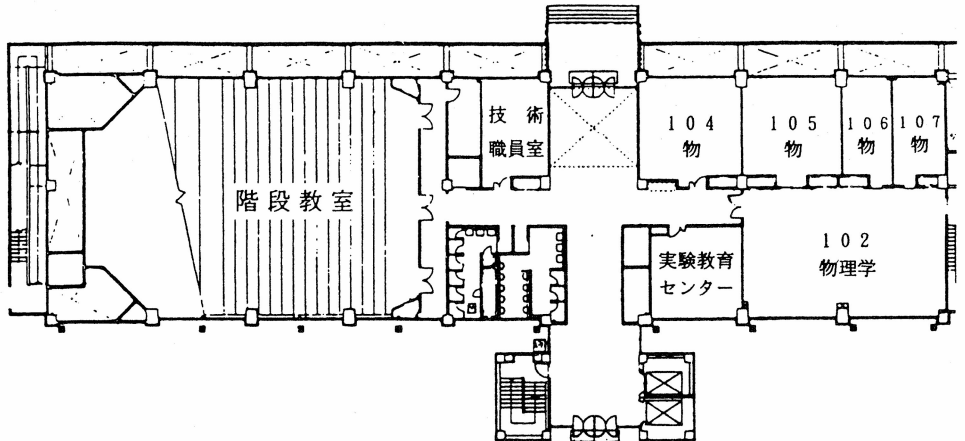
3階



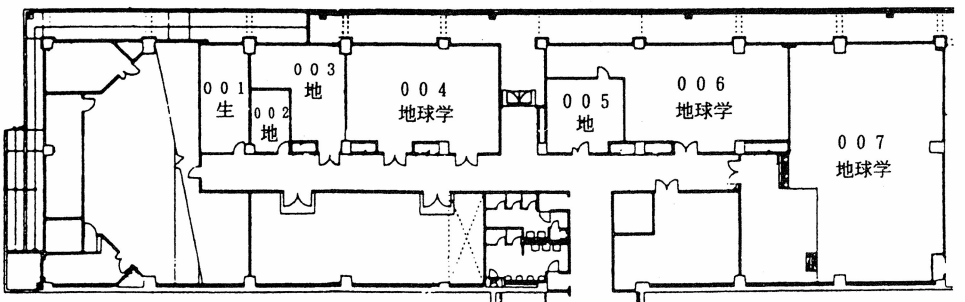
2階



1階

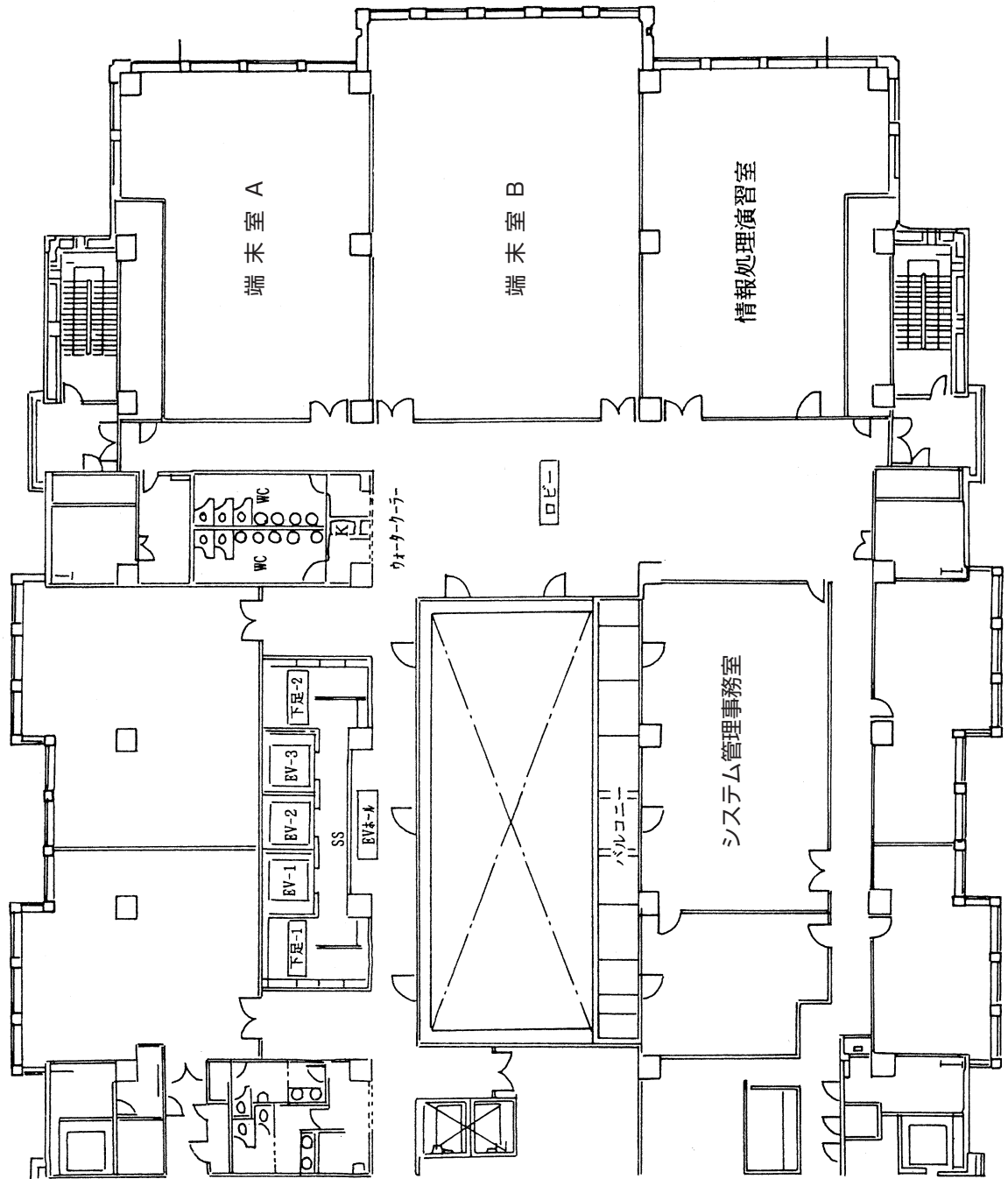


地下1階



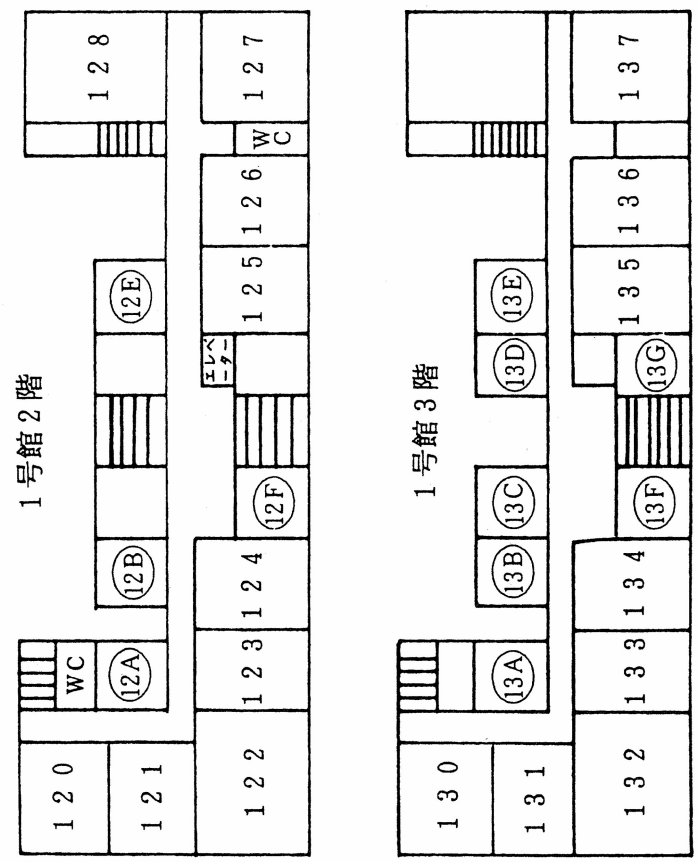
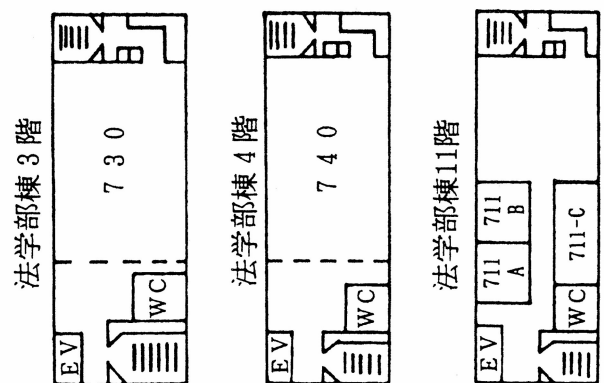
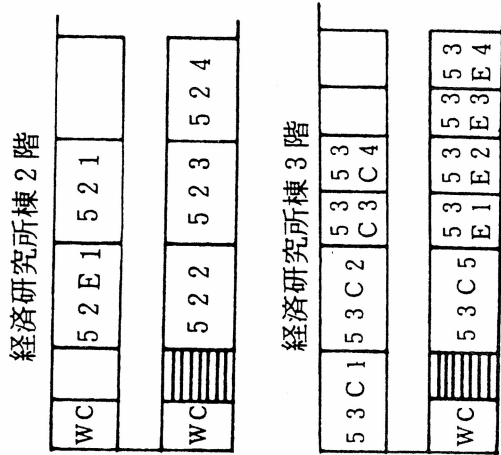
(1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。  
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。)

学術情報総合センター 9F



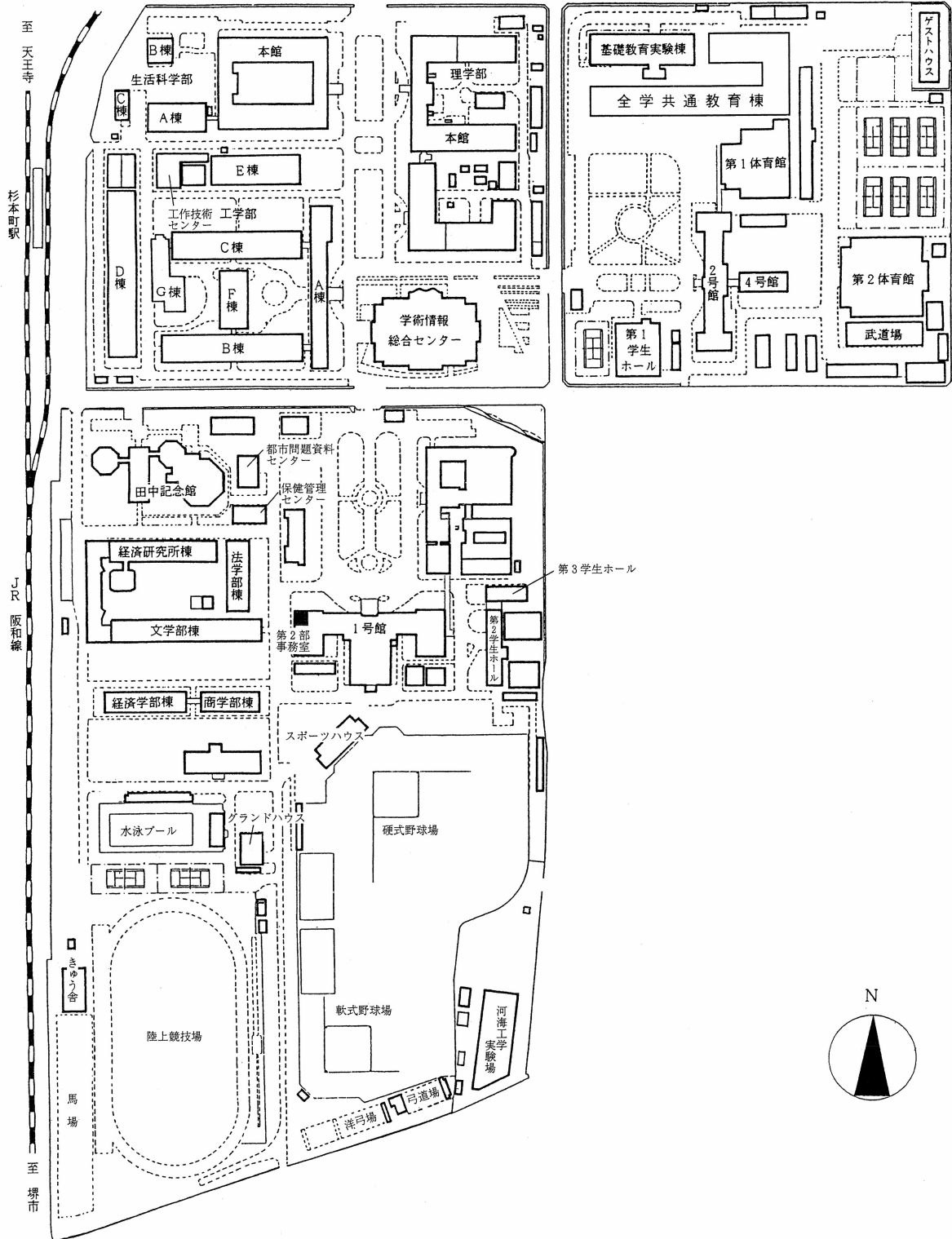
( 西側省略 )

# 本館地区見取図





# 杉本学舎配置図



# V 学 則

# 大阪市立大学学則

## 第1章 総則

(目的)

第1条 大阪市立大学（以下「大学」という。）は、学術研究の中心として深く専門の学芸を研究し、かつ、学校教育法（昭和22年法律第26号）の規定に従い高い学問的教養を授けるとともに、人格の向上を図ることを目的とする。

(学部等)

第2条 大学の学部（医学部を除く。）、学科、入学定員、第3年次編入学定員（第11条第1項及び第2項の規定による編入学の定員をいう。）及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	第1部(夜間授業の課程以外の課程をいう。以下同じ。)			第2部(夜間授業の課程をいう。以下同じ。)	
		入学定員	第3年次編入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
商学部	商学科	名 200	名	名 800	名 35	名 140
経済学部	経済学科	200		800	50	200
法学部	法学科	150		600	30	120
文学部	哲学歴史学科	30	2	124		
	人間行動学科	50	2	204		
	言語文化学科	60	2	244		
	人文学科				30	120
	計	140	6	572	30	120
理学部	数学科	24		96		
	物理学科	31		124		
	物質科学科	16	5	74		
	化学科	25	3	106		
	生物学科	28	3	118		
	地球学科	16	5	74		
	計	140	16	592		
工学部	機械工学科	28		112		
	電気工学科	28		112		
	応用化学科	28		112		
	建築学科	28		112		
	都市基盤工学科	28		112		
	応用物理学科	28		112		
	情報工学科	28		112		
	バイオ工学科	28		112		
	知的材料工学科	28		112		
	環境都市工学科	28		112		
	計	280		1,120		

生活科学部	食品栄養科学科	35		140		
	居住環境学科	43		172		
	人間福祉学科	45		180		
	計	123		492		
合計		1,233	22	4,976	145	580

2 医学部の学科、入学定員、第2年次編入学定員（第11条第3項の規定による編入学の定員をいう。）、第3年次編入学定員（同条第4項の規定による編入学の定員をいう。）及び収容定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	第2年次 編入学定員	第3年次 編入学定員	収容定員
医学科	名 80	名	名	名 480
看護学科	40	10	20	230
合計	120	10	20	710

- 3 学部に別表に掲げる講座又は学科目を置く。
- 4 大学に教育推進本部、研究推進本部及び地域貢献推進本部を置く。
- 5 大学に学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター及び都市研究プラザを置く。
- 6 理学部に附属植物園を、医学部に附属病院及び附属刀根山結核研究所を置く。
- 7 この規則に定めるもののほか、教育推進本部、研究推進本部及び地域貢献推進本部並びに学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、都市研究プラザ、理学部附属植物園、医学部附属病院及び医学部附属刀根山結核研究所については、別に定める。

(大学院)

第3条 大学に大学院を置く。

2 大学院については、別に定める。

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る

(学期)

第5条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 春季休業 3月20日から4月6日まで
- (4) 夏季休業 8月5日から9月15日まで
- (5) 冬季休業 12月23日から翌年1月7日まで
- (6) その他学長が必要と認めた日

2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項第3号から第5号までの休業日を取りやめ、又は変更することができる。

## 第2章 学生

### 第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第7条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科の修業年限は、6年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の修業年限については、教授会の議を経て学部長が定める。
- 3 第1項の規定にかかわらず、第23条の2の規定に基づき長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）の修業年限については、当該履修を許可された年限とする。

(在学年限)

第8条 在学年限は、8年とする。ただし、医学部医学科の在学年限は、11年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の在学年限については、教授会の議を経て学部長が定める。

### 第2節 入学、転学部、転学科、留学、退学、休学及び除籍

(入学の時期)

第9条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学については、この限りでない。

(入学)

第10条 大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
  - (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
  - (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
  - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
  - (5) 文部科学大臣の指定した者
  - (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験又は同規則による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による資格検定に合格した者
  - (7) 大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 2 大学において教育を受ける目的をもって入国する外国人が入学を願い出たときは、前項の規定による入学試験に代えて教授会において選考の上、学長が入学を許可することができる。
  - 3 第1項各号のいずれかに該当し、かつ、大学において別に定める入学資格を有する者が入学を願い出たときは、同項の規定による入学試験に代えて教授会において選考の上、学長が入学を許可することができる。

第11条 次の各号のいずれかに該当する者で、文学部第1部又は理学部物質科学科、化学科、生物学科若しくは地球学科の第3年次への編入学（第6号に該当する者にあつては、文学部第1部への編入学に限る。）を志願するものについては、教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の議を経て学部長が定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
  - (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
  - (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
  - (4) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
  - (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
  - (6) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第92条の3第1項の表の上欄に掲げる従前の規定による学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者（同条第2項又は第3項の規定により、これらの学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者とみなされる者を含む。）で学部長が定めるもの
- 2 前項に定めるもののほか、理学部物質科学科又は地球学科の第3年次への編入学を志願する社会人（前項第1号か



ら第5号までに掲げる者又は学校教育法第82条の2の規定による専修学校（以下「専修学校」という。）の専門課程（学校教育法施行規則第77条の8第1項に規定する基準を満たすものに限る。）を修了した者（同法第56条第1項に規定する者に限る。）のうち、理学部長が別に定める要件を満たすものをいう。）については、教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。

- 3 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者で、医学部看護学科の第2年次への編入学を志願するものについては、医学部教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。
- 4 保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第21条第1号の学校（学校教育法第1条の大学であるものに限る。）を卒業した者又は同号の学校（専修学校であるものに限る。）若しくは保健師助産師看護師法第21条第2号の看護師養成所（専修学校であるものに限る。）の専門課程（学校教育法施行規則第77条の8第1項に規定する基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第56条第1項に規定する者に限る。）で、医学部看護学科の第3年次への編入学を志願するものについては、医学部教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。

第12条 前条に定めるもののほか、次の各号のいずれかに該当する者で、編入学を志願するものについては、欠員のがある場合に限り、教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の議を経て学部長が定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
  - (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
  - (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
  - (4) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
  - (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
  - (6) その他大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者と同等以上の学力があると学部長が認める者
- 2 学長は、第15条第1項の規定により退学し、又は第17条第2項第1号の規定により除籍された者が再入学を願い出たときは、教授会の議を経てこれを許可することができる。ただし、再入学の願い出は、退学又は除籍の日から3年以内に限る。

(転学部及び転学科)

第13条 本学の他学部転学部を志願する者があるときは関係学部の教授会の協議を経て、学長がこれを許可することができる。

- 2 転学科を志願する者があるときは、教授会の議を経て、学長がこれを許可することができる。
- 3 本条に定めるもののほか転学部及び転学科について必要な事項は、教授会の議を経て学部長が定める。

(留学)

第14条 外国の大学（外国の短期大学を含む。以下同じ。）に留学することを願い出た者については、教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の議を経て、その大学と協議のうえ、学長がこれを許可することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由により外国の大学と事前に協議を行うことが困難な場合には、これを欠くことができる。
- 3 留学の期間は、在学年数に算入する。

(退学及び休学)

第15条 病気その他やむを得ない事情のため退学しようとする者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が退学を許可することができる。

- 2 病気その他やむを得ない事情のため原則として2月以上にわたって学修することができない者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が休学を許可することができる。
- 3 前項の規定による休学の願い出は、学年ごとに行わなければならない。
- 4 病気のため療養を必要とすると認められる者については、学部長の申請により、学長が休学を命ずることができる。ただし、事前に、時宜によっては事後に、教授会の議を経なければならない。
- 5 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 6 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第16条 休学期間中にその事由が消滅した者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が復学を許可す

ることがある。

(除籍)

第17条 第8条に定める在学年限内に成業することのできない者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

2 次の各号の1に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍することがある。

- (1) 授業料を納付しない者
- (2) 病気その他の事由により成業の見込みのない者
- (3) 教授会の議を経て学部長が定める期間内に所定の単位を修得しない者
- (4) 第15条第5項に定める休学期間を満了してなお就学できない者

### 第3節 教育課程

(教育課程の編成方針)

第18条 教育課程は、大学、学部及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を次条第1項及び第2項に定める区分に従って開設し、体系的に編成するものとする。

2 教育課程の編成にあたっては、学部及び学科等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性をかん養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目及び単位数)

第19条 大学において開設する授業科目は、全学共通科目、専門教育科目及び教職に関する科目とする。

- 2 全学共通科目は、総合教育科目、基礎教育科目、外国語科目及び健康・スポーツ科学科目に区分する。
- 3 前2項に定めるもののほか、各授業科目及びその単位数については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

(履修方法)

第20条 学生（医学部医学科の学生を除く。）は、全学共通科目及び専門教育科目を合計して124単位以上を修得しなければならない。

- 2 医学部医学科の学生は、医学部医学科履修規程で定める単位数以上の全学共通科目を修得するとともに、同規程で定めるところにより、専門教育科目を履修して試験に合格しなければならない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学部長は、教育上必要があると認めるときは、教授会の議を経て同項の単位数を増加することができる。
- 4 前3項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者に係る履修方法については、教授会の議を経て学部長が定める。

(国内の他の大学等の授業科目の履修)

第21条 学生が国内の他の大学（国内の短期大学を含む。以下同じ。）の授業科目を履修することが教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の議を経て、その大学との協議のうえ、学長がこれを承認することができる。

2 第14条及び前項の規定により修得した授業科目及び単位数については、30単位を超えない範囲で、これを大学において修得したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第22条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生の行う学修で文部科学大臣が定めるものを、大学における授業科目の履修とみなすことができる。

- 2 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の議を経て、単位を与えることができる。
- 3 前項の規定により与えることのできる単位数は、前条第2項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(既修得単位等の認定)

第23条 学部長は、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、既修得単位（大学の第1年次に入学した者が当該入学前に大学、国内の他の大学又は外国の大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）

をいう。)を、当該入学後大学において修得したものとみなすことができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。

- 2 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、大学における授業科目の履修とみなすことができる。
- 3 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の議を経て、単位を与えることができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。
- 4 第1項又は前項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、合わせて30単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第23条の2 学長は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第7条第1項に規定する修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(その他)

第24条 本節に定めるもののほか、履修方法、単位の計算方法及び学習の評価方法については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

#### 第4節 卒業の認定

(卒業の認定及び学位の授与)

第25条 第25条 大学に所定の期間在学して、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得し、所定の卒業資格を得た者に対し、学部長は教授会の議を経て卒業を認定する。

- 2 学長は、前項の規定により卒業を認定された者に対し、次の区分に従って学士の学位を授与する。

商学部 学士(商学)

経済学部 学士(経済学)

法学部 学士(法学)

文学部 学士(文学)

理学部 学士(理学)

工学部 学士(工学)

医学部

医学科 学士(医学)

看護学科 学士(看護学)

生活科学部 学士(生活科学)

#### 第5節 教員免許

(教員免許)

第26条 教員の免許状授与の所要資格を取得することのできる学部・学科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許教科	免許状の種類
商学部	商学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民 商業	高等学校教諭1種免許状
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民 商業	高等学校教諭1種免許状
法学部	法学科	社会	中学校教諭1種免許状

		地理歴史 公民	高等学校教諭 1 種免許状
文学部	哲学歴史学科	社会	中学校教諭 1 種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭 1 種免許状
	人間行動学科	社会	中学校教諭 1 種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭 1 種免許状
	言語文化学科	国語 中国語 英語 ドイツ語 フランス語	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状
	人文学科	社会	中学校教諭 1 種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭 1 種免許状
		国語	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状
	理学部	数学科	数学
物理学科		理科	
物質科学科			
化学科			
生物学科			
地球学科			
工学部	機械工学科	工業	高等学校教諭 1 種免許状
	電気工学科		
	応用化学科		
	建築学科		
	都市基盤工学科		
	応用物理学科		
	情報工学科		
	バイオ工学科		
	知的材料工学科		
	環境都市工学科		
生活科学部	食品栄養科学科	家庭	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状
			栄養教諭 1 種免許状
	居住環境学科	家庭	中学校教諭 1 種免許状 高等学校教諭 1 種免許状
	人間福祉学科	福祉	高等学校教諭 1 種免許状

2 前項に定めるもののほか、教員の免許状授与に係る基礎資格及び単位の修得方法等については、学長が別に定めるところによる。

## 第 6 節 賞罰

(表彰)

第27条 品性学力ともに優秀な者、又は篤行のあった者はこれを表彰する。

(懲戒)

第28条 学則その他の規定又は命令に違反した者、大学の秩序を乱した者その他学生の本分にもとると認められる者は、懲戒委員会の議決を経て学長が懲戒する。

2 懲戒委員会の組織は、教育研究評議会で定める。

3 懲戒処分は、訓告、停学及び退学の3種とする。

### 第3章 科目等履修生及び研修生

(科目等履修生)

第29条 特定の授業科目の履修を志願する者があるときは、教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において選考の上、学長が科目等履修生として入学を許可することができる。

(特別履修学生)

第30条 学長は、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、その大学の学生が、大学の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により大学の授業科目の履修を認められた学生を特別履修学生と称する。

3 第1項の規定にかかわらず、やむを得ない事情により外国の大学と事前に協議を行うことが困難なときは、これを欠くことができる。

(研修生)

第31条 公の機関又は団体等から、その所属の職員につき、学修題目を定めて研修を願い出たときは、教授会又は都市健康・スポーツ研究センター教員会議において選考の上、学長が入学を許可することができる。

2 前項の規定により入学を許可された者を研修生とする。

(その他)

第32条 本章に定めるもののほか、科目等履修生及び研修生について必要な事項は学長が別に定める。

### 第4章 授業料その他の納付金

(納付金)

第33条 納付金の額は、次表のとおりとする。

区 分		入学検定料	入 学 料		授業料
			本市住民及びその子	その他の者	
学生	第1部	17,000円	222,000円	342,000円	1年 535,800円
	第2部	10,000円	111,000円	171,000円	1年 267,900円
科目等履修生		9,800円	22,200円	34,200円	1単位 14,800円
研修生		9,800円	66,600円	102,600円	1月 29,700円

2 前項の規定にかかわらず、第10条第3項、第11条又は第12条第1項の規定により入学を願い出た者に係る入学検定料の額については、第1部にあっては30,000円、第2部にあっては18,000円とする。



3 第1項の規定にかかわらず、長期履修学生の授業料の額については、別に定める。

(既納付金の還付)

第34条 既納の納付金は、還付しない。ただし、次の各号の1に該当する場合には、この限りでない。

- (1) 学生に係る入学試験において、出願書類等による選抜を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜を行う場合
- (2) 前号のほか公立大学法人大阪市立大学（以下「法人」という。）理事長が必要と認めた場合

(減免及び分納)

第35条 休学者に対しては授業料を免除する。ただし、休学した日の前日又は復学した日の属する学期の授業料を納めなければならない。

2 学年の途中で卒業する者、退学する者及び除籍された者は、その日の属する学期の授業料を納めなければならない。

第36条 特別の事情があると認めるときは、授業料の減免若しくは分納又は入学検定料若しくは入学料の減免を許可することがある。

第37条 特別履修学生に対しては、入学検定料及び入学料を免除する。

2 特別履修学生に対しては、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、授業料を免除することがある。

(その他)

第38条 本章に定めるもののほか、授業料等の納期その他納付金については別に定めるところによる。

## 第5章 職員組織

(職員)

第39条 大学に次の職員を置く。

- (1) 学長、副学長、教育推進本部長、研究推進本部長、地域貢献推進本部長、学部長、副学部長、研究所長、学術情報総合センター所長、病院長、学生担当部長、教務担当部長
- (2) 教授、准教授、講師、助教
- (3) 事務職員、技術職員
- (4) その他必要な職員

(事務組織)

第40条 大学の事務を処理するため、大学に大学運営本部を、医学部に医学部・附属病院運営本部を置く。

2 大学運営本部及び医学部・附属病院運営本部については、別に定める。

## 第6章 教授会、教育研究評議会等

(教授会等)

第41条 各学部に教授会を、都市健康・スポーツ研究センターに都市健康・スポーツ研究センター教員会議を、人権問題研究センターに人権問題研究センター教員会議を、大学教育研究センターに大学教育研究センター研究員会議を置く。

- 2 教授会は教授をもって組織する。ただし、教育研究評議会の承認を経て准教授その他の教員を加えることができる。
- 3 都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議及び大学教育研究センター研究員会議については、別に定める。

第42条 学部教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 教員の人事に関する事項
  - (2) 学部長及び教育研究評議員の選挙に関する事項
  - (3) 研究に関する事項
  - (4) 学科、課程及び履修方法に関する事項
  - (5) 学生の入学、留学、退学、卒業その他学生の身分に関する事項
  - (6) 科目等履修生及び研修生に関する事項
  - (7) 学部の内規の制定及び改廃に関する事項
  - (8) その他学部における重要事項
- 2 教授会の議事の手続その他その運営に必要な事項については、別に定める。

(教育研究評議会)

第43条 大学に教育研究評議会を置く。

2 教育研究評議会は、次に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長が指名する理事
- (4) 学長が定める教育研究上重要な組織の長
- (5) 教育研究評議会が定めるところにより学長が指名する職員

3 前項第5号に定める職員を、教育研究評議員と称する。

4 教育研究評議員は、大学院の各研究科教授会（当該研究科において教育研究評議員を選定しない場合は、当該研究科に關係のある学部の教授会）、都市健康・スポーツ研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において、当該研究科（当該研究科において教育研究評議員を選定しない場合は、当該研究科に關係のある学部）、都市健康・スポーツ研究センター又は大学教育研究センターに所属する常勤教員のうちから選定し、学長がこれを指名する。

第44条 教育研究評議会は、次の事項を審議する。

- (1) 中期目標について大阪市長に対し述べる意見及び年度計画に関する事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (2) 地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）により大阪市長の認可又は承認を受けなければならない事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (3) この規則及び大阪市立大学大学院学則の改正並びに教育研究に関する規程の制定及び改廃に関する事項
- (4) 教育研究評議員の任期に関する事項
- (5) 教員の人事に関する方針及び基準に係る事項
- (6) 教員の降任、解雇及び懲戒処分の審査に関する事項
- (7) 教員の休職期間に関する事項
- (8) 教育課程の編成に関する方針に係る事項
- (9) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- (10) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
- (11) 学生の身分に関する重要事項
- (12) 学生の厚生補導に関する事項
- (13) 教授会その他の機関の連絡調整に関する事項
- (14) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- (15) 前各号に掲げるもののほか、大学における教育研究に関する重要事項

(招集及び議事)

第45条 教育研究評議会は、学長が招集する。

2 教育研究評議会に議長を置き、学長をもって充てる。

3 議長は、教育研究評議会を主宰する。

4 教育研究評議会は、構成員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

5 教育研究評議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 この規則に定めるもののほか、教育研究評議会の運営に必要な事項については、教育研究評議会の議を経て学長が

定める。

## 第7章 雑則

(改正)

第46条 この規則の改正は、法人の経営に関する事項については、公立大学法人大阪市立大学定款（平成16年大阪市議会議決）に定める経営審議会の、法人の経営に関する事項以外の事項については、教育研究評議会の意見を聴いて行うものとする。

(施行の細目)

第47条 この規則の施行について必要な事項は、学長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第2条第1項の規定（理学部生物学科第1部第3年次編入学定員に係る部分に限る。）については、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成18年度における理学部生物学科第1部第3年次編入学定員については、第2条第1項の規定にかかわらず、2名とする。

3 平成18年度及び平成19年度における各学部各学科（工学部機械工学科、電気工学科、建築学科、医学部並びに生活科学部居住環境学科を除く。以下この項において同じ。）の第1部収容定員、文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計、医学部看護学科の収容定員並びに医学部の収容定員の合計については、第2条第1項及び第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 各学部各学科の第1部収容定員

学 部	学 科	平成18年度	平成19年度
		名	名
商学部	商学科	751	775
経済学部	経済学科	751	775
法学部	法学科	612	600
文学部	哲学歴史学科	120	122
	人間行動学科	196	200
	言語文化学科	227	235
理学部	数学科	90	93
	物理学科	114	119
	物質科学科	62	68
	化学科	89	97
	生物学科	98	108
	地球学科	68	71
工学部	応用化学科	107	109
	都市基盤工学科	56	84
	応用物理学科	107	109
	情報工学科	100	106
	バイオ工学科	56	84

	知的材料工学科	100	106
	環境都市工学科	100	106
生活科学部	食品栄養科学科	130	135
	人間福祉学科	175	177

(2) 文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計

学 部	平成18年度	平成19年度
	名	名
文学部	543	557
理学部	521	556
工学部	1,063	1,090
生活科学部	477	484

(3) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

平成18年度	平成19年度
名	名
4,718	4,836

(4) 医学部看護学科の収容定員

平成18年度	平成19年度
名	名
160	230

(5) 医学部の収容定員の合計

平成18年度	平成19年度
名	名
640	710

3 平成18年度から平成20年度までの各年度における商学部、経済学部、法学部及び文学部各学科の第2部収容定員、文学部の第2部収容定員の合計並びに商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学 部	学 科	平成18年度	平成19年度	平成20年度
		名	名	名
商学部	商学科	250	225	200
経済学部	経済学科	280	270	260
法学部	法学科	240	210	180
文学部	哲学歴史学科	36	24	12
	人間行動学科	42	28	14
	言語文化学科	42	28	14
	人文学科	60	90	120
	計	180	170	160
合計		950	875	800

- 4 この規則の施行の際、現に工学部に在学する者（平成17年3月31日までに工学部土木工学科及び生物応用化学科に入学した者に限る。）については、第2条第1項、第26条第1項及び別表の規定にかかわらず、法人の設立前の大阪市立大学学則（昭和30年大阪市規則第18号。以下「廃止前の市規則」という。）における当該規定の取扱いを準用する。
- 5 この規則の施行の際、現に商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部に在学する者（平成17年3月31日までに入学した者に限る。）については、第2条第1項、第7条、第8条及び第26条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。
- 6 平成11年3月31日までに入学した者に係る授業料の額は、第33条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。

附 則（平成18年11月21日規程第173号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成18年12月19日規程第184号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第2条の改正規定は、平成18年12月19日から施行する。

附 則（平成19年3月20日規程第14号）

（施行期日）

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成19年3月31日までに生活科学部人間福祉学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第26条第1項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成19年7月24日規程第72号）

（施行期日）

- 1 この規則は、平成19年10月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規則の施行の際、現に医学部に在学する者（平成19年9月30日までに医学部医学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成20年3月18日規程第14号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年7月29日規程第86号）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。



## 別表(第2条関係)

## 商学部

部門名	科目名
経営学部門	経営学原理 経営組織論 経営学史 経営史 企業形態論 公企業論 中小企業経営論 国際経営論 経営管理論 生産管理論 販売管理論 情報管理論 経営財務論 経営労務論 経営統計論 経営数学 経営システム論 労働科学論 経営学特講
商学部門	金融論 証券市場論 銀行論 国際金融論 外国為替論 証券市場論特講 商業論 流通組織論 貿易論 貿易経営論 交通論 保険論 交通各論 社会保険論 保険各論 貿易実務 工業論 日本産業論 地域経済論 産業立地論 産業統計論 技術論 部落産業論 国際産業比較論 環境論 商学特講

会計学部門	会计学 管理会計論 原価計算論 経営分析論 会計監査論 簿記原理 国際会計論 会計情報論 税務会計 会計実務 会计学特講
-------	--

経済学部

部門名	科目名
経済理論部門	経済原論Ⅰ 経済原論Ⅱ 経済学方法論 経済変動論 経済学説史 近代経済学説史 経済思想史 社会思想史 社会経済論 数理経済学 貨幣論 経済理論特講
経済統計論部門	統計解析論 計量経済学 経済統計論 国民所得論 産業連関論 経済情報論 計算機経済学 経済統計論特講
経済史部門	経済史概論 日本経済史 西洋経済史 東洋経済史 企業経済史 現代経済史 経済史特講
経済政策部門	経済政策論 社会政策論 産業政策論 国際経済政策論 経済計画論 公共経済学 財政学

	地方財政論 環境経済学 金融経済論 物価論 証券経済論 労働経済論 日本経済論 経済政策論特講
経済構造論部門	産業経済論 農業経済論 産業技術論 流通経済論 交通経済論 都市経済論 医療経済学 経済地理学 寡占経済論 現代資本主義論 経済構造論特講
国際経済論部門	世界経済論 国際経済論 国際貿易論 国際通貨論 経済開発論 比較経済論 アメリカ経済論 ヨーロッパ経済論 ロシア経済論 アジア経済論 中国経済論 各国経済論特講 国際経済論特講

法学部

部門名	科目名
基礎法学	法哲学 法社会学 法情報学 日本法制史 日本近代法制史 東洋法制史 西洋法制史 ローマ法 基礎法学特講
公法	憲法第1部 憲法第2部 行政法第1部 行政法第2部

	租税法 刑法第1部 刑法第2部 刑事訴訟法 刑事政策 公法特講
民事法	民法第1部 民法第2部 民法第3部 民法第4部 民法第5部 民法特講 商法第1部 商法第2部 商法第3部 証券取引法 商法特講 民事訴訟法 民事執行・保全法 倒産法
社会法	労働法 社会保障法 経済法 知的財産法 社会法特講
国際関係・外国法	国際法第1部 国際法第2部 国際組織法 国際経済法 国際取引法 国際私法 英米法 ドイツ法 フランス法 アジア法 外国法特講
政治・行政学	政治学 比較政治学 政治過程論 政治学史 日本政治外交史 欧州政治外交史 国際政治 行政学 公共政策論 都市行政論 政治学特講

文学部

学科名	コース名	科目名
哲学歴史学科	哲学・哲学史	哲学 哲学史 論理学
	倫理・宗教	倫理学 宗教学
	日本史	日本史学Ⅰ 日本史学Ⅱ 日本史学Ⅲ
	世界史	世界史学Ⅰ 世界史学Ⅱ 世界史学Ⅲ 世界史学Ⅳ 世界史学Ⅴ 世界史学Ⅵ
	共通	人間文化学
人間行動学科	社会学	理論社会学 社会学方法論 特殊社会学 応用社会学
	心理学	心理学 実験心理学 精神測定学 応用心理学
	教育学	教育学 教育方法学 教育心理学 教育社会学
	地理学	地理学Ⅰ 地理学Ⅱ 地理学Ⅲ 地誌学Ⅰ 地誌学Ⅱ
	共通	人間行動学
言語文化学科	国語国文学	国語学Ⅰ 国語学Ⅱ 国文学Ⅰ 国文学Ⅱ 国文学史
	中国学	中国学 中国語学 中国文学 中国文学史 中国思想史
	英米言語文化	英米語学Ⅰ 英米語学Ⅱ 英米文学Ⅰ



		英米文学Ⅱ 英米文学史 英米文化論
	ドイツ言語文化	ドイツ語学Ⅰ ドイツ語学Ⅱ ドイツ文学Ⅰ ドイツ文学Ⅱ ドイツ文化論
	フランス言語文化	フランス語学Ⅰ フランス語学Ⅱ フランス文学Ⅰ フランス文学Ⅱ フランス文化論
	言語情報	言語学 言語情報論 言語応用論 言語比較論 言語教育論
	表現文化	批評理論 表現文化論 文化構造論 表象文化論 比較表現論
	共通	言語文化論
人文学科	歴史文化	日本史学 世界史学 都市文化学
	人間行動学	社会学方法論 応用心理学 人文地理学 教育方法学
	言語文化・思想	国語学 国文学 中国文学 表現文化論 言語文化論 哲学 倫理学

理学部

学科名	講座名
数学	数理構造論 数理解析学
物理学	基礎物理学 宇宙・高エネルギー物理学 物性物理学
物質科学	量子物質科学 機能物質科学

化学	分子有機化学 分子無機化学 分子相関科学
生物学	生物分子機能学 生体機能生物学 自然誌機能生物学
地球学	環境地球学 地球物質進化学

工学部

学科名	講座名	専門分野
機械工学	機械工学	熱工学 流体工学 機械力学 生産加工工学 動力システム工学
電気工学	電気工学	電磁気学 電子回路学 材料計測工学 光電子工学 電磁機器工学
応用化学	応用化学	無機工業化学 有機工業化学 高分子化学 工業物理化学 材料化学
建築学	建築学	建築防災 建築構造学 建築環境工学 建築計画 建築デザイン
都市基盤工学	都市基盤工学	構造及びコンクリート工学 応用構造工学 地盤工学 都市基盤計画 建設材料及び河海工学
応用物理学	応用物理学	光物性工学 物性制御工学 電子物理工学 応用分光計測学 数理工学
情報工学	情報工学	情報システム工学 情報処理工学 知識情報工学 情報ネットワーク工学 情報通信工学
バイオ工学	バイオ工学	生物分子工学 生物化学工学

		生体機能工学 生体材料工学 細胞工学
知的材料工学	知的材料工学	材料知能工学 材料数理工学 材料機能工学 材料物性工学
環境都市工学	環境都市工学	環境都市計画 地域環境計画 環境水域工学 都市リサイクル工学

医学部

学科名	講座名	専門分野
医学	分子生体医学	分子病態薬理学 分子病態学 分子制御生物学 システム神経科学 分子細胞生理学 機能細胞形態学 細胞情報学 細胞機能制御学 実験動物学 器官構築形態学 薬効安全性学
	都市医学	都市環境病理学 病理病態学 産業医学 都市環境医学 公衆衛生学 運動生体医学 運動環境生理学 医学医療情報学 法医学 ウイルス学 細菌学 寄生虫学
	老年医科学	免疫制御学 生体機能解析学 脳神経科学 遺伝子制御学 老年血管病態学 老年腫瘍 <sup>しゅよう</sup> 病態学 分子制御
	臓器器官病態内科学	循環器病態内科学 腎臓病態内科学 呼吸器病態制御内科学 肝胆 <sup>すい</sup> 臓病態内科学

		消化器内科学 代謝内分泌病態内科学 血液腫瘍 <sup>しゅよう</sup> 制御学 神経精神医学 血行動態力学 医薬品・食品効能評価学放射線医学
	病態診断・生体機能管理医学	放射線医学 核医学 診断病理学 麻酔科学 救急生体管理医学 卒後医学教育学
	生殖発達医学	生殖発生発育病態学 女性病態医学 発達小児医学 老年内科学消化器外科学
	臓器器官病態外科学	腫瘍 <sup>しゅよう</sup> 外科学 消化器外科学 肝胆 <sup>たん</sup> 膵 <sup>すい</sup> 臓外科学 循環器外科学 泌尿器病態学
	感覚・運動機能医学	皮膚病態学 視覚病態学 耳鼻咽喉 <sup>いんこう</sup> 病態学 上気道機能病態学 脳神経外科学 脳神経病態学 整形外科学 リウマチ外科学 形成外科学
看護学	看護学	看護基礎科学 基礎看護学 成人看護学 老年看護学 精神看護学 母性看護学 小児看護学 在宅看護学 地域看護学

生活科学部

学科名	講座名	専門分野
食品栄養科学	食品栄養科学	食・健康科学 長寿社会食生活学
居住環境学	居住環境学	居住環境学 居住福祉工学
人間福祉学	人間福祉学	総合福祉科学 臨床心理学 長寿社会福祉科学

## V 各学部等の電話番号・所在地



## 各学部等の電話番号・所在地

### 杉本学舎

学 部 等	電 話 番 号	所 在 地
商 学 部 事 務 室	0 6 - 6 6 0 5 - 2 2 0 1	〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3 - 3 - 138
経 済 学 部 事 務 室	0 6 - 6 6 0 5 - 2 2 5 1	
法 学 部 事 務 室	0 6 - 6 6 0 5 - 2 3 0 1	
文 学 部 事 務 室	0 6 - 6 6 0 5 - 2 3 5 1	
理 学 部 事 務 室	0 6 - 6 6 0 5 - 2 5 0 1	
工 学 部 事 務 室	0 6 - 6 6 0 5 - 2 6 5 1	
生 活 科 学 部 事 務 室	0 6 - 6 6 0 5 - 2 8 0 1	
2 部 事 務 室	0 6 - 6 6 0 5 - 2 1 5 1	
学 生 支 援 課	0 6 - 6 6 0 5 - 2 9 3 2	(全学共通教育全般)
	0 6 - 6 6 0 5 - 2 9 3 6	(教育実習)
	0 6 - 6 6 0 5 - 2 1 4 1	(入試等)

### 阿倍野学舎

学 部 等	電 話 番 号	所 在 地
医学部学務課 (医学科)	0 6 - 6 6 4 5 - 3 6 1 1	〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1 - 4 - 3
医学部学務課 (看護学科)	0 6 - 6 6 4 5 - 3 5 1 1	